# 朝のリレー

谷川俊太郎

カムチャツカの若者が
きりんの夢を見ているとき
メキシコの娘は
朝もやの中でバスを待っている
ニューヨークの少女が
ほほえみながら寝がえりをうつとき
ローマの少年は
柱頭を染める朝陽にウインクする
この地球では
いつもどこかで朝がはじまっている

ぼくらは朝をリレーするのだ
経度から経度へと
そうしていわば交替で地球を守る
眠る前のひととき耳をすますと
どこか遠くで目覚時計のベルが鳴ってる
それはあなたの送った朝を
誰かがしっかりと受けとめた証拠なのだ



注
カムチャツカ＝ロシア連邦東部にあるカムチャツカ半島のこと。
柱頭＝神殿など古い西洋建築の柱の上端部。彫刻でかざられることが多い。

作者　谷川俊太郎　一九三一（昭和六）――二〇二四（令和六）
東京都出身。詩人。
著書　詩集「二十億光年の孤独」「六十二のソネット」「地球へのピクニック」「定義」など。
出典　「谷川俊太郎詩選集　1」

# 国語 1



光村図書

## 言葉を味わう

各単元の扉には、さまざまな動きを表す言葉を示している。言葉の豊かさや美しさを味わおう。



5 筋道を立てて
【まどろむ】



6 いにしえの心にふれる
【そよぐ】



7 価値を見いだす
【いてつく】



8 自分を見つめる
【めぐる】



1 学びをひらく
【いろどる】



2 新しい視点で
【見つめる】



3 言葉に立ち止まる
【見はるかす】



4 心の動き
【実る】

# 国語 1 目次


朝のリレー［詩］……谷川俊太郎 6
学習の見通しをもとう……9
思考の地図……11
この教科書で学習するみなさんへ／主体的な学びのために……11

言葉に出会うために

声を届ける／野原はうたう［詩］……工藤直子 16
書き留める／言葉を調べる……18
続けてみよう……20

## 1 学びをひらく

はじまりの風［物語］……蜂飼耳 22
季節のしおり 春……30
［聞く］情報を聞き取り、要点を伝える……31
話の構成を工夫しよう 一枚の写真をもとにスピーチをする……34

## 2 新しい視点で

ダイコンは大きな根？［説明］……稲垣栄洋 42
ちょっと立ち止まって［説明］……桑原茂夫 46
情報整理のレッスン 比較・分類……52
情報を整理して説明しよう 発見したことをわかりやすく書く……54

言葉1 音声の仕組みや働き……33
漢字1 漢字の組み立てと部首……38
漢字に親しもう1……40
言葉2 指示する語句と接続する語句……58

## 3 言葉に立ち止まる

空の詩 三編［詩・解説］……62
詩の創作教室……67
比喩で広がる言葉の世界［解説］……森山卓郎 71
語彙を豊かに 心情を表す言葉……76
言葉3 さまざまな表現技法……68
文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう……75

情報×SDGs

情報収集の達人になろう コラム 著作権について知ろう……78

いつも本はそばに

読書を楽しむ［読書活動］……84
本の中の中学生［読書］……瀬尾まいこ 86
あと少し、もう少し……88
西の魔女が死んだ……梨木香歩 90
読書案内 本の世界を広げよう……90
コラム 本との出会い……93
季節のしおり 夏……宮崎駿 93

## 4 心の動き

大人になれなかった弟たちに……［物語］……米倉斉加年 96
星の花が降るころに［小説］……安東みきえ 106
項目を立てて書こう 案内文を書く……116
［推敲］読み手の立場に立つ……118
聞き上手になろう 質問で話を引き出す……122
言葉4 方言と共通語……119
漢字2 漢字の音訓……124
漢字に親しもう2……126


話すこと・聞くこと　書くこと
読むこと　読書　情報





## 5 筋道を立てて

「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ 記録 …… 鈴木俊貴 128
思考のレッスン1 意見と根拠 …… 138
根拠を明確にして書こう 資料を引用して報告する …… 140

聴きひたる 大阿蘇 詩 …… 大好達治 148
季節のしおり 秋 …… 150

## 6 いにしえの心にふれる

古典の世界 古典・解説 …… 152
音読を楽しむ いろは歌 古文・音読 …… 154
蓬莱の玉の枝 ―― 「竹取物語」から 古文 …… 156
今に生きる言葉 漢文 …… 170

漢字に親しもう3 …… 146
文法への扉2 言葉の関係を考えよう …… 147
古典の言葉 …… 169
漢文を読む …… 174

## 7 価値を見いだす

「不便」の価値を見つめ直す 意見 …… 176
思考のレッスン2 原因と結果 …… 186
「話し合い（進行）」進め方について考えよう …… 189
季節のしおり 冬 …… 191
話題や展開を捉えて話し合おう グループで語り合い、ものの見方を広げる …… 192

漢字に親しもう4 …… 188

## いつも本はそばに

研究の現場にようこそ 読書 …… 川上浩司 196
四百年のスローライフ …… 渡辺佑基 200
はやぶさ2 最強ミッションの真実 …… 津田雄一 202
読書案内 本の世界を広げよう …… 206

## 8 自分を見つめる

少年の日の思い出 小説 …… ヘルマン・ヘッセ／高橋健二 訳 206
二十歳になった日 随筆 …… さくらももこ 224
構成や描写を工夫して書こう 体験を基に随筆を書く …… 228
一年間の学びを振り返ろう 要点を資料にまとめ、発表する …… 234
ぼくが ここに 詩 …… まど・みちお 238

漢字に親しもう5 …… 222
文法への扉3 単語の性質を見つけよう …… 223
漢字3 漢字の成り立ち …… 232

## 学びを深める

文法1 言葉の単位 …… 242
文法2 文の組み立て …… 246
文法3 単語の分類 …… 251

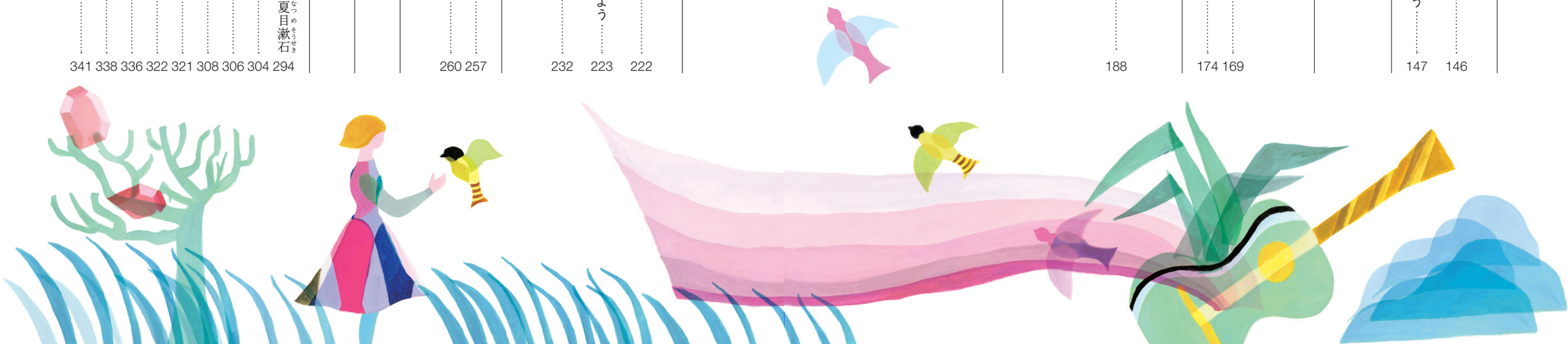
［練習］小学校六年生で学習した漢字 …… 257
小学校六年生で学習した漢字一覧 …… 260

## 国語の力試し …… 262

## 語彙ブック

坊っちゃん …… 夏目漱石 267
言葉としぐさの伝統芸能――古典落語 …… 294
百人一首を味わう …… 304
一年生で学習した漢字 …… 306
一年生で学習した音訓 …… 308
常用漢字表 …… 321
常用漢字表 付表 …… 322
［索引］学習のための用語一覧 …… 336
ICT活用のヒント …… 338
「学びのカギ」一覧 文学的な文章を読むために …… 276
「学びのカギ」一覧 説明的な文章を読むために …… 278
「学びのカギ」一覧 豊かに表現するために …… 280
発想を広げる――表現テーマ例集 …… 282
読書感想文の書き方 …… 284
文章の推敲・原稿用紙の使い方 …… 286
敬語を使う …… 287
手紙の書き方 …… 288
幻の魚は生きていた …… 中坊徹次 290



# 学習の見通しをもとう

一年間でどんな学習をし、どんな力を身につけるかを見通そう。他教科やSDGsとの関連も意識しよう。

■ 知識・技能／思考力・判断力・表現力

※重点的に学習する内容をこい色で示した。

## 話す・聞く

| | 教材 | | 知識・技能 | 思考・判断・表現：集める・整理する | 思考・判断・表現：組み立てる | 思考・判断・表現：伝え合う | | | 関連：他教科 | 関連：SDGs |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 発表(基本) | 声を届ける | 16 | 発音・発声 | | | | | | 書写・全教科(全) | |
| 聞く | 情報を聞き取り、要点を伝える | 31 | 比較・分類 | 情報収集 | | | | | 書写・全 | |
| 紹介 | **話の構成を工夫しよう** 一枚の写真をもとにスピーチをする | 34 | 発音・発声 | | 構成の工夫 | 表現の工夫 | | | 書写・外国語 | |
| 対話・質問 | **聞き上手になろう** 質問で話を引き出す | 122 | 発音・発声 | | | | 質問のしかた | | 全 | |
| 話し合い(進行) | 進め方について考えよう | 189 | 意見・根拠 | | | | | 話題を捉える | 全 | 17 |
| 話し合い | **話題や展開を捉えて話し合おう** グループで語り合い、ものの見方を広げる | 192 | 意見・根拠 | | | | | 展開を捉える | 全 | 12 17 |
| 発表 | **一年間の学びを振り返ろう** 要点を資料にまとめ、発表する | 234 | 比較・分類 | | | 表現の工夫 | | | 総合 | |

## 書く

| | 教材 | | 知識・技能 | 思考・判断・表現：集める・整理する | 思考・判断・表現：組み立てる | 思考・判断・表現：表現する | | | 関連：他教科 | 関連：SDGs |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 記録(基本) | 書き留める | 18 | 比較・分類 | 情報整理 | | | | | 書写・全 | |
| 調べ方(基本) | 言葉を調べる | 19 | 読書 | 情報収集 | | | | | 全 | |
| 説明 | **情報を整理して説明しよう** 発見したことをわかりやすく書く | 54 | 比較・分類 | 情報収集 情報整理 | 構成の工夫 | | | | 書写・社会 理科 | |
| 創作(詩) | 詩の創作教室 | 67 | 表現技法 | | | 表現の工夫 | | 感想交流 | 美術 | |
| 引用 | **情報収集の達人になろう** | 78 | 引用・出典 | 情報整理 | | | | | 書写・総合 | 14 |

SDGs（持続可能な開発目標）達成すべき17の目標



■ 知識・技能

| 読む | 教材 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 文学 | 詩 | 朝のリレー | | 16 |
| | 詩 | 野原はうたう | | 16 |
| | 物語 | はじまりの風 | | 22 |
| | 詩・解説 | 空の詩 三編 | | 62 |
| | 小説 | 大人になれなかった弟たちに…… | | 96 |
| | 詩 | 大阿蘇 | | 148 |
| | 小説 | 星の花が降るころに | | 106 |
| | 随筆 | 二十歳になった日 | | 224 |
| | 詩 | ぼくが　ここに | | 238 |
| 説明・記録・意見 | 説明 | ダイコンは大きな根？ | | 42 |
| | 解説 | 比喩で広がる言葉の世界 | | 71 |
| | 説明 | ちょっと立ち止まって | | 46 |
| 古典 | 古文 | 蓬萊の玉の枝――「竹取物語」から | | 156 |
| | 漢文 | 今に生きる言葉 | | 170 |
| 読書 | 読書 | あと少し、もう少し／西の魔女が死んだ | | 86 |
| | 読書 | 四百年のスローライフ／はやぶさ2 最強ミッションの真実 | | 196 |
| 知識・技能 | 発音・発声 | | | |
| | 発音・発声 | | | |
| | 図での整理 | | | |
| | 語感・語彙 | | | |
| | 読書 | | | |
| | 図での整理 | | | |
| | 語感・語彙 | | | |
| | 語感・語彙 | | | |
| | 語感・語彙 | | | |
| | 語感・語彙 | | | |
| | 表現技法 | | | |
| | 比較・分類 | | | |
| | 情報の整理 | | | |
| | 表現技法 | | | |
| | 意見・根拠 | | | |
| | 引用・出典 | | | |
| | 言語文化 | | | |
| | 読書 | | | |
| 思考・判断・表現 | 捉える | 段落の役割 | | |
| | | 文章の構成 | | |
| | | 要旨 | | |
| | | 描写 | | |
| | | 場面の展開 | | |
| | 読み深める | 結び付ける | | |
| | | 要約 | | |
| | | 表現の効果 | | |
| | | 表現の効果 | | |
| | | 構成・展開 | | |
| | 考えをもつ | 考えをもつ | | |
| | | 考えをもつ | | |
| | | 考えをもつ | | |
| | | 考えをもつ | | |
| | | 考えをもつ | | |
| | | 考えをもつ | | |
| | | 考えをもつ | | |
| 関連 | 書写・他教科 | 音楽 | | |
| | | 音楽 | | |
| | | 美術 | | |
| | | 道徳 | 2 16 | |
| | | 理科・家庭科 | | |
| | | 美術 | | |
| | | 書写・総合 | 14 | |
| | | 理科 | 15 | |
| | | 社会 | 9 12 | |
| | | 体育・道徳 | | |
| | | 書写 | | |
| | | 言語文化 | | |
| | | 漢文を読む | | |
| | | 古典の言葉 | | |
| | | 今に生きる言葉 | | |
| | | 蓬萊の玉の枝――「竹取物語」から 関 書写 | | 156 |
| | | 古典の世界 | | 152 |
| | SDGs | | 9 17 | |

| 読む | 教材 | | |
|---|---|---|---|
| | 説明 | 項目を立てて書こう　案内文を書く | 116 |
| | 推敲 | 読み手の立場に立つ | 118 |
| | 説明 | 根拠を明確にして書こう<br>資料を引用して報告する | 140 |
| | 意見 | 筆者の主張に対する自分の意見を書こう | 184 |
| | 創作 | 別の人物の視点から文章を書き換えよう | 220 |
| | 体験文 | 故事成語を使って体験文を書こう | 173 |
| | 随筆 | 構成や描写を工夫して書こう<br>体験を基に随筆を書く | 228 |
| | 説明 | 一年間の学びを振り返ろう<br>要点を資料にまとめ、発表する | 234 |
| 知識・技能 | 比較・分類 | | |
| | 情報整理 | | |
| | 構成の工夫 | | |
| | 言語文化 | | |
| | 引用・出典 | | |
| | 語感・語彙 | | |
| | 意見・根拠 | | |
| | 語感・語彙 | | |
| | 語感・語彙 | | |
| | 表記・語句 | | |
| | 語感・語彙 | | |
| 思考・判断・表現 | 題材決定<br>情報整理 | | |
| | 構成の工夫 | | |
| | 構成の工夫 | | |
| | 根拠を明確に | | |
| | 構成の工夫 | | |
| | 根拠を明確に<br>表現の工夫 | | |
| | 描写の工夫 | | |
| | よい点・改善点 | | |
| 関連 | 書写・行事 | | |
| | 書写・全 | | |
| | 社会<br>理科 | | |
| | 総合 | | |

| 文法 | | | |
|---|---|---|---|
| | 文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう | → 文法1 言葉の単位 | 75 / 242 |
| | 文法への扉2 言葉の関係を考えよう | → 文法2 文の組み立て | 147 / 246 |
| | 文法への扉3 単語の性質を見つけよう | → 文法3 単語の分類 | 223 / 251 |
| 言葉 | 声を届ける | | 16 |
| | 言葉1 音声の仕組みや働き | | 33 |
| | 言葉2 指示する語句と接続する語句 | | 58 |
| | 言葉3 さまざまな表現技法 | | 68 |
| | 言葉を豊かに 心情を表す言葉 | | 76 |
| | 言葉4 方言と共通語 | | 119 |
| | 語彙ブック 関 書写 | | 267 |
| 漢字 | 漢字1 漢字の組み立てと部首 | | 38 |
| | 漢字2 漢字の音訓 | | 124 |
| | 漢字3 漢字の成り立ち | | 232 |
| | 漢字に親しもう1～5 | | 40・126・146・188・222 |

| 情報 | | | |
|---|---|---|---|
| | 情報整理のレッスン | 比較・分類 | 52 |
| | 情報×SDGs 11 14 12 15 13 17 | 情報収集の達人になろう 関 書写 | 78 |
| | | コラム 著作権について知ろう | 83 |
| | 思考のレッスン1 | 意見と根拠 | 138 |
| | 思考のレッスン2 | 原因と結果 | 186 |

| 古典 | | | |
|---|---|---|---|
| | 古典・解説 古典の世界 | | 152 |
| | 古文・音読 関 書写 | 音読を楽しむ いろは歌 | 154 |
| | 古文 | 蓬萊の玉の枝――「竹取物語」から 関 書写 | 156 |
| | 古文 | 古典の言葉 | 169 |
| | 漢文 | 今に生きる言葉 | 170 |
| | 漢文 | 漢文を読む | 174 |
| 言語文化 | 読書活動 | 読書を楽しむ 関 書写 | 84 |
| | 読書 | 本の中の中学生 | 86 |
| | 読書案内 2 7 11 13 14 15 17 | 本の世界を広げよう | 90・202 |
| | コラム | 本との出会い | 93 |
| | 読書 | 研究の現場にようこそ | 196 |

# 思考の地図 ― 思考の旅に出かけよう

場面や目的に応じてさまざまな思考法（考え方）を使い、課題を解決したり自分の考えを深めたりしていこう。

## 思考を広げる

- どのように情報を集めようか。
- テーマはこれでよいだろうか。
- 他の見方はないかな。

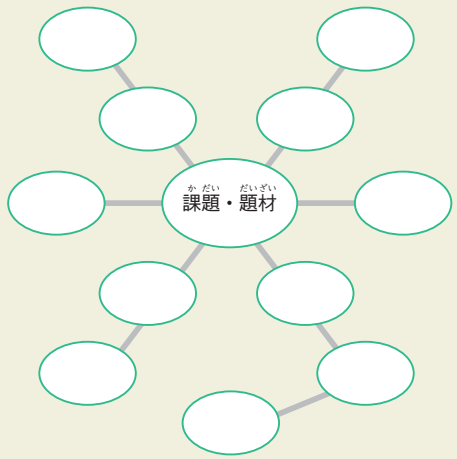


### 広げる　思い出す・ふり返る

#### ◆マッピング

思いついた考えや物事をつないで広げていく。

56ページ




#### ◆対話

向かい合って、たがいに話をすること。
相手の発言を聞いて考えを広げたり、自分の考えを確かなものにしたりすることができる。

122ページ



#### ◆ブレーンストーミング

アイデアを広げるための話し合い。
思いついたことを自由に述べ、たがいの案を否定しない。

## 思考を整理する

- どんな方法で情報を整理しよう。
- 図式化すると、自分の考えが整理されるな。
  みんなでいっしょに考えることもできる。

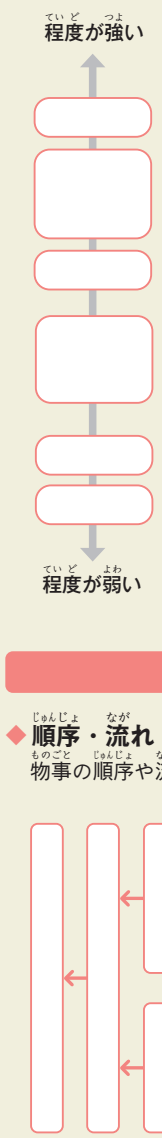


### 比較する・分類する

#### ◆軸

基準となる軸を設けて、物事の程度などを示す。

77ページ




#### ◆観点

目的に合った「観点」を決め、表に整理する。

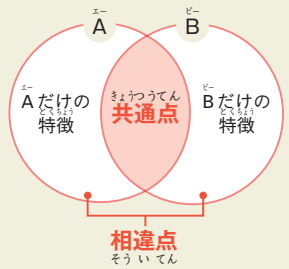
52ページ

| 比較するもの | 観点❶ | 観点❷ | 観点❸ |
|---|---|---|---|
| A | | | |
| B | | | |
| C | | | |

#### ◆共通点・相違点

複数の物事の特徴を、共通点と相違点に分類する。

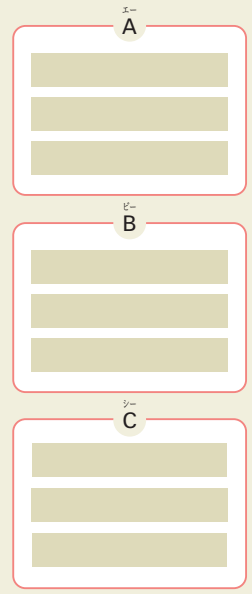
53ページ




#### ◆分類

共通点や類似点に注目してグループに分ける。

53ページ　77ページ

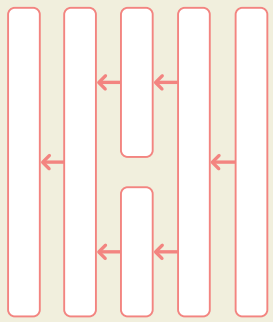


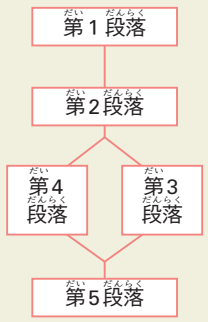

### 順序立てる・関係づける

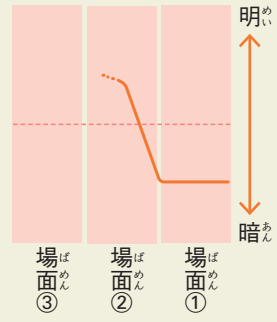
#### ◆順序・流れ・関係

物事の順序や流れ、変化などを矢印や囲みなどを用いて表す。

29ページ　53ページ






## 思考を深める

- この情報とこの情報は
  どうつながるのだろう。
- 新しいものの見方に気がついた。

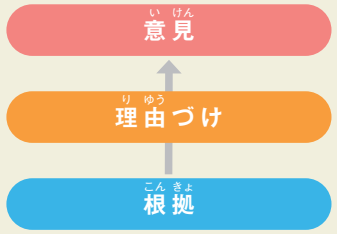


### 分析する・吟味する

#### ◆意見と根拠

話や文章の中にふくまれる意見と根拠の関係を明らかにする。

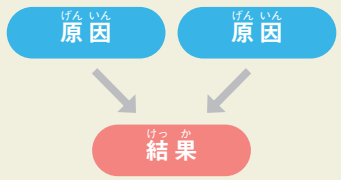
138ページ




#### ◆原因と結果

話や文章の中にふくまれる原因と結果の関係をつかむ。

186ページ

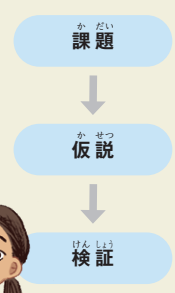



### 仮説を立てて検証する

#### ◆仮説・検証

課題に対してあらかじめ仮説を立て、それを調査で明らかにしていく。

137ページ






# この教科書で学習するみなさんへ

この教科書を使うみなさんが、学習やふり返りをする際に役立つ教科書の構成を説明している。効果的に学習を進めるために活用しよう。

## 教科書の構成

**本編**

1 学びをひらく
2 新しい視点で
3 言葉に立ち止まる
情報×SDGs
いつも本はそばに
4 心の動き
5 筋道を立てて
6 いにしえの心にふれる
7 価値を見いだす
いつも本はそばに
8 自分を見つめる
**学びを深める**
文法・漢字
国語の力試し
語彙ブック

**資料編**

### 本編

**思考力・判断力・表現力**

- 「話すこと・聞くこと」の学習。
- 「書くこと」の学習。
- 「読むこと」の学習。

**知識・技能**

- 情報　情報と情報との関係、情報の整理などについて学ぶ教材。
- 読書　読書に親しみ、考えを広げたり深めたりする教材。
- ◆言葉・漢字・文法　「文法への扉」は、巻末の「文法」と共に学習しよう。

### 資料編

本編の学習を支える資料。必要に応じて活用しよう。

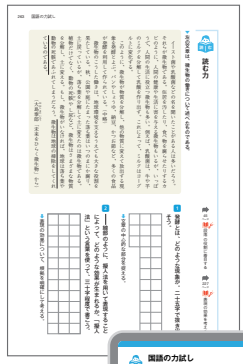
資料編デジタル



### 学びを深める

**国語の力試し**

一年間で身につけた国語の力を活用して、力試しをしてみよう。





**語彙ブック**

ぴったりの表現を見つけるための語彙一覧。学習や日常生活の中で、いつでも活用しよう。






# 主体的な学びのために

ここでは、見通しをもって、主体的に学習に取り組むときに役立つ教科書の機能を説明している。教科書を有効に活用し、自分の学びを深めていこう。

## 見通しをもつ



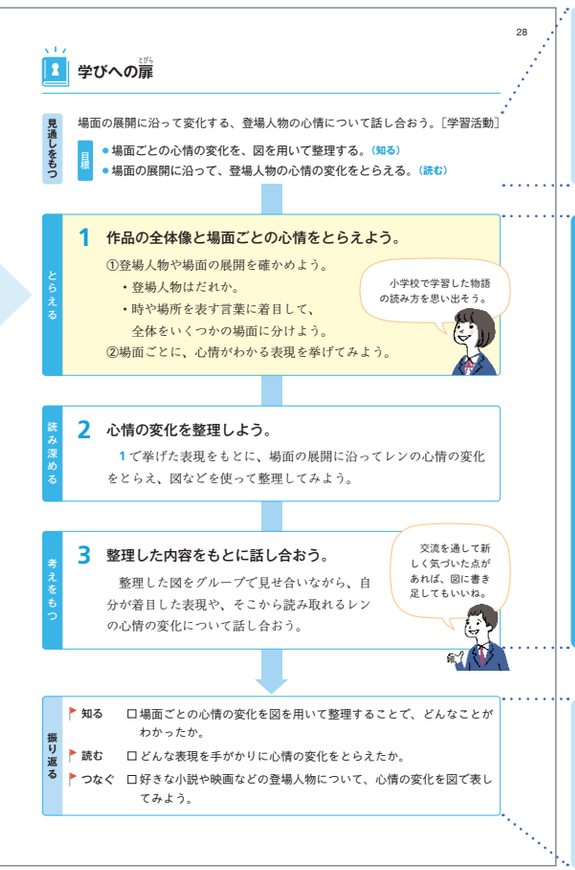

## 実行する・試行錯誤する




## 振り返る




## 学習の流れ




## 学習のポイント




## 読む 話す・聞く 書く 共通

### 見通しをもつ

「学習活動」と「目標」を確認し、学習の見通しをもとう。

### 学びのカギ

「学びのカギ」で、学習のポイントや、前後の学習とのつながりを確かめよう。

資料編「学びのカギ」一覧（276〜281ページ）やデジタル資料「学びの地図」では、学習の全体像が見通せる。

### 言の葉ポケット

言葉の観点から学びを深め、自分の言葉を増やしていこう。

### 振り返る

学んだことを観点ごとに振り返り、自分の言葉でまとめよう。

振り返る
- 知る □「知識・技能」
- 読む □「思考・判断・表現」
- つなぐ □「主体的に学習に取り組む態度」

## 主な記号など

- **新出漢字・新出音訓**
  漢 中学校で初めて学習する漢字。
  音 訓 中学校で初めて学習する漢字の音訓。
- **注意する語句** 次の活動をしてみよう。
  意 意味を調べる。 文 短文を作る。
  類 類義語を調べる。 対 対義語を調べる。
  関 関連語句を確認する。
- **関連する学習**
  000ページ 関連する教材や資料のページ。
- **ICT機器（パソコン・タブレット）の活用**
  音声や映像を使用した学習。

## 書体について

書籍などで広く使われる書体。この教科書では、手書きの文字に近づけた特別な明朝体を使用。

教科書体

永

手書きの文字に近い書体。この教科書では、新出漢字欄、付録の漢字表などで使われている。

ゴシック体

永

強調したい部分に使われる書体。この教科書では、教材名や見出しなどに使われている。

ICT 提案を録画する

教材冒頭の「学習の流れ」の中に、ICTを活用すると効果的な学習場面を示した。くわしい内容は、パソコンマークなどに表示。

二次元コードから、学習の参考となる資料を読み取ることができる。

※インターネットの環境によっては、通信料が発生する場合があるので注意しよう。

デジタル資料目次

※ICTの活用場面や二次元コードの一覧は、「ICT活用のヒント」（341ページ）を参照。

# 言葉に出会うために

これまで、
どんな言葉に出会ってきただろう。
そして、これから
どんな言葉に出会っていくだろう。

教科書を開けば
たくさんの言葉が
あなたを待っている。









国語を学ぶのは
あなた自身を作りあげるため。

言葉は
あなたと世界をつなぎ
あなた自身の世界を作りあげる。

手に入れた言葉の数だけ
世界がはっきり見えてくる。
身につけた言葉の数だけ
自分が大きくなっていく。

さあ、友達を増やすように
言葉を増やしていこう。
言葉の数だけ、あなたは世界に近づく。
言葉の数だけ、あなたの世界は大きくなる。









## 小学校から中学校へ

- 声を届ける
- 書き留める
- 言葉を調べる
- 続けてみよう

言葉に出会うために

# 声を届ける【音読・発表】

発表のしかた

## 音読するときには

33ページ 音声の仕組みや働き

- 声を届ける相手を意識して、相手に届く適切な声の大きさで読もう。
- 言葉や文章の区切り目に気をつけて読もう。
- 場面の移り変わりや内容のまとまりを考え、間を取る箇所や長さを工夫しよう。
- 文章の意味や表現の特色を考え、読む速さや声の強弱、言葉の調子などを工夫しよう。

## 野原はうたう

工藤 直子

### あしたこそ

たんぽぽ はるか

ひかりを おでこに
くっつけて
はなひらく ひを
ゆめにみて
たんぽぽわたげが
まいあがります

とんでいこう どこまでも
あした
たくさんの「こんにちは」に
であうために



「野原はうたう」を声に出して読んでみよう。「たんぽぽ はるか」や「かまきり りゅうじ」の気持ちを生き生きと表すには、どんなふうに読めばよいだろうか。

### あしたこそ

声の強弱や間の取り方を変えて音読しよう。読み方を変えると、受ける印象も変化する。

### おれはかまきり

声の大きさや高さを工夫して音読し、「かまきり りゅうじ」のイメージにぴったりの読み方を見つけよう。

## おれはかまきり

かまきり りゅうじ

おう なつだぜ
おれは げんきだぜ
あまり ちかよるな
おれの こころも かまも
どきどきするほど
ひかってるぜ

おう あついぜ
おれは がんばるぜ
もえる ひをあびて
かまを ふりかざす すがた
わくわくするほど
きまってるぜ



保手浜 孝・絵



作者 **工藤直子** 一九三五（昭和一〇）――
台湾の朴子市生まれ。詩人・児童文学作家。
著書 「てつがくのライオン」「まるごと好きです」など。
出典 「のはらうた」

作者インタビュー

## 発表するときには

- 顔を上げ、聞いている人の方を見てはっきりと話そう。大切な部分は、ゆっくりと大きな声で話すとよい。
- 聞いている人の反応に応じて、言いかえたり、付け足したりして話そう。

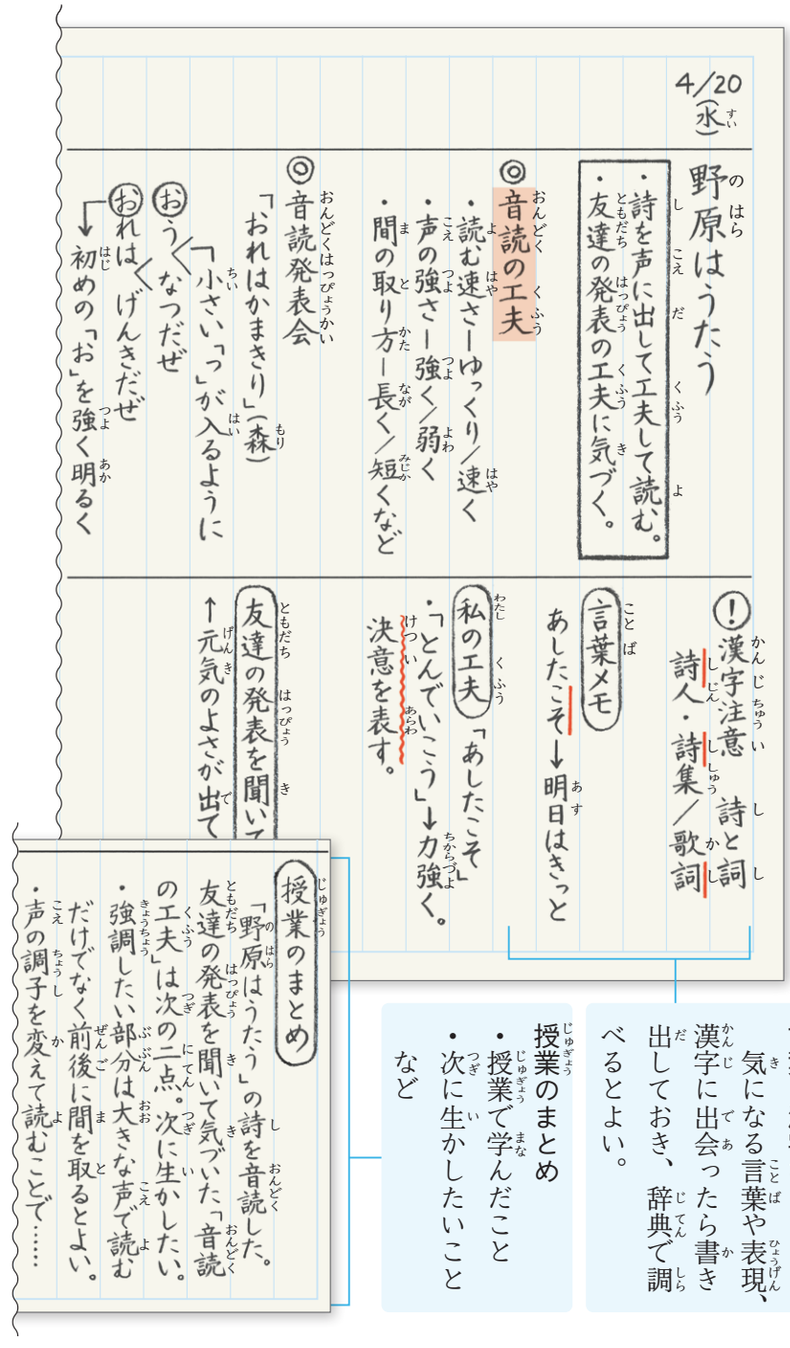
## 発表を聞くときには

- 相手を見て、うなずくなどの反応を返しながら聞こう。
- 自分の考えと比べたり、大切な情報を書き留めたりしながら聞くようにしよう。

言葉に出会うために

# 書き留める【学習の記録】

## ノート例




日付

板書や発言、話し合いの内容など

自分の考えや気がついたことなど

**書き方の工夫**

大切なところや目立たせたいところがわかるように、工夫して書き留める。

- わくで囲む。
- 線を引く。
- 矢印や箇条書きを使う。
- 色で印を付ける。
- 図にする。
- 記号やマークを付ける。

**言葉・漢字など**
気になる言葉や表現、漢字に出会ったら書き出しておき、辞典で調べるとよい。

**授業のまとめ**
授業で学んだこと
・次に生かしたいことなど

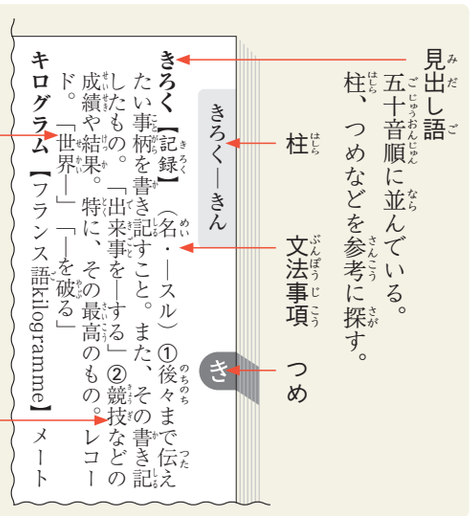
**決意**（名）
自分の考えをはっきり定めること。決心。「決意を固める」



# 言葉を調べる【辞典・事典】

## 国語辞典

言葉の意味・使い方・漢字での書き表し方などを調べたいときに使う。




## 漢和辞典（漢字辞典）

漢字の読み方・成り立ち・意味、熟語の意味などを調べたいときに使う。

【引き方】
- 読み方がわかるとき ⬇ 音訓索引
- 部首がわかるとき ⬇ 部首索引
- 読み方も部首もわからないとき ⬇ 総画索引




## 百科事典

さまざまな分野の事柄を五十音順などに並べ、その一つ一つを説明した本。何かについて調べたいときや、どんな資料を調べればよいかわからないときに見ると、基本的なことがわかる。




【見出し語の探し方】
- 背表紙から探す ⬇ 調べたい物事の最初の文字が記されている巻を選ぶ。
- 「索引」の巻から探す ⬇ 「索引」の巻には全ての見出しが五十音順に並べてあり、見出し語がのっている巻・ページがわかる。

## さまざまな辞典

- 類語辞典
- ことわざ・慣用句辞典
- 古語辞典

274ページ 語彙ブック

言葉に出会うために

# 続けてみよう




心に残る言葉や気になる言葉に出会ったら、書き留めておこう。次の例を参考に、一年間、自分なりの記録を続け、折にふれて紹介し合おう。

## 言葉の手帳

教科書や、本、新聞、テレビ、広告、看板、歌詞、会話など、身の回りで出会った言葉から、印象に残った言葉、気になった言葉を書き留めよう。

書き留めた言葉は、次のように活用していくとよい。

▼スピーチをしたり文章を書いたりするときの題材に。

▼授業の初めに発表したり、学期や学年の終わりに、発表会で紹介し合ったりする。

日付
言葉
感想

○月○日
「ぼくはきっとできるとおもう。
なぜならぼくらがそれをいまかんがえているのだから。」
――宮沢賢治「ポラーノの広場」から

☆伝説のポラーノの広場を、自分たちで創ろうと、みんなで語り合う場面。自分が考えたことはきっと形にできる。強い信念の言葉に勇気づけられた。

○月○日
「イランカラプテ」
――北海道のアイヌ語

☆アイヌ語のあいさつ。「こんにちは」に当たる言葉。「あなたの心にそっとふれさせてください」という解釈もあるらしい。とてもやさしい、すてきなあいさつだ。

○月○日
「風光る」
――小学校の中山先生からの手紙

☆「○○辞典」で調べたら、「春の日差しの中をそよ風がふきわたる様子」とあった。風がきらめく感じが伝わる美しい言葉だ。いつか自分でも使ってみたい。

○月○日
喜びを表す言葉にはいろいろあるけれど、どれがいちばん喜びの程度が高いだろう。

有頂天
歓喜する
はしゃぐ
心がはずむ



辞典で調べたことを書き留めたり、図で整理したりしてもいいね。

# 1 学びをひらく

いろいろな言葉にふれながら、学習の見通しをもつ

## はじまりの風
物語

蜂飼耳

季節のしおり　春

［聞く］情報を聞き取り、要点を伝える

言葉1　音声の仕組みや働き

## 話の構成を工夫しよう
一枚の写真をもとにスピーチをする

漢字1　漢字の組み立てと部首

漢字に親しもう1



動きを表す言葉❶　いろどる　｜　さまざまな色でかざること。様子や雰囲気をはなやかにする意もある。

# はじまりの風

蜂飼 耳

読む
場面の展開に沿って変化する、登場人物の心情について話し合おう。［学習活動］

目標
- 場面ごとの心情の変化を、図を用いて整理する。
- 場面の展開に沿って、登場人物の心情の変化をとらえる。

中学生になったばかりのある日のことだった。レンは、学校の廊下で立ち止まった。絵が掛けられていることに気づいたのだ。それは見覚えのある風景だった。そこに描かれたいちょう並木と時計は、この町の一角にある。レンにとっては、子供のころから親しんでいる眺めだった。見慣れているはずの風景なのに、絵の中のその場所は、なぜか新鮮な感じがした。思わず引きこまれて、じっと見つめた。

その廊下は、美術室へ続いている。一人で絵を眺めているレンの後ろを、数人の生徒がすたすたと通り過ぎ、美術室に入っていった。慣れた様子だから、すぐ上級生だとわかる。たぶん、美術部だろう。

中学生になったら新しいことを始めたい。レンはずっとそう思っていた。それが何か、まだわかっていない。同じ小学校から来た友達は、それぞれ、音楽やスポーツなど、小学生のうちからやっていたことを続けていた。ほとんど迷わずに、好きなことを選んでいるようにみえた。レンは、取り残されたような気がした。

美術室から、にぎやかな声が聞こえてきた。たぶん、さっきの上級生たちだろう。レンは、絵を眺めるのをやめて、その場からそっと立ち去った。

次の日曜日の午後、町の図書館からの帰り道、レンは、吸い寄せられるように、いちょう並木の方へ向かった。少し遠回りになるので、しばらく行っていなかったが、久しぶりにその道を通ってみたくなったのだ。もちろん、頭の中には、学校の廊下に掛けられていた、あの絵のことがあった。

5 新鮮 意
5 思わず 文
1 漢 廊 ロウ
2 漢 掛 かける かかる かかり
3 漢 描 ビョウ えがく かく
4 漢 眺 チョウ ながめる
5 漢 鮮 セン あざやか

廊下
掛ける
描く
眺め
新鮮





この季節、いちょうは芽吹き始めたばかりだ。薄い緑色の小さな葉っぱが、日の光を受けて輝いているように見える。

散歩している人がいる。ジョギングをしている人もいる。ベンチで休んでいる人や本を読んでいる人もいる。日曜日のひとときを、みんな思い思いに過ごしていた。

並木に沿って、しばらく歩くと、時計が見えてきた。レンは、はっとした。ちょうど、ここから見た風景だ、あの絵。そう気づいたのだ。絵の中では、並木のすぐそばに時計が描かれていたから、まさにこの位置からの眺めにちがいない。絵の作者も、ある日、ここに立って辺りを見たのだろう。同じ場所に今、自分も立っている。作者が描いたのと同じ角度から、風景を見ている。この発見に、レンは、ちょっとうれしくなった。ふわりと、風が吹いてきた。やわらかな春の風は、レンの前髪をゆらして過ぎていった。

作者がここに立った季節は、いつだったのだろうか。レンにはわからない。なぜなら、絵の中のいちょう並木は、ピンクと青と緑と黄色で描かれていたからだ。かなり大胆な色使いだが、作者の心には、そのように映ったのだろう。きっと、実際の風景と、作者の想像の風景とが重なり合って、あの絵が生まれたのだ。

春のおだやかな光の中を、レンは、さっきよりもずっと軽い足取りで、いちょ





15 漢 胆 タン
12 漢 髪 ハツ かみ
2 漢 輝 キ かがやく
1 漢 薄 ハク うすい うすめる うすまる うすらぐ うすれる
1 漢 吹 スイ ふく
17 足取り 意
15 大胆 意
8 ……にちがいない 文
8 まさに 文
4 思い思い 意
4 ひととき 意

大胆 タン
前髪 がみ
輝く かがやく
薄い うすい
芽吹く ぶく

う並木を抜けて家に帰った。

月曜日、また絵の所へ行ってみた。いちょう並木と時計。場所を、レンは、絵の中に見た。思い切った色彩で描かれたこの絵に、そんなにも引きつけられることが、自分でも不思議だった。

「絵が好きなんだね。」

後ろで声がした。レンは振り向いた。美術の先生だった。

「この前も、ここで見ていたでしょう。」

「はい。これ、あのいちょう並木ですよね。」

「ええ、きっと。これを描いた人、この学校の卒業生なんですよ。」

「そうなんですね。」

先生はレンの横に立った。だまって絵を眺める先生のとなりで、レンもその風景を見つめた。

「見えない風を描いているっていうところがいいよね。」

「風――。」

先生はにっこりした。それから、楽しそうな足取りで美術室へ向かうと、ドアを開け、中に入った。ドアが閉まると、辺りはまた静かになった。薄暗い廊下を、窓からの光が照らしている。

もう一度、レンは、ゆっくりと絵を眺めた。確かに、見えないはずの風が表現されている気がした。少し、どきどきした。自分も絵を描いてみたい、と思った。

窓から差しこむ光が少し強くなり、廊下はさっきよりも明るくなった。

そうだ、絵を描いてみよう。新しいことをやってみよう。

ピンクと青と緑と黄色が、色とりどりのそよ風のように動きだす気がした。レンの心にも、ざわざわと風が吹き始めた。

野田あい・絵





作者 **蜂飼耳**（はちかいみみ） 一九七四（昭和四九）――　神奈川県出身。詩人・作家。

著書 詩集「蜂飼耳詩集」、文集「孔雀の羽の目がみてる」「おいしそうな草」、絵本「うきわねこ」など。

出典 本書のための書きおろし。

作者インタビュー

## 広がる読書




「うきわねこ」蜂飼耳




「春の窓」安房直子

漢字の練習

1 確かに 文
5 色とりどり 類

1 漢 抜（バツ ぬく ぬける ぬかす ぬかる）
抜ける

3 漢 彩（サイ（いろどる））
色彩（サイ）

3 漢 躍（ヤク おどる）
躍る

6 漢 振（シン ふる ふるう ふれる）
振り向く

16 薄暗い 関 ほの暗い 小暗い

4 引きつける 文

3 心が躍る 関 心がはずむ 心がうき立つ 心がときめく

227ページ 表現の効果 | 221ページ 語り手の視点 | 115ページ 結び付けて解釈 | 105ページ 描写 | 29ページ 心情の変化

学びのカギ

## 心情の変化をとらえる

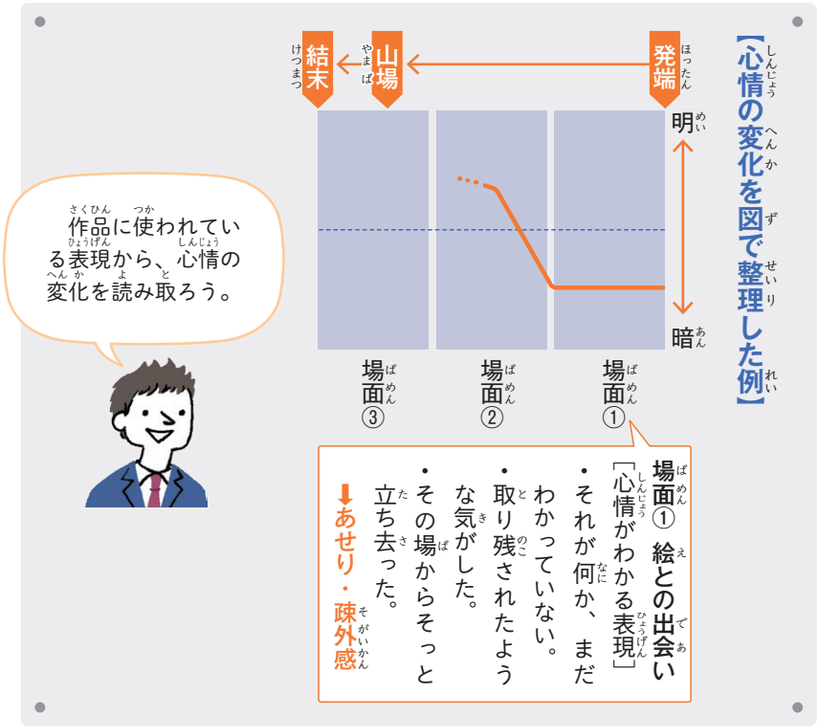
### 心情を場面ごとにとらえると？

- 物語や小説では、場面の展開（発端・山場・結末など）を考えながら読むことが大切である。
- 場面の展開に着目することで、作品全体の流れや心情の変化、人物の関係の変化を整理してとらえることができる。

【学習で用いる言葉】
**場面**　作品の中にあるいくつかのまとまり。時や場所、登場人物の組み合わせが同じ部分を一場面とすることが多い。

276ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図




言の葉ポケット

文章の中から、「風」に関する表現を見つけよう。また、「風」を表す言葉を自分でも集めてみよう。
例［強さ］激しい風　［様子］そよそよと吹く　［種類］薫風



## 学びへの扉

**見通しをもつ**

場面の展開に沿って変化する、登場人物の心情について話し合おう。［学習活動］

**目標**
- 場面ごとの心情の変化を、図を用いて整理する。（知る）
- 場面の展開に沿って、登場人物の心情の変化をとらえる。（読む）

**とらえる**

### 1 作品の全体像と場面ごとの心情をとらえよう。

①登場人物や場面の展開を確かめよう。
- 登場人物はだれか。
- 時や場所を表す言葉に着目して、全体をいくつかの場面に分けよう。

②場面ごとに、心情がわかる表現を挙げてみよう。

小学校で学習した物語の読み方を思い出そう。



**読み深める**

### 2 心情の変化を整理しよう。

1で挙げた表現をもとに、場面の展開に沿ってレンの心情の変化をとらえ、図などを使って整理してみよう。

**考えをもつ**

### 3 整理した内容をもとに話し合おう。

整理した図をグループで見せ合いながら、自分が着目した表現や、そこから読み取れるレンの心情の変化について話し合おう。

交流を通して新しく気づいた点があれば、図に書き足してもいいね。



**振り返る**
- 知る　□場面ごとの心情の変化を図を用いて整理することで、どんなことがわかったか。
- 読む　□どんな表現を手がかりに心情の変化をとらえたか。
- つなぐ　□好きな小説や映画などの登場人物について、心情の変化を図で表してみよう。

# 季節のしおり 春

あなたが春を感じるのは、どんなときだろうか。さきほこる花を見たとき、鳥のさえずりや、風の暖かさに気づいたとき……。作品に描かれた情景の中に、春を感じてみよう。

## 鶯の啼や小さき口明いて

与謝蕪村

## 久方の光のどけき春の日に
## 静心なく花の散るらむ

紀友則

## いちめんのなのはな
## いちめんのなのはな
## いちめんのなのはな
## いちめんのなのはな
## いちめんのなのはな
## いちめんのなのはな
## いちめんのなのはな
## かすかなるむぎぶえ
## いちめんのなのはな

山村暮鳥「風景 純銀もざいく」より

### 春の植物や動物にまつわる言葉

- 花便り……花のさいた様子を知らせる便り。桜の花を指すことが多い。
- 山笑う……草木が芽吹くころの、生き生きとして明るい感じになった山の様子。
- 鳥雲に入る……春になり、北方へ帰っていく鳥が雲にかくれて見えなくなること。



話す 聞く

## ［聞く］ 情報を聞き取り、要点を伝える



▼二次元コードの音声を聞こう

田村さんは、吹奏楽部の部長から、練習を休んだ関さんへの連絡をたのまれた。田村さんと部長の会話を聞き、田村さんになったつもりで、下の問題に取り組もう。

台本は32ページ

情報を聞き取り、人に伝えるときには、どんな点に気をつければよいだろう。相手に伝える必要があることを判断しながら聞き取り、情報を整理して伝えよう。

### やってみよう

**1 必要な情報をメモに取ろう。**

［メモの例］

関さんへ
○ あした
→ 練習休み（工事）
→ ミーティング
○ あさって
……

- メモは、重要な情報だけを書く。
- 自分だけがわかるように書けばよい。

**2 メモをもとに、関さんへ伝える内容を整理しよう。**

- 伝える必要がある情報は、線を引いたり、丸で囲んだりして整理する。

## 要点

### 「田村さんと部長の会話」

部長　今日、関さんはお姉さんの結婚式に出ているんだよね。
田村　そう聞いています。あしたは学校に来るはずです。
部長　じゃあ、あしたとあさっての予定を伝えてください。あしたは工事で音楽室が使えないので、練習はお休みです。代わりにミーティングをします。あさってはいつもどおり、放課後に練習します。
田村　わかりました。あしたのミーティングは、どこでしますか。
部長　三年一組の教室です。少し前に伝えたように、来月末に参加するイベントについて、話し合います。
田村　わかりました。関さんに伝えておきます。
部長　ありがとう。よろしくね。ところで、関さんのお姉さんは、うちの卒業生で吹奏楽部だったんだって。
田村　はい。部長と同じ、トランペット担当だったそうですよ。
部長　そうなんだ。機会があったら、お話、聞いてみたいな。あ、そういえば、あさっての練習前に、工事で廊下に出した音楽室の楽器を元にもどすよう、先生からたのまれましたよね。
田村　そうだったね。忘れていた。じゃあ、そのこともいっしょに伝えてもらえるかな。

### 情報を的確に聞き取るために

**［情報を聞き取るとき］**

- 人に伝えるために、どんな情報が必要かを考えながら聞く。
- 聞き取れなかったり、わかりにくかったりしたところは、質問して確認する。
- キーワード（重要な言葉）をすばやく書き留める。

**［聞き取った情報を伝えるとき］**

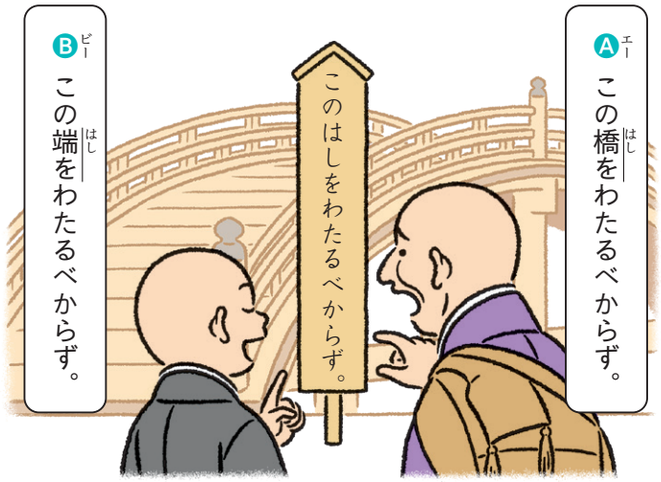
- メモをもとに、情報を受け取る相手に伝えるべきことは何かを見きわめる。
- 情報が伝わりやすいように、メモの内容を整理する。
  - 例 ・時間の流れに沿って整理する。
  - ・番号を付けたり、箇条書きにしたり、大事なところに線を引いたりする。
  - ・内容の全体をおおまかにまとめる。






## 言葉1 音声の仕組みや働き

立て札の文字を、声に出して読んでみよう。Ⓐの意味か、Ⓑの意味かで、声の出し方はどう変わるだろう。




### 母音と子音

日本語の音は、母音（a・i・u・e・o）と子音（k・g・s・zなど）の組み合わせでできている。日本語は、母音を意識して話すと、はっきりした発音になる。

### 音の高さ・強さ

音の高さや強さに注意することで、言葉を正確に届けることができる。

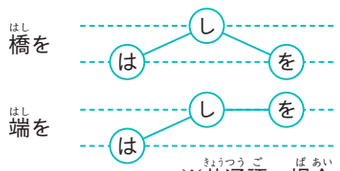
**アクセント**　一つ一つの言葉がもつ、音の高低の配置。同じ音をもつ言葉でも、アクセントのちがいで意味を区別できることがある。

**イントネーション**　文全体の音の高低。文の最後を上げるか下げるかで、意味や調子が変わることがある。

**強調**　次のような方法で、伝えたいことを強調することができる。

- 大きな声で、強く発音する。
- 他の言葉よりもゆっくり、はっきり発音する。

**アクセントによるちがい**



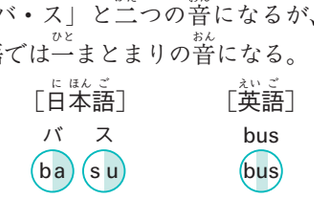
※共通語の場合

**イントネーションによるちがい**

- 橋をわたるの。↘ ＝（説明）
- 橋をわたるの。↗ ＝（質問）

**日本語と英語のちがい**

日本語と英語では、発音するときの音の単位が異なる。例えば、「バス／bus」という語は、日本語では「バ・ス」と二つの音になるが、英語では一まとまりの音になる。




16ページ 声を届ける

# 話すこと・聞くこと 話の構成を工夫しよう

## 一枚の写真をもとにスピーチをする

友達の話を聞いて、意外な一面を知っておどろいたり、今まで以上に親しみを感じたりしたことはないだろうか。おたがいをもっと深く理解するために、「みんなの知らない私の一面」が伝わる写真を持ち寄り、スピーチで紹介しよう。

表現テーマ例集

**目標**

- 声の大きさや速さ、間の取り方などを意識して話す。（知る）
- 自分の伝えたいことが、わかりやすく伝わるように、話の構成や表現を工夫する。（話・聞）

**集める・整理する**

### 1 材料を集める

- 「みんなの知らない私の一面」について、思いついたことを書き出す。
- 何を伝えるかを決め、写真を用意する。

**組み立てる**

### 2 話の構成を考え、練習する ICT

- 聞き手にわかりやすく伝えるために、話す順序や表現のしかたを工夫する。
- 友達どうしで聞き合ったり、録画を見たりして改善点を見つける。

**伝え合う**

### 3 スピーチの会を開く

- 聞き手の反応をふまえ、声の大きさや速さ、間の取り方などを意識して話す。

**共有する**

### 4 学習を振り返る

- スピーチについての感想を交流する。
- 内容や話し方について、よいと思ったことを伝え合う。

振り返る 37ページ

**生かす**

- 日常　宿泊学習の思い出を家族に伝える。
- 将来　初対面の相手に自己紹介をする。





235ページ 振り返る
193ページ 話題や展開
122ページ 質問
35ページ 話の構成

## わかりやすい話の構成を考える

学びのカギ

- 話す目的や話題を確認し、自分が伝えたいことを明確にする。
- 聞き手の立場に立って、わかりやすい話の構成や表現になるよう工夫する。
  - 順序を表す言葉を用いる。
  - 話の始め方や終わり方を工夫する。
  - 自分の体験などの具体例を入れる。
  - 資料を示すタイミングを工夫する。

280ページ 「学びのカギ」一覧

学びの地図

練習の様子を録画して、構成や話し方の改善点を見つけよう。

ICT 録画して自分の話し方を確かめる

341ページ

聞き手にわかりやすく伝えるためには、話の構成をどう工夫したらよいだろう。

中川さん



**［最初の構成案］**

- 目的……「みんなの知らない私の一面」を伝える
- 話題……ミステリーが好き（家の本だなの写真を見せる）
- 時間……一分程度（一分間で三百字程度が目安）

| 終わり | 中 | 初め |
|---|---|---|
| ・聞き手への呼びかけ<br>・しめくくり | 理由①<br>理由②<br>理由③ | ・ミステリーが好きな理由<br>・なかでも好きな作品 |

前後のつながり△　唐突な印象？　情報が多い　入れかえ？

**［改善案］**

| 終わり | 中 | 初め |
|---|---|---|
| ・聞き手への呼びかけ<br>・しめくくり | 理由①<br>理由②（削除）<br>・なかでも好きな作品 | ・聞き手への問いかけ（導入を追加（興味を引く））<br>・ミステリーが好きな理由 |

前後のつながり○　しぼりこむ

# スピーチをする



16ページ 声を届ける

みなさんは、どんな本が好きですか。

この写真を見てください。並んでいるのは、全てミステリーです。これは、私の部屋の本だなです。実は、私はミステリーが大好きなのです。

ミステリーが好きな理由は二つあります。一つ目は、予想を裏切られることのおもしろさです。なぞを解く場面で意外な真実が明かされたときには、あっとおどろかされます。二つ目は、自分も推理しながら読むことで、作品の世界に入りこめるところです。

なかでも好きな作品は、江戸川乱歩が書いた「怪人二十面相」です。次々と事件が起こるので、まるでジェットコースターに乗っているかのようなスリルを味わえます。

ミステリーに興味をもった人は、ぜひ声をかけてください。

これで、スピーチを終わります。ありがとうございました。

（327字）

初め　中　終わり

## ［スピーチメモの例］

- 「みなさんは」
- 「この写真を」
  - 全てミステリー
  - 私の部屋の本だな
- 「ミステリーが好きな理由」
  - ①予想を裏切られる
  - ②作品の世界に入りこめる
- 「なかでも」
  - 江戸川乱歩「怪人二十面相」
  - まるでジェットコースター
- 「ミステリーに」
- 「これで」

▼導入　問いかけ　話題提示
▼説明①　好きな理由
▼説明②　特に好きな作品
▼まとめ　呼びかけ　しめくくり

キーワードを書く。

続きを思い出せるように、まとまりの初めの言葉を書く。

聞き手の反応を見ながら間を取ったり、視線や表情、身振りを工夫したりして話そう。



## 言の葉ポケット

**導入で使われる表現**
- みなさんは、○○ですか。
- ○○を知っていますか。
- （資料を指しながら）これは○○です。

**説明で使われる表現**
- ……は○点あります。一点目は……。
- 理由は……です。
- いつ・だれが・どこで・何を・なぜ・どのように、……しました。（5W1H）
- きっかけは／出会いは、……でした。（経緯）
- もともと／以前は／今は、……。（比較）

**まとめで使われる表現**
- みなさんもぜひ……してみてください。
- ○○な人は、ぜひ声をかけてください。

## ［交流の例］



田村　中川さんが熱心に話してくれたので、僕もミステリーの魅力を味わってみたくなりました。初めてミステリーを読む人におすすめの作品はありますか。



中川　質問をありがとうございます。では、はやみねかおるさんの「そして五人がいなくなる」はどうでしょう。登場人物が個性的で、なぞを解くおもしろさも味わえます。学校図書館にあるので、読んでみてください。



## 達人からのひと言

聞き手の反応や表情を観察し、一人一人に対して、勇気を出して自分の伝えたいことを届けようとする姿勢が大切です。

松本和也さん（スピーチコンサルタント）



**振り返る**

- 知る　□声の大きさや間の取り方などを、どのように工夫したか。
- 話す・聞く　□自分の伝えたいことが、聞き手にはっきりとわかりやすく伝わるように、スピーチの構成や表現で工夫した点は何か。
- つなぐ　□今回学んだことの中で、次にスピーチをするときに生かしたいことを挙げてみよう。

漢字1

# 漢字の組み立てと部首

「休」は、「人（にんべん）」と「木」の、二つの部分からできている。漢字には、このように、二つの部分の組み合わせでできているものが多い。漢字の組み立ては、二つの部分を左右に配置したもの、上下に配置したもの、内と外に配置したものなどがある。




## 漢字の組み立て

漢字を組み立てている部分は、位置によって、**へん・つくり・かんむり・あし・たれ・にょう・かまえ**に分類される。これらの部分は、その漢字のおおまかな意味を表し、「ごんべん」「りっとう」など、よび名がつけられているものもある。

| | へん | | つくり | | かんむり | | あし | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 部分の例（よび名） | 言（ごんべん） | イ（にんべん） | 刂（りっとう） | 力（ちから） | 𥫱（たけかんむり） | 人（ひとやね） | 灬（れっか・れんが） | 心（こころ） |
| 表す意味 | 言葉 | 人 | 刀・切る | 力 | 竹 | 人 | 火 | 心 |
| 漢字の例 | 説・調・論 | 休・供・使 | 判・利・刻 | 助・効・動 | 笛・筆・節 | 令・介・企 | 照・熟・熱 | 思・悲・意 |





## 漢字の部首

漢字は数が多く、漢和辞典では、似た部分をもつ漢字を集めて同じ部類にまとめてある。例えば、人の動作や状態に関係する「にんべん」「ひとやね」などのつく漢字や「人」という漢字は、「人」の部にまとめられている。このときの「人」を**部首**という。

**例**
イ（にんべん）……休・供・使
人（ひとやね）……令・介・企
人（ひと）……人

「人」という部首でまとめられる。

なお、部首の扱いは、漢和辞典によって異なることがあるので注意する必要がある。

| | かまえ | | にょう | | たれ | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 門（もんがまえ） | 口（くにがまえ） | 走（そうにょう） | 辶（しんにょう・しんにゅう） | 疒（やまいだれ） | 广（まだれ） |
| | 門 | 囲む | 走る | 道・進む | 病気 | 家・屋根 |
| | 開・間・関 | 回・固・園 | 起・越・超 | 追・通・遠 | 疲・病・癖 | 庁・店・庫 |



## 練習問題

●は中学校で学習する音訓 321ページ

**1** 〈　〉の中の二つの部分を組み合わせて、□に漢字を入れ、熟語を完成させよう。

①〈音＋心〉→□思
②〈⻊＋各〉→岐□
③〈走＋己〉→□立
④〈月＋蔵〉→腎□
⑤〈尸＋曽〉→高□
⑥〈灬＋官〉→□弦
⑦〈口＋古〉→頑□
⑧〈石＋皮〉→□片

**2** 次の①～④の――線部の漢字は、同じ部首に属している。その部首を、漢和辞典で調べよう。

①服装・襟元・手袋
②氷山・汚染・安泰
③恭順・苦悩・懸命
④暗黒・明星・景観

新出漢字

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 39 恭 キョウ（うやうやしい） | 39 頑 ガン | 39 越 エツ こす こえる | 38 介 カイ | | |
| 39 悩 ノウ なやむ なやます | 39 襟 （キン）えり | 39 超 チョウ こえる こす | 38 企 キ くわだてる | | |
| 39 懸 ケン（ケ）かける かかる | 39 袋 （タイ）ふくろ | 39 扱 あつかう | 39 疲 ヒ つかれる | | |
| | 39 汚 オ （けがす） （けがれる） （けがらわしい） よごす よごれる きたない | 39 腎 ジン | 39 癖 ヘキ くせ | | |
| | 39 泰 タイ | 39 弦 ゲン（つる） | | | |

漢字一覧表

# 漢字に親しもう１

・は中学校で学習する音訓 321ページ

## 小学校で習った漢字 260ページ

**1** 次の□の中の言葉を使って、文章を作ろう。

映画
劇場
座席
当日券





【漢字の書き】

## 中学校で習う漢字 308ページ

**2** 次の――線部の熟語を読もう。

【漢字の読み（芸術）】

① あの画家の絵はどれも傑作だ。［　　］
② 速やかに楽譜に目を通す。［　　］
③ 鉛筆で自画像を描く。［　　］
④ 演技の稽古に多くの人が集う。［　　］
⑤ 童謡を聞いて、気分が和らぐ。［　　］
⑥ 休日は専ら陶芸を楽しむ。［　　］
⑦ 琴の音色に心が和む。［　　］

**3** 次の――線部は〈　〉が部首の漢字である。それぞれの熟語を読もう。

【同じ部首の漢字】

① 〈手〉
捻挫［　　］　打撲［　　］
拒否［　　］　一括［　　］

② 〈糸〉
維持［　　］　緯度［　　］
紡績［　　］

新出漢字

40 傑 ケツ
40 謡 ヨウ（うたい）（うたう）
40 撲 ボク
40 緯 イ
40 陶 トウ
40 拒 キョ こばむ
40 紡 ボウ（つむぐ）
40 譜 フ
40 琴 キン こと
40 括 カツ
40 鉛 エン なまり
40 捻 ネン
40 維 イ
40 稽 ケイ
40 挫 ザ

漢字一覧表

# 2 新しい視点で

説明の工夫をとらえながら、ものの見方を広げる


ダイコンは大きな根？　説明……稲垣栄洋

ちょっと立ち止まって　説明……桑原茂夫

情報整理のレッスン　比較・分類

情報を整理して説明しよう

発見したことをわかりやすく書く

言葉2　指示する語句と接続する語句




動きを表す言葉❷　見つめる　|　対象から目をそらさずに、ただそれだけをじっと見続けること。

# ダイコンは大きな根？

稲垣 栄洋

読む　文章の内容をとらえ、筆者の説明のしかたについて話し合おう。［学習活動］

目標
- 比較がどんな場面で使われるかを確かめる。
- 段落の役割に着目して、文章の内容をとらえる。

私たちは、毎日いろいろな種類の野菜を食べています。野菜は植物ですから、根や葉、茎、花、実などの器官からできています。例えば、キャベツやレタスなら葉の部分を食べていますし、トマトやナスなら実の部分を食べています。

それでは、私たちが普段食べているダイコンの白い部分はどの器官なのでしょうか。漢字で「大根」と書くくらいですから、根のように思うかもしれませんが、そんなに単純ではありません。

その疑問に答えるために、ダイコンの芽であるカイワレダイコンを見ながら考えてみます。カイワレダイコンは、双葉と根、その間に伸びた胚軸とよばれる茎から成り立っています。根の部分には、種から長く伸びた主根と、主根から生えている細いひげのような側根があります。

これに対して、私たちが食べるダイコンをよく見てみると、下のほうに細かい側根が付いていたり、側根の付いていた跡に穴が空いていたりするのがわかります。ダイコンの下のほうは主根が太ってできているのです。いっぽう、ダイコンの上のほうを見ると、側根がなく、すべすべしています。この上の部分は、根ではなく胚軸が太ったものです。つまり、ダイコンの白い部分は、根と胚軸の二つの器官から成っているのです。

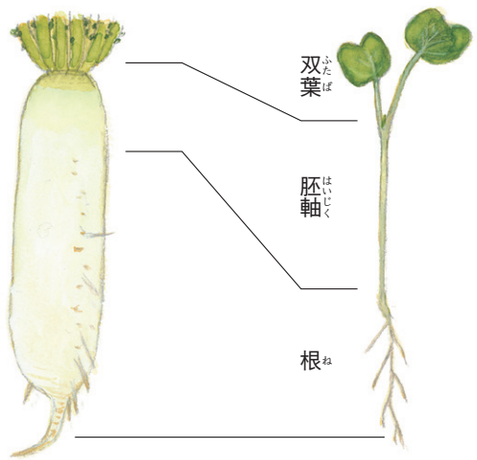
この二つの器官は、じつは味も違っています。なぜ、違っているのでしょう。

胚軸の部分は水分が多く、あまみがあるのが特徴です。胚軸は、地下の根で吸収した水分を地上の葉などに送り、葉で作られた糖分などの栄養分を根に送る役割をしているからです。

いっぽう、根の部分は辛いのが特徴です。ダイコンは下にいくほど辛みが増していきます。ダイコンのいちばん上の部分と、いちばん下の部分を比較すると、下のほうが十倍も辛み成分が多いのです。ここには、植物の知恵ともいえる理由がかくされています。

根には、葉で作られた栄養分が豊富に運ば






| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 4 | 8 | 8 | 8 | 2 | 16 |
| 漢 | 漢 | 漢 | 漢 | 漢 | 漢 | 漢 |
| 茎 | 普 | 双 | 伸 | 軸 | 恵 | |
| ケイ | フ | ソウ | シン | ジク | ケイ・エ | |
| くき | | ふた | のびる・のべる | | めぐむ | |
| 茎 | 普段 | 双葉 | 伸びる | 胚軸 | 知恵 | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 6 | 7 | 11 | 16 | 2 |
| 漢 | 漢 | 漢 | 漢 | 漢 | 文 |
| 跡 | 違 | 徴 | 辛 | 恵 | いっぽう |
| セキ | イ | チョウ | シン | ケイ・エ | |
| あと | ちがう・ちがえる | | からい | めぐむ | |
| 跡 | 違う | 特徴 | 辛い | 知恵 | |

れてきます。これは、いずれ花を咲かせる時期に使う大切な栄養分なので、土の中の虫に食べられては困ります。そこで、虫の害から身を守るため、辛み成分を蓄えているのです。ダイコンの辛み成分は、普段は細胞の中にありますが、虫にかじられて細胞が破壊されると、化学反応を起こして、辛みを発揮するような仕組みになっています。そのため、たくさんの細胞が壊れるほど辛みが増すことになります。

　これらの特徴を活用して調理すると、ダイコンのさまざまな味を引き出すことができます。例えば、大根下ろしを作るときに、辛いのが好きな人は下の部分が向いていますし、辛いのが苦手な人は上の部分を使うと辛みの少ない大根下ろしを作ることができます。また、ダイコンを力強く直線的に下ろすと、細胞が破壊されて、より辛みが増します。逆に、円を描くようにやさしく下ろせば、破壊される細胞が少なくなり、辛みが抑えられるのです。

　このように、ダイコンの白い部分は異なる器官から成っていて、器官の働きによって味も違うのです。普段何気なく食べているダイコンも、植物として観察してみると興味深い発見があります。他の野菜はどうでしょうか。いろいろと調べてみると、これまで気づかなかった野菜の新しい魅力が見えてくるかもしれません。

水上みのり・絵

3 **細胞**　生物の体を構成する最小単位。
4 **化学反応**　物質が変化して、別の物質ができること。化学変化。
1 漢 **咲** さく　咲く
3 漢 **蓄** チク たくわえる　蓄える
3 漢 **胞** ホウ　細胞
4 漢 **壊** カイ こわす こわれる　破壊
12 漢 **抑** ヨク おさえる　抑える
16 漢 **魅** ミ　魅力

**広がる読書**

「明日ともだちに話したくなる野菜の話」稲垣栄洋 監修




漢字の練習



学びの地図

## 学びへの扉

278ページ「学びのカギ」一覧

**見通しをもつ**

文章の内容をとらえ、筆者の説明のしかたについて話し合おう。［学習活動］

**目標**
- 比較がどんな場面で使われるかを確かめる。（知る）
- 段落の役割に着目して、文章の内容をとらえる。（読む）

**とらえる**

**1　文章の中心となる部分をとらえよう。**

筆者が「問い」を投げかけている段落と、それに対する「答え」を示している段落を見つけ、それぞれ短い言葉でまとめよう。

**読み深める**

**2　段落の役割について考えよう。**

この文章を構成する10の段落が、文章全体の中で、それぞれどんな役割を果たしているかを考えよう。

**考えをもつ**

**3　筆者の説明のしかたについて話し合おう。**

筆者の説明のしかたに注目して、この文章のわかりやすさの秘密を話し合おう。

［着眼点］題名、問いと答え（段落の役割）、比較、図　など

**振り返る**
- 知る　□筆者は、何と何を、何のために比較しているか。
- 読む　□段落が果たす役割には、どんなものがあったか。
- つなぐ　□わかりやすく説明する工夫のうち、自分が書くときに使ってみたいものを一つ挙げてみよう。



筆者　**稲垣栄洋**　一九六八（昭和四三）――　静岡県出身。農学者。
著書　「身近な雑草の愉快な生きかた」「働きアリの2割はサボっている」「野菜ふしぎ図鑑」など。
出典　「キャベツにだって花が咲く」を、本書のために書き改めたもの。




「はずれ者が進化をつくる」稲垣栄洋

**学びのカギ**

**段落の役割に着目する**

段落の役割に着目すると、文章の内容や構成、中心となる部分がとらえやすくなる。

**【段落の役割の例】**
- 導入
- 話題提示
- 問い・答え
- 理由
- 例示
- まとめ
- 筆者の主張

**【学習で用いる言葉】**
段落　文章を内容別に分けたまとまり。改行し一字下げる。

# ちょっと立ち止まって

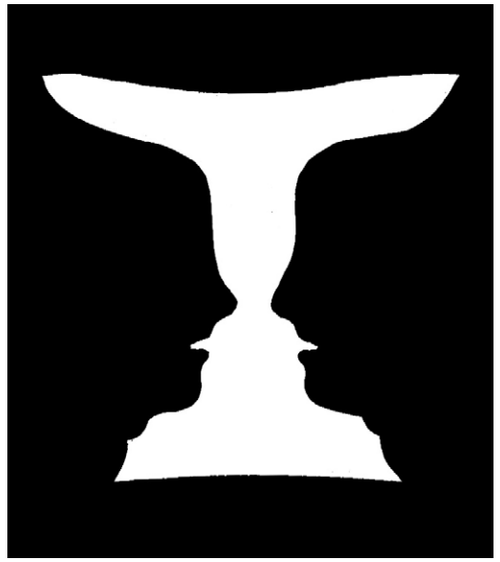
桑原 茂夫

読む

文章の要旨をとらえ、それをもとに考えたことを伝え合おう。［学習活動］

目標

- 筆者の主張と事例との関係を整理する。
- 文章の構成に着目し、要旨をとらえる。

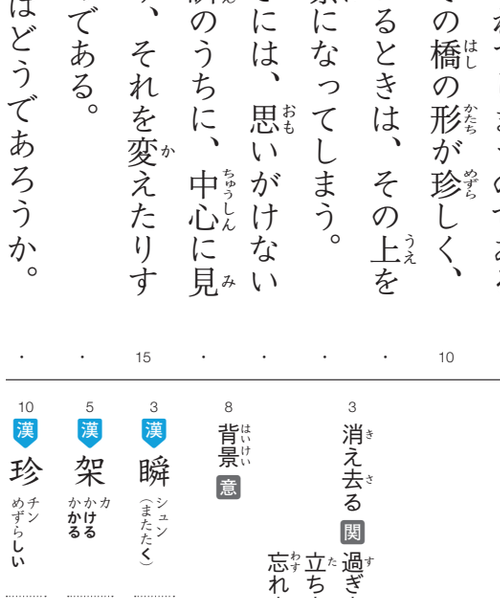


自分ではAだと思っていたものが、人からBともいえると指摘され、なるほどそうもいえると教えられた経験は多いことだろう。

上の図は「ルビンのつぼ」と題されたものである。よく見ると、この図から二種類の絵を見て取ることができるはずだ。白い部分を中心に見ると、優勝カップのような形をしたつぼがくっきりと浮かび上がる。このとき、黒い部分はバックにすぎない。今度は逆に、黒い部分に注目してみる。すると、向き合っている二人の顔の影絵が見えてきて、白い部分はバックになってしまう。

この図の場合、つぼを中心に見ているときは、見えているはずの二人の顔が見えなくなり、二人の顔を中心に見ると、一瞬のうちに、目からつぼの絵が消え去ってしまう。

このようなことは、日常生活の中でもよく経験する。いる橋の辺りに目を向けているとしよう。すると、橋のやって来る。目はその少女に引きつけられる。このとき、橋や池など周辺のものは全て、単なる背景になってしまう。カメラでいえば、あっという間に、ピントが少女に合わせられてしまうのである。



ところが逆に、その橋の形が珍しく、それに注目しているときは、その上を通る人などは背景になってしまう。

見るという働きには、思いがけない一面がある。一瞬のうちに、中心に見るものを決めたり、それを変えたりすることができるのである。

上の図の場合はどうであろうか。

3 ルビン 一八六―一九五一 デンマークの心理学者。

9 ……にすぎない 文

1 漢 摘 テキ つむ …… 指摘

8 漢 浮 フ うく うかれる うかぶ うかべる …… 浮かび上がる

11 漢 影 エイ かげ …… 影絵

3 消え去る 関 過ぎ去る 立ち去る 忘れ去る

8 背景 意

3 漢 瞬 シュン（またたく） …… 一瞬

5 漢 架 カ かける かかる …… 架かる

10 漢 珍 チン めずらしい …… 珍しい

ちょっとすまして図の奥の方を向いた若い女性の絵と見る人もいれば、毛皮のコートに顎をうずめたおばあさんの絵と見る人もいるだろうと見る人もいるかもしれない。

だれでも、ひと目見て即座に、何かの絵と見ているはずだが、そうすると、別の絵と見ることは難しい。若い女性の絵だと思った人には、単には見えてこない。おばあさんの絵と見るためには、とりあえず、今見えている若い女性の絵を意識して捨て去らなければならない。



上の図を見てみよう。化粧台の前に座っている女性の絵が見えるであろう。ところがこの図も、もう一つの絵をかくしもっている。目を遠ざけてみよう。すると、たちまちのうちに、この図はどくろを描いた絵に変わってしまう。同じ図でも、近くから見るか遠くから見るかによって、全く違う絵として受け取られるのである。

7 意識 意
1 漢 奥（オウ） おく
2 漢 顎 ガク あご
8 漢 粧 ショウ
化粧台（音 ケショウダイ）
9 訓 座る（すわる）
（49ページ）
5 ……がち 文
15
1 漢 秀（シュウ ひいでる）
秀麗 シュウレイ



このことは、なにも絵に限ったことではない。遠くから見れば秀麗な富士山も、近づくにつれて、岩石の露出した荒々しい姿に変わる。また、遠くから見ればきれいなビルも、近づいて見ると、ひび割れてすすけた壁面のビルだったりする。

私たちは、ひと目見たときの印象に縛られ、一面のみをとらえて、その物の全てを知ったように思いがちである。しかし、一つの図でも風景でも、見方によって見えてくるものが違う。そこで、物を見るときには、ちょっと立ち止まって、他の見方を試してみてはどうだろうか。中心に見るものを変えたり、見るときの距離を変えたりすれば、その物の他の面に気づき、新しい発見のおどろきや喜びを味わうことができるだろう。

1 漢 麗（レイ うるわしい）
秀麗
2 漢 露（ロ ロウ つゆ）
露出
2 漢 荒（コウ あらい あれる あらす）
荒々しい
4 漢 縛（バク しばる）
縛る
7 訓 試す（ためす）

漢字の練習



筆者 桑原茂夫 一九四三（昭和一八）――
東京都出身。詩人・評論家。
著書 「ことば遊び百科」「御田八幡絵巻」、「イメージの冒険（全七巻）」（編著）など。

出典 「だまし絵百科」を、本書のために書き改めたもの。

## 広がる読書

「ふしぎなえ」安野光雅



「毎月新聞」佐藤雅彦

185ページ 目的に応じた要約 ／ 137ページ 構成や展開の効果 ／ 51ページ 文章の構成 ／ 45ページ 段落の役割

学びのカギ

## 文章の構成に着目する

**文章全体を見わたし、大きくつかむ。**

- 文章全体が、どのように構成されているかをとらえると、内容を整理したり、要旨をとらえたりすることに役立つ。
- 説明的な文章は、次のような典型的な構成の型をふまえて書かれることが多い。

例　初め・中・終わり
　　序論・本論・結論

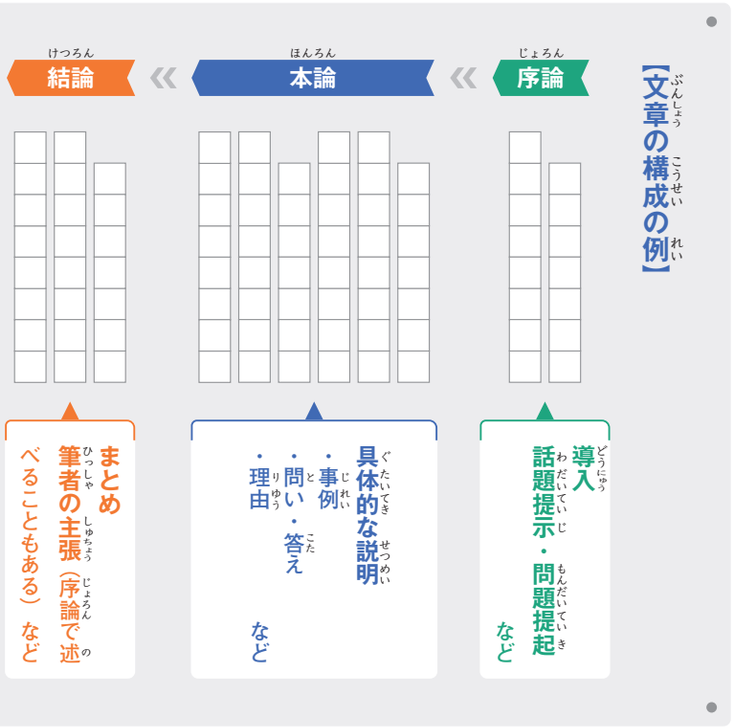
278ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図

**【学習で用いる言葉】**

**要旨**　文章の内容や、筆者の考えの中心となる事柄のこと。「結論」のまとまりに表れることが多い。

**【文章の構成の例】**




**言の葉ポケット**

本文から「見る」ことに関する言葉や慣用句を抜き出し、注目の度合いや、見る時間の長さの順に整理してみよう。



## 学びへの扉

文章を読んで、感じたことを書き留めておこう。
●共感・納得　●発見・気づき　●疑問



**見通しをもつ**

文章の要旨をとらえ、
それをもとに考えたことを伝え合おう。［学習活動］

**目標**
- 筆者の主張と事例との関係を整理する。（知る）
- 文章の構成に着目し、要旨をとらえる。（読む）

**とらえる**

**1　文章の構成に着目し、要旨をとらえよう。**

①文章全体を、序論・本論・結論に分けてみよう。さらに、本論を三つのまとまりに分けてみよう。
②結論に書かれている内容に着目して、この文章の要旨をまとめよう。

**読み深める**

**2　文章の構成に着目し、序論・本論・結論の役割を考えよう。**

①文章と図との対応に注意し、本論の図がそれぞれ何を述べるために示されているかをひと言でまとめよう。
②結論を導くために、序論と本論がどのような役割を果たしているかを考えよう。

**考えをもつ**

**3　考えたことを伝え合おう。**

筆者の主張をふまえ、生活の中で、ものの見方や考え方が広がったと思われる体験や事例を発表しよう。

**振り返る**

- 知る　□筆者の主張と事例の関係を、どのような方法で整理したか。
- 読む　□文章の要旨をとらえるときには、どんな手順で進めるとよいか。
- つなぐ　□筆者はなぜ、「他の見方を試して」（49ページ7行目）みることをすすめているのだろうか。「ちょっと立ち止まって」という言葉を使って、一文にまとめよう。

学習の前と後とで、自分の考えが変わったこと、変わらなかったことを確かめよう。



情報

# 情報整理のレッスン 比較・分類

思考のレッスン1 意見と根拠 138ページ
思考のレッスン2 原因と結果 186ページ

## ■情報を整理する

文章や会話の内容を正確に捉えたり、集めた情報をわかりやすく伝えたりするためには、目的に合わせて情報を整理することが必要だ。



国語辞典を買うんだね。A社の辞典は七万五千語収録、三万語のC社と比べると倍以上だ。C社は小学生向けだからわかりやすいけれど、中学生にはどうかな。B社の辞典は歴史がある。初版発行が五十年前で、何度も改訂を重ねてきているから……。



うかがったことを整理して比べてみよう。

### 【整理の方法①】比較する

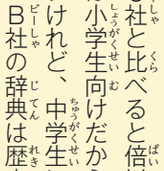
同じ観点で比較すると、特徴を捉えやすくなる。表の形に整理すると比べやすい。

| | 観点① 発行年 | 観点② 語数 | 観点③ 特長 |
|---|---|---|---|
| A社 | 2021年 | 75,000語 | 新語・流行語も多数収録。 |
| B社 | 2018年 | 70,000語 | 初版が50年前で歴史がある。 |
| C社 | 2009年 | 30,000語 | 小型で安価。小学生向け。 |

比較するもの



A社は発行年が最新で、収録語数もいちばん多いのか……。



買うのなら、「価格」や「対象年齢」の観点でも比較したいな。

**比較に用いる言葉**
- ○○という観点で比較すると、……。
- ○○に対して□□は、……。
- 共通（同じ）点は……、相違（違う）点は……。

### 【整理の方法②】分類する

共通点や類似（似ている）点に注目し、グループに分ける。

たくさんの情報を整理するときに役立つ。



何についての要望かが、はっきりしたね。

**学校図書館への要望**

- 読書推進活動
  - 本の探し方が知りたい
  - 本の情報を交流したい
  - 読書会をしてほしい
- 本・資料
  - 新刊本が読みたい
  - 新聞を置いてほしい
  - 傷んだ本の修理
- 設備・運営
  - 5時まで開けてほしい
  - 蔵書検索がしたい
  - 椅子を増やしてほしい

グループに分け、見出しを付ける。

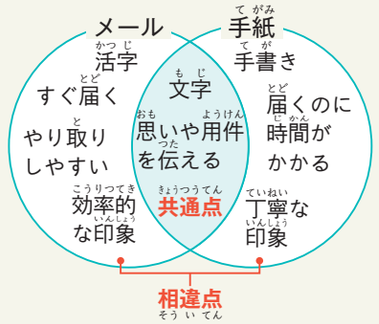
「学校図書館への要望」アンケート結果
- 新刊本が読みたい
- 椅子を増やしてほしい
- 本の探し方が知りたい

付箋などに情報を書き出す。

### 【整理の方法③】分類して比較する

複数の物事に共通する特徴と、それぞれにしかない特徴を分類する。

共通点と相違点を整理して比較することができる。

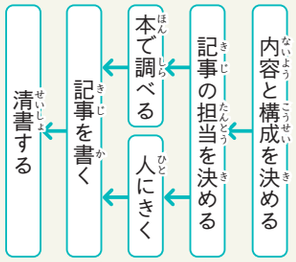



### 【整理の方法④】順序や流れを整理する

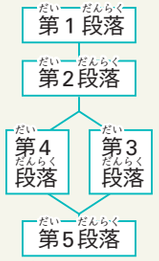
物事の順序や流れなどを整理する。

構成や手順を理解し、共有するときに役立つ。

**順序を表す言葉**
- まず、……
- 次に、……
- 第一に、……
- 第二に、……




新聞を作る手順




文章の構成

---

**問題1** ▼次の情報を、観点ごとに整理してみよう。

［私の家の犬、コタロウ］
- 耳はぴんと立っている。
- 甘えん坊。だれにでもなつく。
- しっぽはくるりと巻いている。
- おなかを壊したとき、夜おそくまで看病した。
- 体長六十センチメートル。
- めったにほえない。
- 首輪は赤。
- 毛は短く、薄い茶色。
- 足が速い。
- 初めて見たとき、あまりの愛くるしさにおどろいた。

**［分類の観点の例］**
- 外見
- 性格、性質
- 思い出で

**問題2** ▼次のような目的で文章を書く場合、問題1で示した観点の何を中心にすればよいかを考えよう。また、他に加えるべき観点があれば挙げてみよう。

① 町内の人に、迷子になったコタロウをさがしてもらうためのポスターを書く場合。

② コタロウのかわいさを友達に伝える場合。



新出漢字

| | | |
|---|---|---|
| 52 較 | カク | |
| 52 訂 | テイ | |
| 52 坊 | ボウ ボッ | |
| 53 箋 | セン | |
| 53 索 | サク | |
| 53 椅 | イ | |
| 52 捉 | ソク | とらえる |
| 52 甘 | カン | あま い あまえる あまやかす |
| 53 類 | | 似（ルイジ） |
| 53 傷 | | む（いたむ） |

新出音訓

漢字の練習

書く

# 情報を整理して説明しよう

## 発見したことをわかりやすく書く

事実や考えを相手にわかりやすく伝えるには、情報を整理し、取捨選択することが必要だ。ここでは、身の回りにある道具を改めて見直し、その知恵や工夫をわかりやすく説明する文章を書いてみよう。

書くことのミニレッスン




**目標**
- 集めた情報を比較したり分類したり、関係づけたりして整理する。（知る）
- 情報を取捨選択し、わかりやすく説明するためにまとめ方や順序を工夫する。（書く）

**集める・整理する**

### 1 情報を集め、整理する

- 取り上げる題材（道具）を選ぶ。
- 道具を観察したり、試しに使ったりして、気づいたことを書き出し、整理する。
- 説明に必要な情報をしぼりこむ。

**組み立てる**

### 2 構成を考える

- 選んだ情報をどういう順序で提示するとわかりやすいかを考える。

**表現する**

### 3 文章にまとめる

- 300 ～ 400 字程度で文章にまとめる。
- わかりやすい文章になるように推敲する。

**共有する**

### 4 交流する

- 友達と読み合い、内容や説明のしかたについて、わかりやすいと思った点を伝え合う。

振り返る 57ページ

**生かす**
- 日常 小学生に中学校生活を説明する。
- 将来 商品の取扱説明書を書く。



235ページ 振り返る | 229ページ 構成の工夫 | 141ページ 根拠の明確化 | 116ページ 情報整理・構成 | 55ページ 情報の取捨選択

学びのカギ

## 情報を集めて取捨選択する

- 目的や相手によって、必要な情報は異なる。何のために、だれに向けて書く文章なのかを意識して情報を集める。
- 集めた情報は、観点ごとにまとめたり、共通点を見つけて分類したりして整理する。
- 目的や相手に応じて、書くべき情報の優先順位をつけ、不要な情報は捨てる。

280ページ 「学びのカギ」一覧

学びの地図

わかりやすい文章を書くために、情報を集めて整理する段階では、どんなことに気をつけたらよいだろう。



**目的A** 不特定多数に向けて、道具としての機能や特徴を説明する

情報の取捨選択：~~名前~~ ~~機能~~ ~~構造~~ ~~思い出~~

**文章A**

テープカッターは、テープを切るときには欠かせない、テープを切るための道具だ。

この道具は、車輪のような部分とそれを支える台から成り、台の部分にテープを切るための刃が付いている。……

**目的B** 友達に、お気に入りの品として紹介する

情報の取捨選択：~~名前~~ ~~機能~~ ~~構造~~ 思い出

**文章B**

私のお気に入りの一品は、小学生のときから使っているテープカッターだ。

薄いきれいな水色と丸みのある形が、よくあるテープカッターとは少し違っていて、気に入っている。小学生のとき……。

## ■問いを立てて考える

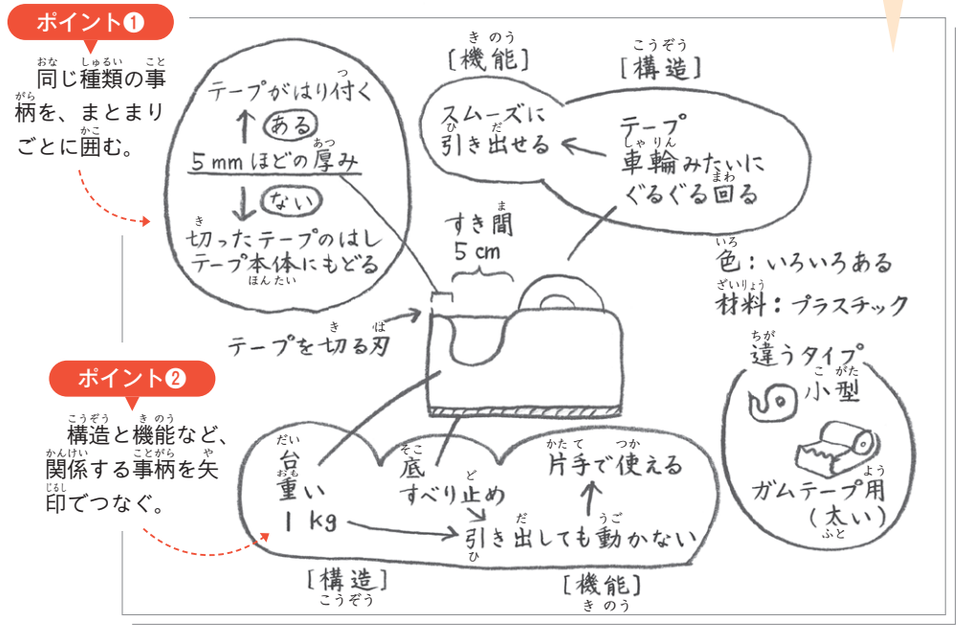
- どうして、こうなっているのか。
- この形（重さ・長さ・色など）の理由は何か。
- 他の道具と比べてどうか。
- もしこの部分がなかったら、どうか。
- 手に取ってみたら／使ってみたら／近くで見てみたら、どうか。
- この機能は、どんな場面で役立つか。

### 言の葉ポケット

**説明するときの表現**

- ……は、……のためである。
- ……だからこそ、……できる。
- ○○には、……という役割がある。
- もし……ならば、……だろう。
- ○○と比べると／○○とは違って……。
- ○○では、……だが、□□は……だ。
- まるで○○のように、……。

## ■気づいたことを書き出す




## ■情報を選び、構成を考える

どの順序で書くとわかりやすいかな。

- A 発見したこと①（テープがはり付く部分の役割）
- B 発見したこと②（重さとすべり止めの役割）
- C 構造や仕組み
- D 名前
- E 主な機能

### 達人からのひと言

文章に付けるタイトルや見出しを考えると、自分がだれに何を伝えようとしているのかがはっきりして書きやすくなりますよ。



最相葉月さん（ノンフィクションライター）



**［道具の使いやすさの秘密を、不特定多数に向けて説明した文章の例］**

テープカッター（すえ置き型）の使いやすさの秘密

テープカッターは、テープを切るときには欠かせない、テープを切るための道具だ。

この道具は、車輪のような部分とそれを支える台から成り、台の部分にテープを切るための刃が付いている。車輪のような部分が回転することで、テープをスムーズに引き出し、刃の部分で好きな長さに切ることができる仕組みだ。

手に取ってみると、ずっしりと重い。底にはすべり止めも付いている。この重さとすべり止めのおかげで、テープを手前に引き出しても、テープカッターはびくともしない。テープカッター動かないから、使う人は片手で簡単にテープを切ることができる。

また、テープを切る刃が付いている部分には五ミリメートルほどの厚みがあり、テープがはり付くようになっている。もし、テープがはり付く場所がなければ、切ったテープのはしはテープ本体にもどり、使うたびに、テープのはしを探すことになってしまうだろう。この厚みが、とても大きな役割を果たしている。

このように、私が発見したテープカッターの使いやすさの秘密は、重さとすべり止め、そして刃の部分の厚みにある。

| お終わり | 中 | 初め |
|---|---|---|

**タイトル**

**基本的な情報**
名前・主な機能（定義）
- ○○は、……のための道具だ。

**構造や仕組み**
- ○○と□□から成る。
- ……という仕組みだ。

**発見したこと①**
- 手に取ってみると、……。
- ……のおかげで、……できる。
- ……だから、……できる。

**発見したこと②**
- もし……ならば、……だろう。
- もし……なければ、……だろう。
- ○○には、……という役割がある。
- ○○は、……という役割を果たしている。

**まとめ**
- ○○は、……と……にある。

**振り返る**

- 知る □集めた情報を、どんな方法で整理したか。
- 書く □どのような目的で、どのような工夫をして情報を取捨選択したか。
- つなぐ □わかりやすく説明する工夫の中で、次に生かしたいことを挙げてみよう。

言葉2

# 指示する語句と接続する語句

次の文章の「この」「その」は、それぞれ何を指し示しているだろう。また、「では」「しかし」「つまり」は、文章の中でどのような働きをしているだろう。

夜に活動して昼に休む。このような性質を夜行性といいます。では、なぜ夜に活動するのでしょうか。明るい昼のほうが、周囲がよく見え、そのぶん、敵や食物を見つけやすいはずです。しかし、見つけやすいということは、見つかりやすいということでもあります。敵が多い動物にとって明るい昼は危険です。つまり、夜行性の動物が夜間に活動するのは、そのほうが安全だからだと推測できます。



## 指示する語句

「これ・それ・あれ」「ここ・そこ・あそこ」などは、具体的な名称の代わりに、事物や場所を指し示す言葉である。事物や場所が不明な場合は、「どれ」「どこ」などを使う。これらの言葉を**指示する語句**（「こそあど言葉」）という。

| | こ | そ | あ | ど |
|---|---|---|---|---|
| 事物 | これ | それ | あれ | どれ |
| 場所 | ここ | そこ | あそこ | どこ |
| 方向 | こちら | そちら | あちら | どちら |
| 状態 | こんな<br>こう | そんな<br>そう | あんな<br>ああ | どんな<br>どう |
| 指定 | この | その | あの | どの |





指示する語句は、事物や場所などを直接指し示すだけではない。文中の語句や内容、文全体を指し示すことによって、前後の文をつなぐ働きもする。

例
- 父が昔話をしてくれた。それは初めて聞く話だった。
- 船で世界中の街を訪ねる。そんな旅をしてみたい。

多くの場合、指示する語句は前にある語句や文を指し示すが、次のように後に続く語句や文を指し示すこともある。

例
- ある博士はこう予測している。「近い将来、人類は火星に降り立つだろう。」と。

また、「以上・以下、右・左、上記・下記、前者・後者」などの語も、指示する語句と同じ働きをすることがある。

例
- チンパンジーもオランウータンも、ヒト科の動物である。前者は後者よりも人間に近いという説が有力だ。



文章を読むときには、指示する語句に、それが指し示す語句や内容を当てはめて読み、意味が通るかを確認するとよい。

例
- 世界中で砂漠化が進んでいる。気候変動や森林の伐採などが、その原因と考えられる。

指示する語句に、指し示す内容を当てはめる。

- 世界中で砂漠化が進んでいる。気候変動や森林の伐採などが、砂漠化の原因と考えられる。

必要に応じて言葉を補う。

## 接続する語句

「ところが」「すると」など、前後の語句や文、段落がどのような関係でつながっているのかを示す言葉を**接続する語句**という。

接続する語句には、次のような種類がある。

**順接** 前に述べたことが、後に述べることの原因・理由となる。

だから・それで・すると・……と・したがって・以上のことから など

▼明日は試合だ。だから、早くねよう。

| 逆接 | 並列・累加 | 対比・選択 | 説明・補足 | 転換 |
|---|---|---|---|---|
| 前の内容から予想される展開とは違うことを述べる。 | 前に述べたことと並べたり、それに付け加えたりする。 | 前に述べたことと比べたり、どちらかを選んだりする。 | 前に述べたことをまとめたり、補ったりする。 | 前に述べたことと話題を変える。 |
| しかし・けれども・ところが・だが・……が　など | そして・また・なお・および・それから・しかも・そのうえ　など | または・あるいは・それとも・もしくは・いっぽう　など | ただし・つまり・なぜなら・例えば・要するに　など | さて・ところで・ときに・では　など |
| ▼図書館に行った。しかし、休館日だった。 | ▼扉を閉めた。そして、鍵を掛けた。 | ▼電車、または、バスでお越しください。 | ▼席は自由だ。ただし、最前列は除く。 | ▼連絡事項は以上です。さて、本題です。 |

5　10　15

例

また、接続する語句の使い方に、書き手や話し手の気持ちが表れることもある。

- 一生懸命練習した。だから、準優勝だった。（満足）
- 一生懸命練習した。しかし、準優勝だった。（不満）

## 読むことに生かす

### 接続する語句に着目して読む

文章を読むときに、接続する語句が、段落の関係をつかむ手がかりになることがある。次のような語に注意して読もう。

- だから・したがって……直前に原因や理由が示されていることが多い。
- しかし・ところが……それまでの文章の流れとは異なる内容を述べる。論が深まったり、展開したりする場合が多い。
- つまり・要するに……述べてきたことをまとめる。言い換えるときや、要点を示すとき、結論を述べるときなどに用いられる。
- 例えば……筆者の考えを裏づける事柄など、具体例を挙げるときに用いられる。

5　10

新出漢字

60 扉（ヒ）とびら
60 絡（ラク）（からむ）（からまる）（からめる）
58 称 ショウ
59 漠 バク
59 伐 バツ
60 累 ルイ
60 鍵 ケン かぎ
60 択 タク
60 換 カン かえる かわる
60 項 コウ
60 柄（ヘイ）がら え

新出音訓

59 確認（カクニン）
60 並列（ヘイレツ）

漢字の練習

# 3 言葉に立ち止まる

豊かな表現にふれ、言葉のもつ力を考える


空の詩 三編 詩・解説

詩の創作教室

言葉3 さまざまな表現技法

比喩で広がる言葉の世界 解説 森山卓郎

文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう

語彙を豊かに 心情を表す言葉




動きを表す言葉❸ 見はるかす ｜ 遠くの景色や将来をはるかに見わたすこと。見はらす。

# 空の詩 三編

物語なら主人公がいて、筋があって、時間が過ぎていく。普段生活しているのと基本的には変わらない世界。それに比べると、主人公がいない、筋もないのが詩。まず難しい、わからないと思ってしまう。でもわからないのに、何かを感じている自分がいる。言葉で言えない音楽のような何か、美しい日本語が生み出した何か、そんな何かを感じる自分を大切にしてほしい。

——谷川 俊太郎

5



**谷川俊太郎** 一九三一―二〇二四
東京都出身。詩人。詩集に「二十億光年の孤独」などがある。

読む

目標

- 詩を読み味わい、感じたことや考えたことを伝え合おう。［学習活動］
- 詩の言葉を読み味わい、語感をみがく。
- 詩の情景を想像し、表現の効果について考える。



## 雲

山村 暮鳥

おうい雲よ
ゆうゆうと
馬鹿にのんきそうじゃないか
どこまでゆくんだ
ずっと磐城平の方までゆくんか



**山村暮鳥** 一八八四―一九二四
群馬県出身。詩人。詩集に「雲」などがある。

6 **磐城平** 現在の福島県いわき市平地区。

# 朝

吉田 加南子

空の遠さが屋根にふれている
——まじわることなく

# 魚と空

木坂 涼

急降下。
鳥が
翼で
海を打つ。



吉田加南子　一九八一―
東京都出身。詩人・フランス文学者。詩集に「定本 闇」などがある。



木坂 涼　一九五八―
埼玉県出身。詩人。詩集に「金色の網」などがある。

7 漢 翼 ヨク つばさ

翼 つばさ



鳥は
もう摑んでいる。
波は
海のやぶれ目を
ごまかしている。

魚は
海を脱けてる。
初めて　そして
たった一度だけ。

空の高みで
もうひとつの空へ
のまれる。

## 広がる読書

「詩ってなんだろう」
谷川俊太郎




「だれでも詩人になれる本」
やなせたかし




漢字の練習

## 学びへの扉

**見通しをもつ**

詩を読み味わい、感じたことや考えたことを伝え合おう。［学習活動］

**目標**

- 詩の言葉を読み味わい、語感をみがく。（知る）
- 詩の情景を想像し、表現の効果について考える。（読む）

**捉える**

### 1 三つの詩を音読し、感じたことを交流しよう。

次のような観点で、感じたことや考えたことを交流してみよう。

①よさやおもしろさを感じたところ。

②どういうことだろうと思ったところ。

**読み深める**

### 2 詩の情景や表現の効果について話し合おう。

①それぞれの詩について、次のことを考えてみよう。

- 「雲」……どんな雲か。どんな空か。
- 「朝」……「空の遠さが屋根にふれている」とは、どんな様子か。
- 「魚と空」……「もうひとつの空」とは、何か。

②三つの詩の中で、最も印象に残った表現は何か。

その表現が、どんな効果を生んでいるか、話し合ってみよう。

季節や時間（朝・昼・夜）を想像してみてもいいね。



**考えをもつ**

### 3 最も印象に残った詩について発表しよう。

選んだ詩について、次のような観点でメモを作り、発表しよう。

- その詩のいちばんのよさ（おもしろさ）はどこにあるか。
- その詩のどの表現が印象に残ったか。

**振り返る**

- 知る　□詩のどの言葉や表現に着目して読み味わったか。
- 読む　□詩の情景を想像するうえで、特に効果的だと感じたのは、どの表現か。
- つなぐ　□詩の創作に生かしたいと思ったことを挙げてみよう。



## 詩の創作教室

268ページ 語彙ブック

62ページからの「空の詩 三編」に、あなたが作った空の詩を加えよう。



### 1 どんな空を取り上げるか考えよう

- 空の様子を表す言葉（天気、時間、季節など）から。
- 例 青空、くもり空、朝焼け、夕焼け、梅雨空、夏空など。
- 登下校の途中で見た空や、出かけた先で見た風景から。
- 美術の教科書や写真集で見た空の絵や写真から。
- 「空の詩 三編」の作品の中で描かれた空の一つから。

### 2 イメージを広げよう

次のような観点を参考に、1で選んだ空について思いや考えを書き出し、自分なりの意味づけや解釈をしていこう。

- 感じたこと。受けた印象。
- 想像したこと。連想したこと。解釈できること。

### 3 表現を工夫して詩を書こう

68ページ さまざまな表現技法

「空の詩 三編」を参考に、2で書き出した言葉をもとにして、より効果的な表現のしかたを工夫しよう。

例
- 文や言葉の順序を入れかえる。
- 物や動物を人間にたとえる。
- 「～のように」という表現を使ってたとえる。
- 「～のように」という表現を使わずにたとえる。

### 4 読み合って感想を伝え合おう

書いた詩を友達と読み合い、印象に残った捉え方や表現のしかたなどを挙げ、感想や意見を述べ合おう。

**他にもある！ こんな楽しみ方**

**■クラスで詩のアンソロジーを作る**

アンソロジーとは、テーマや形式などに沿って編まれる作品集のこと。「空」「海」「夏」などテーマを決めて詩を書き、クラスで一冊の「詩のアンソロジー」を作ろう。

**■自分だけの「写真詩集」を作る**

お気に入りの写真に詩をそえて、写真詩集を作ろう。

**■他の詩人の作品から、四編目の「空の詩」を選ぶ**

いろいろな詩人の詩を読み、「空の詩 三編」に加えたい詩を選ぼう。

言葉3

# さまざまな表現技法

同じ情景を表す表現でも、他のものにたとえたり、くり返したり、言葉の順序を入れかえたりすることによって、より印象的に伝えることができる。
Ⓐ（エー）とⒷ（ビー）を比較し、Ⓑ（ビー）のように表現する効果を考えよう。



Ⓐ（エー）ダンサーが軽やかに踊っている。
Ⓑ（ビー）ダンサーがまるでちょうのように、軽やかに踊っている。

## 比喩（たとえ）

71ページ 比喩で広がる言葉の世界

物事を、他のものにたとえて表現することを**比喩**という。比喩には、主に三つの方法がある。それぞれの比喩によって、どのような印象が生み出されているかを考えよう。

### 直喩

「まるで……」「あたかも……」「……ようだ」「……みたいだ」などの言葉を使ってたとえる方法。これらの言葉によって、たとえられるものとたとえるものとが結び付けられ、情景や心情などがわかりやすく、生き生きと伝わる。

例

それからにわかによだかは口を大きく開いて、羽をまっすぐに張って、まるで矢のように空を横切りました。
宮沢賢治「よだかの星」の一部

あっという間もなく風を切って、こまのようにくるくる回りながら、みるみるうちに闇の底へ、真っ逆さまに落ちてしまいました。
芥川龍之介「蜘蛛の糸」の一部

### 倒置

普通の言い方と、言葉の順序を入れかえる方法。歯切れのよいリズムが生まれ、情景や心情が強調される。

例

わたしはふしぎでたまらない、
黒い雲からふる雨が、
銀にひかっていることが。

金子みすゞ「ふしぎ」の一部

### 反復

同じ言葉をくり返す方法。くり返しによって、リズムが生まれたり、強調されたりする。

例

あいたくて
あいたくて
あいたくて
・・・
きょうも
わたげを
とばします

工藤直子「ねがいごと　たんぽぽ　はるか」

### 隠喩

「まるで……」「……ようだ」などの言葉を使わずにたとえる方法。比喩であることを明示しないため、直喩に比べて強い印象を与える。

例

蜂の羽音が
チューリップの花に消える
微風の中にひっそりと
客を迎へた赤い部屋
＝「蜂」
＝「チューリップの花」

三好達治「チューリップ」

### 擬人法

人間でないものを人間にたとえて表す方法。自然現象や物体、動植物などを、人間の行動や気持ちになぞらえて表すため、生き生きとした印象を与える。

例

夕日がせなかをおしてくる
まっかなうでででおしてくる
歩くぼくらのうしろから
でっかい声でよびかける

阪田寛夫「夕日がせなかをおしてくる」の一部

**体言止め**　※体言については、くわしくは254ページで学習する。

文末や句末を体言（名詞）で結ぶ方法。しみじみとした余韻を残したり、きっぱりとした印象を与えたりする。

例 古池や蛙飛こむ水のおと
　　体言（名詞）
　　松尾芭蕉

**省略**

文章や言葉を途中で止めて、後を省略する方法。表したい情景や心情を言い切らず、読み手に自由に想像させることによって、作品の世界がより豊かなものになる。

例 菜の花や月は東に日は西に
　　与謝蕪村

**対句**

言葉を形や意味が対応するように並べる方法。リズムや意味の面でまとまりが生まれ、整然とした印象を与える。

例
だれも　見てゐないのに
咲いてゐる　花と花
だれも　きいてゐないのに
啼いてゐる　鳥と鳥

立原道造「ひとり林に……」の一部

## 生活に生かす

**比喩を効果的に使おう**

比喩は、日常生活の中でもよく使われる。物の形や大きさなど、イメージしにくいものを説明するときには、よく知られたものにたとえるとわかりやすい。

- イタリア半島は、長靴のような形をしている。

また、動作や様子、気持ちなども比喩を用いることで伝わりやすくなることがある。

- 布団から亀のように顔を出す。
- 湖は、まるで鏡のように静まりかえっていた。

比喩を効果的に使って、おどろきや感動を的確に、印象深く伝えよう。

新出漢字
68 踊 ヨウ おどる おどり
68 喩 ユ
68 闇 やみ
69 与 ヨ あたえる
69 蜂 ホウ はち
69 迎 ゲイ むかえる
69 隠 イン かくす かくれる
70 韻 イン
70 途 ト
70 靴 （カ）くつ
70 亀 キめ
69 倒 トウ たおれる たおす

新出音訓
68 軽やか（かろやか）
70 対句（ツイク）

漢字の練習



# 比喩で広がる言葉の世界

森山卓郎

読む

目標
- 比喩について理解し、生活への生かし方を考える。
- 文章の中心となる部分を見つけ、要旨を捉える。

文章の要旨を捉え、それをもとに考えたことを伝え合おう。［学習活動］

次の詩の情景を思い浮かべてみよう。

**土**　三好達治

蟻が
蝶の羽をひいて行く
ああ
ヨットのようだ

この詩では、蟻にひかれていく蝶の羽が、ヨットにたとえられている。この表現によって、ゆらゆらと運ばれていく蝶の羽が、波に揺られながら進んでいくヨットの帆のイメージに重なる。題名の「土」も、広い海のように思えてくる。

1 思い浮かべる 意
8 漢 揺 ヨウ ゆれる ゆらぐ ゆする ゆさぶる
9 漢 帆 ハン ほ

揺られる
帆

このように、ある事柄を、似たところのある別の事柄で表すことを、比喩という。「ヨットのようだ」のように、「まるで」「ようだ」「みたいだ」などを使って表すこともあるが、「あの人は歩く辞書だ」のように、それらの言葉を使わずに表現することもある。大切なことは、たとえるものと、たとえられるものとの間に共通点があり、それが広く共有されていることだ。蝶の羽は、ヨットの帆に形が似ている。だから、読者は瞬時に情景を思い描く。「あの人は歩く辞書だ」と聞けば、「あの人」が豊富な知識をもち、尋ねればいつでも必要な知識を与えてくれることが伝わってくる。辞書にはたくさんの言葉の意味が載っており、知りたいことがあるときに役立つものだと多くの人に共有されているからだ。

したがって、相手がよく知っているものでたとえれば、未知のものでもわかりやすく説明することができる。例えば、図のような形の部品をあなたならどのように説明するだろうか。真ん中に穴の空いた丸いドーナツを相手が知っているならば、一言で「ドーナツのような形」ということができる。しかし、もし比喩を使わないとしたら、言葉を尽くしても、伝えることは難しいのではないだろうか。このように、比喩には、形状をわかりやすく伝える効果がある。



6 思い描く 意
15 尽くす 意
7 漢 尋 ジン たずねる
8 漢 載 サイ のせる のる
15 漢 尽 ジン つくす つきる つかす
尋ねる
載る
尽くす
（73ページ）
3 漢 激烈 ゲキレツ 意
11 うかがい知れない 意



また、比喩には、物事の特性をより生き生きと印象づける効果もある。例えば、「雷のような大声」という場合、声の大きさを響きわたる雷鳴にたとえているだけでなく、雷のもつ激烈さや迫力、おそろしさなどのイメージも重ねている。

実は、こうした比喩の発想は、普段私たちが比喩だと認識していないような表現の中にも生きている。例えば、「頭の中に入れておく」「そのことで頭の中がいっぱいだ」「緊張して、頭の中が空っぽになる」などという表現では、「頭」が「入れ物」、知識や感情が「その中に入っているもの」として捉えられている。「胸がいっぱいだ」「心が満たされる」なども同様だろう。

さらに、「深く感謝する」「深い感動」のような表現にも、比喩の発想が生かされている。本来、「深い」は、「深い池」のように、表面からの距離が離れている様子を表す。しかし、表面からはうかがい知れないほどの中身があるといった意味で、精神活動についても「深さ」が用いられる。思考や感情など、形のないものでも、こうした比喩の発想によって表現していくことができる。

比喩は言葉の世界を豊かに広げる。日常生活の中でも、場面に応じて比喩を使ってみてほしい。使いこなせば、きっと、表現は輝きだし、伝えたいことをよりわかりやすく、印象的に相手に届けることができるだろう。私たちは、比喩を使い、表現を創造していく力をもっているのだ。

2 漢 雷 ライ かみなり
2 漢 響 キョウ ひびく
3 漢 烈 レツ
6 漢 緊 キン
10 漢 距 キョ
10 漢 離 リ はなれる はなす
雷
響きわたる
激烈
緊張
距離
距離

漢字の練習

## 広がる読書

「コミュニケーションの日本語」
森山卓郎




「たとえことば辞典」中村 明





筆者　**森山卓郎**　一九六〇（昭和三五）――
京都府出身。国語学者。
著書　「日本語の〈書き〉方」「コミュニケーションの日本語」など。
出典　本書のための書きおろし。

## 学びへの扉

**見通しをもつ**

文章の要旨を捉え、それをもとに考えたことを伝え合おう。
［学習活動］

**目標**
- 比喩について理解し、生活への生かし方を考える。（知る）
- 文章の中心となる部分を見つけ、要旨を捉える。（読む）

**捉える**

### 1 文章の中心となる部分を見つけ、要旨を捉えよう。

①筆者は、「比喩」をどのように定義しているか。
②比喩にはどんな効果があるか。筆者が指摘している効果を二つ、簡潔にまとめよう。
③文章の中心となる部分を見つけ、要旨をまとめよう。

**読み深める**

### 2 比喩について理解を深めよう。

右の図を言葉で説明してみよう。
①比喩を使って
②比喩を使わずに



**考えをもつ**

### 3 生活への生かし方を考え、伝え合おう。

身の回りにある「比喩」や、「比喩の発想」が生かされた言葉を見つけて発表しよう。

**振り返る**

- **知る**　□「比喩」について初めて知ったことや、改めて気づいたことは何か。
- **読む**　□簡潔にいうと、これは、何の、どんなことについて説明した文章だったか。
- **つなぐ**　□友達が発表した「比喩」や「比喩の発想」が生かされた言葉の中から気に入ったものを一つ選び、どんなときに使えるか考えてみよう。



文法への扉 1

## 言葉のまとまりを考えよう

小学校一年生に聞かせるつもりで、次の昔話を声に出して読んでみよう。読むときに、間を取った箇所を確認しよう。

おじいさんはおむすびを落としました。おむすびはころころ転がって穴に落ちました。
すると、穴から歌が聞こえてきました。



文法ワーク

上の文章を音読するときには、「。（句点）」の部分で長めの間を取る人が多いはずだ。さらに、聞き取りやすさを考えて、聞き取りと短い間を取りながら読む人もいるのではないだろうか。

● おじいさんは／おむすびを／落としました。
● おじいさん・は／おむすび・を／落とし・ました。

このまとまりを、さらに細かく分けることはできるだろうか。

このように、一まとまりの内容を述べた言葉は、より小さな言葉のまとまりに分けることができる。

どのような言葉のまとまりがあるのか、「文法1 言葉の単位」を読んで整理しよう。

**文法1 言葉の単位**（242〜245ページ）

1 文法とは

2 言葉の単位
1 文章・談話
2 段落
3 文
4 文節
5 単語

# 語彙を豊かに
## 心情を表す言葉

270ページ 語彙ブック

伝えたい思いを、うまく言葉にできない。そんな経験はないだろうか。心情を的確に表現するには、普段から言葉を蓄えておくことが必要だ。言葉を集め、自分の気持ちにぴったりの表現を探す練習をしよう。

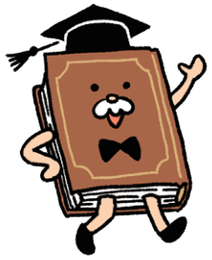
### 1 気持ちをひと言で表そう

印象に残った出来事について、そのときの気持ちをひと言で表そう。

例 皆の前で先生にほめられて、恥ずかしかった。

### 2 気持ちを表す言葉を集めよう

1 と似た意味の言葉を集めよう。その言葉から連想したり、言い換えたりして、できるだけ多くの言葉を集めてみよう。国語辞典や類語辞典を活用するとよい。




**語彙を広げる**

似た意味の言葉を集める

様子を表す言葉（「い」で終わる言葉）




[言葉を集めるヒント]
- 慣用句・ことわざで言い換える
- 漢語→和語や外来語に　和語→漢語や外来語に
- 擬音語・擬態語（音や様子を表す言葉）で表す

### 3 気持ちにぴったりの言葉を選ぼう

似ている言葉にも、その意味や使い方には、微妙な違いがある。集めた言葉の中から、そのときの気持ちを的確に表現できる言葉を選ぼう。その言葉を使って、1 で書いた文を書き換えてみよう。

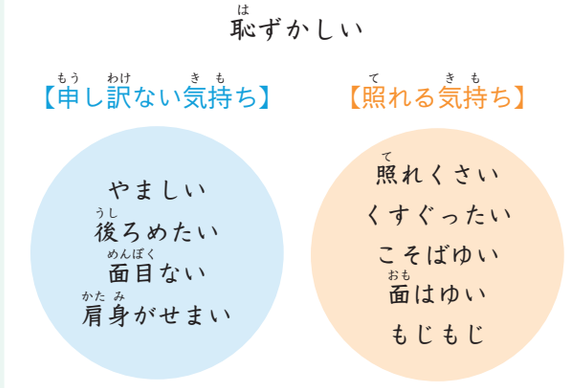
例 皆の前で先生にほめられたので、照れくさくてもじもじしてしまった。



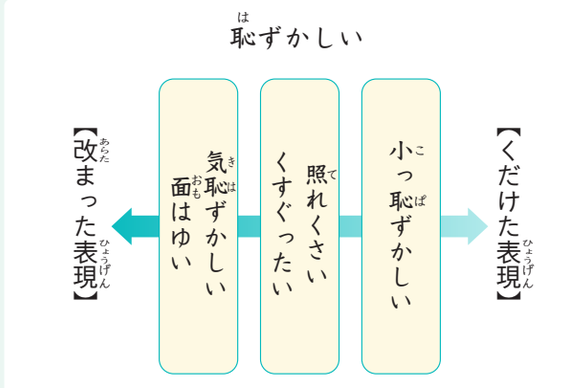

**語感を磨く**

意味や使う場面の違いで比べる

[意味の違いで整理した例]




[使う場面の違いで整理した例]




新出漢字

76 彙（イ）
76 皆（カイ・みな）
76 恥（チ・はじる・はじらう・はずかしい）
76 肩（ケン・かた）
77 微（ビ）
77 妙（ミョウ）
77 磨（マ・みがく）

新出音訓

76 面目（メンボク）
76 面はゆい（おもはゆい）

漢字の練習

情報×SDGs

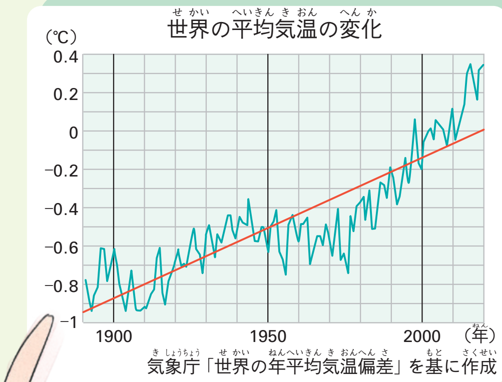
情報

# 情報収集の達人になろう

## ──私の「SDGs行動宣言」

世界には、よりよい社会の実現に向けて、解決しなくてはならない、さまざまな課題がある。SDGsの十七の目標から興味をもったものを選び、今、自分にできることを調べて、「行動宣言」にまとめよう。

### 気候変動

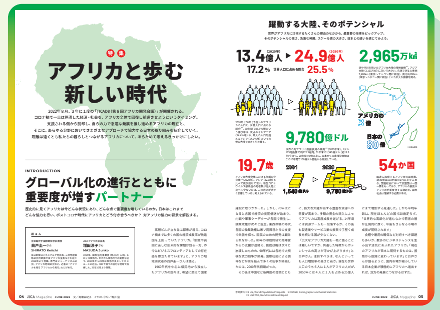


気象庁「世界の年平均気温偏差」を基に作成

### 海洋汚染

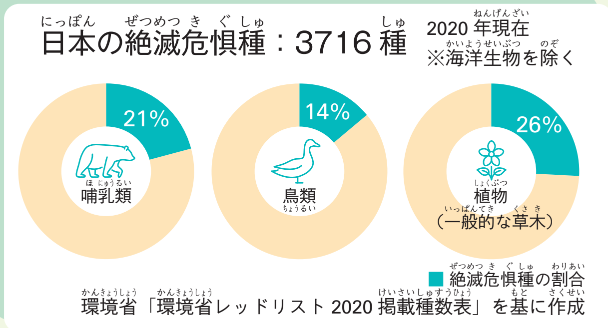


### 国際協力



「JICA Magazine」（2022年6月号、p.4-5）

### 生物多様性



環境省「環境省レッドリスト2020掲載種数表」を基に作成

### 食品ロス


「世界がぐっと近くなる SDGsとボクらをつなぐ本」

### 共生



東京都福祉局ポスター



← 図書館で調べる

← インターネットで調べる



▶国際連合が定めたSDGs（持続可能な開発目標）は、私たちの社会が直面する、さまざまな課題の解決を目ざしている。

### 1 調べるテーマを決める

SDGsの十七の目標を手がかりに、日常生活の中で疑問に思ったことや、テレビや新聞で見て、もっと詳しく知りたいと感じた問題を書き出そう。

**［日常生活とSDGsを結び付けた例］**

14 海の豊かさを守ろう
いつもマイバッグを使っているけど、そもそも、なぜプラスチックごみを減らす必要があるのだろう。

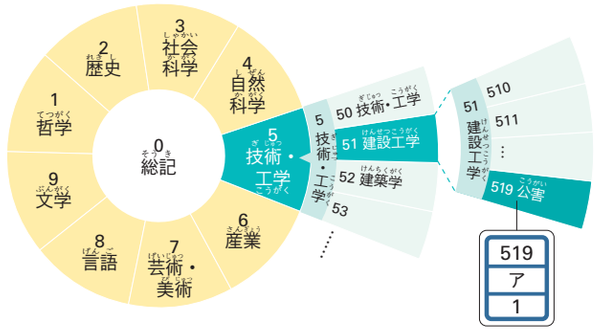
11 住み続けられるまちづくりを
町でヘルプマークを身に付けている人を見かけた。どんな意味なんだろう。何か手伝えることはないかな。

282ページ 発想を広げる

## 2－1 図書館で情報を集める

図書館では、一般に「日本十進分類法」に基づいて本が分類され、並べられている。本を探すときの手がかりにしよう。また、本の目次や索引を参照することで、効率的に情報を探すことができる。

### 日本十進分類法




### 目次

書かれている内容の大体がわかる。

**目次**
はじめに …… 2
1章 海洋プラスチック問題とは？ …… 9
日本のプラごみは……

### 索引

重要な事柄や語句がどこに出てくるかがわかる。

**索引**

| | |
|---|---|
| 【あ】 | |
| アジア | 21 |
| アフリカ | 7 |
| アマゾン | 82 |
| 【い】 | |
| インド洋 | 64 |
| 【う】 | |
| ウミガメ | 43 |
| 海鳥 | 50 |

## 2－2 ウェブサイトで情報を集める

インターネットの検索サイト（情報を検索するためのウェブサイト）を使うと、広い範囲から、多くの情報を集めることができる。誰が、いつ、どんな目的で発信した情報かに注意しながら、活用しよう。




**1検索ボックス**　検索方法を工夫し、情報を絞り込む。

- キーワードを具体化
  - 海洋プラスチックごみとは
- 複数のキーワードで探す（AND 検索）
  - プラスチックごみ　SDGs
  - 1字空ける

**2アドレス**　最後の部分から制作者が所属する組織の種類を特定できる。

- 「go.jp」政府機関など
- 「ac.jp」大学など

**3ウェブサイトの名称・制作者**　誰が、どのような情報を発信しているか確認できる。

## 3 情報を読み取る

行動宣言の作成に向けて、資料から正しく情報を読み取り、必要な情報を記録しよう。

### やってみよう

資料と記録カードの例を参考に、自分が図書館やインターネットで集めた資料から、必要な情報を探してカードに記録しよう。

**資料**

**日本のプラごみはどれぐらい？**

日本のプラスチックごみ排出量は、年間約八百万トン（二〇二〇年）。なかでもレジ袋などの容器包装プラスチックの人口一人当たりの排出量は、アメリカに次いで世界第二位となっている。

例えば、レジ袋。有料化などの対策の効果により、消費量は減少している。それでも、二〇二一年の統計によれば、年間百億枚、一人当たり年間八十枚程度のレジ袋が使われている。……

52

**資料奥付**

SDGs 入門 海洋プラスチック問題
2022年4月1日　第1刷発行
著者　山田 光
発行者　海野 大
発行所　あさがお出版
〒140-XXXX 東京都品川区□□ 8-3-1
印刷　ことり印刷
製本　星空製本所

**記録カードの例（本）**

日本のレジ袋の消費量
「2021年の統計によれば、年間100億枚、一人当たり年間80枚程度のレジ袋が使われている。」（52ページ）
著者　山田光
書名　「SDGs入門 海洋プラスチック問題」（2022年）
発行所　あさがお出版

**記録カードの例（ウェブサイト）**

プラスチックごみによる問題
「少なくとも約700種の海洋生物が誤飲などの被害を受けている」
制作者　NPO 法人○○
名称　「プラスチックごみの何が問題？」
アドレス　https://www.joho-kankyo.or.jp/articles/2025_24/
閲覧日　2025年6月30日

**ポイント1**　見出しを立て、何に関する情報かわかるようにしておく。

**ポイント2**　必要な情報を選んで、正確に記録する。

**ポイント3**　本の場合には、著者名・書名・発行所名など、ウェブサイトの場合には、アドレスや閲覧日などを記録しておく。

## 4 行動宣言をまとめる

読み取った情報を基に、持続可能な社会の実現に向けて、行動宣言を作成しよう。

SDGs 私の行動宣言

1年2組　田村明広

**海の環境を守るため、マイバッグを使い、使い捨てのプラスチック製品はできるだけ使わない！**




プラスチックごみの削減が必要だといわれる。私もなるべくマイバッグを持ち歩き、レジ袋を使わないようにしてきた。ただ実は、プラスチックごみが引き起こす問題について、深く考えたことはなかった。

2021年の統計によると、日本では「年間100億枚、一人当たり年間80枚程度のレジ袋が使われている」（「SDGs入門 海洋プラスチック問題」p.52）そうだ。プラスチックは、自然素材と違って土にかえることはない。風に吹かれて側溝や川に落ち、やがて海に流出する。その結果、現在では「少なくとも約700種の海洋生物が誤飲などの被害を受けている」（NPO法人○○「プラスチックごみの何が問題？」）という。

私たちが排出する大量のプラスチックごみによって、多くの海の生物が苦しんでいる。海の環境への負荷を減らすため、日々の生活ではマイバッグを使い、使い捨てのプラスチック製品をできるだけ使わないようにすることを、改めて徹底していきたい。

参考文献

山田光「SDGs入門 海洋プラスチック問題」あさがお出版、2022年
NPO法人○○「プラスチックごみの何が問題？」
https://www.joho-kankyo.or.jp/articles/2025_24/　2025年6月30日閲覧

### 引用のルール

- **引用文**　引用部分はかぎ（「　」）でくくるか、前後に行を空けて一、二字下げるかして、自分の文章と区別する。
- **出典**　著作権に留意し、出典（引用元の本や資料の名称）を示す。
- **留意点**　引用部分は、必要最低限の範囲に絞る。

### 出典の示し方

- **本や資料**　奥付の著者名、書名の他、必要に応じて発行所名、発行年、引用部分のページなどを示す。
- **新聞**　新聞の名称、発行日、朝刊・夕刊の別などを示す。
- **ウェブサイト**　制作者名、ウェブサイトの名称、アドレス、閲覧日を示す。
- **留意点**　図表や絵、写真などを引用するときも、出典を示す。

## コラム 著作権について知ろう

### 著作権とは

- 創造的に表現した文章や音楽、絵画などを著作物といい、著作物を使用する権利を著作権という。
- 著作権は著作者にある。それ以外の人が著作物を使用するときには、原則として著作者の許可が必要である。

**主な著作物**

| | |
|---|---|
| 文章 | 小説、随筆、詩、論文、辞書など |
| 美術作品 | 絵画や彫刻、漫画など |
| 画像 | 写真や地図、表、グラフなど |
| 楽曲 | 音楽の曲や歌詞 |
| 動画 | 映像やアニメーションなど |
| その他 | コンピュータプログラムやゲームソフト |

### 著作者の許可が必要ない場合

引用するとき、個人的に使用するとき、授業で使用するときなど、著作者の許可が必要ない場合もある。引用する場合は82ページの引用のルールを遵守する必要がある。

### やってみよう

次のような形で著作物を使用することに問題はないだろうか。問題がないものには○、問題があるものには×を付けよう。

| | |
|---|---|
| 1 | 授業での発表資料として、新聞記事のコピーを配布する。 |
| 2 | インターネット上の個人ブログに掲載されていた書評を、読書感想文として、そのまま使用する。 |
| 3 | 書写の授業で、最近発表された曲の歌詞を書く。 |
| 4 | 3を、写真に撮り、SNSに掲載する。 |
| 5 | レポートを作成する際、自身の考えを補強するために、博物館のウェブサイトに掲載されている情報を引用する。（引用のルールを守り、出典を明記。） |



漢字の練習

### 新出漢字

82 徹 テツ
83 随 ズイ
83 彫 チョウ ほる
83 漫 マン
83 遵 ジュン
80 基づく（もとづく）
79 詳 ショウ くわしい
80 範 ハン
80 誰 だれ
80 絞 （コウ） しぼる しめる しまる
80 込 こむ こめる
81 被 ヒ こうむる
81 閲 エツ
82 削 サク けずる
82 溝 コウ みぞ
80 工夫（クフウ）

いつも本はそばに

読書活動

# 読書を楽しむ

本を読み終えた友達と、読書ノートに記録を残し、友達に紹介したり、感想を伝え合ったりしよう。本との出会いを通して、読書ライフを豊かにしていこう。

## 本を紹介する ポップを作ろう

**ポップとは**
本の近くにそえられている広告のこと。ひと目で本の魅力が伝わるように工夫されている。

### 1 紹介する一冊を決める

読書記録を見返し、友達に紹介する本を決めよう。

友達におすすめの本を紹介し、興味をもってもらおう。

### 2 紹介に必要な情報を整理する

次の項目を参考に、本の基本的な情報を整理し、どのようなことを伝えれば、その本の内容や魅力が伝わるか考えよう。

- 言葉…気になった言葉／心に残った言葉
- 人物…好きな人物／○○はこんな人
- 場面…好きな場面／予想外（予想どおり）の展開
- 作品全体…この作品のいちばんの魅力は
- 読書会を開く。

## 感想を交流する 読書会を開こう

共通の本を読み、話し合いたいテーマを決めて、読書会を開こう。

①クラスやグループごとに課題本を決める。
②一人で読み、疑問や感想をメモしておく。
③クラスやグループで話し合いたいテーマや疑問を決める。

［テーマ例］





### 3 ポップを作成する

紹介する本の魅力が伝わるように作成しよう。

- ア 書名
- イ 著者名
- ウ 発行所名
- エ 発行年
- オ キャッチコピー　ここでは、その本が読みたくなるように工夫された印象に残る言葉のこと。
- カ 内容の紹介（登場人物など設定の紹介、あらすじ、おすすめしたいポイント　など）



［ポップの例］




完成したポップは、教室や学校図書館に展示するとよい。

読書ライフを楽しむために

## 読書記録を続けていこう

読み終えた本は、読書ノートに記録しておこう。記録を続けることで、自分の読書の傾向に気づいたり、心の成長を感じたりすることができるだろう。

また、図書館や書店に行き、興味のある本を見つけたら、「読みたい本」としてメモしておこう。

20ページ 続けてみよう

［書名］リョウ＆ナオ
［著者名］川端裕人
［発行所名］○○社
［発行年］□□□□年
［読み始め・読み終わり］
7/7～7/10
教科書の「本の世界を広げよう」で紹介されていた本。私と同じ中学生が出てくる物語で、



読書

# 本の中の中学生

本の中には、あなたと同じ世代の登場人物がたくさんいる。ここで紹介する二作品は、中学生が主人公の小説だ。自分に似ている人、友達になれそうな人はいるだろうか。

興味をもったら、学校図書館や地域の図書館に行って続きを読もう。同じ作者が書いた別の作品や、他の作家が書いた同じテーマの本へと読み広げていくのも楽しい。本の中の学生との出会いをきっかけに、読書の幅を広げていこう。



## あと少し、もう少し

瀬尾 まいこ

陸上部の長距離選手は三人だけ。部長の桝井は足の速い生徒をかき集め、中学最後の駅伝大会にのぞむ。第一区は陸上部の三年・設楽。気弱で猫背、最近記録も伸びない彼に、桝井は「設楽が一区しか考えられない。」と言うのだが……。

**一区**

①ベンチコートを脱いで、軽くジャンプをする。ひんやりした風を腕に感じる。念入りにアップして温めたはずの身体なのに、寒さのせいか緊張のせいかうっすら鳥肌が立つ。



作者 **瀬尾まいこ** 一九七四（昭和四九）――大阪府出身。小説家。
著書 「図書館の神様」「そして、バトンは渡された」など。



周りに立つ十七人の選手は、みんな一区にふさわしいはなやかさや勢いがある。そこにいるだけで人を引きつける、桝井みたいに。やっぱり僕とは違うんだ。そう気後れしそうになって、小さく深呼吸をした。この地域は山に囲まれているから、競技場の周辺も駅伝コースも緑がふんだんにある。すみ切った空気が身体の奥まですましてくれる。

走るのは好きか？　答えはノーだ。こんなに大変でしんどいこと、できればやりたくない。

でも、駅伝は好きか？　そうなると、答えはイエスになる。任される。襷をつないでいく。その感覚は好きだ。駅伝をしているときだけは、僕にも仲間とよんでも許される存在がいるんだと思える。

スタート一分前。そう放送が流れ、みんなが一斉にラインに並ぶ。空気がひときわ張りつめる。他の学校の先生たちは、競技場内は三十秒ペースで走れとか、あいつの後ろについていけとか、最後のアドバイスに余念がない。

「設楽君、がんばって。」

そんな中、上原先生は願い事をたくすかのように言った。具体的じゃないいつもどおりの言葉。だけど、僕はがんばってと言ってもらえることが、幸せなことだと知っている。

「うん。」

僕は声に出してうなずいた。

朝、競技場に着いたときは薄ぐもりだったのに、九時前になって空は少しずつクリアになってきた。秋だ。毎年駅伝大会のときにそう感じる。

しんとした競技場に、ピストルの音が響く。それと同時に、僕は身体にはずみをつけて飛び出した。中学最後の駅伝が始まったのだ。

注
①ベンチコート＝防寒用の上着。



続きはこちら




### あと少し、もう少し
瀬尾まいこ

陸上にうとい新任顧問と寄せ集めのチームでのぞむ中学最後の駅伝大会。目ざすは県大会出場だ。この半年間の出来事と、走ることや仲間への思い。襷をつなぐ走者の視点から、それぞれの物語を描く。

# 西の魔女が死んだ

梨木 香歩

中学入学後、学校を休むようになったまいは、しばらくイギリス人の祖母の家で暮らすことになる。新しい生活に期待と不安を感じながら、母と共に祖母の家へと向かう。

車のドアを開けて外へ出ると、ちょうどおばあちゃんが家から出てきた。

黒に近い褐色の大きなひとみ。今はもう半分以上白くなり、後ろで無造作にひっつめられた褐色の髪。骨格のしっかりした大柄な身体。歯を見せずに、にやりと（どう見てもにっこりというよりにやりだった）笑いながら、じっとまいたちを見つめている。

ママはおばあちゃんに近づくと、厳かにおばあちゃんの肩に右手を回し、胴に左手を回した。そして両ほおを交互におばあちゃんのほおに寄せると、振り向いてまいの方を見た。

まいも近づくと、

「おばあちゃん、久しぶり。」

と声をかけた。



作者 **梨木香歩** 一九五九（昭和三四）――
鹿児島県出身。小説家。
著書 「裏庭」「りかさん」「家守綺譚」「岸辺のヤービ」など。

「来ましたね。」

おばあちゃんは流暢な日本語で応えて、まいのほおを両手で包むようになでた。

まいたちは、それから庭を伝って家の反対側に回り、台所ドアから台所に入った。

台所ドアはガラスの入ったドアで、開けると一畳ほどのサンルームになっている。台所に入るには、さらにもう一枚ドアを開けないといけない。台所といっても、タイルをしきつめた土間のような感じで、靴履きで出入りできる。

台所には、裏庭に面して開けられた窓に寄せて、ダイニングテーブルと椅子が置いてある。まいたちはそこに掛けて、おばあちゃんがいれてくれたお茶を飲み、缶から取り出したビスケットをつまんだ。ママは、来る途中の町の様子がだいぶ変わったこと、パパが赴任先で元気そうに生活していること、庭の植物が生き生きしていること、つまり当たりさわりのないこと、要するにまいに関係のないことをしゃべり続けた。

裏庭には、料理の最中に台所から出てきてすぐ採れるよう、



葱、山椒、パセリにセージ、ミントやフェンネル、月桂樹などが植えてあった。まいはぼんやりと外を見ながら、本当にそれらが陽の光をいっぱいに浴びて生き生きしていると思い、話はまだ核心にきていないと思った。

まいは立ち上がって二枚のドアに挟まれた小さいサンルームに行った。完全に外でもなく、完全に内でもないその空間には、ガラスのかべに細めの板が数枚わたしてあり、小さい植木鉢や植木ばさみ、じょうろなどが置いてあった。下の方には棚はなく、長年のどろはねなどでガラスがひどく汚れていた。おまけにゆかのれんがには、隅の方に雑草が生えていた。

ママが声のトーンを落とした。さあ、また「扱いにくい子」を口にするのか。けれど、何をしゃべっているのかうまく聞こえない。

まいはしゃがんで、その雑草をつくづくと見た。小さな青い花を付けている。勿忘草をうんと小さくしたような花だ。

突然、おばあちゃんの力強い声が響いた。

「まいといっしょに暮らせるのは喜びです。私はいつもまいのような子が生まれてきてくれたことを感謝していましたから。」

まいは目を閉じた。そしてゆっくり深呼吸し、再び開けた。この小さな青い花はなんて愛らしいのだろう。まるで存在がきらきら光っているようだ。まいはその花をそっと両てのひらで包むようにした。

「まーい。」

と、ママが声をかけた。

まいははじかれたように立ち上がって返事をした。



**続きはこちら**

**西の魔女が死んだ**
**梨木香歩作品集** 梨木香歩

まいは、「西の魔女」こと、大好きな祖母の家で夏を過ごす。「魔女修行」を通して、まいが教わった、大切なこととは――。

**新出漢字**

89 核 カク
89 挟 キョウ はさむ はさまる
89 鉢 ハチ（ハツ）
89 棚 たな
89 隅 グウ すみ
86 紹 ショウ
86 幅 フク はば
86 彼 ヒ かれ かの
86 脱 ダツ ぬぐ ぬげる
86 腕 ワン うで
87 斉 セイ
88 魔 マ
88 胴 ドウ
88 厳か（おごそか）
88 履 リ はく

**新出音訓**

87 気後れ（きおくれ）

漢字の練習

読書案内

# 本の世界を広げよう



中学校生活
お気に入りは何時間目？



登校

## 1時間目

### 美術

**名画に教わる　名画の見かた**
早坂優子



名画に描かれたものや構成に着目して描き手の思いにせまる、鑑賞法を紹介。

## 2時間目

### 数学

**数の悪魔**
エンツェンスベルガー　丘沢静也訳



算数ぎらいの少年の夢に「数の悪魔」が現れ、深夜のレッスンが始まる。

## 3時間目

### 理科

**科学と科学者のはなし**
池内 了編



普段何気なく見すごしてしまうようなことにも、科学の法則が隠れている。

## 4時間目

### 保健体育

**スポーツ科学の教科書**
谷本道哉 編著　石井直方 監修



スポーツにまつわるさまざまな疑問に、科学的な観点から答える。

### 社会

**知られざる縄文ライフ**
譽田亜紀子 著　武藤康弘 監修



縄文時代に生きた人々の姿と暮らしが身近になる一冊。

### 部活動

**楽隊のうさぎ**
中沢けい



没頭できる何かに出会ったとき、変わり始める。自分も、周囲も。

284ページ 読書感想文の書き方

## 5時間目

### 給食

**給食アンサンブル**
如月かずさ



出会いのゼリー。はげましのスープ。給食は、前へ進む勇気を与えてくれる。

### 国語

**書を楽しもう**
魚住和晃



書は心を文字に表したもの。書き手の思いを読み取ろう。

## 6時間目

### 部活動

**ラスト・イニング**
あさのあつこ



野球に打ち込む少年たちの運命を変えたのは、一つの練習試合。



## 下校

290ページ 「幻の魚は生きていた」「坊っちゃん」



## エスディージーズ SDGs

持続可能な社会に向けて

**世界がぐっと近くなる SDGsとボクらをつなぐ本**
池上 彰 監修



地球上のさまざまな問題は、「遠い国での出来事」ではなく、あなたにとっても大きな課題。SDGsの初めの一歩をふみだそう。

**見て、知る、サステナブル はじめての脱炭素**
すなだゆか



温暖化ストップのためにできること。脱炭素をわかりやすく図解。

**最近、地球が暑くてクマってます。**
水野敬也　長沼直樹



北極の氷が解けて「クマった」クマが、温暖化問題をうったえる。

**私たちのサステイナビリティ**
工藤尚悟



「サステイナビリティ」とは何か。改めて考えてみよう。

**SDGs時代の国際協力**
エスディージーズ時代の国際協力
小野道子　井上儀子



「垂直から水平へ」。SDGs時代の国際協力を考えるキーワード。

**地球の資源とエネルギーのしくみ**
「子どもと地球資源」研究会



世界が直面するエネルギー問題と、解決のための取り組みを解説。

**未来を変える目標 SDGsアイデアブック**
Think the Earth



SDGs達成に向け、世界中からユニークなアイデアを紹介。

**SDGs時代の食べ方**
井出留美



食品ロスを減らそう。クイズを通して食生活への意識が変わる本。

**SDGs実践ナビ 全三巻**
手島利夫 監修



環境を守るために学校でできること、さあ、すぐに始めよう！

**気候変動に立ちむかう子どもたち**
アクシャート・ラーティ編　吉森 葉訳



未来は自分で変える。気候変動を止めるために動きだした若者たち。

**14歳からのプラスチックと環境問題**
インフォビジュアル研究所



プラスチックの歴史や問題点、今後世界が取り組む対策がわかる。

## 情報

情報の集め方を知る



**その情報、本当ですか？**
塚田祐之



事実は一つ。「いいね」をおす前に立ち止まって考えてみよう。

**疑問調べ大作戦**
中川一史　高木まさき 監修



疑問解明の第一歩は、情報収集。有用な情報を得る方法を学ぼう。

**調べてみよう、書いてみよう**
最相葉月



ノンフィクションを書くために。実例を基に書くこつを解説。

**親子で学ぶインターネットの安全ルール**
いけだとしお　おかもとなちこ



インターネットを楽しく安全に使うためのルールを学ぼう。

## ファンタジー
読み始めたら止まらない



**空色勾玉**
荻原規子
空色の勾玉をさずかった少女。やがて自分の使命に気づく。

**精霊の守り人**
上橋菜穂子
精霊の卵を宿す皇子の用心棒となった主人公。任務を果たせるか。

**海底二万里 上・下巻**
ジュール・ヴェルヌ　渋谷豊訳
なぞの海洋生物を追って海へ出た教授は、最新鋭の潜水艦に出会う。

**影との戦い　ゲド戦記1**
アーシュラ・K・ル＝グウィン　清水真砂子訳
魔法使い修行中の少年は、禁断の呪文を唱えてしまう。

## 友達
友情って何だろう



**みつきの雪**
眞島めいり
信州で育った少女と少年。高校卒業を前に語る、ひめた思いとは。

**友だち幻想**
菅野仁
友達との付き合い方について悩んでいるあなたに読んでほしい。

**キップをなくして**
池澤夏樹
「キップをなくした」。その日から、少年は駅で暮らすことになった。

**リョウ&ナオ**
川端裕人
リョウにとってかけがえのない、二人の「ナオ」と過ごした時。

## 言葉
言葉の森へ出かけよう



**国語をめぐる冒険**
渡部泰明他
言葉は自分の武器になる。新しい自分に出会える言葉と国語の旅。

**方言の日本地図**
真田信治
日本の北から南まで。旅をするように、方言や言葉の変遷を学ぼう。

**中学生からの作文技術**
本多勝一
「わかりやすい文章を書きたい」。そんな思いに応える一冊。

**中学生に贈りたい心の詩40**
水内喜久雄編著
迷ったり悩んだりしたとき応援してくれる。詩にはそんな力がある。

## 私の一冊

**シティ・マラソンズ**
三浦しをん他
四十二・一九五キロメートルを走りながら思い出したのは、見失っていた夢や喜び。

もがきながら、何かを続けていくこと。それ自体が一人一人の物語になるのだと、この本が教えてくれた。



田中希実
1999年
兵庫県出身。
陸上競技選手。

## 私のおすすめ
自分でも書いてみよう



## コラム
# 本との出会い

図書館や書店へ行って自分で本を選ぶのもよいが、時には、誰かに推薦された本を手に取ってみるとよい。もしかすると、自分にとって大切な一冊との出会いになるかもしれない。

ここでは、宮崎駿氏が書いた本の推薦文を紹介する。興味をもったら、手に取って読んでみよう。



イラスト　宮崎駿



筆者　**宮崎駿**　一九四一（昭和一六）――　東京都出身。
アニメーション映画監督。
作品　映画「となりのトトロ」「千と千尋の神隠し」「風立ちぬ」など。
出典　「本へのとびら」

### 注文の多い料理店　イーハトーヴ童話集
宮沢賢治作　菊池武雄絵



この人の作品はすべてたからものです。あわてて読んではいけません。ゆっくり、なんども読んで、声を出して読んで、それから心にひびいて来るものや、とどいてくるものに耳をすませて、場面を空想して、何日もたってからまた読んで、何年もたってからも読んで、判らないのにどうして涙が出てくるのだろうと思い、ある時はなんだか見えてきたような気がして、とたん、スウッときえていくのです。そういう美しいものがあることを教えてくれるのです。

### 西遊記　上・中・下巻
呉承恩作　吉岡堅二絵　伊藤貴麿編訳



これはおもしろい!!
読まないと損をします。
とにかく、自由奔放、縦横無尽、愉快で陽気で、壮大です。
この物語をヒントに、いまのゲームがたくさん作られているといったら、わかってもらえるでしょうか。
おすすめします。

# 季節のしおり 夏

あなたが夏を感じるのは、どんなときだろうか。入道雲を見たとき、せみの声を聞いたとき、暑い日に木陰ですずんでいるとき……。作品に描かれた情景の中に、夏を感じてみよう。

六月を奇麗な風の吹くことよ

正岡子規

目には青葉
山ほととぎすはつ松魚

山口素堂

山にのぼると
海は天まであがってくる。
なだれおちるような
若葉みどりのなか。
下の方で　しずかに
かっこうがないている。
風に吹かれて
高いところにたつと
だれでもしぜんに
世界のひろさをかんがえる。

小野十三郎「山頂から」より

（夏の植物や動物にまつわる言葉）

- 麦秋……麦が実り熟する時期のこと。五月ごろ。「むぎあき」「麦の秋」などともいう。
- 山滴る……青々とした草木におおわれるころの、みずみずしい生命力に満ちあふれた山の様子。
- 蟬時雨……せみが一斉に鳴く声を、時雨（晩秋から初冬にかけて降る通り雨）の音にたとえた表現。

# 4 心の動き

言葉を通して、人の思いに寄りそう


大人になれなかった弟たちに……　物語
米倉斉加年

星の花が降るころに　小説
安東みきえ

項目を立てて書こう　案内文を書く

［推敲］読み手の立場に立つ

言葉4　方言と共通語

聞き上手になろう　質問で話を引き出す

漢字2　漢字の音訓

漢字に親しもう2




動きを表す言葉❹　実る　｜　草木の実がなること。また、努力がむくわれること。（写真はクルミの実）

# 大人になれなかった弟たちに……

米倉 斉加年



読む

目標

- 描写に着目して読み深め、登場人物の思いが伝わるように朗読しよう。［学習活動］
- 本や資料を読み、登場人物が置かれた状況を知る。
- 登場人物の行動や風景の描写を基に、心情を捉える。



僕の弟の名前は、ヒロユキといいます。僕が小学校四年生のときに生まれました。そのころは小学校といわずに、国民学校といっていました。僕の父は戦争に行っていました。太平洋戦争の真っ最中です。空襲といって、アメリカのB29という飛行機が毎日のように日本に爆弾を落としに来ました。夜もおちおちねていられません。毎晩、防空壕という地下室の中でねました。

地下室といっても、自分たちが掘った穴ですから、小さな小さな部屋です。僕のうちでは、たたみを上げてゆかの下に穴を掘りました。母と僕で掘ったのです。父は戦争に行って留守なので、家族は、僕と母と祖母と妹と弟の五人です。五人が座ったらそれでいっぱいの穴です。

弟は生まれて間もないのですが、いつも泣かないで一人でおとなしくねていました。母は穴を掘りながら、ヒロユキがおとなしいから助かる、と言っていました。

そのころは食べ物が十分になかったので、母は僕たちに食べさせて、自分はあまり食べませんでした。でも弟のヒロユキには、母のお乳が食べ物です。母は自分が食べないので、お乳が出なくなりました。ヒロユキは食べるものがありません。おもゆといっておかゆのもっと薄いのを食べさせたり、やぎのミルクを遠くまで買いに行って飲ませたりしました。

4 B29 当時のアメリカの最新型長距離爆撃機。

3 真っ最中 関 真っ赤 真っ暗 真っ先

5 おちおち 文

1 漢 僕 ボク …… 僕

4 漢 襲 シュウ おそう …… 空襲

4 漢 爆 バク …… 爆弾

4 漢 弾 ダン ひく はずむ たま …… 爆弾

7 漢 掘 クツ ほる …… 掘る

でも、ときどき配給がありました。ミルクが一缶、それが切な食べ物でした……。

みんなにはとうていわからないでしょうが、そのころ、甘いものはぜんぜんなかったのです。あめもチョコレートもアイスクリームも、お菓子はなんにもないころなのです。食いしん坊だった僕には、甘い甘い弟のミルクは、よだれが出るほど飲みたいものでした。

母は、よく言いました。ミルクはヒロユキのご飯だから、食べられないのだからと——。

でも、僕は隠れて、ヒロユキの大切なミルクをぬすみ飲みしてしまいました。それも、何回も……。

僕にはそれがどんなに悪いことか、よくわかっていたのでしまったのです。僕は弟がかわいくてかわいくてしかたがなかったのですが、……それなのに飲んでしまいました。

あまり空襲がひどくなってきたので、母は疎開しようと言いだしました。それである日、祖母と四歳の妹に留守番をたのんで、母が弟をおんぶして僕と三人で、親戚のいる田舎へ出かけました。ところが、親戚の人は、はるばる出かけてきた母と弟と僕を見るなり、うちに食べ物はないと言いました。僕たちは食べ物をもらいに行ったのではなかったのです。引っ越しの相談に行ったのに。母はそれを聞くなり、僕に帰ろうと言って、くるりと後ろを向いて帰りました。

そのときの顔を、僕は今でも忘れません。強い顔でした。僕たち子供を必死で守ってくれる母の顔は、美しいです。僕はあのときのことを思うと、いつも胸がいっぱいになります。

母は行ったこともない山の中の親切な人にたのんで、やっと疎開先が決まりました。とりあえず必要な荷物だけを持って、引っ越しすることになりました。それでも、荷物は馬車一台ありました。僕と母と祖母と妹、その荷物の上に座って、ゆらりゆらり揺られながら、朝、家を出て、南に向かって旅立ちました。福岡から南へ二十キロくらい行った、石釜という山あいの村です。

馬車の上で昼のおむすびを食べ、昼すぎには、きれいな渓流に沿って山路へかかりました。美しい青空、桃の花が咲く山村、橋の上からはあゆの泳ぐのが見られます。生まれて初めて見る、それは桃源郷でした。

これから始まる苦しい生活など、僕にはまだわからない年ごろでした。ですから、毎日あのあゆをとっておかずにすれば母が喜ぶだろうと思ったりして、これからの生活に胸を弾ませました。

1 **配給** 戦争中から戦後しばらくの間は、不足した物資の販売を政府が統制し、消費者に一定量ずつを割り当てたり販売したりしていた。
14 **疎開** 空襲などによる戦災から身を守るため、都市の住民が安全な地方へ引っ越すこと。

1 漢 缶 カン …… 一缶
3 とうてい 文
4 漢 菓 カ …… お菓子
14 漢 疎 ソ（うとい）（うとむ） …… 疎開
15 漢 歳 サイ セイ …… 四歳
16 漢 戚 セキ …… 親戚
16 はるばる 文
17 ……なり 文



11 **福岡** 福岡県福岡市。
11 **石釜** 今は福岡市早良区に編入されている。
14 **桃源郷** 俗世間を離れたすばらしい別世界。地上の楽園。

12 漢 渓 ケイ …… 渓流
13 漢 桃 トウ もも …… 桃
17 胸を弾ませる
関 胸が痛む
胸がいっぱいになる
胸を打つ

僕たちがお世話になる農家は、すぐ裏の山が頭の上に覆いかぶさるような山すそにありました。その農家の庭に面した六畳間の一部屋を借りました。家の前の渓流には飛び石が対岸に続き、大雨の日は渡れません。下流の橋を渡って学校に行きました。

母は生まれて初めて田植えを手伝い、昼に出されるご飯を僕たちに残して、持って帰ってきました。

僕たち疎開者には配給もありませんので、母は自分の着物を持っていき、近所の農家の人たちにお願いして、米と交換してもらっていました。

疎開しても、ヒロユキのお乳には困りました。隣村にやぎを飼っている農家があると聞いては、母が着物をふろしきに包んで出かけました。

母の着物はなくなりました。

ヒロユキをおんぶして、僕はよく川へ遊びに出かけましたので、よくかわいがりました。

ヒロユキは病気になりました。僕たちの村から三里くらい離れた町の病院に入院しました。僕は学校から帰ると、毎日、まきと食べ物を祖母に用意してもらい、母と弟のいる病院に、バスに乗って出かけました。

十日間くらい入院したでしょうか。

14 三里　一里は、約三・九キロメートル。

1 漢 覆 フク おおう（くつがえす・くつがえる）
覆う おお

3 漢 渡 ト わたる わたす
渡る わた

9 漢 隣 リン となる となり
隣村 となり

12 訓 欲しい（ほしい）





ヒロユキは死にました。

暗い電気の下で、小さな小さな口に綿に含ませた水を飲ませられました。母と僕に見守られて、弟は静かに息をひきとりました。泣きもせず、弟は死にました。病名はありません。栄養失調です……。

死んだ弟を母がおんぶして、僕は片手にやかん、そして片手にヒロユキの身の回りのものを入れた小さなふろしき包みを持って、家に帰りました。バスがありました。白い乾いた一本道を、三人で山の村に向かって歩き続けました。三里の道を歩いたが、母は弟が死んでいるのでほかの人に遠慮したのできました。

空は高く高く青く澄んでいました。ブウーンブウーンというB29の独特のエンジンの音がして、青空にきらっきらっと機体が美しく輝いています。道にも畑にも、人影はありませんでした。歩いているのは三人だけです。

母がときどきヒロユキの顔に飛んでくるはえを手ではらいながら、言いました。

「ヒロユキは幸せだった。母と兄とお医者さん、看護婦さんにみとられて死んだのだから。空襲の爆撃で死ねば、みんなばらばらで死ぬかもしれないし、もっとかわいそうだった。」

家では祖母と妹が、泣いて待っていました。部屋を貸してくださっていた農家のおじいさんが、杉板を削って小さな小さな棺を作っていてくださいました。弟はその小さな小さな棺に、母と僕の手でねかされました。

母が、大きくなっていたんだね、とヒロユキのひざを曲げて棺に入れました。

そのとき、母は初めて泣きました。

父は、戦争に行ってすぐ生まれたヒロユキの顔を、とうとう見ないままでした。

弟が死んで九日後の八月六日に、ヒロシマに原子爆弾が落とされました。その三日後にナガサキに——。

そして、六日たった一九四五年八月十五日に戦争は終わりました。

僕はひもじかったことと、弟の死は一生忘れません。



作者インタビュー

米倉斉加年・絵


作者　**米倉斉加年**　一九三四（昭和九）——二〇一四（平成二六）
福岡県出身。俳優・演出家・絵本作家。
著書　絵本「多毛留」、随筆「演ずるとは」など。
出典　「おとなになれなかった弟たちに……」




10 ひもじい 意

1 漢 杉 スギ
杉板 スギイタ

1 漢 棺 カン
棺 カン

漢字の練習

**広がる読書**

「少年H」（上・下巻）妹尾河童




「絵で読む　広島の原爆」
那須正幹 文　西村繁男 絵




14 **看護婦** 看護師のこと。

10 独特 類

14 みとる 意

2 漢 含 ガン ふくむ ふくめる
含む フクム

7 漢 乾 カン かわく かわかす
乾く カワク

8 漢 慮 リョ
遠慮 エンリョ

10 漢 澄 チョウ すむ すます
澄む スム

15 漢 撃 ゲキ うつ
爆撃 バクゲキ

227ページ 表現の効果 | 221ページ 語り手の視点 | 115ページ 結び付けて解釈 | 105ページ 描写 | 29ページ 心情の変化

学びのカギ

## 描写に着目する

**描写から見えてくるものとは。**

- 登場人物の心情は、心の中を直接説明するだけでなく、人物の行動や風景の描写にたくして表現されることも多い。
- 一つ一つの描写に着目しながら丁寧に読むことで、より深く作品を味わうことができる。

276ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図

**【学習で用いる言葉】**

**描写**　物事の様子や場面、登場人物の行動や心情などを、読み手が具体的に想像できるように描いたもの。

**【行動の描写】**

- 親戚の人に、引っ越しの相談に行く場面

母はそれを聞くと、……後ろを向いて帰りました。

↔

母はそれを聞くなり、……くるりと後ろを向いて帰りました。（99ページ1～2行目）

人物の心情

**【風景の描写】**

- 死んだ弟を母がおんぶして家に帰る場面

・一本道
・白い一本道
・乾いた一本道

↔

白い乾いた一本道（102ページ7行目）

人物の心情

左が作品内の描写である。右の場合と比べて、思いの深さや受ける印象はどう変わるだろうか。

**言の葉ポケット**

「ヒロユキ」や「ヒロシマ」「ナガサキ」が片仮名表記であることの意味や効果について考えてみよう。



## 学びへの扉

**見通しをもつ**

描写に着目して読み深め、登場人物の思いが伝わるように朗読しよう。［学習活動］

**目標**

- 本や資料を読み、登場人物が置かれた状況を知る。（知る）
- 登場人物の行動や風景の描写を基に、心情を捉える。（読む）

**捉える**

### 1 描写に着目して登場人物の心情を捉えよう。

①「母」が食べ物をあまり食べなかったり、「僕」がヒロユキのミルクをぬすみ飲みしてしまったりしたのはなぜだろう。

②次の部分から読み取れる、「僕」や「母」の心情を考えよう。

- 「僕はあんなに美しい顔を見たことはありません。」（99ページ4行目）
- 山あいの村に向かう途中の描写（99ページ12～14行目）
- 「そのとき、母は初めて泣きました。」（103ページ5行目）

**読み深める**

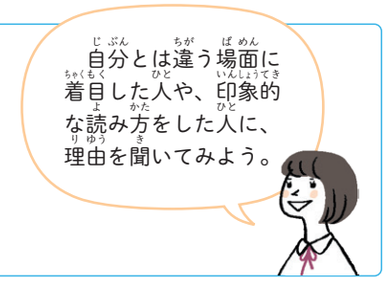
### 2 題名のもつ意味について考えよう。

出典の絵本や、戦争に関する本や資料を合わせて読み、時代背景をふまえて、「大人になれなかった弟たちに……」という題名のもつ意味について話し合おう。

**考えをもつ**

### 3 思いを伝える朗読会をしよう。

場面の様子や登場人物の心情がより伝わるように、心に残った場面を朗読し、感想を伝え合おう。




**振り返る**

- 知る　□関連する本や資料を読むことは、作品の理解にどう役立ったか。
- 読む　□登場人物のどんな心情が伝わるように朗読したか。
- つなぐ　□話し合いや朗読会の中で、自分の考えを広げるのに役立った友達の意見を挙げてみよう。

# 星の花が降るころに

安東みきえ

読む

場面や描写を結び付けて読み、自分の解釈を語り合おう。［学習活動］

目標

- 場面や描写の結び付きを、図などを用いて整理する。
- 場面と場面、場面と描写を結び付けて、作品を解釈する。

銀木犀の花は甘い香りで、白く小さな星の形をしている。そして雪が降るように音もなく落ちてくる。去年の秋、夏実と二人で木の真下に立ち、花が散るのを長いこと見上げていた。気がつくと、地面が白い星形でいっぱいになっていた。これじゃふめない、これじゃもう動けない、と夏実は幹に体を寄せ、二人で木に閉じ込められた、そう言って笑った。

――ガタン！

びっくりした。去年のことをぼんやり思い出していたら、机にいきなり戸部君がぶつかってきた。戸部君は振り返ると、後ろの男子に向かってどなった。

「やめろよ。押すなよなあ。俺がわざとぶつかったみたいだろ。」

自習時間が終わり、昼休みに入った教室はがやがやしていた。

1 **銀木犀** モクセイ科の常緑小高木。秋に白い小花を多数咲かせ、強い香りを放つ。

写真

10 漢 **押** （オウ） おす おさえる

10 漢 **俺** おれ

押す

俺



私は戸部君をにらんだ。

「なんか用？」

「宿題をきこうと思って来たんだよ。そしたらあいつらがいきなり押してきて。」

戸部君はサッカー部の誰かといつもふざけてじゃれ合っている。そしてちょっとしたこづき合いが高じてすぐに本気のけんかになる。わけがわからない。

塾のプリントを、戸部君は私の前に差し出した。

「この問題わかんねえんだよ。『あたかも』という言葉を使って文章を作りなさい、だって。おまえ得意だろ、こういうの。」

私だってわからない。いっしょだった小学生のころからわからないままだ。なんで戸部君はいつも私にからんでくるのか。なんで同じ塾に入ってくるのか。なんでサッカー部なのに先輩のように格好よくないのか。

「わかんないよ。そんなの自分で考えなよ。」

隣の教室の授業も終わったらしく、椅子を引く音がガタガタと聞こえてきた。

私は戸部君を押しのけるようにして立ち上がると廊下に向かった。

戸部君に関わり合っている暇はない。今日こそは仲直りをすると決めてきたのだ。はられたポスターや掲示を眺めるふりをしながら、廊下で夏実が出てくるのを待った。

5 漢 **高じる** 意

6 漢 **塾** ジュク

11 漢 **輩** ハイ

15 漢 **暇** カ ひま

16 漢 **掲** ケイ かかげる

塾

先輩

暇

掲示

夏実とは中学に上がってもずっと親友でいようと約束をしていた。だから春の始業式の日、待ち合わせ場所で二人は再会を喜び合った。

それなのに、何度か小さな擦れ違いや誤解が重なるうち、別々に帰るようになってしまった。おたがいに意地を張っていたのかもしれない。

お守りみたいな小さなビニール袋をポケットの上からそっとなでた。中には銀木犀の花が入っている。もう香りはなくなっているけれどかまわない。去年の秋、この花で何か手作りに挑戦しようと言ってそのままになっていた。香水はもう無理でも試しにせっけんを作ってみよう、そして秋になったら新しい花を拾って、それでポプリなんかも作ってみよう……そう誘ってみるつもりだった。夏実だって、私から言いだすのをきっと待っているはずだ。

夏実の姿が目に入った。教室を出てこちらに向かってくる。

そのとたん、私は自分の心臓がどこにあるのかがはっきりわかった。どきどき鳴る胸をなだめるように一つ息を吸ってはくと、ぎこちなく足をふみ出した。



9 **ポプリ** 芳香のある草花を乾燥させたもの。香りを楽しむために、袋などにつめて用いる。
3 **誤解** 意
15 **なだめる** 意
3 **意地を張る** 意
2 漢 **擦** サツ する れる
擦れ違い
7 音 **香水**（コウスイ）
10 漢 **誘** ユウ さそう
誘う



「あの、夏実――」

私が声をかけたのと、隣のクラスの子が夏実に話しかけたのが同時だった。夏実は一瞬とまどったような顔でこちらを見た後、隣の子に何か答えながら私からすっと顔を背けた。そして目の前を通り過ぎて行ってしまった。音のないこま送りの映像を見ているように、変に長く感じられた。

騒々しさがやっと耳に戻ったとき、教室の中の戸部君がこちらを見ていることに気づいた。私はきっとひどい顔をしている。唇がふるえているし、目のふちが熱い。きまりが悪くてはじかれたようにその場を離れると、窓に駆け寄って下をのぞいた。裏門にも、コンクリートの通路にも人の姿はない。どこも強い日差しのせいで、色が飛んでしまったみたい。貧血を起こしたときに見える白々とした光景によく似ている。

私は外にいる友達を探しているふうに熱心に下を眺めた。本当は友達なんていないのに。夏実の他には友達とよびたい人なんて誰もいないのに。

帰りは図書委員の集まりがあったせいで遅くなったていると、校庭からサッカー部のかけ声が聞こえてきた。もう九月というのに、昨日も真夏日だった。校庭に出ると、毛穴という毛穴から

3 とまどう 文
8 きまりが悪い 意
4 訓 **背ける**（そむける）
6 漢 **騒** ソウ さわぐ
騒々しさ
6 漢 **戻** レイ もどす もどる
戻る
7 漢 **唇** シン くちびる
唇
8 漢 **駆** クかける かる
駆け寄る
10 音 **貧血**（ヒンケツ）
15 漢 **遅** チ おくれる おくらす おそい
遅い

ら魂がぬるぬるととけ出してしまいそうに暑かった。

運動部のみんなはサバンナの動物みたいで、入れかわり立ちかわり水を飲みにやって来る。水飲み場の近くに座って戸部君を探した。夏実とのことを見られたのが気がかりだった。繊細さのかけらもない戸部君だから、みんなの前で何を言いだすか知れたものじゃない。どこまでわかっているのか探っておきたかった。だいたいなんであんな場面をのんびりと眺めていたのだろう。それを考えると弱みをにぎられた気分になり、八つ当たりとわかってもにくらしくてしかたがなかった。

戸部君の姿がやっと見つかった。

なかなか探せないはずだ。サッカーの練習をしているみんなとは離れた所で、一人ボールを磨いていた。

サッカーボールはぬい目が弱い。そこからほころびる。だからすなを落としてやらないとだめなんだ。使いたいときだけ使って、手入れをしないでいるのはだめなんだ。いつか戸部君がそう言っていたのを思い出した。

日陰もない校庭の隅っこで背中を丸め、黙々とボール磨きをしている戸部君を見ていたら、なんだか急に自分の考えていたことがひどく小さく、くだらないことに思えてきた。

2 **サバンナ** 熱帯・亜熱帯地方の草原。雨季と乾季がはっきりと分かれている。サバナともいう。

4 繊細 意

1 漢 魂 コン たましい
……魂 たましい

4 漢 繊 セン
……繊細さ

5 訓 探る（さぐる）
……日陰

15 漢 陰 イン かげ かげる
……黙々と

15 漢 黙 モク だまる

（111ページ）

3 輪郭 意

6 なじむ 文

14 意外 類

7 漢 拭 ショク ふく ぬぐう
……拭く



立ち上がって水道の蛇口をひねった。水をぱしゃぱしゃとにかけた。冷たかった。とけ出していた魂がもう一度引っ込み、やっと顔の輪郭が戻ってきたような気がした。

てのひらに水を受けて何度もほおをたたいていると、足音が近づいてきた。後ろから「おい。」と声をかけられた。戸部君だ。ずっと耳になじんでいた声だからすぐわかる。

顔を拭きながら振り返ると、戸部君が言った。

「俺、考えたんだ。」

ハンドタオルから目だけを出して戸部君を見つめた。何を言われるのか少しこわくて黙っていた。

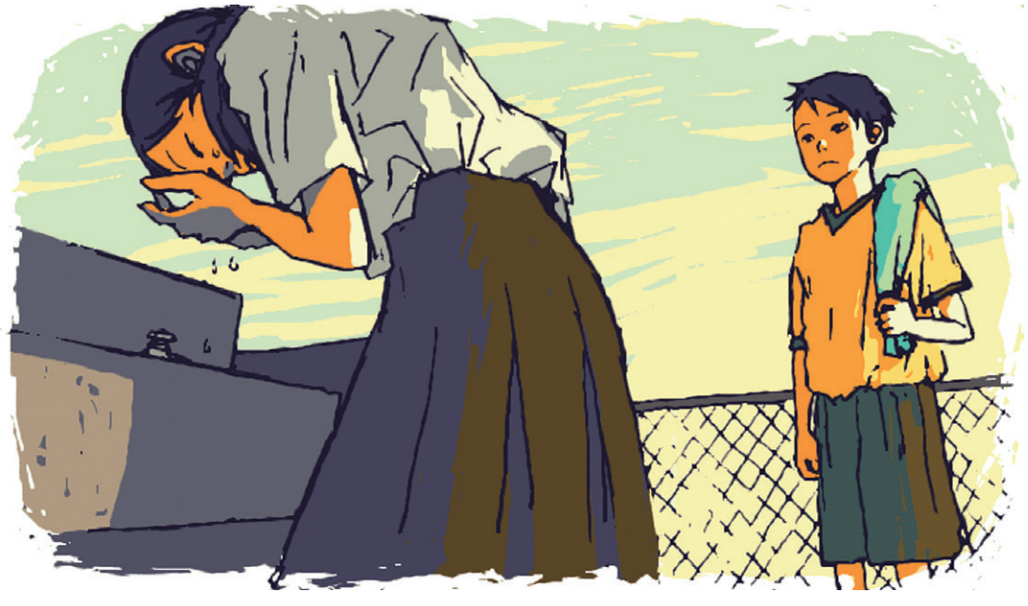
「ほら、『あたかも』という言葉を使って文を作りなさいってやつ。」

「ああ、なんだ。あれのこと。」

「いいか、よく聞けよ……おまえは俺を意外とハンサムだと思ったことが――」にやりと笑った。「――あたかもしれない。」

やっぱり戸部君って、わけがわからない。

二人で顔を見合わせて吹き出した。中学生になってちゃんと



向き合ったことがなかったから気づかなかったけれど、私より低かったはずの戸部君の背はいつのまにか私よりずっと高くなっている。

私はタオルを当てて笑っていた。涙がにじんできたのはいだ、たぶん。

学校からの帰り、少し回り道をして銀木犀のある公園に立ち寄った。

銀木犀は常緑樹だから一年中葉っぱがしげっている。その込むので、木の下に入れば丸屋根の部屋のようだ。夏実と私はここが大好きで、二人だけの秘密基地と決めていた。ここにいれば大丈夫、どんなことからも木が守ってくれる。そう信じていられた。

夕方に近くなっても日差しはまだ強い。木の下は陰になっている掃除をしているおばさんが、草むしりの手を休めて話しかけてきた。

「いい木だよねえ、こんな時期は木陰になってくれて。けちて案外厄介なんだよ、掃除がさ。」

私は首をかしげた。常緑樹は一年中葉っぱがしげっていてすずしかった。

「え、葉っぱはずっと落ちないんじゃないんですか。」

「まさか。どんどん古い葉っぱを落っことして、その代わりに新しい葉っぱを生

7 **常緑樹** 一年中、緑の葉を付けている樹木。

3 にじむ 文

15 **首をかしげる** 関 首を縦に振る／首を横に振る／首をひねる

3 漢 **涙** 涙

7 漢 **刈** 刈る／刈り込む

9 漢 **丈** 丈夫

12 漢 **掃** 掃除（音ソウジ）

14 漢 **厄** 厄介



やすんだよ。そりゃそうさ。でなきゃ あんた、いくら木だって生きていけないよ。」

帽子の中の顔は暗くてよくわからなかったけれど、笑った歯だけは白く見えた。

おばさんは、よいしょと言って掃除道具を抱えると公園の反対側に歩いていった。

私は真下に立って銀木犀の木を見上げた。

かたむいた陽が葉っぱの間からちらちらと差し、半円球がいに光っていた。

ポケットからビニール袋を取り出した。花びらは小さくかりあせている。

袋の口を開けて、星形の花を土の上にぱらぱらと落とした。

ここでいつかまた夏実と花を拾える日が来るかもしれないと拾うかもしれない。あるいはそんなことはもうしないかもどちらだっていい。大丈夫、きっとなんとかやっていけ私は銀木犀の木の下をくぐって出た。

スカイエマ・絵



作者 **安東みきえ** 一九五三（昭和二八）――山梨県出身。

著書 「天のシーソー」「頭のうちどころが悪かった熊の話」「まるまれアルマジロ！――卵からはじまる５つの話」「夕暮れのマグノリア」など。

出典 本書のための書きおろし。

5 **またたく** 意

2 漢 **帽** 帽子

3 漢 **抱** 抱える

**漢字の練習**

## 広がる読書

「頭のうちどころが悪かった熊の話」安東みきえ




「夕暮れのマグノリア」安東みきえ



227ページ 表現の効果 ／ 221ページ 語り手の視点 ／ 115ページ 結び付けて解釈 ／ 105ページ 描写 ／ 29ページ 心情の変化

学びのカギ

## 結び付けて解釈する

**同じ物や場所、表現に着目すると……。**

- 物語や小説では、同じ物や場所、表現が複数の場面で出てくることがある。これらを結び付けて考えることで、場面や描写に新たな意味を見いだす（解釈する）ことができる。
- 作品の構成に注目し、前半と後半で比べたり、冒頭部と結末部に登場する物や場所に着目したりして、違いを考えるとよい。

276ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図

**【学習で用いる言葉】**

**情景描写**　人物の心情と響き合うように描かれた風景や場面の描写。

**解釈**　読み取ったことを基に、自分なりに考え、新たな意味を見いだすこと。

**【「銀木犀」の情景描写】**

冒頭
- 銀木犀の花は甘い香りで、……
- 二人で木に閉じ込められた、そう言って笑った。

変化のきっかけとなる出来事
- 変化のきっかけとなる出来事
- 変化のきっかけとなる出来事
- 変化のきっかけとなる出来事

結末
- 私は銀木犀の木の下をくぐって出た。

↓同じ「銀木犀」の出てくる場面だが、違う部分がある。

それぞれの描写の違いに着目することで、「私」の変化を捉えることができる。



言の葉ポケット

「雪が降るように」のような比喩表現を探し、どんな情景や気持ちを表しているか考えよう。 68ページ さまざまな表現技法



## 学びへの扉

**見通しをもつ**

場面や描写を結び付けて読み、自分の解釈を語り合おう。［学習活動］

**目標**
- 場面や描写の結び付きを、図などを用いて整理する。（知る）
- 場面と場面、場面と描写を結び付けて、作品を解釈する。（読む）

**捉える**

### 1 「私」を中心に作品の内容を押さえよう。

①時や場所、登場人物の組み合わせなどに注意して場面に分けよう。
②場面の展開に沿って「私」の気持ちの変化を表などにまとめよう。

**読み深める**

### 2 場面や描写を結び付けて内容を解釈しよう。

作品には、同じ物や場所がくり返し描かれている。図などを使って場面や描写を整理・比較し、どんなことが読み取れるか伝え合おう。

| | |
|---|---|
| 前半 | 「そしてちょっとしたこづき合いが高じて……けんかになる。わけがわからない。」（107ページ4～5行目） |
| 後半 | 「やっぱり戸部君って、わけがわからない。」（111ページ16行目） |
| 前半 | 「お守りみたいな小さなビニール袋を……かまわない。」（108ページ5～6行目） |
| 後半 | 「ポケットからビニール袋を……落とした。」（113ページ7～9行目） |



整理した図を見せ合ったり、友達の解釈と比べたりしてみよう。

**考えをもつ**

### 3 印象に残った場面や描写を語り合おう。

解釈を基に、印象に残った箇所とその理由をグループで述べ合おう。

**振り返る**

- 知る　□場面や描写の結び付きを図を用いて整理することには、どんな効果があったか。
- 読む　□複数の場面や描写を結び付けて読むと、どんなことが見えてきたか。
- つなぐ　□読み取ったことをふまえ、この後、作品がどう続いていくかを考えて、簡潔に書いてみよう。

書く

# 項目を立てて書こう

書くことのミニレッスン

## 案内文を書く

私たちの身の回りには、学校からのお知らせや行事のポスターなど、さまざまな案内文がある。目的や相手に合わせて必要な情報を考え、項目ごとに整理して、案内文を書いてみよう。

**目標**
- 分類などの情報の整理のしかたを理解し、活用する。（知る）
- 相手が必要とする情報を明確に伝えるために、情報を整理し、構成を考えて書く。（書く）

### 1 情報を整理し、構成を考える

- 案内する事柄を決め、相手の立場に立って、伝える必要がある情報を考える。
- 身の回りの案内文なども参考に、項目を立てて情報を整理し、構成を考える。

### 2 案内文を書く ICT

### 3 学習を振り返る

- たがいの案内文を読み合い、意見や感想、工夫されていると思った点を伝え合う。

**学びのカギ**

#### 必要な情報を明確に伝える

- 「何を（事柄）」「何のために（目的）」「誰に（相手）」伝えるのかをふまえて、情報を整理する。
  - 基本的な情報（行事名、日時、場所など）。
  - 相手にとって必要と思われる情報。
  - 案内する側が、相手にぜひ伝えたい情報。
- 必要な情報が明確に伝わるように構成する。
  - 情報をできるだけ絞り込む。
  - 項目ごとに分類する。
  - 必要性の高い情報から順に並べる。

280ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図





**案内をする【事柄】**合唱祭
**【目的】**相手に、自分たちの合唱を聞きに来てもらう。
**【相手】**地域の人に／家族に／小学生に　など

**［案内文の例（地域の人に）］** 288ページ 手紙の書き方

イ 地域の皆様

ア ○○年9月3日

ウ 南中学校合唱祭実行委員会

エ 第20回 南中学校合唱祭のご案内

新秋の候、皆様、いかがお過ごしでしょうか。
さて、このたび、第20回南中学校合唱祭を下記のとおり開催します。どうぞお誘い合わせのうえ、お越しください。

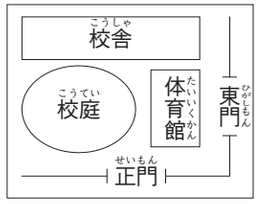
記

1．日時　9月24日（金）　9:00　開場
　　11:45　終了予定

2．場所　南中学校体育館

3．当日の流れ

| | |
|---|---|
| 9:30 ～ 9:45 | 開会式 |
| 9:45 ～ 10:15 | 1年生発表 |
| 10:15 ～ 10:45 | 2年生発表 |
| 10:45 ～ 11:00 | 休憩 |
| 11:00 ～ 11:30 | 3年生発表 |
| 11:30 ～ 11:40 | 閉会式 |




4．オンライン配信について
合唱祭当日に、オンラインで発表の様子を配信します。
詳しくは、本校公式ウェブサイトをご覧ください。
本校公式ウェブサイト　https://www…

5．その他
- 当日は、東門からお入りください。
- スリッパなどをご用意ください。
- 駐車場がありませんので、車での来校はおひかえください。

以上

- ア 出す日付
- イ 受取人　ウ 差出人
- エ 行事名　を書く。

**挨拶**
- 季節に応じた挨拶文で始める。
- 相手に合った内容や表現を考える。

**「記」**
- 本文中の「下記」に対応し、必要事項をまとめる。
- 日時や場所、注意点などを書く。
- 番号を付けたり、箇条書きで示したりする。
- 必要に応じて、図（地図）や写真、ウェブサイトのアドレスなどを示す。
- 「以上」で結ぶ。



相手が小学生なら、どのように書けばいいかな。上の例を書き換えてみよう。

家族に向けて書くなら、私のクラスが何時ごろ、何を歌うかも伝えたいな。



書く

［推敲］

# 読み手の立場に立つ

書くことのミニレッスン

高木さんは、地域の人に出す体育祭の案内文の下書きをした。

286ページ 文章の推敲・原稿用紙の使い方

推敲とは、書いた文章を見直し、伝えたい事柄が適切に書き表されているかどうかを検討することである。読み手の立場に立って、案内文を推敲してみよう。

**1** **次の観点を参考に、A（エー）を書き改めよう。**

- ☑ 漢字や仮名づかい、送り仮名の誤りはないか。
- ☑ 句読点の打ち方は適切か。
- ☑ 言葉の選び方や使い方が、読み手に対して適切なものになっているか。

**2** **①～③の指示に基づき、B（ビー）を書き改めよう。**

①……線部を、箇条書きなどを用いてわかりやすく書き改めよう。

②読み手には不要な情報を、‖線で消そう。

③Bには、読み手にとって必要な情報が抜けている。それはどんな情報かを考え、適切な場所に書き加えよう。



地域の皆様

○○年9月21日
南中学校体育祭実行委員会

## 第33回南中学校体育祭のご案内

A（エー）
暑いですね。皆様、いかがお過ごしでしょうか。
さてこのたび第33回南中学校体育祭を下記のとおり開催します、日ごろ私たちを見守ってくださる地域の皆様と、秋の一日を楽みたいと願っています。どうぞお誘い合わせのうえ、来てください。

記

B（ビー）
1 場所　南中学校校庭
2 当日の流れ　開会式は9時からで、30分後には競技を開始します。閉会式は11時45分から12時までを予定しています。
3 その他
・雨天の場合は、翌日の10月10日（日）に延期します。
・生徒の皆さんは、ゼッケンを忘れないでください。

以上



言葉4

# 方言と共通語

あなたの住んでいる地域では、物を「捨てる」ことをどのように表現するだろう。地域による言葉の違いを知り、自分たちの言葉について考えてみよう。

## 方言

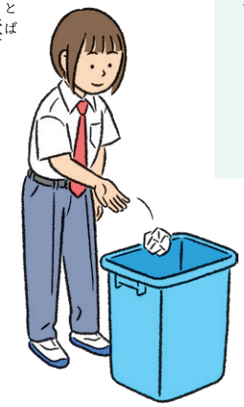
私たちが普段使っている言葉には、地域によって、さまざまな違いがある。語句・表現、文法、発音などに、地域ごとの特色が表れた言葉を**方言**という。

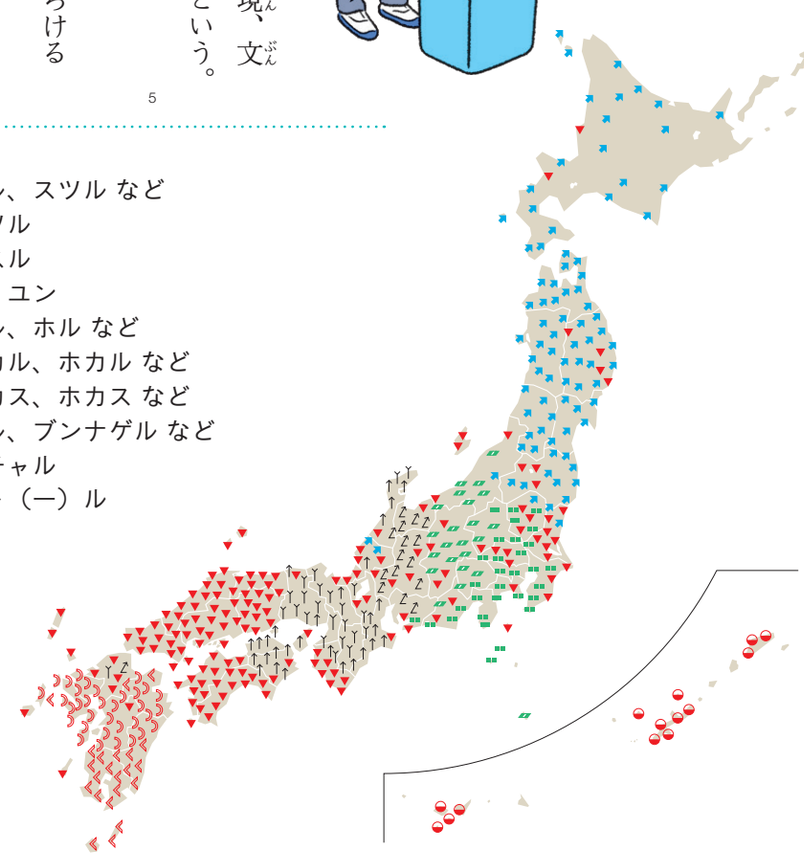
**方言による語句・表現の違い**

- 苦しい……えらい・しんどい・きつい・こわい
- 片づける……かたす・しまう・なおす・のける・とろける

**方言による文末表現の違い**

- 書かない……書かん・書かへん
- 猫だ……猫や・猫じゃ

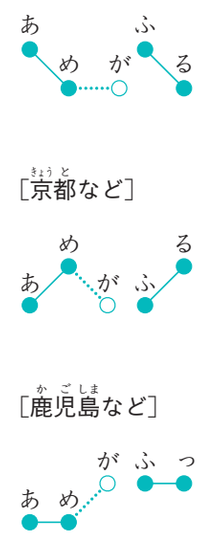





「捨てる」の方言分布図（国立国語研究所「日本言語地図」を基にしたもの）

## 方言による発音の違い

・雨が降る




動画

方言は、家族や地域の人との交流の中で自然と身につく言葉である。また、地域の風土や生活に根ざした独特の表現も多い。このため、自分の感情や感覚を実感に即した言葉で言い表せる。

## 共通語

異なる地域の人々が互いに方言で話すと、用件や考えが正確に伝わらないことがある。そのため、日本全国、どの地域の人にも通用する言葉が必要になる。このような言葉を**共通語**という。

全国向けのテレビニュースなど、不特定多数の人に伝える言葉には、共通語が使われることが多い。

## 消滅危機言語

### 守ろう　地域の言葉



木部暢子さん
（言語研究者）

消滅危機言語とは、話す人が少なくなり、近いうちになくなってしまうかもしれない言語のことです。①ユネスコの危機言語リストには、日本で使われている言語のうちアイヌ語や八丈、奄美、沖縄で話されている言葉が登録されています。しかし、危機的なのはそれだけではありません。各地の方言もまた、話す人が減少し、消滅の危機にあります。

方言が消滅するのは、時代の流れだからしかたがないという意見があります。しかし、そもそもなぜ、方言がこれほど多様になったのでしょうか。おそらく、各地の人々が日常生活の中で、さまざまな事柄をどう表現したらいいかを考えて、言葉を生み出していった結果なのではないかと思います。方言には方言でしか言い表せない事柄がたくさんあります。それを守ろうとするか、しないかは、私たち一人一人の問題なのです。

注　①ユネスコ＝国際連合教育科学文化機関。





世界に六千から七千ある言語のうち、約二千五百が消滅の危機にあるといわれている。そのような消滅危機言語が、日本には八つある。




**アイヌ語**
- アイヌ（人間）
- カムイ（神）
- イヨマンテ（霊送りの儀式）
- コタン（村）
- ピリカ（よい）
- イヤィラィケレ（ありがとう）

**八丈語**
- とんめて（早朝）
- あっぱめ（赤ん坊）
- ぼーきゃ（大きい）
- でーじきゃ（美しい）
- あばよーい（さようなら）
- おじゃりやれ（いらっしゃい）

**沖縄語**
- すとぅみてぃ（早朝）
- てぃーだ（太陽）
- まやー（猫）
- まぎさん（大きい）
- ぐまさん（小さい）
- にふぇーでーびる（ありがとうございます）

日本における消滅危機言語
（2009年にユネスコが発表した地図を基に作成）

### 広がる読書



「ディラブディ」
與那覇悦子



「なくなりそうな世界のことば」
吉岡 乾

### 新出漢字

| 120 | 119 |
|---|---|
| 即（ソク） | 猫（ビョウ） |
| 互（ゴ・たがい） | |

漢字の練習

すく話す聞く

# 聞き上手になろう

## 質問で話を引き出す

聞き上手な人は、対話を充実させるために、時にはじっと耳をかたむけ、時にはたくみな質問で話を引き出す。そんな聞き手になることを目ざして、聞き方や質問のしかたを学ぼう。

質問のしかた

目標
- 声の大きさや間の取り方などを意識して質問する。（知る）
- 聞いたことを基に考えをまとめ、質問のしかたを工夫する。（話・聞）

### 1 聞き方や質問のしかたを学ぶ

### 2 二人一組で対話の練習をする

①話し手が最近あったことを話す（30秒）。
②聞き手は、聞き方や質問のしかたを工夫し、質問で話を引き出す。一問一答で終わらないやり取りを目ざす（5分）。
③役割を交代して、くり返す。

### 3 学習を振り返る

・それぞれの立場から、気づいたことや考えたことを出し合う。

**学びのカギ**

**質問で話を引き出す**

- 質問するときは、聞き取りやすい大きさの声で、はっきりと話す。
- 相手の話に耳をかたむけ、相づちを打ったり、うなずいたりしながら、誠実な態度で聞く。
- 相手が答えやすいように質問のしかたを工夫する。
  - 「絞る質問」「広げる質問」といった質問の種類を意識する。
  - 相手の言葉を引用して質問したり、話の内容を言い換えて相手の意図を確かめたりする。

280ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図








### 【聞き方の工夫】




▼**相づちを打つ**
▼**聞いたことをくり返す**
▼**表情で反応する**
▼**話をさえぎらない**
話をしっかり聞いていることが伝わり、話し手が安心して話せる。

▼**相手の言葉を引用して質問する**
聞きたい内容や質問の意図が明確になり、話し手が答えやすい。

▼**他の言葉で言い換えて確かめる**
聞き手がどう受け止めたかが伝わるので、話し手が内容を訂正したり補足したりしやすくなる。

### 【質問の種類】

**ア 絞る質問**
答えを一つに絞る質問や、選択肢を選ばせる質問。「閉じた質問（クローズド・クエスチョン）」ともいう。

・○○ですか。（→はい／いいえ）
・○○と□□のどちらですか。（→○○です／□□です）

**イ 広げる質問**
答え方を指定せず、相手に自由に答えさせる質問。「開いた質問（オープン・クエスチョン）」ともよばれる。

・そのとき、どう思いましたか。
・どうして……なのですか。
・どんなことをしましたか。
・詳しく言うと、どういうことですか。
・例えば……という場合はどうですか。

※アからイの順に質問を広げていくと、答えやすくなることが多い。

漢字2

# 漢字の音訓

「月」という漢字は、「ゲツ」「ガツ」という音、「つき」という訓をもつ。このように、漢字には大きく分けると、音と訓という二種類の読み方がある。




## 「音」について

**音**とは、中国語の発音を元にした読み方である。中国の文字である漢字が伝来したとき、日本人は、当時の中国語の発音をまねて漢字を読んだ。それが読みならわされ、定着したものが音である。

中国語の発音は、時代や地域によって異なる。これらの異なる発音を取り入れた結果、日本では、複数の音をもつ漢字が生まれた。

例
間……カン（空間）・ケン（世間）
力……リョク（権力）・リキ（力説）

## 「訓」について

**訓**とは、漢字の意味に基づく読み方である。中国から漢字が伝わると、日本人は、それと同じ意味を表す日本語を当てはめて漢字を読んだ。この読み方が、訓である。

例えば、漢字の「月」は、日本で「つき」とよばれるもの





を表していた。そのため、「つき」と読むようになり、それが訓として定着した。

次のように、複数の訓をもつ漢字もある。

例
間……あいだ（机と机の間）
ま（仲間と語り合う。）
外……そと（家の外で遊ぶ。）
ほか（思いの外遠かった。）
はず－す・はず－れる（シュートを外す。）

## 複数の読み方をする熟語

同じ熟語でも、読み方によって意味が変わることがある。その熟語が、文脈の中で、どのような意味で使われているかを考えて、正確に読み分けよう。

例
生物
●森にすむ多様な生物。
↓セイブツ
●生物を冷蔵庫で保存する。
↓なまもの







## 練習問題

●は中学校で学習する音訓 321ページ

**1** 次の――線部の漢字の音の違いに注意して、それぞれの熟語を読もう。

①有益　有無
②砂糖　土砂
③盛夏　夏至
④相互　首相
⑤自己　知己
⑥街灯　街道

**2** 次の熟語を読もう。また、――線部の漢字の訓を用いて短い文を作ろう。

①濃度　②号泣　③申告　④所望
⑤技巧　⑥納涼　⑦遮断　⑧柔道

**3** 次の熟語は二通りの読み方ができる。それぞれの読み方で短い文を作ろう。

①見物　②大勢　③分別

新出漢字

125 濃 ノウ こい
125 巧 コウ たくみ
125 涼 リョウ すずしい すずむ
125 遮 シャ さえぎる
125 柔 ジュウ ニュウ やわらか やわらかい

漢字一覧表

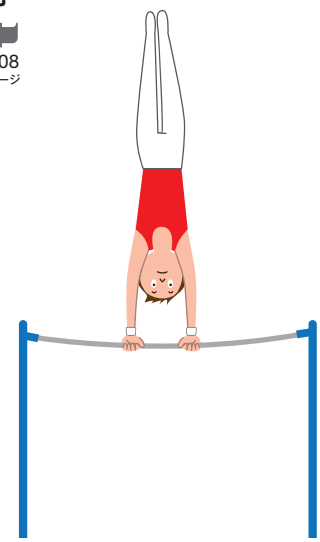
# 漢字に親しもう２

・は中学校で学習する音訓 321ページ

## 1 小学校で習った漢字 260ページ

次の□の中の言葉を使って、文章を作ろう。

優勝　強敵　鉄棒　体操



【漢字の書き】

## 2 中学校で習う漢字 308ページ

次の――線部の熟語を読もう。

① 優勝旗を返還する。［　　］［　　］
② 初めての試合で二塁手を任される。［　　］［　　］
③ 体操で大技を決め、喝采を浴びる。［　　］［　　］
④ 砲丸投げの練習に時間を割く。［　　］［　　］
⑤ 弓道の審判を務める。［　　］［　　］
⑥ 次の試合に勝てば三連覇だ。［　　］［　　］
⑦ 最多得点記録を更新する。［　　］［　　］

【漢字の読み（運動）】

## 3 次の――線部の漢字の読み方に注意して、それぞれの言葉を読もう。

① 海浜［　　］　浜辺［　　］
② 匹敵［　　］　三匹［　　］
③ 喪失［　　］　喪中［　　］
④ 酢酸［　　］　黒酢［　　］
⑤ 光沢［　　］　沢登り［　　］
⑥ 曇天［　　］　花曇り［　　］
⑦ 神宮［　　］　宮大工［　　］

【同じ漢字の読み】

### 新出漢字

126 還 カン
126 墨 ルイ
126 喝 カツ
126 采 サイ
126 浜 ヒン　はま
126 更 コウ　さら（ふける）（ふかす）
126 沢 タク　さわ
126 覇 ハ
126 審 シン
126 酢 サク　す
126 喪 ソウ　も
126 匹 ヒツ　ひき
126 砲 ホウ
126 曇 ドン　くもる

漢字一覧表

# 5 筋道を立てて

根拠を明らかにしながら伝え合う


「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ　記録　鈴木俊貴

思考のレッスン1　意見と根拠

根拠を明確にして書こう

資料を引用して報告する

漢字に親しもう3

文法への扉2　言葉の関係を考えよう

聴きひたる　大阿蘇　詩　三好達治

季節のしおり　秋




動きを表す言葉5　まどろむ ｜ 少しの間心地よくねむること。

# 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ

鈴木 俊貴

読む

文章の構成や展開の効果を考え、根拠を明確にしてまとめよう。［学習活動］

目標

- 筆者の意見とそれを支える根拠との関係を理解する。
- 文章の構成や展開の効果について、根拠を明確にして考える。

桜が咲く頃、「ツツピー、ツツピー」と響き渡る美しい鳥のさえずり。その声の主はシジュウカラです。黒い頭に白い頬、胸から腹にかけてのネクタイ模様が特徴の、スズメほどの大きさの小鳥です。北海道から沖縄まで日本列島に広く分布し、街中にも姿を現すので、見覚えのある人もいることでしょう。

よく耳を澄ますと、シジュウカラの鳴き声には、さまざまな種類があることに気がつきます。「ピーツピ」「チッチッ」「ヂヂヂヂ」……。シジュウカラは、他の種類の鳥と比べても、鳴き声のレパートリーが非常に豊富です。私は、こうした鳴き声には



シジュウカラ

2 **さえずり** 専門的には、繁殖期のオスの小鳥が特別に出す鳴き声のこと。一年を通じてオスもメスも出す声を地鳴きという。

10 **レパートリー** 劇団・演奏家などが、いつでも演じられるように用意してある演目や曲目。転じて、いつでもこなせる範囲や領域。

5 **分布** 意

7 **耳を澄ます** 文

3 **頬** 漢
頬（ほお）

1 **頃** 漢
頃（ころ）

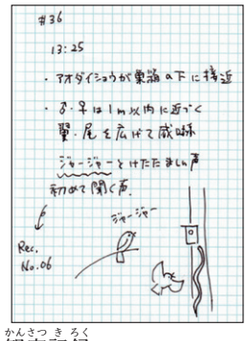


それぞれ意味があり、それら全体でシジュウカラの「言葉」になっていると考え、研究をしています。

シジュウカラは、春のおとずれとともに繁殖期を迎えます。木のうろなどにこけを運んで巣を作り、毎朝一つずつ、合計六個から十三個ほどの卵を産みます。ひながかえると、つがいで協力して青虫などの餌を巣に運び、子育てをします。

私は二〇〇五年から毎年、長野県軽井沢町のとある森に巣箱を掛けて、繁殖したシジュウカラの様子を観察してきました。二〇〇八年六月のある日、研究の転機がおとずれました。いつものように観察に向かうと、シジュウカラの巣箱にアオダイショウが迫り、ひなを食べようとしているところに出くわしたのです。そのとき、親鳥はヘビに接近し、翼を広げて威嚇しながら、けたたましく「ジャージャー」と鳴いていました。それまで、朝から夕方までシジュウカラを観察してきましたが、こんな鳴き声を




2008年6月10日の観察記録



筆者が軽井沢の森に設置したシジュウカラ用の巣箱

5 **毎朝一つずつ……産みます** シジュウカラのメスは、六～十三日間、毎朝一つずつ卵を産む。全て産み終えるとメスは巣にこもり、卵を温める。それからおよそ二週間後にひながかえる。

12 **アオダイショウ** ヘビの一種。全長は百二十～二百センチメートル程度。体の色は緑がかっている。無毒。

15 **けたたましい** 類

11 **転機** 意

3 **繁** 漢
繁殖期（ハンショク）

3 **殖** 漢
殖える（ショクえる）
繁殖期（ショクハン）

7 **餌** 漢
餌（えさ）

13 **迫** 漢
迫る（せまる）

15 **威** 漢
威嚇（イカク）

15 **嚇** 漢
威嚇（カクイカク）

聞いたのは初めてでした。シジュウカラの卵やひなを襲う天敵には、ヘビの他にカラスやネコ、イタチ類が挙げられます。親鳥は、これらの天敵には「ピーツピ」と鳴くのに対し、ヘビにだけは「ジャージャー」と鳴いていたのです。鳴き声を録音し、コンピュータで分析してみても、その違いは明らかでした。

私は、これらの観察から、シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声が、警戒すべき対象としての「ヘビ」を意味する「単語」になっているのではないかという仮説を立てました。ここでの「単語」とは、「ヘビ」や「タカ」といった異なる意味を伝える一つ一つの鳴き声だと定義することにします。

では、シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声がヘビを示す「単語」であるかどうかを調べるには、どうすればよいのでしょうか。鳴き声を発する状況を記録するのはもちろんですが、それだけでは意味を確かめることはできません。ヘビの存在をつがい相手に伝えるために「ジャージャー」と鳴いているのか、それとも単なる恐怖心から鳴き声を発しているのかが区別できないからです。そこで私は、鳴き声を聞いたシジュウカラが、どのように振る舞うのかを詳しく調べてみることにしました。もし「ジャージャー」という鳴き声がヘビを意味する「単語」であるならば、それを聞いたシジュウカラはヘビを警戒するようなしぐさを示すかもしれないと考えたのです。

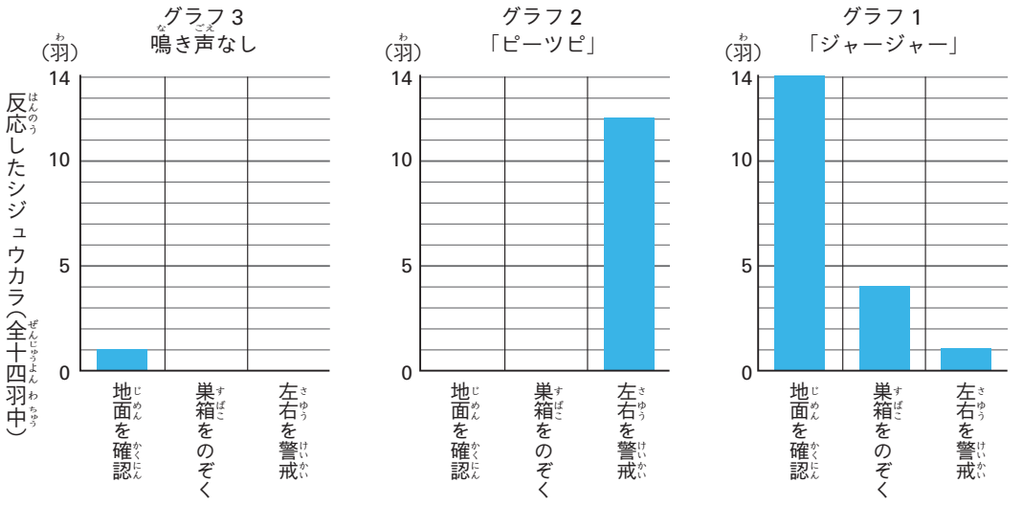
14 漢 舞 ブ まう
10 漢 況 キョウ
6 漢 戒 カイ いましめる
4 漢 析 セキ
8 定義 意
7 仮説 意
4 分析 意

振る舞う
状況
警戒
分析



まず、あらかじめ録音しておいた「ジャージャー」という鳴き声を基に、三分の長さの音声ファイルを作成しました。シジュウカラのつがいのうち一羽が、ヘビを見つけてくり返し「ジャージャー」と鳴いている状況をまねたのです。そして、その音声をヘビのいない状況でスピーカーから流して聞かせ、シジュウカラの行動変化を観察しました。

シジュウカラは、「ジャージャー」という鳴き声を聞くと、巣箱が掛かった木の周辺で地面をじっと見下ろしたり、時には巣箱の穴をのぞいたり、普段とは明らかに異なるしぐさを示しました（グラフ1）。いっぽう、カラスやネコなどを警戒するときの「ピーツピ」という鳴き声を聞かせても、これらの行動は見られず、首を左右に振り、周囲を警戒するだけでした（グラフ2）。また、鳴き声を流さない場合には、どのような種類の警戒行動もほとんど示しませんでした（グラフ3）。




動画

シジュウカラの鳴き声（「ジャージャー」と「ピーツピ」）



「ジャージャー」という鳴き声に反応し、地面を見るシジュウカラ

ヘビは地面から木をはい上り、巣箱に侵入して卵やひなを襲います。親鳥が卵やひなを守るためには、ヘビをいち早く見つけ出し、追い払わなければなりません。「ジャージャー」という鳴き声を聞いて地面や巣箱を確認しに行くことは、親鳥がヘビの居場所をつき止めるうえで大いに役立つと考えられます。

しかし、この実験結果から、シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声がヘビを示す「単語」であると、十分に主張できるでしょうか。もしかしたら、「ジャージャー」という鳴き声は、「地面や巣箱を確認しろ。」といった命令であり、それを聞いたシジュウカラはヘビの姿をイメージすることなく、それらの行動を取ったのかもしれません。

そこで今度は、「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラが、実際にヘビの姿をイメージしているのか検証しようと考えました。私たちの場合、単語から得たイメージによって、物の見え方が変わってしまうことがあります。例えば、道路に落ちた木の枝でも、誰かがそれを指して「ヘビだ！」と言ったら、周りの人は思わず身構えることでしょう。これは、「ヘビだ！」という単語からその姿をイメージし、枝を一瞬、本物のヘビと見間違えてしまうからです。同じようにヘビにも見間違いが観察されれば、「ジャージャー」という鳴き声からヘビの姿をイメージした証拠になると考えられます。

8 **イメージ**　ここでは、目の前に物がなくても、その姿や形を思い描くことと定義する。次に行われる実験では、シジュウカラの目の前にヘビがいなくても、「ジャージャー」という鳴き声からその姿を思い描くことができるのかを調べている。

11 検証 意

2 漢 払（フツ） はらう　追い払う

17 漢 拠 コキョ　証拠

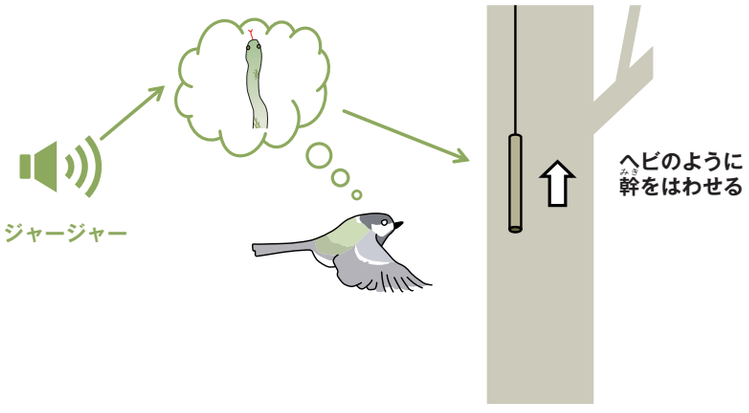


実験の手順は、以下のとおりです。まず、二十センチメートルほどの長さの小枝にひもを付け、木の幹に沿うようにぶら下げます。

そして、スピーカーから「ジャージャー」という鳴き声を流します。そのうえで、遠くからひもをゆっくりと引き、まるで幹をはい上るヘビのように小枝を動かしました（図）。

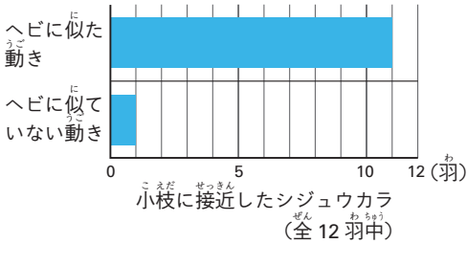
すると、「ジャージャー」という鳴き声を聞かせたシジュウカラは、ヘビのように動く小枝に近づき、確認することがわかりました。いっぽう、「ジャージャー」以外の鳴き声を聞かせた場合、小枝に接近するシジュウカラはほとんどいませんでした（グラフ4）。また、「ジャージャー」という鳴き声を聞かせながら、小枝を大きく左右に揺らし、ヘビに似ていない動きとして見せた場合も、同様の結果となりました（グラフ5）。

図
鳴き声をスピーカーから流しながら、小枝をひもで引き上げてヘビのように動かした。



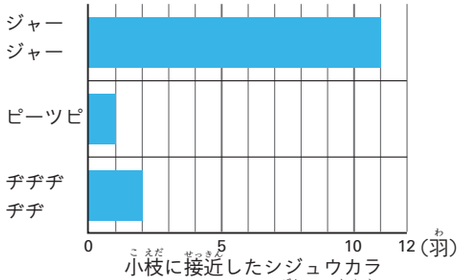

動画

グラフ5　小枝の動きによる反応の違い




「ジャージャー」という鳴き声を聞かせながら、小枝の動かし方を変えて見せた。

グラフ4　鳴き声による反応の違い




ヘビに似た動きをする小枝を見せながら、3種類の鳴き声を聞かせた。

つまり、シジュウカラは、「ジャージャー」という鳴き声から幹をはうヘビの姿をイメージし、それに似た動きをする小枝をヘビと見間違えたのだと解釈できます。

二つの実験の結果から、「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラはヘビの姿をイメージし、そのうえで、ヘビを探す際に役立つ特別な行動を取ることがわかりました。ここから、「ジャージャー」という鳴き声は「ヘビ」を意味する「単語」であると結論づけられます。

研究者の間では、長年にわたって、「言葉」をもつのは人間だけだと信じられてきました。動物の鳴き声は、「怒り」や「喜び」といった単なる感情の表れであり、物の存在や出来事を伝える「単語」ではないと考えられてきたのです。そのため、動物の鳴き声に関する詳細な研究は、これまで十分に進められてきませんでした。しかし、

| 鳴き声 | 発する状況 | 鳴き声に対する反応 | 意味 |
|---|---|---|---|
| ツツピー<br>ツツピー<br>（さえずり） | 春先に繁殖のための縄張りを作るとき<br>※鳴くのはオスのみ | オス：縄張り争い<br>メス：オスの魅力を評価 | 縄張りに入るなつがいになろう |
| ピーツピ | カラスやネコを発見 | 周囲を確認 | 警戒しろ |
| チッチッ | 遠くに飛んでいくときなど | 音源を見る | こっちを見て |
| ヂヂヂヂヂ | 仲間からはぐれたときなど | 音源に接近 | 集まれ |
| ジャージャー | ヘビを発見 | 地面や巣箱を確認 | ヘビ |

研究により判明した、シジュウカラの鳴き声と意味（一部）

10 実証 意 （135ページ）

3 漢 脅 キョウ おどす（おびやかす）
脅威

4 漢 獲 カク える
獲得

13 漢 怒 ド いかる おこる
怒り

4 漢 釈 シャク
解釈



今回の研究で、身近な小鳥のシジュウカラにもヘビをいが協力してヘビを追い払ううえで役立っていること上り巣箱に侵入するヘビは、小鳥にとって特別な脅やひなを守るために、ヘビの存在を示す特別な鳴き声考えられます。

シジュウカラの世界に魅了された私は、今でも毎年長野県の森に通って研究を続けています。二十年以上にわたる野外研究の中で、彼らが異なる「単語」を使い分けるだけでなく、それらを組み合わせてより複雑なメッセージを伝えていることなどもわかってきました。人間以外に、複数の「単語」を組み合わせる能力が実証されたのは、シジュウカラが初めてです。今後、動物の鳴き声に関する研究が盛んになることで、シジュウカラ以外にも、「言葉」をもつ動物の存在が明らかになるかもしれません。人間が最も高度な生物であると決めつけることなく、じっくり動物たちを観察してみると、まだまだ驚きの発見があるのだと思います。



筆者 **鈴木俊貴** 一九八三（昭和五八）――
東京都出身。動物行動学者。
著書 「鳥の行動生態学」（分担執筆）など。
出典 本書のための書きおろし。

10

6 漢 了 リョウ
魅了

11 訓 盛ん（さかん）
盛ん

13 漢 驚 キョウ おどろく おどろかす
驚き

漢字の練習

## 広がる読書

「ソロモンの指環」
コンラート・ローレンツ
日高敏隆 訳




「子どもと一緒に覚えたい野鳥の名前」
山崎 宏 監修



## 学びへの扉

**見通しをもつ**

文章の構成や展開の効果を考え、根拠を明確にしてまとめよう。［学習活動］

**目標**

- 筆者の意見とそれを支える根拠との関係を理解する。（知る）
- 文章の構成や展開の効果について、根拠を明確にして考える。（読む）

**捉える**

### 1 文章の構成と内容を捉えよう。

①次の内容がどの段落に述べられているか、考えながら読もう。

㋐ 筆者が立てた仮説
㋑ 仮説の検証１（一つ目の実験とその結果）
㋒ 仮説の検証２（二つ目の実験とその結果）
㋓ 結論

②筆者は、どのような事実を基に、㋐に書かれている仮説を立てたのだろうか。簡潔にまとめよう。




**読み深める**

### 2 文章の構成や展開の効果を、根拠を明確にして考えよう。

①検証１と２について、次の観点で読み取り、表にまとめよう。

㋐ 検証の目的　㋑ 検証の方法（○○して、□□ならば、……。）
㋒ 実験・観察の手順　㋓ 結果　㋔ 結果に対する解釈・考察

②なぜ「仮説の検証２」を行う必要があったのかを考えよう。

③この文章の構成や展開の効果を根拠を明確にしてまとめよう。

**考えをもつ**

### 3 文章を読んで、考えたことを話し合おう。

筆者の検証方法や結論には説得力があるかどうか、話し合おう。

**振り返る**

- 知る　□この文章で示された事実は、筆者の意見とどのような関係にあるか。
- 読む　□この文章の構成や展開には、どんな効果があったか。
  ➡「○○を根拠とすることで」という言葉を使って述べてみよう。
- つなぐ　□仮説を検証する形で自分の意見を述べることの効果を挙げてみよう。



185ページ 目的に応じた要約　137ページ 構成や展開の効果　51ページ 文章の構成　45ページ 段落の役割

学びのカギ

## 構成や展開の効果を考える

**その事実は、意見を支えているか。**

- 意見を述べる文章では、筆者が客観的な事実を根拠として意見を主張したり、仮説の検証を経て得た確かな事実を基に考えを述べたりすることが多い。
- 文章の構成や展開に説得力があるかを判断するには、根拠となる事実の解釈や、意見との結び付きに問題がないかを検討するとよい。

278ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図

**【学習で用いる言葉】**

**仮説**　ある現象を説明するために、仮に立てる説。

**検証**　実験・観察などによって得た事実と照合し、仮説を証明すること。

**【文章の展開の例】**

事実 → 意見

- 事実：実験や観察の結果……異なるしぐさを示しました。／……はほとんどいませんでした。／……の結果となりました。
- 意見：結果に基づく解釈・考察……と考えられます。／つまり、……と解釈できます。／ここから、……と結論づけられます。

**【検討すること】➡根拠となる事実**

- 事実の解釈に無理はないか。
- 事実と意見が確かに結び付くか。

138ページ 思考のレッスン1 意見と根拠

**言葉ポケット**

次に挙げた言葉の意味や使い方の違いを考えよう。

① 仮説・仮定・予想
② 検証・証明・裏づけ

情報のレッスン

# 意見と根拠

## 思考のレッスン1

■ **根拠とは**

**意見**の正しさや有効性を証明するものを、**根拠**という。意見を述べるときには、根拠を明確に示す必要がある。

「根拠」というのは、「証拠」のようなものですか。

そのとおり。意見の正しさを裏づける「証拠」が「根拠」だ。だから、根拠のない意見や、根拠が不確かな意見は、信用しないほうがいい。

根拠は、意見の信頼性を高めるためにある。だから、人によって異なる考えではなく、誰が見ても変わらない**事実**を示すことが大切だ。





1 根拠がないと……

**意見** 探偵は、犬より猫を飼うべきだ。

これだけでは、聞く価値のある意見か判断できない。

**根拠** 猫のほうが、かわいい。

2 「考え」を根拠にすると……

**意見** 探偵は、犬より猫を飼うべきだ。

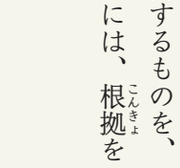
「犬のほうが、かわいい」と思っている人は説得できない。

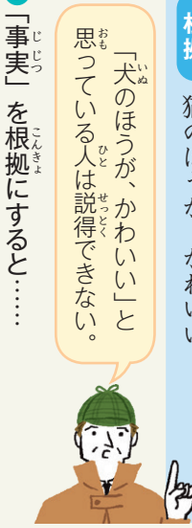
3 「事実」を根拠にすると……

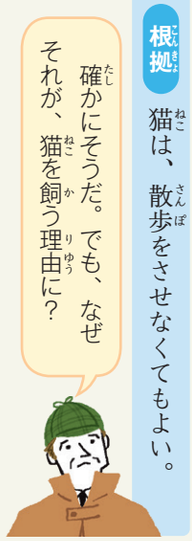
**意見** 探偵は、犬より猫を飼うべきだ。

**根拠** 猫は、散歩をさせなくてもよい。

確かにそうだ。でも、なぜそれが、猫を飼う理由に？







■ **意見と根拠の結び付き**

根拠を示すときは、その根拠が意見とどのように結び付くのかを説明する必要がある。これを**理由づけ**という。無理のない理由づけは、意見の説得力を高める。

**根拠** 猫は、散歩をさせなくてもよい。

**理由づけ** 仕事で家を空けることが多い探偵は、毎日散歩をさせるのが難しいから。

**意見** 探偵は、犬より猫を飼うべきだ。



あなたの意見に納得した。猫を飼うことを検討しよう。

**チェックポイント**

意見を聞いたり、伝えたりするときには、次の点を確認しよう。

- ☑ 根拠が示されているか。
- ☑ 正確で客観的な事実を根拠にしているか。
- ☑ 理由づけに無理はないか。

「理由づけ」によっては、同じ「根拠」から、異なる「意見」が導かれることもある。



**意見** 探偵は、猫より犬を飼うべきだ。

**理由づけ** 体力のいる探偵は、毎日犬と散歩して体をきたえたほうがよいから。

**意見** 探偵は、犬より猫を飼うべきだ。

**理由づけ** 仕事で家を空けることが多い探偵は、毎日散歩をさせるのが難しいから。



**根拠** 正確で客観的な事実
猫は、散歩をさせなくてもよい。

情報整理のレッスン
比較・分類
52ページ

思考のレッスン2
原因と結果
186ページ

**問題1** ▼次の文章には、適切な根拠が示されているか。なぜそう考えたかも合わせて答えよう。

① 伝統文化は大切にすべきだ。なぜなら、とても大事なものだからだ。

② 文化祭の学級展示について、クラスでアンケートを取ったところ、三十五名中、三十名が、「動画を作って発表したい」と答えた。このクラスの展示は動画にするべきだ。

③ 敬語を使う必要はない。尊敬の気持ちは、敬語を使わなくても、自然に相手に伝わると思うからだ。

**問題2** ▼次に示した意見と根拠を結び付ける理由づけを考えよう。

① [意見] 私は、ごみ袋に名前を書くことに賛成だ。
[根拠] この制度を取り入れたN市では、ごみが前の年より八パーセント減った。

② [意見] 私たちは、もっと基礎体力を強化すべきだ。
[根拠] 先週の試合では、後半、疲労でプレーが乱れ、相手チームに逆転された。



新出漢字

138 頼 ライ たのむ たのもしい たよる
138 偵 テイ
139 礎 ソ (いしずえ)

漢字の練習

書く

# 根拠を明確にして書こう

## 資料を引用して報告する

報告の文章を書くときには、どんなことに気をつけるとよいだろう。身近なテーマについての統計資料などを引用し、調べたことや考えたことをわかりやすく伝えるレポートを書こう。

282ページ 発想を広げる

書くことのミニレッスン

**目標**
- 引用のしかたを理解し、活用する。（知る）
- 根拠の明確さなどに対する友達の助言をふまえ、自分の考えが伝わる文章を書く。（書く）

**集める・整理する**

### 1 課題を決め、調べる 144ページ

- 144〜145ページの資料などを参考にしながら、課題を決め、情報を集める。

**組み立てる**

### 2 構成を考える

- レポートの体裁や引用のしかた、出典の示し方を確かめる。
- 集めた情報を整理し、レポートの項目ごとに、書く内容と順序を考える。

**表現する**

### 3 レポートを書く ICT

- 引用のしかたに注意して、調べたことや考えたことを文章にまとめる。
- 引用のしかたや、根拠の明確さなどについて助言し合い、推敲する。

**共有する**

### 4 交流する ICT

- 友達とレポートを読み合い、資料を適切に引用できているかなどについて、伝え合う。

振り返る 143ページ

**生かす**
- 日常　理科や社会の授業でレポートを書く。
- 将来　広告に示された図表の効果を評価する。





235ページ 振り返る
229ページ 構成の工夫
141ページ 根拠の明確化
116ページ 情報整理・構成
55ページ 情報の取捨選択

学びのカギ

## 根拠を明確にして書く

- 調べて考えたことを報告するときには、自分の考えだけを述べるのではなく、根拠となる事実を明確に示す。
- 根拠として確かな情報を選ぶことで、説得力が増す。統計やアンケート結果などの客観的な資料、具体的な事例、専門家の知見などが考えられる。
- 引用する際には、次のことに注意する。
  - かぎ（「　」）でくくるなどして、引用部分を他と区別する。
  - 統計資料から引用する場合は、読み取った情報や数値を正確に示す。
  - 読み手が引用元を確かめられるように、出典を正確に示す。

82ページ 情報収集の達人になろう
280ページ 「学びのカギ」一覧

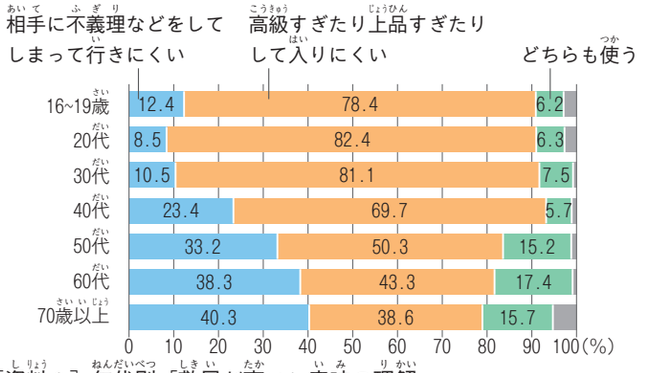
学びの地図

### 文章の引用

調べてみて、言葉は時代とともに変わっていくものなのだということを改めて実感した。日本語の変化について研究する山川夏子氏は、「言葉はそもそも変化するものであるから、変化を全て否定する必要はない。ただし、定着に至る過渡期において、相手に正確に伝えるためには、注意が必要である」（「変化する日本語」p.64）と述べている。

### 図表の引用

「敷居が高い」の意味はどちらだと思うか




［資料1］年代別「敷居が高い」意味の理解
文化庁「令和元年度国語に関する世論調査」（2020年）を基に作成。



## レポートの構成

1 調査の目的ときっかけ…課題（何を調べるのか）と調べようと思ったきっかけ
2 調査の方法……どのような方法で何を調べたか
3 調査の結果……調査からわかった事実
- 小見出しを付けるとわかりやすい。
- 数値や名称などは正確に記す。
- 数値はグラフや表で示すとよい。

4 考察……結果から考えたことや今後の課題
5 参考文献……要約または引用した資料の出典

## 助言をするときの観点の例

- それぞれの項目に、ふさわしい内容を書いているか。
- 「調査の目的」と「方法」や「考察」の内容は対応しているか。
- 資料を効果的に引用しているか。
  - 調べた資料から、根拠として図表や文章を引用する。
  - 自分の考えを補強するために、専門家の知見などを引用する。
- 「参考文献」は、正確に示されているか。

ICT
コメント機能で交流する

341ページ

### 言の葉ポケット

**引用するときの表現**
- ○○によると、……である。
- ○○には、「……」と書かれている。

**考察するときの表現**
［事実を伝える文末表現］
- ……だ／である／ている。

［考えを伝える文末表現］
- ……だろう。／……と考えられる。
- ……といえる。／……と推測できる。

### 達人からのひと言



石黒 圭さん（日本語学者）

引用とは、執筆の際に参考にした先人の知恵を紹介することで、自分の考えを補強し、説得力を高める方法です。引用では、誰がどこで何と言ったのかを明確に示し、先人の知恵に敬意を表すことが大切です。

**振り返る**

- 知る　□どのようなことに注意して、資料を引用したか。
- 書く　□根拠を明確にして自分の考えが伝わる文章を書くために、どんなことに注意したか。
- つなぐ　□説明や報告の文章を読むときに、引用のしかたに注意することでどのようなよいことがあるか、考えてみよう。



## 「敷居が高い」はどういう意味で使われているか

○○年○月○日
1年2組　高木レイナ

### 1 調査の目的ときっかけ

祖母にデパートでの買い物に誘われ、「私には『敷居が高い』よ。」と答えたら、「あら、何か後ろめたいことでもしたの。」と笑われたことがある。私と祖母で、「敷居が高い」の受け止め方が違うことを知り、興味をもった。このレポートでは、「敷居が高い」という言葉の意味を人々がどう捉えているか、調べた結果を報告する。

### 2 調査の方法

①「敷居が高い」の意味を複数の国語辞典で確認した。
② 文化庁「国語に関する世論調査」で、世代別の受け止め方を調べた。
③ 1年2組35名を対象に、「敷居が高い」の意味を尋ねるアンケートを行った。

### 3 調査の結果

①「敷居が高い」の本来の意味（国語辞典の説明の比較）

国語辞典には、「敷居が高い」は、「相手に不義理などをしてしまってその人の家に行きにくい」（「A辞典」p.601）と書かれている。また、私が「敷居が高い」の意味だと思っていた「高級すぎたり上品すぎたりして入りにくい」については、「誤りとされていたが、今では広く普及している」（同上）とするものもある一方、「誤り」（「B辞典」p.642）とはっきり書いているものや、全くふれていないもの（「C辞典」p.479）もあり、さまざまだった（資料1）。

資料1

| 国語辞典＼意味 | 相手に不義理などをしてしまって行きにくい（本来の意味） | 高級すぎたり上品すぎたりして入りにくい |
|---|---|---|
| A辞典 | ○ | ○ |
| B辞典 | ○ | 誤りとされる |
| C辞典 | ○ | 記述なし |

### 4 考察

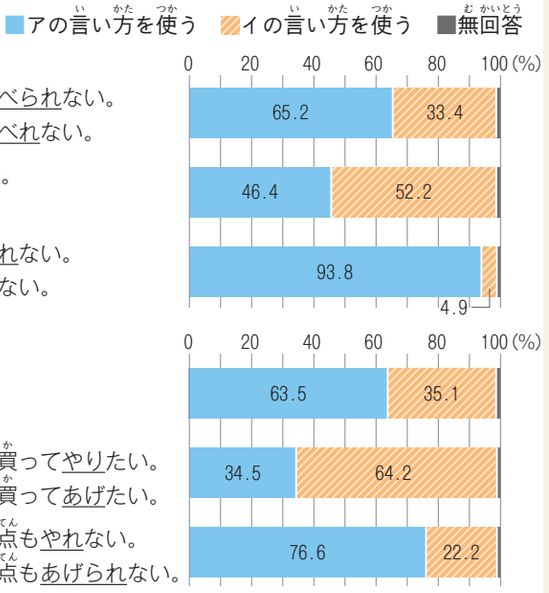
私だけが「敷居が高い」という言葉の意味を勘違いしていたのかと思ったが、文化庁の調査やクラスのアンケートの結果から、非常に多くの人が「敷居が高い」を「高級すぎたり上品すぎたりして入りにくい」という意味で理解していることがわかった。一部の国語辞典では、本来の意味に加えてこの意味を載せていることからも、この意味が広く浸透している現状がうかがえる。調べてみて、言葉は時代とともに……

### 5 参考文献


- ○○○○監修「A辞典」○○書店、2020年
- ○○○○監修「B辞典」△△書店、2018年
- ○○○○監修「C辞典」□□堂、2017年
- 文化庁「令和元年度国語に関する世論調査」https://……　○年○月○日閲覧

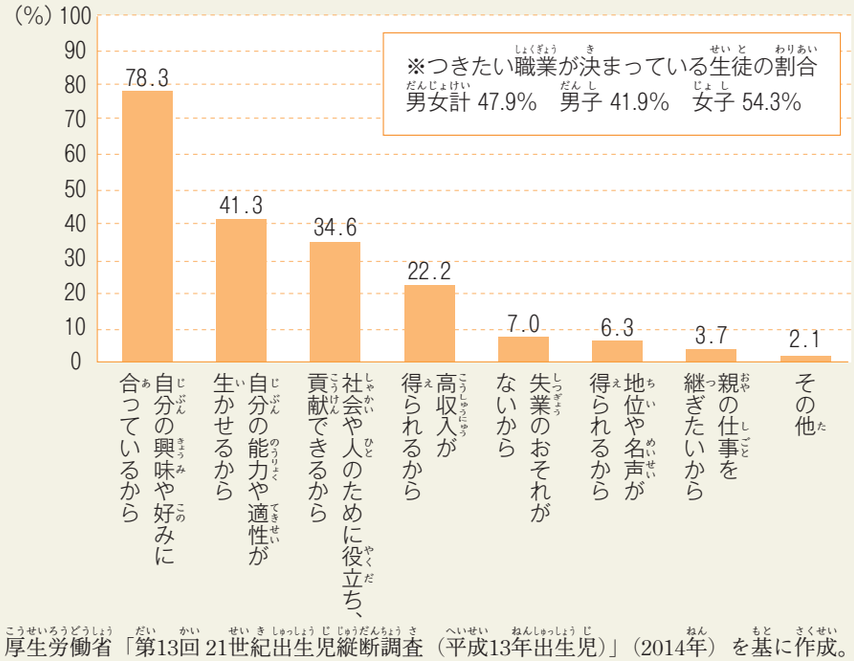
## 資料ア 言葉づかいに関する調査

**次の二つの言い方のうち、あなたが普通使うものはどちらですか。**




文化庁「令和２年度国語に関する世論調査」（2021年）を基に作成。

## 資料イ 将来つきたい職業が決まっている中学１年生の、その職業につきたい理由（複数回答）




厚生労働省「第13回21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）」（2014年）を基に作成。

## 資料ウ 中学生の生活時間（週全体の平均）

| 生理的な活動 | | 社会的な活動 | | 自由時間 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 睡眠 | 食事 | 学業 | 通学 | テレビ 新聞など | スポーツ | 趣味 娯楽 |
| 8時間 24分 | 1時間 26分 | 5時間 57分 | 36分 | 42分 | 37分 | 1時間 1分 |

総務省「令和３年社会生活基本調査」（2022年）を基に作成。

## 資料エ 中学生の５月１か月間の平均読書冊数の推移




全国学校図書館協議会他「学校読書調査」を基に作成。

### 図表を読み取る際のポイント

- **特徴的な数値に注目**
  最大値や最小値、ある部分にだけ見られる数値など。
- **変化に注目**
  増加・減少、変化の大きさ、変化のしかたなど。
- **違いに注目**
  項目（年齢、調査年度など）の比較によって見える傾向など。

**［統計資料の例］** 自分の課題に合った資料を活用しよう。統計資料以外にも、本や新聞記事を引用してもよい。

# 漢字に親しもう３

・は中学校で学習する音訓 321ページ

**1** 次の□の中の言葉を使って、文章を作ろう。

温暖化
生態系
樹木
資源

【漢字の書き】



**2** 次の――線部の言葉を読もう。 308ページ

**小学校で習った漢字**

**中学校で習う漢字**

【漢字の読み（自然）】

① 度重なる台風で苗の出荷が遅れる。［　　］
② 境内に樹齢千年の杉がある。［　　］
③ 入り江近くの店で海の幸を食べる。［　　］
④ 細菌について研究する。［　　］
⑤ 空に美しい虹が架かる。［　　］
⑥ 納豆は大豆を発酵させて作る。［　　］
⑦ つばめが崖に巣を作る。［　　］

**3** 次の□に合う漢字を〈　〉から選ぼう。

【同じ音読みの漢字】

① ヒ〈披・彼〉　(ア) □露　(イ) □岸
② マ〈摩・魔〉　(ア) □法　(イ) □擦
③ シ〈史・旨〉　(ア) □実　(イ) 要□
④ コウ〈肯・黄〉　(ア) □砂　(イ) □定
⑤ ソウ〈挿・掃〉　(ア) □入　(イ) 清□
⑥ バイ〈陪・媒〉　(ア) □審　(イ) □体
⑦ チュウ〈駐・仲〉　(ア) □介　(イ) □車

新出漢字

146 苗（ビョウ）（なえ・なわ）　146 虹（にじ）　146 旨（シ）（むね）　146 媒（バイ）
146 齢（レイ）　146 崖（ガイ）（がけ）　146 酵（コウ）　146 肯（コウ）　146 駐（チュウ）
146 江（コウえ）　146 披（ヒ）　146 挿（ソウ）（さす）　146 陪（バイ）
146 菌（キン）　146 摩（マ）

漢字一覧表



文法への扉 2

# 言葉の関係を考えよう

小説「二十四の瞳」について書いた山田さんの感想文を、友達はわかりにくいと感じているようだ。「私（山田さん）」が「どうした」のかがわかるように書き直そう。

私は、この作品を読んで、大石先生は、長い間、分校の子供たちを思いやり、とてもすばらしい。




文法ワーク

多くの場合、文は、文節どうしが結び付いてできている。

主語と述語が適切に対応した文は、意味を捉えやすい。上の文の場合、例えば、「私は」という主語に対応する述語を補い、「誰が（は）―どうする」の関係に整える必要がある。

また、「長い―間」「とても―すばらしい」のように、修飾する文節―修飾される文節を、適切に結び付けることも大切だ。

「文法２　文の組み立て」を読んで、文節どうしの関係を理解し、相手に誤解を与えないように文を組み立てる方法を身につけよう。

10　5

文法2 **文の組み立て**（246〜250ページ）

1 文節どうしの関係
　1 主・述の関係
　2 修飾・被修飾の関係
　3 接続の関係
　4 独立の関係
2 連文節
3 文の成分
4 文の組み立て

聴きひたる

言葉の響きやリズムを味わいながら聴こう。

朗読音声

# 大阿蘇

三好達治

雨の中に馬がたっている
一頭二頭子馬をまじえた馬の群れが　雨の中にたっている
雨は蕭々と降っている
馬は草をたべている
尻尾も背中も鬣も　ぐっしょりと濡れそぼって
彼らは草をたべている
草をたべている
あるものはまた草もたべずに　きょとんとしてうなじを垂れてたっている
雨は降っている　蕭々と降っている
山は煙をあげている
中岳の頂から　うすら黄いろい　重っ苦しい噴煙が濛々とあがっている
空いちめんの雨雲と
やがてそれはけじめもなしにつづいている
馬は草をたべている
草千里浜のとある丘の
雨に洗われた青草を　彼らはいっしんにたべている
たべている
彼らはそこにみんな静かにたっている
ぐっしょりと雨に濡れて　いつまでもひとつところに
もしも百年が　この一瞬の間にたったとしても　何の不思議もないだろう
雨が降っている　雨が降っている
雨は蕭々と降っている



作者　**三好達治**　一九〇〇（明治三三）――一九六四（昭和三九）　大阪府出身。詩人。
著書　「測量船」「一点鐘」「花筐」「駱駝の瘤にまたがって」など。
出典　「三好達治全詩集 新装版」

**阿蘇**　熊本県にある世界最大級のカルデラを有する複式火山。
**中岳**　阿蘇を構成する山の一つ。
**草千里浜**　「草千里ヶ浜」のこと。牛馬の放牧場になっている。

新出漢字

148 聴 チョウ きく
148 煙 エン けむる けむり けむい
149 噴 フン ふく
149 丘 キュウ おか

漢字の練習

## 広がる読書

「名詩の絵本」川口晴美 編



# 季節のしおり 秋

あなたが秋を感じるのは、どんなときだろうか。紅葉に気づいたとき、冷たい風が吹いたとき、美しい満月を眺めたとき……。作品に描かれた情景の中に、秋を感じてみよう。



この明るさのなかへ
ひとつの素朴な琴をおけば
秋の美くしさに耐へかね
琴はしづかに鳴りいだすだらう

八木重吉「素朴な琴」より

秋風にたなびく雲の絶え間より
漏れ出づる月の影のさやけさ

藤原顕輔

子狐のかくれ貌なる野菊哉

与謝蕪村

## 秋の植物や動物にまつわる言葉

- 花野……すすきやはぎなど、秋の草花の咲く野原のこと。
- 山粧う……紅葉によって色づく頃の、鮮やかにいろどられた山の様子。
- 鳥渡る……秋に入り、北方から海を渡って多くの鳥がやって来ること。

# 6 いにしえの心にふれる

古典の文章に出会い、現代とのつながりを考える

古典の世界 古典・解説

音読を楽しむ いろは歌 古文・音読

蓬萊の玉の枝 ――「竹取物語」から 古文

古典の言葉

今に生きる言葉 漢文

漢文を読む

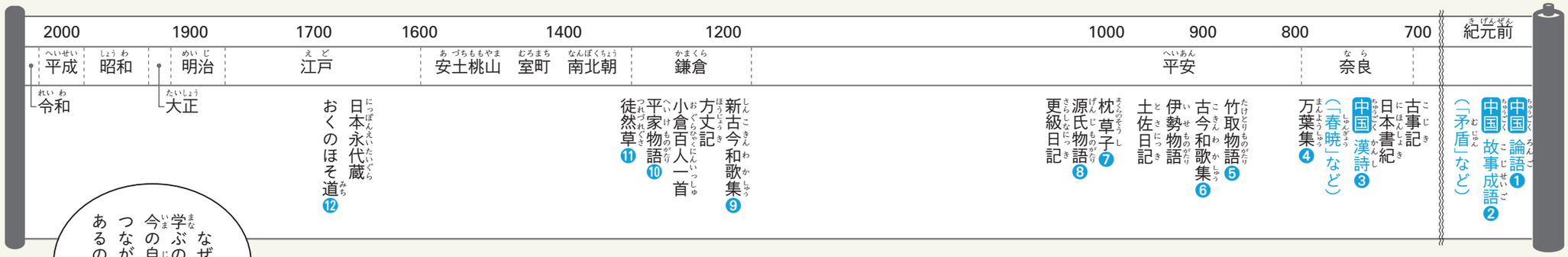


動きを表す言葉 6 そよぐ | 草や木の葉が、風に吹かれて、かすかに音を立てて揺れ動くこと。

# 古典の世界

古典は、長い年月を超えて、今日まで読みつがれてきました。そこには、時代の中で懸命に生きる人間の姿とともに、人々のものの見方や感じ方、豊かな想像力などを見ることができます。現代と言葉づかいや仮名づかいは違っていても、人の心の真実は、いつの時代も変わることなく私たちの胸を打つものです。

和歌や物語、随筆など、三年間でさまざまな種類の古典作品にふれ、「今」「ここ」にはないものに、想像の翼を広げてみましょう。




## 漢文・漢詩の世界

**①論語　三年**
中国古代の思想家・孔子とその弟子たちとの問答集。

**②故事成語　一年**
中国の古典に由来する言葉。現代の私たちの生活にも息づいている。

**③漢詩　二年**
中国、唐代の詩にふれ、情景や心情に思いをはせる。






## 和歌の世界

**④万葉集・⑥古今和歌集・⑨新古今和歌集　三年**
季節の移り変わりに心を動かし、いとしい人を大切に思う。今も昔も変わらない心の感動を、美しく表現した日本の三大歌集。

306ページ 百人一首を味わう

## 平安時代の物語

**⑤竹取物語　一年**
竹から生まれたかぐや姫。五人の貴公子から求婚されて……。日本最古とされる物語。

**⑧源氏物語**
紫式部による長編物語。主人公・光源氏の恋愛と苦悩を描く。





## 戦乱の時代の物語

**⑩平家物語　二年**
平家一族が栄え、ほろんでゆくさまを描いた軍記物語。琵琶法師の語る壮大な人間ドラマ。



## 江戸時代の紀行文

**⑫おくのほそ道　三年**
俳句を詠みながら歩く、松尾芭蕉の紀行文。行程約二千四百キロメートルの大旅行。



## 随筆の世界

**⑦枕草子　二年**
清少納言のするどい感性が光る随筆。

**⑪徒然草　二年**
兼好法師による、ユーモアあり皮肉ありの随筆。



音読を楽しむ

# いろは歌

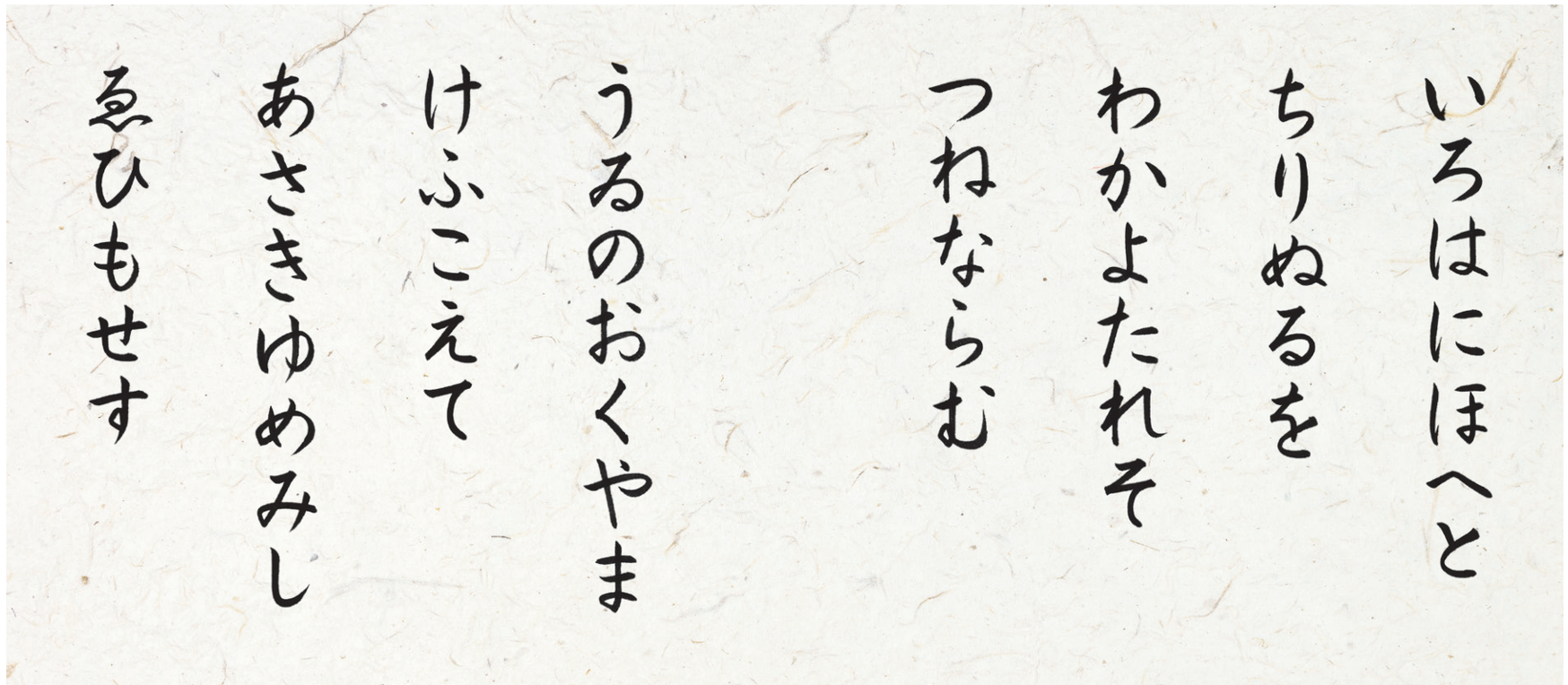
いろは歌は、四十七文字の仮名を一回ずつ使って作られている。仮名のみの原文や、漢字と濁点を当てた歌をくり返し声に出して読み、古文の言葉の響きや調子に慣れよう。

「いろは歌」朗読音声

※①色はにほへど　※色は美しく照り映えていても
散りぬるを　（花は）散ってしまうものである
我が世たれぞ　私たち（が生きている）この世界の誰が
常ならむ　永久に変わらないことがあろうか
②有為の奥山　いろいろなことがある（人生の）深い山を
今日越えて　今日も越えて（いくのだが）
浅き夢見じ　浅い夢など見ることはしない
酔ひもせず　心をまどわされもしない

出典「いろは歌」
現存する最古の「いろは歌」は、平安時代中期に成立した「金光明最勝王経音義」に記されたものであるが、作者は不明である。当時流行した七音・五音を四回くり返す「今様」という歌謡形式になっている。仮名文字一字を一回ずつ使って作られており、仮名を学ぶ手本や、物の順序を示すものとして使われた。後の時代には、最後に「ん」や「京」が付け加えられるようになった。






※二段目は、漢字と濁点を当てて示したもの。
※三段目は、原文を現代語訳したもの。

①色はにほへど＝後に「散る」とあるところから、この「色」は花の色を指す。「にほふ」は美しく照り映える意。
②有為の奥山＝常に一定ではないことを「有為」という。無常であるこの世の中を、越えにくい深い山にたとえたもの。

# 蓬萊の玉の枝——「竹取物語」から

「かぐや姫」という題名でも知られる「竹取物語」。日本最古の物語といわれ、平安時代の初め頃に作られたと考えられている。古典の世界を想像しながら、「竹取物語」を読んでみよう。

読む

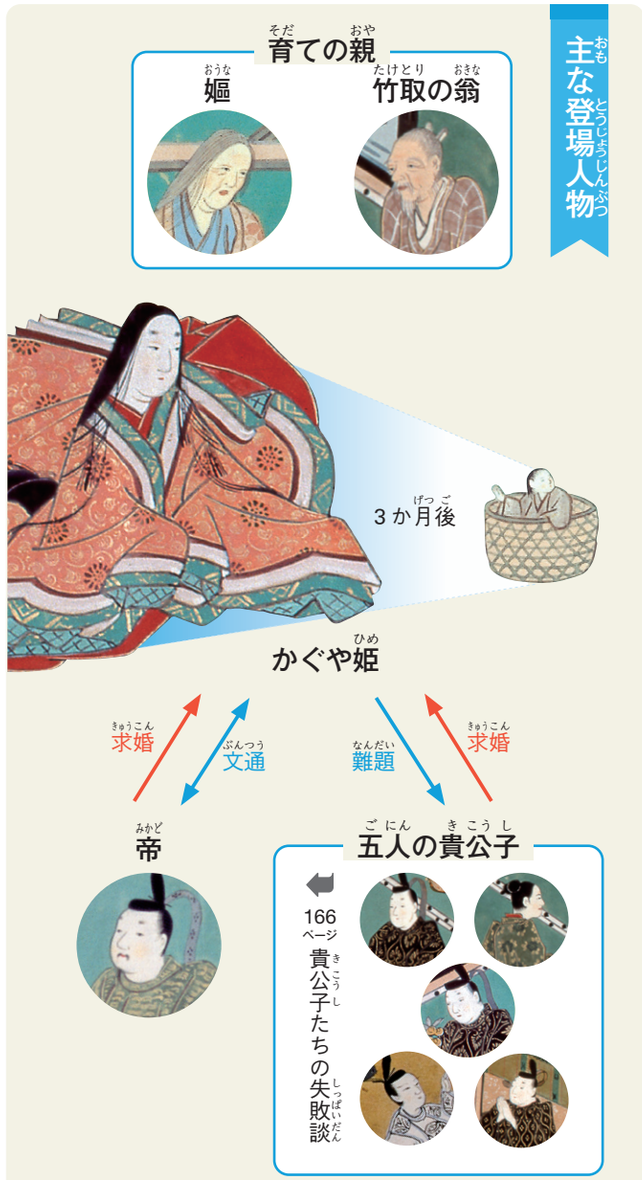
作品を音読し、古典の世界を想像しよう。

［学習活動］

目標

- 仮名遣いに注意しながら音読して古典のリズムを味わい、その世界に親しむ。
- 作品の内容を読み取り、古典の世界を想像する。

「竹取物語」朗読音声




題 **蓬萊の玉の枝** 根が銀、茎が金、実が真珠でできているといわれる木の枝。蓬萊（蓬萊山）は、古代中国の伝説上の理想郷で、中国から見て東の海（東海）にあるといわれる。

図ア **翁** おじいさんのこと。

図イ **嫗** おばあさんのこと。

1 漢 **姫** ひめ　かぐや姫

図 漢 **婚** コン　求婚



一・翁、かぐや姫を見つける（冒頭）


翁と嫗に大切に育てられるかぐや姫

今は昔、竹取の翁といふものありけり。
今ではもう昔のことだが、竹取の翁とよばれる人がいた。

野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。
野や山に分け入って竹を取っては、いろいろな物を作るのに使っていた。

名をば、さぬきのみやつこといった。
名前を、さぬきのみやつこといった。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。
（ある日のこと、）その竹林の中に、根元の光る竹が一本あった。

あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。
不思議に思って、近寄って見ると、筒の中が光っている。それを見ると、（背丈）三寸ほどの人が、まことにかわいらしい様子で座っていた。

8 **三寸** ごく小さいことを表す。一寸は、約三センチメートル。

1 漢 **冒** ボウ　おかす　冒頭

注 7 漢 **筒** トウ　つつ　筒

子供を授かったと喜んだ翁と嫗は、その子を大切に育てた。子供はすくすくと成長し、たった三か月ほどで大人になった。その姿は輝くばかりに美しく、辺りに光が満ちるようであった。そこで娘は、「なよ竹のかぐや姫」と名づけられた。

## 二、五人の貴公子たち



かぐや姫の評判を聞いてつめかけた人々

かぐや姫の評判を聞いて、ぜひ結婚したいと多くの人がつめかけた。かぐや姫は、なかでも熱心な五人の貴公子の求婚を断り切れず、望みの品を持ってきた人と結婚すると、それぞれに難題を出した。どれも入手困難なものばかりだったが、結婚を諦め切れない求婚者たちは、知恵や財産を投じて難題に挑んだ。

その一人、くらもちの皇子は、蓬萊の玉の枝を探しに行くと言って船出をし、ひそかに引き返した。人目につかない家に籠もって、匠たちに、にせの玉の枝を作らせたのだ。三年後、皇子はたった今、船を下りたばかりという様子で翁の家を訪れ、苦難の航海の末に探し当てたという蓬萊山の様子を語った。

3 **なよ竹のかぐや姫**　「なよ竹」は、細くしなやかな竹のことで、竹から生まれたことによる。「かぐや」は「ちらちらと光って揺らめく」という意味の「かがよふ」から命名されたと考えられ、光り輝くほどに美しい姫という意味となる。

15 **匠**　大工・彫刻師・細工師などの職人。

1 訓 **授かる**（さずかる）

3 漢 **娘**　むすめ

10 漢 **諦**　テイ　あきらめる

11 漢 **挑**　チョウ　いどむ

14 漢 **籠**　（ロウ）　こもる





蓬萊の玉の枝を持ってきたくらもちの皇子

これやわが求むる山ならむと思ひて、さ
これこそ私が探し求めていた山だろうと思って、（うれしくはあるのですが）やはり恐ろしく思われて、
すがに恐ろしくおぼえて、山のめぐりをさ
山の周囲をこぎ回らせて、
しめぐらして、二、三日ばかり、見歩くに、
二、三日ばかり、（様子を）見て回っていますと、
天人のよそほひした女、山の中よりいで
天人の服装をした女性が、山の中から出てきて、
来て、銀の金鋺を持ちて、水をくみ歩く。
銀のお椀を持って、水をくんでいきます。
これを見て、船より下りて、「この山の名を
これを見て、（私は）船から下りて、「この山の名は何というのですか。」と尋ねました。
何とか申す。」と問ふ。女、答へていはく、
女性は答えて、

7 **銀**　当時は「しろかね」と清音で読んだ。

7 **金鋺**　金属製のお椀。

1 訓 **訪れる**（おとずれる）

注4 漢 **恐**　キョウ　おそれる　おそろしい
……恐ろしい

「これは、蓬莱の山なり。」と答ふ。これを聞くに、うれしきことかぎりなし。

「これは、蓬莱の山です。」と言いました。これを聞いて、（私は）うれしくてたまりませんでした。

その山、見るに、さらに登るべきやうなし。その山のそばひらをめぐれば、

その山は、見ると、（険しくて）全く登りようがありません。その山の斜面の裾を回ってみると、

世の中になき花の木ども立てり。金・銀・瑠璃色の水、山より流れいでたり。

この世には見られない花の木々が立っています。金・銀・瑠璃色の水が、山から流れ出てきます。

それには、色々の玉の橋渡せり。そのあたりに、照り輝く木ども立てり。

その流れには、色さまざまの玉でできた橋が架かっています。その付近に、光り輝く木々が立っています。

その中に、この取りてまうで来たりしは、いとわろかりしかども、のたまひしに違はましかばと、この花を折りてまうで来たるなり。

その中で、ここに取ってまいりましたのは、たいそう見劣りするものでしたが、（姫が）おっしゃったものと違っていては（いけないだろう）と思い、この花の枝を折ってまいったのです。

ところが、くらもちの皇子が得意げにこう語っているところへ、匠たちが押しかけてくる。千日余りも働かされながら、まだ代金がもらえない、という訴えによって、皇子の策略はあっさりと破れてしまうのである。

他の四人も、目ざす品を手に入れることができず、求婚は全て失敗に終わった。

3 瑠璃　宝石の一種。瑠璃色は、つやのある、むらさきがかった紺色。

4 輝く　当時は「かかやく」と清音で読んだ。

9 皇子の策略は……のである　皇子は失敗の後、何年も身を隠し、やがて姿を現した。原文では、そのようにめったに現れず、たまたま姿を現すことを「玉の枝」の「玉」という言葉にかけて「たまさかに」というようになったそうだ、と言葉遊びを交えて語られている。

10 求婚は全て失敗に終わった　他の貴公子の失敗談については166ページを参照。

注2 漢 斜　斜面

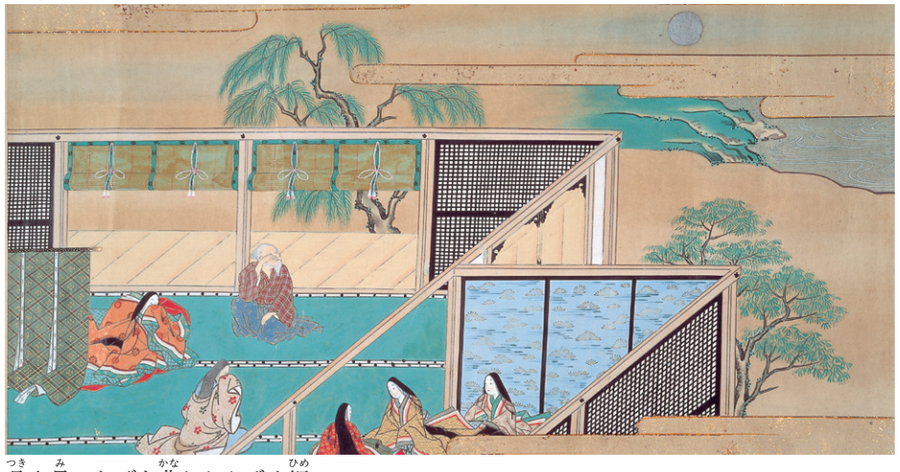
注2 漢 裾　裾

注5 漢 劣　見劣り

8 漢 訴　訴え



## 三．帝からの求婚と、月を見てなげき悲しむかぐや姫



月を見てなげき悲しむかぐや姫

時の帝は、かぐや姫をぜひ宮中に迎えたいと、たびたびお召しになった。しかし、かぐや姫はかたくなにそれを拒み、無理に連れ帰ろうとすると、姿を影に変えて抵抗した。かぐや姫がこの世のものではないことを思い知った帝は、宮中に迎えることを諦め、手紙できずなを深めることにした。

さらに三年が過ぎた。その年の春の初めから、かぐや姫は月を見てはなげき悲しむようになる。秋になって、なげきがいっそう深くなるのを見かねた翁が訳を尋ねると、

「私は、実は月の都の者です。訳あって人間世界に参りましたが、八月十五夜には、月に帰らなければなりません。」

と、涙ながらに打ち明けた。

14 八月十五夜　旧暦の八月十五日の夜のこと。当時は、現代の太陽暦（新暦）に対し、月の満ち欠けと太陽の運行に基づく太陰太陽暦（旧暦）を用いていた。季節は春（一～三月頃）、夏（四～六月頃）、秋（七～九月頃）、冬（十～十二月頃）と分けていた。旧暦八月十五日は、現在の九月から十月頃に当たる。

3 漢 召　召す

# 四. かぐや姫の昇天



天に昇るかぐや姫

中秋の名月の夜、帝は、二千人の兵士を遣わして翁の家を守るようお命じになった。しかし、月の都の人々を見ると、兵士たちはぼうっとして戦意を失い、固く閉ざした戸口も自然に開いてしまった。

天人は泣いて引き止めようとする翁に、

「かぐや姫は天上で罪を犯されたので、このけがれた地上にいらっしゃったのだ。今はその罪も消えたので、こうして迎えに来たのである。早く返しなさい。」

と言う。かぐや姫は天人を待たせ、翁と帝に心の籠もった手紙を書いた。翁には着ていた衣を、帝には、天人の持参した不死の薬を添えた。書き終えると、天人が、かぐや姫に天の羽衣を着せかけた。

ふと天の羽衣うち着せたてまつりつれば、翁を、いとほし、かなしと思しつることも失せぬ。この衣着つる人は、物思ひなくなりにければ、車に乗りて、百人ばかり天人具して、のぼりぬ。

（天人がかぐや姫に）さっと天の羽衣を着せて差しあげると、（かぐや姫の、）翁のことを、気の毒だ、不憫だ、とお思いになっていた気持ちも、消えてしまった。この衣を着た人は、物思いがなくなってしまうので、（かぐや姫は）そのまま飛ぶ車に乗って、百人ほどの天人を引き連れて、（月の世界に）昇ってしまう。

2 **中秋** 旧暦の八月十五日。

1 漢 **昇** ショウ のぼる
……昇天

3 漢 **遣** ケン つかう **つかわす**
……遣わす

6 訓 **閉ざす**（とざす）

8 訓 **犯す**（おかす）

15 漢 **添** テン そえる **そう**
……添える

16 訓 **羽衣**（はごろも）



# 五. ふじの山

かぐや姫が月の都へ帰ってしまうと、翁と嫗はひどく嘆き悲しみ、そのまま病に伏せってしまった。

帝は、かぐや姫から不死の薬を贈られていたが、かぐや姫のいないこの世にいつまでもとどまる気がしない。そこで、

「どの山が天に近いか。」

とお尋ねになると、ある人が、駿河の国にある山が、都からも近く天にも近いとお返事申しあげたので、その山に使者をお遣わしになった。

10 **駿河の国** 昔の国名で、今の静岡県の一部。

6 漢 **伏** フク **せる** **す**
……伏せる

7 漢 **贈** ゾウ ソウ **おくる**
……贈る

御文、不死の薬の壺並べて、火をつけて燃やすべきよし仰せたまふ。

（帝は）お手紙と、不死の薬の壺を並べて、火をつけて燃やすようにと、ご命令になった。

そのよしうけたまはりて、士どもあまた具して山へ登りけるよりなむ、その山を「ふじの山」とは名づけける。

その旨を承って、（使者が）兵士たちをたくさん引き連れて山に登ったということから、その山を（「士に富む山」、つまり）「ふじの山」と名づけたのである。

その煙、いまだ雲の中へ立ち上るとぞ、言ひ伝へたる。

その煙は、いまだに雲の中へ立ち上っていると、言い伝えられている。

出典　「竹取物語」　平安時代初期に成立したと考えられる。作者不詳。「源氏物語」では、「物語の出で来はじめの親」と評されている。原文は、「竹取物語」（新編日本古典文学全集 12）による。




1 訓 文（ふみ）

注2 訓 承る（うけたまわる）

漢字の練習



「竹取物語」は、千年以上の時を超え、今も私たちの心を捉え続けている。さまざまな形で表現された作品にふれ、物語の魅力について語り合おう。

絵本
「かぐやひめ」（秋野不矩画、一九六七年）



映画
「かぐや姫の物語」（高畑勲監督、二〇一三年）



漫画
「まんがで読む 竹取物語 宇治拾遺物語」（谷口孝介監修、二〇一四年）



作家による現代語訳
「竹取物語」（江國香織文 立原位貫画、二〇〇八年）



「竹取物語」（星新一訳、二〇〇八年）





## 広がる読書

「今昔物語集」　平安時代が生んだ日本最大の説話集を、見て読んで楽しむ入門書。



「宇治拾遺ものがたり」　川端善明　鎌倉時代の説話集から、四十七編を現代語訳でわかりやすく紹介。



# 貴公子たちの失敗談

くらもちの皇子以外の四人の貴公子たちも、求婚に失敗してしまう。彼らの失敗談は、言葉遊びでしめくくられている。







## ● 石作の皇子（上段）

**難題 ① 仏の御石の鉢**

**[失敗談]** 天竺（インド）に探しに行くとうそをつき、大和国（奈良県）の山寺から鉢を持ち帰ったが、にせ物と見破られた。

**[言葉遊び]** 石作の皇子が、にせの鉢を捨ててからも姫に言い寄ったことから、厚かましいことを、「鉢」と「恥」をかけて、「はぢ（恥）を捨つ」というようになった。

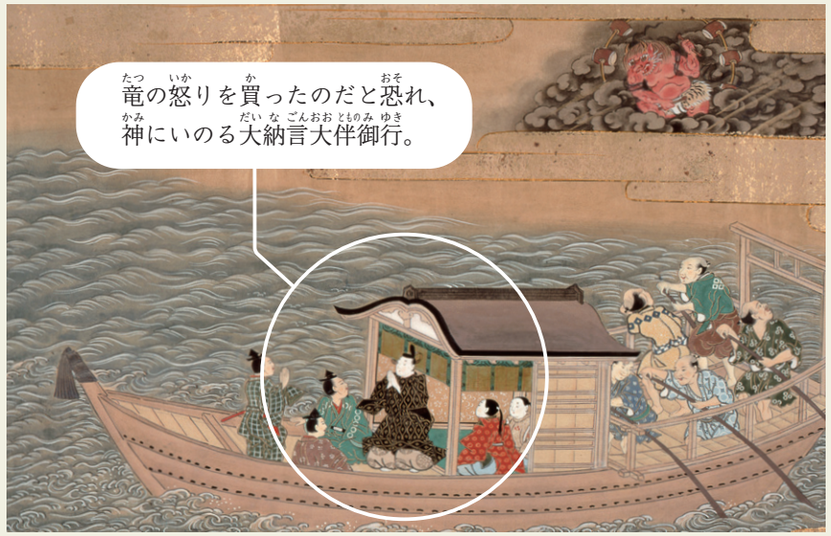
## ● 右大臣阿倍御主人（下段）

**難題 ② 火鼠の皮衣**

**[失敗談]** 唐土（中国）の商人に大金を払い、火をつけても決して燃えない「火鼠の皮衣」を買い求めた。しかし、姫が火にくべさせると、あっさり燃えてしまった。

**[言葉遊び]** 求婚に失敗した右大臣の「阿倍」にかけ、何かを遂行できず、がっかりすることを「あへなし」というようになった。









## ● 大納言大伴御行（上段）

**難題 ③ 竜の首にある五色に光る玉**

**[失敗談]** 自ら探しに船を出すが、あらしで遭難。竜の怒りを買ったと恐れて断念した後、病気で、竜の玉ではなく、すももの玉のように目が真っ赤にはれてしまった。

**[言葉遊び]** そんなすももは「食べがた」（食べられない）と周囲の人が言ったことから、道理に合わない、常識外れなことを、「た（堪）へがた」というようになった。

## ● 中納言石上麿足（下段）

**難題 ④ 燕の持たる子安貝**

**[失敗談]** 自ら籠に乗り、屋根の高さにつり上げさせて巣の中の子安貝を取ろうとした。何かを手にして下りようとした瞬間、つなが切れ、転落。しかも、にぎっていたものは、つばめのふんであった。

**[言葉遊び]** 「貝」を得られなかったことから、期待に反することを「かひ（甲斐）なし」というようになった。

**注** ①仏の御石の鉢＝仏教を開いた釈迦が使ったといわれる、珍しい石の鉢。②火鼠の皮衣＝古代中国の伝説上の動物である火鼠の毛で織った衣服。③竜の首にある五色に光る玉＝伝説上の動物である竜の首にあるといわれる五色に光る玉。④燕の持たる子安貝＝つばめが産卵する際に生じる宝貝。安産のお守り。

## 学びへの扉

**見通しをもつ**

作品を音読し、古典の世界を想像しよう。［学習活動］

**目標**

- 仮名遣いに注意しながら音読して古典のリズムを味わい、その世界に親しむ。（知る）
- 作品の内容を読み取り、古典の世界を想像する。（読む）

**捉える**

### 1 古典の文章を音読し、現代の文章との違いを確かめよう。

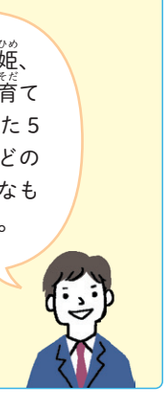
①古典の文章を、リズムを味わいながら、くり返し音読しよう。
②現代語訳や次ページの「古典の言葉」を参考に、現代の文章との違いを確かめよう。

- 「いふもの」「よろづ」「思ひて」など、仮名遣いが違う部分の読み方。
- 「けり」「たり」「なり」など、文末の言葉の違い。
- 「あやし」「いと」「わろし」など、現代とは違う意味で使われている言葉や、現代では使われなくなった言葉の意味。

**読み深める・考えをもつ**

### 2 作品の内容を読み取り、古典の世界を想像しよう。

「蓬萊の玉の枝」に登場する人々の思いや行動について考え、友達と語り合おう。喜びや悲しみなど、現代の人々に通じるところはないだろうか。




**振り返る**

- 知る　□現代の文章と古典とを比べ、どんな違いに気がついたか。
- 読む　□特に印象に残った人物や場面はどこか。
- つなぐ　□古典の物語を読んで、興味をもったことや、もっと知りたいと思ったことを、友達と伝え合おう。



## 古典の言葉

古典の文章には、現代の文章とは異なる言葉が使われている。時代とともに、日本語も変化してきたのである。

古典の言葉（文語）と現代の言葉（口語）には、どのような違いがあるだろうか。仮名遣いや言葉の使い方の変化について考えてみよう。

### 仮名遣いと発音

古典の仮名遣い　　現代の仮名遣い

- うけたまはりて　→　うけたまわりて
- 使ひけり　→　使いけり
- いふものありけり　→　いうものありけり
- 伝へたる　→　伝えたる
- 天人のよそほひ　→　天人のよそおい

――線を付けた「は・ひ・ふ・へ・ほ」について、古くはその仮名のとおり発音されていた。それが平安時代中頃から、語頭以外のハ行の音が、ワ行の「ワ・キ・ウ・ヱ・ヲ」の音に変化した。さらに、「ワ」以外の音が、ア行の音と同じになった。

古典の仮名遣いは、平安時代中頃以前の表記を基準にしたもので、「歴史的仮名遣い」とよばれる。

〈その他の歴史的仮名遣いの例〉

- よろづのことに　→　よろずのことに
- うるのおくやま　→　ういのおくやま
- ゑひもせす　→　えいもせす
- 登るべきやうなし　→　登るべきようなし
- けふこえて　→　きょうこえて
- うつくしうて　→　うつくしゅうて

### 言葉の使い方の変化

古典で使われる言葉には、形は現代の言葉と同じでも、主な意味が変わってしまったものや、現代では言葉そのものが使われなくなったものがある。

〈主な意味が変化した言葉の例〉

- うつくし　→　現代では、主に「美しい・きれいだ」という意味で使われるが、古典では、主に「かわいい・愛らしい」という意味で使われる。

〈現代では使われなくなった言葉の例〉

- いと　→「たいへん・あまりに・とても」
- わろし　→「よくない・見劣りがする・感心しない」

# 今に生きる言葉

私たちが普段、使っている言葉には、中国の古典に由来するものがたくさんある。古くから中国の書物を多く受け入れてきた日本では、そこから名句・名言を取り出して座右の銘にしたり、話や文章に引用したりすることが、よく行われた。それらの言葉の中には、長い年月を超え、今も私たちの生活の中に息づいているものがある。

中国の古典に由来する言葉には、歴史的な事実や古くから伝えられているたとえ話、エピソードなど、故事を背景にもっているものがある。「矛盾」「推敲」「蛇足」「四面楚歌」などのように、故事から生まれた言葉を故事成語という。「矛盾」という言葉は、今から二千年以上も前に「韓非子」という書物に書かれた次のような故事が基になっている。

読む

故事成語について知り、自分の生活と結び付けて考えよう。［学習活動］

目標

- 漢文を音読し、独特のリズムや言い回しに親しむ。
- 故事成語について理解し、自分の生活と結び付けて考える。

「矛盾」朗読音声

3 座右の銘　常に心に留めて、戒めやはげましにする言葉。
7 エピソード　ある物事の特徴や人物像などを具体的に表す、ちょっとした話。
9 「韓非子」　法律により人民を治めようとする思想を展開した、韓非およびその一派の著作を収めたもの。

3 漢 銘　メイ
7 漢 矛　ムほこ
7 漢 盾　ジュンたて
8 漢 蛇　ジャダへび

銘　メイ
矛盾　ムジュン
矛盾　ジュン
蛇足　ダ



## 矛盾

楚人に、盾と矛とを鬻ぐ者有り。之を誉めて曰はく、「吾が盾の堅きこと、能く陥すもの莫きなり。」と。

又、其の矛を誉めて曰はく、「吾が矛の利なること、物に於いて陥さざる無きなり。」と。

或るひと曰はく、「子の矛を以て、子の盾を陥さば何如。」と。

其の人、応ふること能はざるなり。

楚の国の人で、盾と矛を売る者がいた。

（その人が）盾をほめて、「私の盾の堅いことといったら、（これを）つき通せるものはない。」と言った。

また、矛をほめて、「私の矛のするどいことといったら、どんなものでもつき通せないものはない。」と言った。

（そこで、）ある人が、「あなたの矛で、あなたの盾をつき通すとどうなるのかね。」と尋ねた。

その人は答えることができなかったのである。

4 漢 堅　ケンかたい

堅い

漢字の練習


1


3


2


4

出典「矛盾」上段の文章は「韓非子 下」（新釈漢文大系 12）による。

## 学びへの扉

**見通しをもつ**

故事成語について知り、自分の生活と結び付けて考えよう。［学習活動］

**目標**

- 漢文を音読し、独特のリズムや言い回しに親しむ。（知る）
- 故事成語について理解し、自分の生活と結び付けて考える。（読む）

**捉える**

### 1 漢文を、リズムを味わいながら音読しよう。

「矛盾」（171ページ）の上段をくり返し音読し、漢文のリズムや、「曰はく、『……。』と。」といった、特徴的な言い回しに親しもう。

**読み深める**

### 2 本文を読み、故事成語について理解しよう。

①「矛盾」という言葉が、どんな故事に由来し、どんな意味で使われるようになったかを説明しよう。

②「推敲」「蛇足」「四面楚歌」の言葉の意味や、基になった故事を調べてみよう。

**考えをもつ**

### 3 自分の生活と結び付けて考えよう。

自分の体験を思い出し、故事成語を使って短い文章を作ってみよう。




**振り返る**

- 知る　□音読の中で気づいた、漢文独特の言い回しはどんなものか。
- 読む　□挙げられている故事成語は、日常生活の中でどのように使われているか。
- つなぐ　□故事成語の中で、興味をもったものや日常生活で使ってみたいものを挙げてみよう。



## 故事成語を使って体験文を書こう

故事成語には、現代にも通じる生きた知恵がつまっている。自分の生活を振り返り、故事成語が表す意味と同じような体験をしたことがないかを考え、その故事成語を使って体験文を書こう。

**1 故事成語を集める**

辞典などを使っていろいろな故事成語を集め、由来や意味を調べてみよう。

**2 故事成語の意味と体験を結び付ける**

日常生活を振り返り、調べた故事成語の中から、その意味と同じような体験をしたことがないかを考えよう。

**3 体験文をまとめる**

「いつ・どこで・誰が・どうした」というような、具体的な場面や状況、出来事と、故事成語の意味との関連がわかるように注意しながら、二百字程度の文章にまとめよう。

**4 読み合って感想を伝え合う**

書いた文章を友達と読み合い、感想や意見を述べ合おう。また、自分にも同じような体験がないか振り返ろう。

例「漁夫の利」

【由来・意味】しぎと貝が争っているところへ漁師が通りかかり、両方をつかまえてしまったという故事から、両者が一つの事柄について争っているすきに、第三者に利益をやすやすと横取りされることをいう。

**【体験文の例】**

「ただいま。ケーキがあるのよ。」と言って、同窓会に出席していた母が帰ってきた。ケーキは一個。居間には私と姉の二人だけ。

甘いものが大好きな私たちは、今思えば、仲よく分ければよかったのだが、この一個のケーキをめぐり、けんかになってしまった。

私たちがけんかをしている最中に、弟が帰ってきた。彼は、テーブルの上のケーキを見つけると、

「やったあ。今日のおやつはケーキだ。」

と言って、一人で食べてしまったのだ。

これぞ、まさに「漁夫の利」である。

## 漢文を読む

「矛盾」の故事を収めた「韓非子」は、中国の古典であり、原文は次のように漢字だけで記されている。

吾盾之堅莫能陥也

漢字だけで書かれた中国の文章（漢文）を、日本語として読むことを訓読という。ここでは、「矛盾」の故事の一部を例に、基本的な訓読のしかたについて解説する。

### 訓読の方法

漢字だけで書かれた原文（白文という）に、送り仮名や句読点、読む順序を表す返り点を補い、日本語として読めるようにする。古典の言葉・仮名遣いを用いる。169ページ 古典の言葉

● 送り仮名……漢字の送り仮名だけでなく、「て・に・を・は」などを補う。歴史的仮名遣いを用いる。訓読のときは、漢字の右下に片仮名で小さく書く。

● 返り点……読む順序を表す記号。漢字の並びを日本語の語順に入れかえるときに使う。漢字の左下に添える。

・レ点＝下の一字から、すぐ上の一字に返って読む。
・一・二点＝二字以上をへだてて、上に返って読む。

● 句読点……「、」「。」など。原文の句や文の切れ目に補う。

**白文**

誉之曰吾盾之堅莫能陥也

（数字は返り点に従って読む順序を示す。）

**漢文の訓読**

誉レ之曰、「吾盾之堅、莫二能陥一也。」

（送り仮名：②レ ①之 ③曰、／返り点（レ点）／④吾 ⑤盾 ⑥之 ⑦堅、／⑩莫 ⑧能 ⑨陥 ⑪也。／句読点／返り点（一・二点））

漢文を訓読し、漢字仮名交じりの文章に書き改めたものを**書き下し文**という。漢字は原則そのまま使い、送り仮名は平仮名で書く。ただし、「之」「也」など、他の語に付く言葉は平仮名に改める。

**書き下し文**

之を誉めて曰はく、「吾が盾の堅きこと、能く陥すもの莫きなり。」と。

# 7

# 価値を見いだす

発想を転換し、身近なものの新しい側面に光を当てる

## 「不便」の価値を見つめ直す

意見

川上浩司

思考のレッスン2　原因と結果

漢字に親しもう4

［話し合い（進行）］進め方について考えよう

季節のしおり　冬

**話題や展開を捉えて話し合おう**

グループで語り合い、ものの見方を広げる



動きを表す言葉⑦　いてつく　｜　こおりつくこと。厳しい寒さを、「いてつくような寒さ」と表現する。

# 「不便」の価値を見つめ直す

川上 浩司

読む
本文を要約して筆者の主張を捉え、自分の考えをまとめよう。［学習活動］

目標
- 必要な情報を選び、結び付けて要約する。
- 目的に応じて文章を要約し、筆者の主張に対して自分の意見をもつ。

「不便でよかった。」と感じたことはないだろうか。

こう尋ねると、たいていの場合、けげんな顔をされる。「便利でよかった」ならばわかるが、「不便でよかった」とはどういうことか、んてあるはずがない、というわけだ。そこにあるのは、「便利はよいこと」でも「不便は悪いこと」という価値観である。実際に、今の世の中は便利であることをもてはやすものであふれている。テレビやインターネットのコマーシャルを見ていると、「手間要らずで、なんて便利」「もっともっと便利に」という調子のものが多い。

私の専門である機械の設計や工業デザインの分野でも、長い間、便利を追求することが大きな指針であり続けてきた。手間を省き、便利を追求することこそ、人の生活を豊かにすることだと考えられてきたのだ。使う人の手間がかからないよう、また使う人が迷ったり考えたりしなくてもよいようにと、使い方が複雑なものは単純化され、自動化や効率化、高機能化が進められた。以前より手間のかかるものをわざわざ開発することなど、想像もできない。

私も、元は設計の自動化について研究していた。何か欲しいものがあれば、自動的に設計してくれるコンピュータを作れたらどんなにかすばらしいだろうと考えていたのだ。ところが、あるとき、次のような疑問が生じた。全てを自動化できれば楽にはなるが、その分、自分で考えることによって得られる達成感や喜び、技術の向上も望めないことになる。それは、本当に人の生活を豊かにするデザインなのだろうか、と。確かに、便利になることで楽になるという側面はある。そして、それが必要な場面もあるだろう。しかし、一様に便利さばかりを追求し続けることで、私たちの生活や社会は本当に豊かになっていくだろうか。今、便利の追求以外の新たな発想が求められているのではないか。

このような考えから私が着目したのが、これまで見過ごされてきた「不便」の価値である。私は、不便だからこそ得られるよさを「不便益」とよび、その発想を新しいデザインに生かせないか、日々研究している。

そもそも、「不便」とはどういうことだろう。ひと口に「不便」といっても、人によってその言葉の捉え方はさまざまだ。それではしっかりとした分析や議論

9 **工業デザイン**　生活に関わる道具や機器のうち、工業的に大量生産され、大勢の人々に使われるものの企画や設計。
2 けげん 意
9 追求 文
7 訓 要る（いる）



1 複雑 対
9 確かに、……しかし、…… 文
13 見過ごす 関 見落とす　見のがす　見誤る

ができないため、ここでは、何かをするときにかかる労力が多いことを「不便」とよぶこととしたい。つまり、手間がかかったり、頭を使って考えなければならなかったりすることを「不便」、手間もかからず、頭も使わなくてよいことを「便利」とする。

すでに述べたように、一般に、「便利はよいこと」で「不便は悪いこと」だと思われがちだ（図1①）。しかし、私はそうではないと考える。必ずしもいつも「便利はよいこと」で「不便は悪いこと」というわけではなく、「便利」の中にもよい面と悪い面があり、「不便」の中にもよい面と悪い面があると考えるのだ。そうすると、「不便のよい面」と「便利の悪い面」という新しい視点が生まれる（図1②）。

それでは、「不便のよい面」には、具体的にどんなものがあるだろうか。私はこれまで、冒頭の問いをたくさんの人に投げかけ、「不便のよい面」、つまり「不便益」の事例を集めてきた。初めこそけげんな顔をしている人も、「不便」の定義や事例を伝えると、自分なりの「不便益」の事例を教えてくれることが多い。以下では、そうして集めた事例の中から、「不便益」の具体例を幾つか見てみよう。

一つ目は、移動方法についての事例である。ある地点から目的地まで、徒歩で移動する場合と乗り物で移動する場合を比較してみよう。例えば、タクシーと徒歩とを比べると、徒歩のほうが時間がかかったり疲れたりするので「不便」だ。その点、タクシーのほうは、目的地を伝えれば、あとは座っていられるのだからその「便利」である。とはいえ、旅行のときなどには、タクシーよりも徒歩を好む人も多い。タクシーに乗っていれば気づかずに通り過ぎた立ち寄り、人や景色との出会いを楽しむことができるからだ。同じように、普段、大学までバイクで通学していたある学生は、バイクが壊れてしまい、やむをえず徒歩で通学したことがきっかけで、その後、何度も訪れることになるお気に入りのお店に出会えたという。つまり、途中の道のりがあるからこそ、出会いや発見の機会が広がるというよさがあるのだ。

二つ目は、施設のデザインの事例である。施設のデザインについては、段差をなくすバリアフリーという考え方が広く知られている。バリアフリーは、足腰の不自由な人、車椅子やベビーカーを使う人などにとって、必要なデザインである。

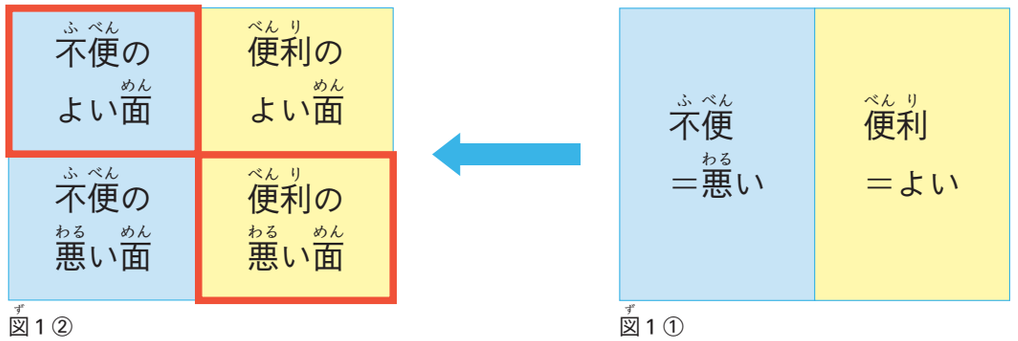


図1① 図1②

16 バリアフリー　障害者や高齢者をはじめ、多様な人が日常生活や社会生活を送るうえで障壁となるもの（バリア）を取り除こうという考え方。道やゆかの段差をなくしたり、階段の代わりにゆるやかな坂道を作ったりするのがその例。制度上や心理的な障壁をなくすという意味でも使われるが、ここでは特に物理的な面について用いられている。

6 漢 般 ハン
14 具体的 対
6 一般に 文
一般 パン



16 漢 腰 ヨウ こし
15 漢 施 シ セ ほどこす
3 漢 幾 キ いく
足腰 こし
施設 シセツ
幾つ いくつ

社会全体にバリアフリーが普及するのは、もちろん望ましいことだ。ところが、あえて段差や坂、階段などのバリアを生かしたり、わざわざ設けたりしている介護施設がある。バリアがあることで、入居者の労力は増える。しかし、バリアを克服しながら日常生活を送ることが、入居者にとっては、そのまま身体能力の低下を防ぐ実践になるというのである。同様に、園庭をわざとでこぼこに設計している幼稚園もある。このように、「身体能力の低下を防ぐ」「身体能力を向上させる」というのも、「不便益」の一つと考えられる。

三つ目は、工場での生産方式の事例である。工場で何らかの製品を作るときの代表的なやり方としては、「ライン生産方式」と「セル生産方式」がある。ライン生産方式は分業型だ。組み立てる製品が目の前を次から次へと流れてきて、各作業者は自分が担当する作業を繰り返す（図2①）。限られた作業を



幼稚園のでこぼこな園庭



介護施設内の急な階段

17 漢 繰 くる
1 漢 及 キュウ およぶ および およぼす
7 実践 意
1 普及 文

普及
繰り返す



繰り返すので、覚えなければならない手順や作業量は比較的少なく、作業者の負担はセル生産方式よりも軽くなることが多い。これに対してセル生産方式では、一人あるいは少人数で、複雑な製品を初めから最後まで作りあげる（図2②）。作業の内容はライン生産方式よりも多様で複雑になるので、作業者一人一人にかかる負担は重くなる。しかし、自分の力で一つの製品を丸ごと組み立てるということは、全体を見渡すことができ、自分なりに工夫できる余地が大きくなるということでもある。それは、作業者のモチベーションを高めるとともに、技術力を高めることにもつながる。

こうして集めた事例を整理すると、「不便益」とは何かが浮かび上がってくる。まだ整理の途中の段階ではあるが、主には次のようなことが挙げられるだろう。

まず、物事を達成するのにかかる時間や道のりが

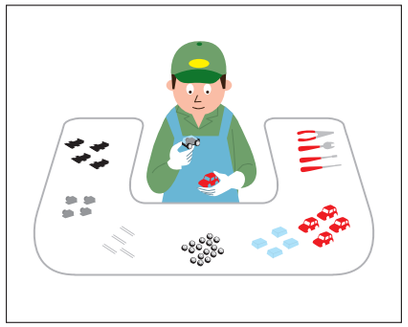


図2② セル生産方式のイメージ

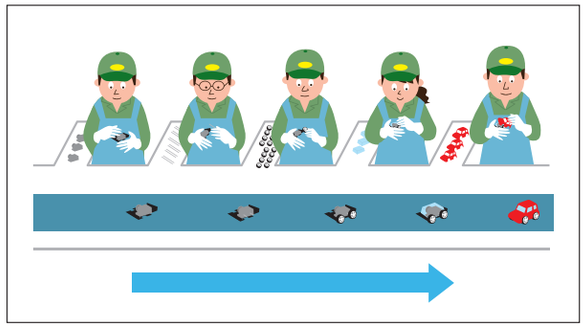


図2① ライン生産方式のイメージ

2 負担 文

11 **モチベーション** ここでは、物事に取り組む際の意欲ややる気のこと。

多くなる分、発見や出会いの機会が増える。次に、体力や知力、技術力の維持や向上を促す。自分の体や頭を使うことが、自然と体力・知力・技術力の低下を防ぎ、それらを向上させるからだ。また、「不便」であることは、人間の意欲を向上させる効果もある。自分で考えたり工夫したりする余地があるからこそ、取り組むときのモチベーションが高まり、成し遂げたときの達成感が大きくなるのだ。なお、一つの事例に複数の「不便益」が含まれることも少なくない。例えば、タクシーよりも徒歩のほうが発見や出会いの機会が増えるとともに、運動能力の低下を防ぐことにもなる。

これらの「不便益」は、「不便」だからこそ得られるものだ。「便利はよいこと」で「不便は悪いこと」という固定観念にとらわれ、ただ無批判に「便利」なほうばかりを選んでいては、「不便」の価値を見落としてしまう。さらに、「便利」はよいこと」という考えの下、社会全体が「便利」だけを追求していけば、私たち一人一人は自分でどちらかを選ぶことすらできないまま、知らぬ間に、本来得られていた楽しさや喜びが失われたり、自分の能力を発揮する機会が奪われたりすることになるだろう。

誤解してほしくないのは、私は便利であることを否定し、昔の不便な生活に戻ろうと言っているわけでも、不便なことは全てすばらしいと考えているわけでもないということだ。「不便」だからこそ得られるよさがあることを認識し、それを生かして新しいデザインを創り出そうというのが「不便益」の考え方なのである。今、この考え方に賛同する仲間たちによって、自動車の運転支援の在り方や観光ツアーの仕掛け作りなど、さまざまな分野で新たな研究や提案がなされ始めている。

「不便益」は、物事のデザインだけでなく、日常生活にもたの日々の生活の中で、「不便で嫌だな。」「面倒くさいな。」物事の中に、実は、新しい気づきや楽しみが隠れているかもの常識とは異なる別の視点をもつことで、世界をもっと多様にようになるはずだ。あなたの周りには、どんな「不便益」があるだろうか。もう一度、生活を見つめ直してみよう。


筆者インタビュー



筆者　**川上浩司**　一九六四（昭和三九）――
島根県出身。工学博士。専門はシステム工学。
著書　「不便から生まれるデザイン」「不便益のススメ」など。
出典　本書のための書きおろし。


（183ページ）

2 漢 **促** ソク うながす　促す
5 漢 **遂** スイ とげる　成し遂げる
12 訓 **下（もと）**
14 漢 **奪** ダツ うばう　奪う
3 漢 **援** エン　支援
7 漢 **嫌** ケン きらう いや　嫌

3 **（「不便益」の考え方を生かした）自動車の運転支援**　運転を完全自動化する形ではなく、手動運転を基本とし、運転技術の向上を促したり運転する楽しさを与えたりする運転支援の研究が進められている。

漢字の練習

**広がる読書**

「不便益のススメ」
川上浩司




「続・中学生からの大学講義1 学ぶということ」
内田 樹 他



## 学びへの扉

**見通しをもつ**

本文を要約して筆者の主張を捉え、自分の考えをまとめよう。［学習活動］

**目標**

- 必要な情報を選び、結び付けて要約する。（知る）
- 目的に応じて文章を要約し、筆者の主張に対して自分の意見をもつ。（読む）

**捉える**

### 1 文章の内容を捉えよう。

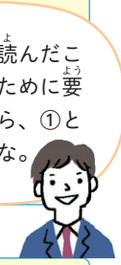
①「不便益」とは何だろうか。筆者の定義を確かめよう。
②筆者が、「不便のよい面」として、どんな事例を基に、どのような点を挙げているか捉えよう。

**読み深める**

### 2 本文を要約し、筆者の主張について検討しよう。

①筆者の主張をつかむために、本文を 200 字程度で要約しよう。
②要約と事例を基に、次の点を検討しよう。

- 筆者が主張する「不便のよい面」は、確かによい面といえるか。
- 筆者が想定する「便利の悪い面」とは何か。




**考えをもつ**

### 3 筆者の主張に対する自分の意見を書こう。

次の条件で、筆者の主張に対する自分の意見を書いてみよう。

- 筆者の主張に賛成か反対か、立場を明確にする。
- 本文の要約や引用を基に、自分の意見を述べる。
- 自分の意見の根拠となる事例を挙げる。

**振り返る**

- 知る　□ どのような点に着目して、要約に必要な情報を選んだか。
- 読む　□「要約」とは何か。「要旨」との違いを明確にして説明しよう。
- つなぐ　□ 生活や他教科の学習の中で、要約が役立てられる場面を一つ、挙げてみよう。



185ページ 目的に応じた要約
137ページ 構成や展開の効果
51ページ 文章の構成
45ページ 段落の役割

学びのカギ

## 目的に応じて要約する

**要約のしかたは目的しだい。**

- 目的や相手に応じて、適切な要約のしかたを考え、必要な情報を選ぶ。
- 文章全体を見通したうえで、各段落の中心的な部分を端的にまとめる。題名や本文に繰り返し出てくる言葉（キーワード）、段落の中心となる文（キーセンテンス）などを重視する。
- 要約をすると、文章の要点や、筆者の主張の核となる部分が明確になる。

**【学習で用いる言葉】**

**要約**　目的や必要に応じて文章の内容を短くまとめること。

278ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図

**【要約のしかたを考える】**

要約の目的・相手 → 必要な情報

- キーセンテンス：段落の中心となる文。段落の最初か最後にあることが多い。
- キーワード：文中に繰り返し出てくる言葉。

段落　段落　段落 → 要約

キーワードやキーセンテンスを中心にまとめる。




**言の葉ポケット**

「便利」・「不便」に関連する語句を、本文から抜き出そう。また、自分でも考えたり調べたりしてみよう。274ページ 語彙ブック

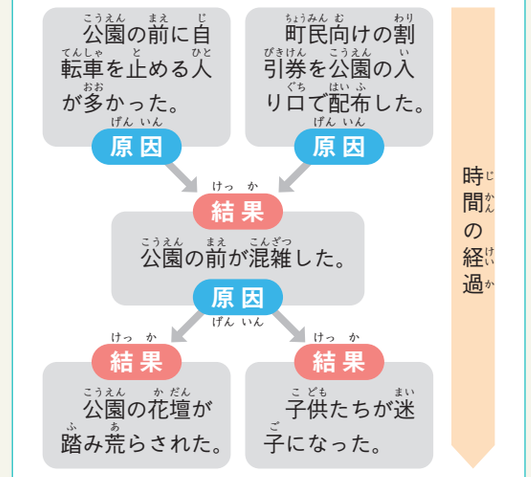
情報

# 思考のレッスン2 原因と結果

何かを引き起こす元になるものを**原因**、それによって引き起こされた状態を**結果**という。話の筋道を理解するためには、原因と結果の関係を捉えることが大切だ。

A町の秋祭りでは、B公園の前がたいへん混雑した。それによって、子供たちが迷子になるなどの混乱も起きた。また、残念なことに、公園の花壇が踏み荒らされたという報告もある。町民向けの割引券を公園の入り口で配布したことと、公園の前に自転車を止める人が多かったことが原因と考えられる。



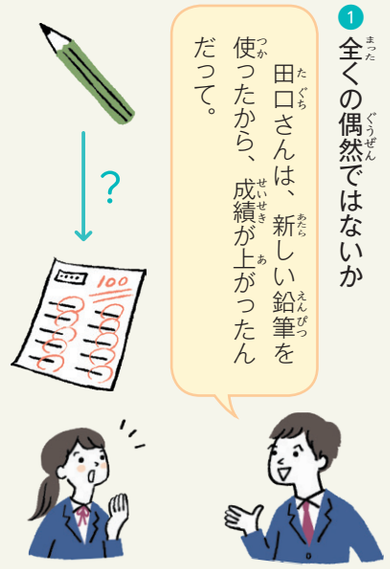




**原因と結果**を表す言葉
- ……によって、
- ……から、
- ……となったのは、……のためと考えられる。
- 原因として考えられるのは、……だ。
- この結果から考えられる原因は、……だ。

思考のレッスン1 意見と根拠 ➡ 138ページ
情報整理のレッスン 比較・分類 ➡ 52ページ

## ■原因と結果のつながりを確かめる

原因と結果を表す言葉を使っていても、そのつながりに無理がある場合もある。次の❶～❸の観点で、原因と結果の関係を確かめよう。




**❶ 全くの偶然ではないか**

田口さんは、新しい鉛筆を使ったから、成績が上がったんだって。

**チェックポイント**
- ☑ 話の筋道を理解したり、筋道を立てて書いたり、話したりするときには、次のことに気をつけよう。
- ☑ 話の中にどんな事実が含まれているか。
- ☑ それぞれの事実がどのような言葉でつながっているか。
- ☑ 原因と結果のつながりに無理はないか。

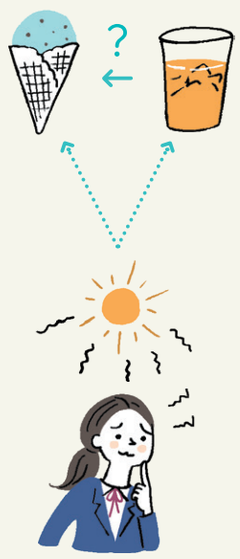
**❷ 原因と結果が逆ではないか**

先生が注意する回数が多いクラスほど、忘れ物が多い。先生の注意の多さが、忘れ物が増える原因だ。




**❸ 隠された別の原因はないか**

冷たいジュースがたくさん売れると、アイスクリームもよく売れるんだよ。




**問題1** ▼ 次の文章に含まれる事実を抜き出し、それぞれ、どのような関係でつながっているか考えよう。

小笠原諸島は、一度も大陸と陸続きになったことがない火山島である。隔離された環境によって、島の生き物たちは独自に進化した。そのため、小笠原諸島には、姿、形、性質が本州とは異なる生き物が数多くいる。

**問題2** ▼ 次の①～③は、話の筋道に無理がある。原因と結果の関係に着目して、反論を考えよう。

① 毎日遠くの山を見るようにしたら、急に体力が向上した。

② この川の水質がよい原因として考えられるのは、イワナが多く生息していることだ。

③ 私のクラスでは、図書館を利用する回数が多い人ほど、ひと月に買う本の冊数が多い。図書館を利用することによって、本を買う機会が増えることがわかった。

新出漢字

| | | | |
|---|---|---|---|
| 186 壇 | ダン（タン） | 186 踏 | トウ ふむ ふまえる |
| 186 隔 | カク へだてる へだたる | 186 環 | カン |
| 187 偶 | グウ | | |

漢字の練習

# 漢字に親しもう 4

・は中学校で学習する音訓 321ページ

**1** 次の□の中の言葉を使って、文章を作ろう。 260ページ

意欲　困難　感激　危険

【漢字の書き】



**2** 次の――線部の言葉を読もう。【漢字の読み（様子・心情）】 308ページ

① 彼女は現役引退後も忙しい。［　　］
② 斬新な発想で困難を乗り越える。［　　］
③ 希望の職に就けるよう、祈願する。［　　］
④ 兄は食欲旺盛だ。［　　］
⑤ 先輩は芯の強い人だ。［　　］
⑥ 完璧な演技に心を奪われる。［　　］
⑦ 緊張のあまり鼓動が速くなる。［　　］

**3** ［　］に合う言葉を□から選び、文を作ろう。【漢字の訓読み】

① お湯が［　　］
② くぎを［　　］
③ 体力が［　　］
④ 牛乳を［　　］
⑤ のどが［　　］
⑥ お金を［　　］
⑦ 腰を［　　］
⑧ 神社に［　　］

稼ぐ　渇く　据える　沸く　衰える　詣でる　搾る　刺す

新出漢字

188 忙（ボウ）いそがしい　188 斬（ザン）きる　188 祈（キ）いのる　188 旺（オウ）
188 芯（シン）　188 壁（ヘキ）　188 鼓（コ）（つづみ）　188 稼（カ）かせぐ　188 渇（カツ）かわく
188 据（キョ）すえる・すわる　188 沸（フツ）わく・わかす　188 衰（スイ）おとろえる　188 詣（ケイ）もうでる
188 搾（サク）しぼる　188 刺（シ）さす・ささる

漢字一覧表



話す 聞く

## 進め方について考えよう

［話し合い（進行）］



▼二次元コードの動画を視聴しよう

台本は190ページ

来月開催される異文化交流会について、グループで話し合っている。進行役の発言に注目して、話し合いの様子を視聴し、下の問題に取り組もう。

話し合いをよりよく進めるためには、どのようなことに気をつければよいだろうか。ここでは、進行役の発言に注目しながら考えてみよう。

### やってみよう

**1** **進行役の発言の中で効果的だと思ったものを書き留めよう。**

効果的な工夫（例）
・今日の話し合い→何をプレゼントするかを決めましょう。
・

**2** **1で書き出した発言について、いいと思った理由を話し合おう。**

**［話し合いの様子］**

進行役　来月の異文化交流会では、ゲストの方により深く日本を理解してもらうために、日本のよさが伝わるものを贈ることになりました。今日の話し合いでは、何をプレゼントするかを決めましょう。ゲストは三人で、タイ、オランダ、ブラジル出身の留学生です。予算は、ゲスト一人につき、五百円以内です。何かいいアイデアはありますか。

中川　「折りづる」はどうでしょう。日本で親しまれているものだし、「Origami」として海外でも知られていると聞きました。

進行役　「折りづる」という意見が出ました。松本さん、どうですか。

松本　折りづるといえば、うちのおばあちゃんは折り紙の名人で、講師の資格も持っています。

進行役　松本さん、興味は引かれるのですが、まずは、プレゼントを何にするかを決めましょう。他に意見はありますか。

高木　手渡しをするプレゼントではないですが、歌はどうでしょうか。「赤とんぼ」とか「ふるさと」とか、私たちが日本の歌を歌って、ゲストの方にもその国の歌を披露してもらったら、きっと盛り上がりますし、異文化交流にもなると思います。

進行役　ここまでに「折りづる」「歌」という二つの意見が出ました。他にありますか。あと五分ぐらい、アイデアを出し合ってから絞り込んでいきたいと思います。（後略）

## よりよい話し合いにするために

| 役割 | 全員 | 進行役 |
|---|---|---|
| 効果的な工夫（上記――部分） | ●参加する全員が話しやすい雰囲気をつくる。<br>→威圧的な話し方をしないようにする。<br>→うなずいたり、相づちを打ったりしながら聞く。<br>わからないことは質問する。 | **話し合いの初め**<br>●話し合いの目的や条件を確認する。<br>●何かを一つに決める、幾つかアイデアを出すなど、話し合いのゴールを確認する。<br>**話し合いの途中**<br>●話がそれたときは、元の話題に戻す。<br>例「今の話題は○○なので、それに関する意見をお願いします。」<br>●必要に応じて、これまでに出た意見を整理する。<br>例「ここまでに○つの意見が出ました。」 |

272ページ 語彙ブック



## 季節のしおり　冬

あなたが冬を感じるのは、どんなときだろうか。かれ葉の上を歩くとき、初雪を見たとき、息の白さに気づいたとき……。
作品に描かれた情景の中に、冬を感じてみよう。

太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪ふりつむ。
次郎を眠らせ、次郎の屋根に雪ふりつむ。

三好達治「雪」より

なつかしき冬の朝かな。
湯をのめば、
湯気がやはらかに、顔にかかれり。

石川啄木

きつぱりと冬が来た
八つ手の白い花も消え
公孫樹の木も箒になつた

高村光太郎「冬が来た」より

### 冬の植物や動物にまつわる言葉

- 樹氷……水蒸気や霧が木の枝などに吹きつけられ、氷結したもの。氷の花が咲いたようになる。
- 山眠る……草木がかれ落ちた頃の、ものさびしく、静まりかえった山の様子。
- ふくら雀……寒さを防ぐため、雀が全身の羽毛をふくらませている様子。

# 話題や展開を捉えて話し合おう

## グループで語り合い、ものの見方を広げる

話し合いは、自分とは異なる視点や考え方との出会いでもある。よい話し合いは、自分の視野や考え方を広げてくれる。これからの話し合いを価値あるものにするために、よりよい話し合いのしかたを学ぼう。そして、心を開いて語り合おう。

表現テーマ例集

**目標**
- 意見と根拠を明確にして話し合う。（知る）
- 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる。（話・聞）

**集める・整理する**

### 1 目的と話題を確認する
- 話し合う目的（何かを決める／解決策を見つける／考えを広げる）を確認する。
- 話題を確認する。

**組み立てる**

### 2 自分の意見をまとめる
- 自分の意見と、そう考える根拠をノートに書き出す。

**伝え合う**

### 3 グループで語り合う
- 話題や展開を捉えて語り合う（録画）。
- 付箋を使って整理するなど、話し合いを可視化しながら進める。

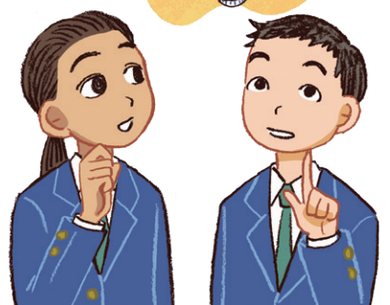
**共有する**

### 4 話し合いを振り返る ICT
- 録画を視聴して話し合いを振り返り、効果的だと感じた発言などを共有する。
- グループでの話し合いの結果を、代表者がクラス全体に報告する。

振り返る ← 195ページ

**生かす**
- 日常　映画や小説の感想を語り合う。
- 将来　新商品の企画を話し合う。





235ページ 振り返る
193ページ 話題や展開
122ページ 質問
35ページ 話の構成

**学びのカギ**

## 話題や展開を捉えて話し合う

- 話し合いの目的や話題を確認し、自分の考えをもって参加する。
- 他の人の意見と自分の意見の共通点と相違点に注意しながら聞き、他の人の意見と結び付けて質問したり、自分の考えと関連づけて述べたりする。
- 話し合いのポイントを文字や図で書き出したり、今、話し合っている話題を確認し合ったりして、話し合いの展開を捉えるようにする。
- 話がそれたときは、進行役が軌道修正し、元の話題に戻す。

138ページ 思考のレッスン1　意見と根拠
176ページ 「不便」の価値を見つめ直す
280ページ 「学びのカギ」一覧

学びの地図

| | |
|---|---|
| 話し合いの目的 | 話し合って考えを広げる |
| 話題 | 私が見つけた「不便益」 |

### 話題や展開を捉えて話し合うには

**話題を整理する**
- ここまでに○○と□□の観点から意見が出ました。
- 「○○」の定義に戻って考えると、今の意見は……。

**目的や話題を確認する**
- 今日の話し合いの目的は、○○することです。
- まずは○○、その後□□について話し合います。

**話題を転換する**
- 私も同じ意見です。ただ、○○の点では……。
- 確かに○○ですが、別の視点から考えると……。

**他の人の意見を受ける**
- ○○さんの意見で、□□への理解が深まりました。
- 最初は○○でしたが、今は□□と考えています。



## ■グループで話し合う



### 話題と目的を確認し、意見を述べる

高木進行役：❶「私が見つけた『不便益』」について語り合います。目的は、自分の考えを広げることです。❷まずは一人ずつ、自分が見つけた「不便益」を挙げていきましょう。田村さんから、時計回りにどうぞ。

田村：はい。僕は、鉛筆かな。

林：私は、紙の時刻表に「不便益」を感じたよ。（中略）



### 意見の根拠を説明する

高木進行役：ありがとうございます。じゃあ、次は順に、根拠を聞かせてください。意見と根拠を付箋で整理しながら進めていこう。まず、田村さん。田村さんはなぜ、鉛筆に「不便益」を感じたのですか。

田村：はい。❸鉛筆って、すぐに芯が折れたり丸まったりするでしょ。❹そのたびに削らなくちゃいけない。❺押せば芯が出るシャープペンシルと比べると、そこは「不便」だよね。でも、❻鉛筆のほうが、勉強した実感はもちやすい。だって、❼鉛筆が短くなるのは、書いて削ってを繰り返した証拠だから。❽自分のがんばりが目に見えてわかる。そこが「不便益」だと思うんだ。



### 語り合って考えを深める

高木進行役：なるほど。❾『不便』の価値を見つめ直す」によると、「不便益」の定義は「不便だからこそ得られるよさ」だから、ぴったりだね。

松本：初めは「鉛筆？」と思ったけど、❿田村さんの話を聞いて納得したよ。僕も同じような経験をしたから。小学生のとき、親が短くなった鉛筆を捨てずに取っておいてくれたんだ。お菓子の缶がいっぱいになったのを見て、がんばった自分に自信をもてた。「がんばりが目に見えてわかる」って、そういうことだよね。

田村：そうそう、そういうこと。すてきなエピソードをありがとう。

高木：鉛筆の⓫「不便益」を、他の視点から語れる人はいますか。

林：はい。田村さんの意見を聞いて思い出したんだけど、みんな、絵を描くときは断然、鉛筆だよね。シャープペンシルだと、線の太さを調節できないから。削るのは「不便」だけど、だからこそ、芯の太さを調節できる。これも鉛筆の「不便益」じゃないかな。（中略）

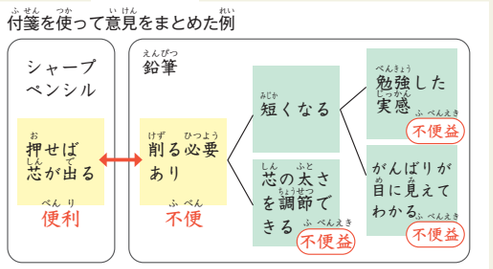


### 話し合いの結果をクラス全体に報告する

高木進行役：一班では、⓬鉛筆や紙の時刻表、フィルム式のカメラ、なべでお米をたくことという意見が出ました。特に盛り上がった「鉛筆」については、「削らなくてはいけない」という不便に対して、「使った分だけ、がんばりが見える」「芯の太さを調節できる」など、いろいろな角度から「不便益」を見つけることができました。⓭話し合いを通して、それぞれが考えを広げ、「不便益」への理解も深まりました。

▼話し合いで出た、主な意見(⓬)とともに、目的が達成できたかどうか(⓭)を報告する。

付箋を使って意見をまとめた例




▼意見と根拠、その二つを結び付ける理由づけを明確に述べる。

❺意見1
→❸根拠・❹理由づけ
❻意見2
→❼根拠・❽理由づけ

▼互いの発言を結び付けて、考えを深める。

❾必要に応じて、定義に戻って検討する。
❿友達の意見に自分の体験（根拠）を重ねて、意見を支持する。
⓫別の角度から意見を述べ、視野を広げる。

**振り返る**

- 知る　□どのような点に気をつけて、意見と根拠を話したり聞いたりしたか。
- 話す・聞く　□話題からそれないように話したり、他の人の発言と結び付けて話したりするために、どのような工夫をしたか。
- つなぐ　□話題や展開を捉えて話し合うにあたって、効果的だと思った友達の発言を挙げてみよう。



アイシーティー ICT
録画して振り返る

341ページ

**言の葉ポケット**

**他の人の意見を受ける**
- はい。／なるほど。／まさに。
- 私も同じ意見です。／私は違う意見です。
- それは思いつきませんでした。
- いい着眼点ですね。

**他の人の話からつなげる**
- 今の意見に関連して／補足して
- ○○さんの意見を聞いて思い出したのですが、……

**話を引き出す質問**
- ○○について、どう思いますか。
- なぜ、○○に□□を感じたのですか。
- 今の意見に重ねて、何か言えることはありますか。
- 他の視点から見て、どうですか。

272ページ 語彙ブック

いつも本はそばに

読書

# 研究の現場にようこそ

読書は、未知への扉。今回の水先案内人は研究者。あふれる研究を通して見える世界は、はたしてどんなものなのか。知的好奇心をかき立てる、研究の現場をのぞいてみよう。

## 四百年のスローライフ①

渡辺 佑基

この文章は、「進化の法則は北極のサメが知っていた」を基に、北極海にすむニシオンデンザメの生態について説明したものである。

水温零度に近い過酷な環境で生きるサメがいる。ニシオンデンザメである。北極を含む北大西洋最北部の深海に生息し、最大で体長は六メートル、体重は一トンにもなる。世界で五百種以上いるサメ類の中でも、最も低温に適応した②種だ。

二〇一六年、デンマークのニールセン博士らの研究グループは、このサメの寿命と成長速度に関する論文を発表した。サメ類は一般に、生きているかぎり成長し続けるため、長生きの個体ほど体が大きい。博士らは、さまざまな大きさのニシオンデンザメを捕獲し、体の組織を分析することで、その年齢を推定した。結果は驚くべきものだった。体長二メートルの「赤ちゃんザメ」でさえ五十歳以上、大人になったばかりと



筆者 **渡辺佑基** 一九七八（昭和五三）――
岐阜県出身。生物学者。
著書「進化の法則は北極のサメが知っていた」「ペンギンが教えてくれた物理のはなし」など。



ニシオンデンザメ



みられる四メートルほどのメスは百五十歳前後と推定された。さらに、種としての最大サイズに近い体長五メートルの個体に至っては、約四百歳と推定された。寿命四世紀以上。これほど長生きをする③脊椎動物は他に知られていない。

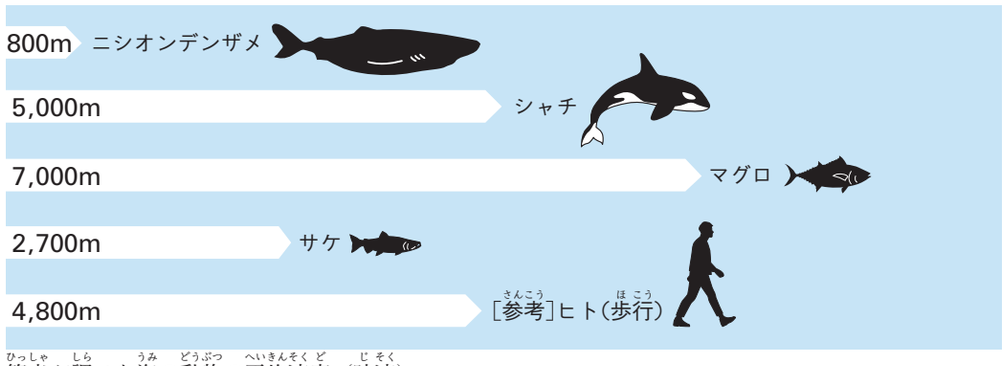
では、ニシオンデンザメは酷寒の海で、その長い一生をどのように過ごしているのだろうか。

私はこの疑問に答えるために、動物の体に記録計を取り付ける「バイオロギング」という手法を使って、ニシオンデンザメの行動パターンを調べた。遊泳速度は平均して時速八百メートル程度で、私たち人間の歩く速度よりもはるかに遅かった。私の過去の研究によれば、ほとんどの魚の平均的な遊泳速度は、時速二キロメートルから七キロメートル程度である。体の大きな魚ほど、一回の尾びれの振りで前進する距離が長く、速く泳ぐ傾向がある。それならば、巨体をほこるニシオンデンザメは、サケやタラよりもずっと速く泳いでしかるべきだが、実際にはそうではなかった。体の大きさによる有利不利を差し引いて公平に比較すると、ニシオンデンザメは、今までに計測されたどんな魚よりも遊泳速度が遅いことがわかった。

さらに詳しくデータを解析すると、ニシオンデンザメは、尾びれを左右に振る往復運動に七秒もかかることが判明した。サメが泳ぐ様子を頭の中で想像しながら、七秒をカウントしてみれば、これがいかにのんびりした動きなのかわかるだろう。ニシオンデンザメとほぼ同じ大きさで、熱帯に生息するイタチザメの場合、同じ尾びれの



記録計を取り付けているところ（右端が筆者）




筆者が調べた海の動物の平均速度（時速）

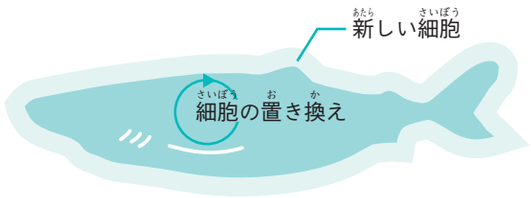
往復運動に約二秒しかかからなかった。

そんなニシオンデンザメも時おり、急激に遊泳速度を上げる動きを見せた。おそらく獲物を追いかけているのだろう。驚いたことに、その頻度はわずか二日に一回であった。温帯、熱帯域に生息する別のサメ類が、一日に十回以上、遊泳速度を上げて獲物を追いかける動きを見せるのとは対照的である。低温で暮らし、運動量の少ないニシオンデンザメは、他のサメ類に比べてエネルギーの消費量が極端に少ない。そのため食事をたまにとるだけで、十分に生きていけるのだろう。

以上の結果から、ニシオンデンザメは、北極の深海で極端なスローライフを送っていることがわかった。七秒に一回尾びれを振り、時速八百メートルでのろのろと泳ぎ、二日に一回だけ獲物を追いかけるという静かな生活である。他のサメが一日でこなす活動を、このサメは何日もかけて行っているともいえる。

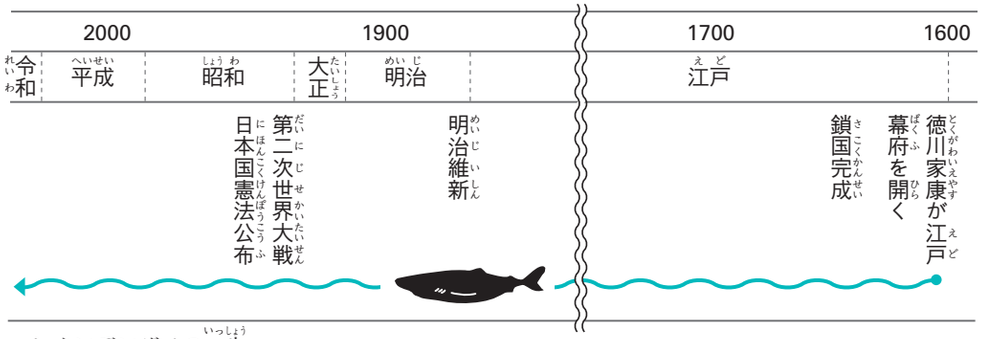
ニシオンデンザメの動きのにぶさは、主に極端に低い水温に起因すると考えられる。動物の生命活動――筋肉を収縮させて体を動かしたり、食べ物を消化してエネルギーに変えたりといったもろもろの活動――は、根源的には全て化学反応に基づいている。そして化学反応の速度は、温度によって大きく変わる。例えば、恒温動物である人間の体温は三十七度前後に保たれているが、この温度のときに、いろいろな化学反応が最適な速度で起こる。いっぽう、変温動物の体温は、周囲の温度によって変わる。カメやトカゲが昼間にひなたぼっこをするのは、夜に下がった体温を上げ、体内で起こる化学反応を活発にして、活動量を上げるためである。しかし、ニシオンデンザメの暮らす北極の海は、深さによっても時間帯によっても水温が変わらず、常に冷たい。このサメには体温を上げる手段がないのだ。安定した低体温のために、筋肉の収縮速度が常に遅く、したがって尾びれの振りが遅く、ひいては遊泳速度が遅いと考えられる。

北極の低水温の影響は、ニシオンデンザメの日々の暮らしだけでなく、その異常に遅い成長速度と異常に長い寿命にもはっきりと見て取れる。生命活動を維持するために、動物は古くなった細胞を常に新しい細胞に置き換えている。体を今より大きく成長させるためには、現状維持を上回るペースで新しい細胞を生み出さなくてはならず、ニシオンデンザメのような巨体ともなれば、おびただしい数の新しい細胞が必要になる。それ



成長のイメージ図





ニシオンデンザメの一生

にもかかわらず、低水温下ではさまざまな生命活動のペースが低下し、一つ一つの細胞を生み出すのに長い時間がかかるようになる。そのため、低体温と巨体という二つの要素が組み合わさると、数世紀にわたる成長や寿命という、耳を疑うような結果がもたらされるのである。

現在の体長が五メートルであるニシオンデンザメがこの世に生まれたのは、一六〇〇年代の初め、徳川家康の時代である。徳川は十五代続いてついに終焉を迎え、幕末の動乱を経て明治政府ができた。幾たびかの戦争を経て日本国憲法が公布され、その後も数え切れない自然災害や事件が起こり、インターネットとコンビニエンスストアに囲まれた現代の生活が形成された。この気の遠くなるような長い時間、その一匹のニシオンデンザメは北極の深海で七秒に一回尾びれを振り、時速八百メートルでのろのろと泳ぎ、二日に一回獲物をとらえながら、淡々と変わらない生活を営んできたのである。

ニシオンデンザメは私たちよりはるかに長い時間をかけて、ゆっくりと大人になる。そして、その後、何世紀もかけて繁殖し、生命を次世代につないでいく。このサメが感じる一生の長さは、私たちが感じる一生よりもずっと長いのだろうか。それとも、実感としては案外、変わらないのだろうか。

注
①スローライフ＝時間に追われず、ゆったりと過ごす生活様式。
②種＝生物を分類する際に基本となる単位。
③脊椎動物＝ヒトやサメなどのように、背骨をもつ動物。

詳しくはこちら




**進化の法則は北極のサメが知っていた**

**渡辺佑基**

北極の深海に生きるニシオンデンザメの寿命はなんと四百年。世界中を飛び回る生物学者が、「体温」を手がかりに巨大なサメの長寿の秘密に迫る。

# はやぶさ2 最強ミッションの真実

津田 雄一

二〇一九年二月二十二日、地球から約三億キロメートルのかなた、はやぶさ2は、小惑星リュウグウへの着陸の日を迎えていた。ドップラー信号とよばれる、微弱な電波の通信周波数の変化だけが、管制室にはやぶさ2の状況を伝えている。

「はやぶさ2、最終降下を開始。1、2、3、4、……」

秒読みが開始された。管制員は、何秒後に何が起きるかを頭にたたき込んでいるのだ。今、はやぶさ2は高度八・五メートルから着陸目標点目がけて毎秒約七センチメートルで①自由落下している。

「49、50、51、52、……」

よし、五十秒を越えた。機上では、大半の墜落防止の安全機構が切られ、着陸態勢が整ったはずだ。もう地表は目前だ。ドップラーのグラフは、下降を示す点を横一線に、一秒ごとに整然と打っていた。安定して下降している証拠だ。後は、上昇信号を待つばかりだ。管制室は不気味に静まりかえり、カウントアップのコールだけが響いている。皆、固唾をのんで、メインスクリーンに見入っている。

「91、92、93、94、……」

秒読みが九十五まで進んだとき、ドップラーが急上昇を示した。

「きた！」

「やった！」

「探査機、上昇を示しています！」

管制室は大歓声に包まれた。このタイミングで上昇したということは、②タッチダウンが成功したにちがいない。それまでの張りつめた静寂が歓喜の渦に取って代わられた。

二〇一九年二月二十二日午前七時二十九分十秒（日本時間）、はやぶさ2は、小惑星リュウグウに舞い降りた。③猛禽類の隼のごとく、ねらった地点に精確に舞い降り、星のかけらという獲物をしっかりとつかんで、大宇宙へと舞い戻った。



筆者 津田雄一 一九七五（昭和五〇）——
広島県生まれ。宇宙工学者。
著書「はやぶさ2の宇宙大航海記」など。



小惑星リュウグウ

上昇後ほどなくして、④サンプラーホーンの先端が地面に接触したこと、着陸の瞬間に弾丸を発射していたことを示すデータが管制室に届いた。全てのデータがタッチダウン成功を物語っていた。完勝だった。

「本日、人類の手が、新しい小さな星に届きました。」

記者会見で、私はプロジェクトを代表して吉報を全世界へ報告した。新しい科学を、究極の技術と最高のチームワークで獲得した瞬間だった。

日本の技術者と世界の科学者が、十年以上にわたり力を合わせてきた結果が、完全な形でむくわれた。その道のりは、平坦とは真逆の、困難と苦闘の連続であった。

注
①自由落下＝物体が、重力の働きのみによって落ちる現象のこと。
②タッチダウン＝ここでは、はやぶさ2がリュウグウに着陸すること。
③猛禽類＝ハヤブサやタカ、ワシ、フクロウなどの鳥の総称。するどいくちばしと爪をもち、小動物や他の鳥を捕食する。
④サンプラーホーン＝リュウグウの表面の石や砂を採取するための装置。

続きはこちら




**はやぶさ2 最強ミッションの真実** 津田雄一

数多くの成果を上げたはやぶさ2の小惑星リュウグウ探査プロジェクト。プロジェクト成功までの苦難の道のりを描いた、臨場感あふれるノンフィクション。



新出漢字

196 奇 キ
196 寿 ジュ ことぶき
197 脊 セキ
197 椎 ツイ
197 尾 お ビ
198 端 タン はし（は） はた
200 惑 ワク まどう
200 墜 ツイ
200 渦 カ うず

新出音訓

196 寿命（ジュミョウ）
201 触 ショク ふれる さわる
201 吉 キチ キツ
201 闘 トウ たたかう

漢字の練習

# 本の世界を広げよう

284ページ 読書感想文の書き方



## 研究

めくるめく研究の世界へようこそ

**海獣学者、クジラを解剖する。**
田島木綿子
海獣学者が語る、海の哺乳類の魅力と深刻な環境汚染の現実。



**ちいさい言語学者の冒険**
広瀬友紀
子供は「ちいさい言語学者」。彼らの発言から言葉の秘密を探る。



**マイテーマの探し方**
片岡則夫
「問い」を立てるのは難しそうというあなたの伴走者となる一冊。



**鳥類学者だからって、鳥が好きだと思うなよ。**
川上和人
愉快かつ真面目に語られる、鳥と鳥類学者の知られざる生態。



**眠れなくなる宇宙のはなし**
佐藤勝彦
「宇宙を知ることは、『私』を知ること」。宇宙のなぞをたどる旅へ。



**クモの糸でバイオリン**
大崎茂芳
「クモの糸でバイオリンの弦を作る！」筆者の挑戦の先に……。



**「研究室」に行ってみた。**
川端裕人
多様な分野の研究者たちに共通していたのは「わくわく」と「どきどき」。



**空のふしぎがすべてわかる！すごすぎる天気の図鑑**
荒木健太郎
思わず空を見上げたくなる、天気や気象に関するとっておきの話。



**バッタを倒しにアフリカへ**
前野ウルド浩太郎
バッタの農作物被害を止めたい。異文化の地を駆け回った研究者の記録。





めくるめく研究の世界へ



**研究の現場にようこそ**

ウェブサイトで、インタビュー記事を読もう

研究者 荒木健太郎
前野ウルド浩太郎

取材・文 川端裕人







## 職業

働くってどんなこと

**宇宙人とみつける仕事図鑑**
将来の夢に悩むユメオの前に現れた宇宙人ワプリン。二人はUFOで地球の仕事を見に行く。はたして将来の選択肢は見つかるのか。



**雲を紡ぐ**
伊吹有喜
家族や進路について、苦しみもがく主人公が見つけたものとは。



**ぼくのマンガ人生**
手塚治虫
不朽の名作を残した筆者。漫画家という仕事は彼の人生そのもの。



**大人になったらしたい仕事「好き」を仕事にした35人の先輩たち**
働く現場から届いた声は、あなたの未来を開くヒントになる。



**なぜ僕らは働くのか**
池上彰監修
あなた自身と向き合って「対話」することから、未来は開ける。



**職人**
永六輔
職人が仕事や暮らしの中で発した言葉には、知恵が凝縮されている。



**手仕事いろいろ**
久野恵一監修
使いたくなる手工芸の逸品。ここに、作り手の思いと技術がある。





## 夢

未来に向かって

**空の飛びかた**
S・メッシェンモーザー
関口裕昭訳
空を飛びたいと願うペンギンと、その夢をかなえるべく手助けする男。「ふたり」のユーモラスで温かな交流を描く。



**鷹のように帆をあげて**
まはら三桃
事故で親友をなくした少女は飛べない鷹と出会い……。



**建築家になりたい君へ**
隈研吾
世界で活躍する筆者が語る、これからの建築家に必要なものとは。



**不可能を可能にする大谷翔平120の思考**
大谷翔平
大谷選手の言葉から、彼の考え方を読み解く一冊。



**おとなになるのび太たちへ**
藤子・F・不二雄漫画
著名人が語る、かつて「ドラえもん」に見た夢とあこがれ。



**夢を跳ぶ**
佐藤真海
病気で右足を失った筆者がパラリンピック日本代表になるまで。



**夢をつなぐ**
山崎直子
夢をかなえ宇宙へ。宇宙で感じた次世代へつなぎたい夢とは。





## 自分
新しい自分に出会える



**「空気」を読んでも従わない**
鴻上尚史
「生き苦しさ」の正体と攻略法を三つの言葉を手がかりに考える。



**はじめての哲学**
藤田正勝
哲学って難しい？実は身の回りにはたくさんの「哲学」がある。



**野川**
長野まゆみ
転校先で、飛べない伝書鳩の飼育担当になった少年は……。



**山椒魚**
井伏鱒二
「何たる失策」というろたえる山椒魚。彼の身に何が起きたのか。



## 生き物・自然
身の回りに目を向ける



**素数ゼミの謎**
吉村仁
十三年か十七年に一度だけ、大量発生する素数ゼミのなぞに迫る。



**生きもののおきて**
岩合光昭
アフリカで生きる動物たち。命のドラマを描いたフォトエッセイ。



**風の谷のナウシカ　全七巻**
宮崎駿
戦争で不毛の地と化した地球。少女ナウシカは、救いの道を探す。



**寝ても覚めてもアザラシ救助隊**
岡崎雅子
アザラシが好きで飼育員になった筆者の愛にあふれる保護活動。



## 冒険
さあ飛び出そう



**穴　HOLES**
ルイス・サッカー　幸田敦子訳
無実の罪で不毛の地に送られた少年は穴だらけの湖底を目にする。



**王への手紙　上・下巻**
トンケ・ドラフト　西村由美訳
最終試練の夜、騎士見習いの少年は男から任務をたくされる。



**植村直己　地球冒険62万キロ**
岡本文良
世界初の五大陸最高峰登頂。夢を追った冒険家の足跡。



**不思議の国のアリス**
ルイス・キャロル　矢川澄子訳
時計を見ながら急ぐ白ウサギを追い、アリスは穴に飛び込んだ。

## 私の一冊

**火の鳥　全十四巻**
手塚治虫
神話と響き合う古代日本。金色の不死鳥は国の興亡を見つめ、「生きよ。」と人に語りかける。





時を超えて生と死をつづる物語は、理解が及ばないことにどう向き合うか、考えるきっかけになりました。

中村勘九郎
1981年 東京都出身。
歌舞伎俳優。

## 私のおすすめ
自分でも書いてみよう

# 8 自分を見つめる

作品や生活と向き合い、ものの見方を深める


**少年の日の思い出** 小説 ……ヘルマン・ヘッセ／高橋健二訳

漢字に親しもう5

文法への扉3　単語の性質を見つけよう

**二十歳になった日** 随筆 ……さくらももこ

**構成や描写を工夫して書こう**

体験を基に随筆を書く

漢字3　漢字の成り立ち

**一年間の学びを振り返ろう**

要点を資料にまとめ、発表する

**ぼくが　ここに** 詩 ……まど・みちお




動きを表す言葉8　めぐる ｜ 一回りして、元に戻ること。時が流れて、再びその時期が来ること。

# 少年の日の思い出

ヘルマン・ヘッセ
高橋 健二 訳

読む

別の人物の視点から作品を捉え、登場人物のものの見方を考えよう。［学習活動］

目標

- 語句の意味に注目し、その語句が選ばれた理由を考える。
- 場面の展開や表現の効果に着目し、登場人物のものの見方について考える。

客は、夕方の散歩から帰って、私の書斎で私のそばに腰掛けていた。昼間の明るさは消えうせようとしていた。窓の外には、色あせた湖が、丘の多い岸にするどく縁取られて、遠くかなたまで広がっていた。ちょうど、私の末の男の子が、おやすみを言ったところだったので、私たちは、子供や幼い日の思い出について話し合った。

「子供ができてから、自分の幼年時代のいろいろの習慣や楽しみ事が、またよみがえってきたよ。それどころか、一年前から、僕はまた、ちょう集めをやっているよ。お目にかけようか。」

と、私は言った。

彼が見せてほしいと言ったので、私は、収集の入っている軽い厚紙の箱を取りに行った。最初の箱を開けてみて、初めて、もうすっかり暗くなっているのに気づき、私は、ランプを取ってマッチを擦った。すると、たちまち外の景色は闇にしずんでしまい、窓全体が不透明な青い夜の色に閉ざされてしまった。

私のちょうは、明るいランプの光を受けて、箱の中から、きらびやかに光り輝いた。私たちは、その上に体をかがめて、美しい形や、濃い見事な色を眺め、ちょうの名前を言った。

「これは、ワモンキシタバで、ラテン名はフルミネア。ここらではごく珍しいやつだ。」

と、私は言った。

友人は、一つのちょうを、ピンの付いたまま箱の中から用心深く取り出し、羽の裏側を見た。

「妙なものだ。ちょうを見るくらい、幼年時代の思い出を強くそそられるものはない。僕は、小さい少年の頃、熱情的な収集家だったものだ。」

と、彼は言った。

そして、ちょうをまた元の場所に刺し、箱の蓋を閉じて、

「もう、結構。」

と言った。

その思い出が不愉快でもあるかのように、彼は口早にそう言った。その直後、

1 漢 斎 サイ …… 書斎
2 色あせる 意
3 漢 縁 エン・ふち …… 縁取る
6 よみがえる 意



1 漢 愉 ユ …… 不愉快
2 漢 透 トウ・すく・すかす・すける …… 不透明
6 **ワモンキシタバ** 開張（左右の前羽の先端から先端までの長さ）、約五十五ミリメートル。前羽は灰色がかった薄茶色、後ろ羽は濃い黄色で黒い帯がある。



6 **ラテン名** 学問上の必要から、動植物にラテン語でつける世界共通の名。学名。
12 熱情（的） 意
14 漢 蓋 ガイ・ふた …… 蓋
15 漢 蓋 ガイ・ふた …… 不透明
17 漢 愉 ユ …… 不愉快
1 たちまち 文

私が箱をしまって戻ってくると、彼は微笑して、巻きたばこを私に求めた。

「悪く思わないでくれたまえ。」と、それから彼は言った。「君の収集をよく見なかったけれど。僕も子供のとき、むろん収集していたのだが、残念ながら自分でその思い出をけがしてしまった。実際、話すのも恥ずかしいことだが、ひとつ聞いてもらおう。」

彼は、ランプのほやの上でたばこに火をつけ、緑色のかさをランプに載せた。すると、私たちの顔は、快い薄暗がりの中にしずんだ。彼が開いた窓の縁に腰掛けると、彼の姿は、外の闇からほとんど見分けがつかなかった。私は葉巻を吸った。外では、かえるが、遠くから甲高く、闇一面に鳴いていた。友人は、その間に次のように語った。

僕は、八つか九つのとき、ちょう集めを始めた。初めは特別熱心でもなく、ただ、はやりだったのでやっていたまでだった。ところが、十歳ぐらいになった二度目の夏には、僕は全くこの遊戯のとりこになり、ひどく心を打ち込んでしまい、そのため、他のことはすっかりすっぽかしてしまったので、みんなは何度も、僕にそれをやめさせなければなるまい、と考えたほどだった。ちょうを採りに出かけると、学校の時間だろうが、お昼ご飯だろうが、もう、塔の時計が鳴るのなんか、耳に入らなかった。休暇になると、パンを一切れ胴乱に入れて、朝早くから夜まで、食事になんか帰らないで、駆け歩くことがたびたびあった。

今でも、美しいちょうを見ると、おりおり、あの熱情が身にしみて感じられる。そういう場合、僕はしばしの間、子供だけが感じることのできる、あのなんともいえない、むさぼるような、うっとりした感じに襲われるのを見つけると、とらえアゲハにしのび寄った、あのとき味わった気持ちだ。まって、輝いている色の斑点のすぐに幼い日の無数の瞬間を思い浮かべるのだ。強く匂う、乾いた荒野の、焼けつくような昼下がり、庭の中の涼しい朝、神秘的な森の外れの夕方、僕は、まるで宝を探す人のように、網を持って待ち伏せていたものだ。そして、美しいちょうを見つけると、特別に珍しいのでなくったってかまわない、ひなたの花に止まって、色のついた羽を呼吸とともに上げ下げしている喜びに息もつまりそうになり、しだいにしのび寄って、一つ一つ、透き通った羽の脈の一つ一つ、触角の細いとびえてくると、その緊張と歓喜ときたらなかった。そうした微妙な喜びと、激しい欲望との入り交じった気持ちは、その後、そうたびたび感じたことはなかった。

僕の両親は、立派な道具なんかくれなかったから、僕は、自分の収集を、古いつぶれたボール紙の箱にしまっておかなければならなかった。瓶の栓から切り抜

6 **ほや** ランプなどの火を覆うガラスの筒。

4 **けがす** 意
14 **打ち込む** 意

1 音 **微笑**（ビショウ）
9 漢 **甲**（コウ・カン）……甲高い
14 漢 **戯**（ギ・たわむれる）……遊戯
17 漢 **塔**（トウ）……塔



1 **胴乱** 植物採集や昆虫採集に用いる、ブリキまたはトタンで作った容器。肩からさげる。

2 **駆け歩く** ここでは、あちらこちらと忙しく動き回ること。

5 **キアゲハ** 開張、七十～百二十ミリメートル。全体に黄色で、黒色の斑紋がある。



3 **身にしみる** 文
5 **むさぼる** 意
14 **微妙** 意

7 漢 **匂**（ニオ・におう）……匂う
9 漢 **網**（モウ・あみ）……網
12 漢 **斑**（ハン）……斑点
17 漢 **瓶**（ビン）……瓶
17 漢 **栓**（セン）……栓

いた、丸いコルクを底にはり付け、ピンをそれに留めた。こうした箱のつぶれた縁の間に、僕は、自分の宝物をしまっていた。初めのうち、僕は、自分の収集を喜んでたびたび仲間に見せたが、他の者は、ガラスの蓋のある木箱や、緑色のガーゼをはった飼育箱や、その他ぜいたくなものを持っていたので、自分の幼稚な設備を自慢することなんかできなかった。それどころか、重大で、評判になるような発見物や獲物があっても、ないしょにし、自分の妹たちだけに見せる習慣になった。あるとき、僕は、僕らのところでは珍しい、青いコムラサキをとらえた。それを展翅し、乾いたときに、得意のあまり、せめて隣の子供にだけは見せよう、という気になった。それは、中



9 漢 慢（マン）
自慢（マン）

14 **コムラサキ**　開張、六十五～七十ミリメートル。地色はこげ茶色で、かき色の斑紋がある。オスの羽は、外縁部を除いて、光線の反射でむらさき色に光る。



15 **展翅**　標本にする昆虫などの羽を広げて、板に留めること。



庭の向こうに住んでいる先生の息子だった。この少年は、非の打ちどころがないという悪徳をもっていた。それは、子供としては二倍も気味悪い性質だった。彼の収集は小さく貧弱だったが、こぎれいなのと、手入れの正確な点で、一つの宝石のようなものになっていた。彼は、そのうえ、傷んだり壊れたりしたちょうの羽を、にかわで継ぎ合わすという、非常に難しい、珍しい技術を心得ていた。とにかく、あらゆる点で模範少年だった。そのため、僕は妬み、嘆賞しながら彼を憎んでいた。

この少年に、コムラサキを見せた。彼は、専門家らしくそれを鑑定し、その珍しいことを認め、二十ペニヒぐらいの現金の値打ちはある、と値踏みした。しかし、それから、彼は難癖をつけ始め、展翅のしかたが悪いとか、右の触角が曲がっているとか、左の触角が伸びているとか言い、そのうえ、足が二本欠けているという、もっともな欠陥を発見した。僕は、その欠点をたいしたものとは考えなかったが、こっぴどい批評家のため、自分の獲物に対する喜びはかなり傷つけられた。それで、僕は、二度と彼に獲物を見せなかった。

二年たって、僕たちは、もう大きな少年になっていたが、僕の熱情はまだ絶頂にあった。その頃、あのエーミールがクジャクヤママユをさなぎからかえしたというわさが広まった。今、僕の知人の一人が百万マルクを受け継いだとか、

16 **クジャクヤママユ**　ドイツ語では、「夜のくじゃくの目」とよぶ大形の蛾。



9 **ペニヒ**　「マルク」（「マーク」ともいう）とともに、当時のドイツ貨幣の単位。一ペニヒは一マルクの百分の一。

1 非の打ちどころがない 意
2 悪徳 対
5 漢 継（ケイ）　つぐ　継ぎ合わす
6 漢 妬（ト）　ねたむ　妬む
7 漢 憎（ゾウ）　にくむ　にくい　にくらしい　にくしみ　憎む
12 漢 陥（カン）　おちいる　（おとしいれる）　欠陥（カンカン）

歴史家リビウスのなくなった本が発見されたとかいうことを聞いたとしても、そのときほど、僕は興奮しないだろう。僕たちの仲間でクジャクヤママユをとらえた者はまだなかった。僕は、自分の持っていた古いちょうの本の挿絵で見たことがあるだけだった。名前を知っていながら自分の箱にまだないちょうの中で、クジャクヤママユほど僕が熱烈に欲しがっていたものはなかった。幾度となく、僕は、本の中のその挿絵を眺めた。一人の友達は、僕にこう語った。「とび色のこのちょうが、木の幹や岩に止まっているところを、鳥や他の敵が攻撃しようとすると、ちょうは、たたんでいる黒みがかった前羽を広げ、美しい後ろ羽を見せるだけだが、その大きな光る斑点は、非常に不思議な思いがけぬ外観を呈するので、鳥は恐れをなして、手出しをやめてしまう。」と。

エーミールがこの不思議なちょうを持っているということを聞くと、僕は、すっかり興奮してしまって、それが見られるときの来るのが待ち切れなくなった。食後、外出ができるようになると、すぐ僕は、中庭を越えて、隣の家の四階へ上がっていった。そこに、例の先生の息子は、小さいながら自分だけの部屋を持っていた。それが、僕にはどのくらいうらやましかったかわからない。途中で、僕は、誰にも会わなかった。上にたどり着いて、部屋の戸をノックしたが、返事がなかった。エーミールはいなかったのだ。ドアのハンドルを回してみると、入り口は開いていることがわかった。

せめて例のちょうを見たいと、僕は中に入った。そしてすぐに、エーミールが収集をしまっている二つの大きな箱を手に取った。どちらの箱にも見つからなかったが、やがて、そのちょうはまだ展翅板に載っているかもしれないと思いついた。果たしてそこにあった。とび色のビロードの羽を細長い紙切れで張り伸ばされて、クジャクヤママユは展翅板に留められていた。僕は、その上にかがんで、毛の生えた赤茶色の触角や、優雅で、果てしなく微妙な色をした羽の縁や、下羽の内側の縁にある細い羊毛のような毛などを、残らず間近から眺めた。あいにく、あの有名な斑点だけは見られなかった。細長い紙切れの下になっていたのだ。

胸をどきどきさせながら、僕は紙切れを取りのけたいという誘惑に負けて、留め針を抜いた。すると、四つの大きな不思議な斑点が、挿絵のよりはずっと美しく、ずっとすばらしく、僕を見つめた。それを見ると、この宝を手に入れたいという、逆らいがたい欲望を感じて、僕は、生まれて初めて盗みを犯した。僕は、ピンをそっと引っ張った。ちょうは、もう乾いていたので、形はくずれなかった。僕は、それをてのひらに載せて、エーミールの部屋から持ち出した。そのとき、さしずめ僕は、大きな満足感のほか何も感じていなかった。

ちょうを右手に隠して、僕は階段を下りた。そのときだ。下の方から誰か僕の

1 **リビウス** 前五九―後一七　古代ローマの歴史家。リビウスの書いた「ローマ建国史」は、ローマ史研究のための貴重な資料とされているが、全百四十二巻中、三十五巻しか現存しない。

7 漢 **攻** コウ　せめる
攻撃

9 漢 **呈** テイ
呈する



4 **展翅板** 標本にする昆虫などを展翅するための板。

7 漢 **雅** ガ
優雅

8 あいにく 文

13 漢 **盗** トウ　ぬすむ
盗み

方に上がってくるのが聞こえた。その瞬間に、僕の良心は目覚めた。僕は突然、自分は盗みをした、下劣なやつだということを悟った。同時に、見つかりはしないか、という恐ろしい不安に襲われて、僕は、本能的に、獲物を隠していた手を上着のポケットにつっ込んだ。ゆっくりと僕は歩き続けたが、大それた恥ずべきことをしたという、冷たい気持ちに震えていた。上がってきた女中と、びくびくしながら擦れ違ってから、僕は胸をどきどきさせ、額にあせをかき、落ち着きを失い、自分自身におびえながら、家の入り口に立ち止まった。

　すぐに僕は、このちょうを持っていることはできない、持っていてはならない、元に返して、できるなら、何事もなかったようにしておかなければならない、と悟った。そこで、人に出くわして見つかりはしないかということを極度に恐れながらも、急いで引き返し、階段を駆け上がり、一分の後には、またエーミールの部屋の中に立っていた。僕は、ポケットから手を出し、ちょうを机の上に置いた。それをよく見ないうちに、僕はもう、どんな不幸が起こったかということを知った。そして、泣かんばかりだった。クジャクヤママユはつぶれてしまったのだ。前羽が一つと触角が一本、なくなっていた。ちぎれた羽を用心深くポケットから引き出そうとすると、羽はばらばらになっていて、繕うことなんかもう思いも寄らなかった。

1 良心 意
2 下劣 意
14 ……ばかり 文
2 漢 悟 ゴ さとる
5 漢 震 シン ふるう ふるえる
16 漢 繕 ゼン つくろう
悟る
震える
繕う





盗みをしたという気持ちより、自分がつぶしてしまった、美しい、珍しいちょうを見ているほうが、僕の心を苦しめた。微妙なとび色がかった羽の粉が、自分の指にくっついているのを見た。また、ばらばらになった羽がそこに転がっているのを見た。それをすっかり元どおりにすることができたら、僕は、どんな持ち物でも楽しみでも、喜んで投げ出したろう。

　悲しい気持ちで、僕は家に帰り、夕方まで、うちの小さい庭の中で腰掛けていたが、ついに、一切を母に打ち明ける勇気を起こした。母は驚き悲しんだが、すでに、この告白が、どんな罰をしのぶことより、僕にとってつらいことだったということを感じたらしかった。

8 告白 関 白状・独白・表白
8 しのぶ 意
7 音 一切（イッサイ）
8 漢 罰 バツ バチ
罰 バツ

「おまえは、エーミールのところに行かなければなりません。」と、母はきっぱりと言った。「そして、自分でそう言わなくてはなりません。それより他に、どうしようもありません。おまえの持っているもののうちから、どれかを埋め合わせにより抜いてもらうように、申し出るのです。そして、許してもらうように頼まなければなりません。」

あの模範少年でなくて、他の友達だったら、すぐにそうする気になれただろう。彼が、僕の言うことをわかってくれないし、おそらく全然信じようともしないだろうということを、僕は前もってはっきり感じていた。そのうちに夜になってしまったが、僕は出かける気になれなかった。母は、僕が中庭にいるのを見つけて、「今日のうちでなければなりません。さあ、行きなさい。」と、小声で言った。それで、僕は出かけていき、

「エーミールは？」

と尋ねた。彼は出てきて、すぐに、誰かがクジャクヤママユをだいなしにしてしまった、悪いやつがやったのか、あるいは猫がやったのかわからない、と語った。僕は、そのちょうを見せてくれ、と頼んだ。二人は上に上がっていった。彼はろうそくをつけた。僕は、だいなしになったちょうが展翅板の上に載っているのを見た。エーミールがそれを繕うために努力した跡が認められた。壊れた羽は丹念



に広げられ、ぬれた吸い取り紙の上に置かれてあった。もなかった。触角もやはりなくなっていた。そこで、それは僕がやったのだ、と言い、詳しく話し、説明しようと試みた。

すると、エーミールは、激したり、僕をどなりつけたりなどはしないで、低く「ちぇっ。」と舌を鳴らし、しばらくじっと僕を見つめていたが、それから、「そうか、そうか、つまり君はそんなやつなんだな。」と言った。

僕は、彼に、僕のおもちゃをみんなやる、と言った。しかし、彼は、「結構だよ。僕は、君の集めたやつはもう知っている。」と言った。

その瞬間、僕は、すんでのところであいつの喉笛に飛びかかるところだった。もうどうにもしようがなかった。僕は悪漢だということに決まってしまい、エーミールは、まるで世界のおきてを代表でもするかのように、冷然と、正義を盾に、あなどるように僕の前に立っていた。彼はののしりさえしなかった。ただ僕を眺

1 ……よしもない 文
8 冷淡 意
16 冷然 意
16 ……を盾に 文
17 あなどる 意
9 依 漢 イ（エ）
9 茂 漢 ベツ さげすむ
14 喉 漢 コウ のど

依然 イゼン
軽蔑 ケイベツ
喉笛 のどぶえ

3 埋 漢 マイ うめる うまる もれる
7 おそらく 文
17 丹念 意
17 丹 漢 タン

埋め合わせ うめあわせ
丹念 タンネン



めて、軽蔑していた。

そのとき、初めて僕は、一度起きたことは、もう償いのできないものだということを悟った。僕は立ち去った。母が根掘り葉掘りきこうとしないで、僕にキスだけして、構わずにおいてくれたことをうれしく思った。僕は、「とこにお入り。」と言われた。僕にとってはもう遅い時刻だった。だが、その前に、僕は、そっと食堂に行って、大きなとび色の厚紙の箱を取ってき、それを寝台の上に載せ、闇の中で開いた。そして、ちょうを一つ一つ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまった。

丹地陽子・絵

. . . . 5 . . . .

3 根掘り葉掘り　関 根も葉もない　根を下ろす　根を張る

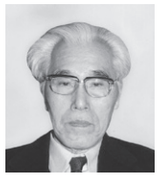
2 漢 償（ショウ つぐなう）……償い

漢字の練習





作者　**ヘルマン・ヘッセ**　一八七七――一九六二
ドイツの詩人・小説家。ノーベル文学賞受賞。
著書　「郷愁」「車輪の下」「青春はうるわし」「デミアン」「ガラス玉演戯」など。



訳者　**高橋健二**　一九〇二（明治三五）――一九九八（平成一〇）
東京都出身。ドイツ文学者。
著書　「ヘッセ研究」「グリム兄弟」、訳書「ヘッセ全集」「ゲーテ作品集」など。
出典　「ヘッセ全集 二」

## 広がる読書

「車輪の下」
ヘルマン・ヘッセ　高橋健二訳




「一房の葡萄」有島武郎



227ページ 表現の効果 | 221ページ 語り手の視点 | 115ページ 結び付けて解釈 | 105ページ 描写 | 29ページ 心情の変化

学びのカギ

## 語り手の視点に着目する

**それは、誰の目から見た世界？**

- 物語や小説は、「語り手」が見聞きした出来事を語るという形でストーリーが展開していく。
- 描かれた出来事には語り手の価値観が表れる。そのため、誰の視点で描かれているかに注意して読むことが大切だ。
- 他の人物の視点から出来事を捉え直すと、語り手や作品を多面的に理解できる。

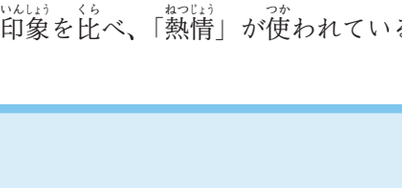
276ページ「学びのカギ」一覧

学びの地図

**【学習で用いる言葉】**

**語り手**　物語や小説の地の文を語る人。人物の行動や気持ち、場面の様子などを語りながら話を進めていく。

**【「語り手」の視点】（「少年の日の思い出」の場合）**




**語り手の意図を考える**

・前半の「客」は、「私」にどんなことをわかってほしくて、思い出を語ったのか。

**「僕」以外の視点で捉え直す**

・エーミールは、「僕」や出来事をどう見ていたのか。




**言の葉ポケット**

作品には「熱情」という言葉が多く出てくる。「熱情」と「情熱」の意味や受ける印象を比べ、「熱情」が使われている理由を考えよう。



## 学びへの扉

**見通しをもつ**

別の人物の視点から作品を捉え、登場人物のものの見方を考えよう。[学習活動]

**目標**

- 語句の意味に注目し、その語句が選ばれた理由を考える。（知る）
- 場面の展開や表現の効果に着目し、登場人物のものの見方について考える。（読む）

**捉える**

### 1 作品の展開を捉えよう。

この作品は、現在の話である前半と「客（僕）」の回想である後半に分かれている。後半を幾つかの場面に分け、それぞれ短くまとめよう。

**読み深める**

### 2 表現に着目して、「僕」の心情の変化をまとめよう。

①「僕」から見たエーミールの人柄を端的に表している語句や表現を、作品の中から抜き出そう。

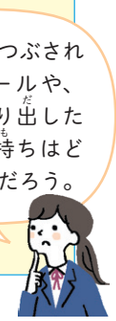
②クジャクヤママユのうわさを聞いてから、それを盗み、壊してしまうまでの「僕」の心情の変化をまとめよう。

③最後に、「僕」がちょうを押しつぶしてしまったのはなぜか。「一つ一つ」「粉々に」などの表現に着目して、その行動の意味を考えよう。

**考えをもつ**

### 3 別の人物の視点から文章を書き換えよう。

この作品では、エーミールや「母」の気持ちは、ほとんど語られていない。読み深めたことを基に、「僕」以外の人物を語り手にして作品の一場面を書き換え、気づいたことを発表し合おう。




**振り返る**

- 知る　□どの語句や表現から、語り手や語り手から見た他の登場人物の人物像が伝わってきたか。
- 読む　□「僕」のものの見方について、自分との共通点・相違点はどこか。
- つなぐ　□別の登場人物の視点も踏まえて読むことで、自分の考えや作品の印象はどのように変わったか、挙げてみよう。

# 漢字に親しもう 5

●は中学校で学習する音訓 321ページ

**1** 次の□の中の言葉を使って、文章を作ろう。 260ページ

牛乳　冷蔵庫　砂糖　卵



【漢字の書き】

**2** 次の――線部の言葉を読もう。 308ページ

【漢字の読み（食生活）】

① 菜箸で料理を器に盛りつける。［　　］
② 喫茶店でケーキを食べる。［　　］
③ おいしい抹茶をいただく。［　　］
④ ピザを専用の窯で焼く。［　　］
⑤ 熟れたトマトと豆腐を買う。［　　］
⑥ 脂肪の燃焼を促す食べ物。［　　］
⑦ 下味を付けた肉を冷凍する。［　　］

**3** 次の□に合う漢字を下の□から選び、四字熟語を作ろう。また、できた四字熟語を読もう。

【四字熟語】

① 試行［　　］［　　］
② 一目［　　］［　　］
③ □□自在［　　］
④ 全身□□［　　］
⑤ 首尾□□［　　］
⑥ □□無稽［　　］

全　霊　変　幻　瞭　然　荒　唐　錯　誤　一　貫

新出漢字

222 箸（はし）　222 喫（キツ）　222 抹（マツ）　222 窯（ヨウ）（かま）
222 腐（フ）くさる・くされる・くさらす　222 脂（シ）あぶら　222 肪（ボウ）　222 凍（トウ）こおる・こごえる　222 霊（レイ）（リョウ）（たま）
222 幻（ゲン）まぼろし　222 瞭（リョウ）　222 唐（トウ）から　222 錯（サク）
222 貫（カン）つらぬく

漢字一覧表



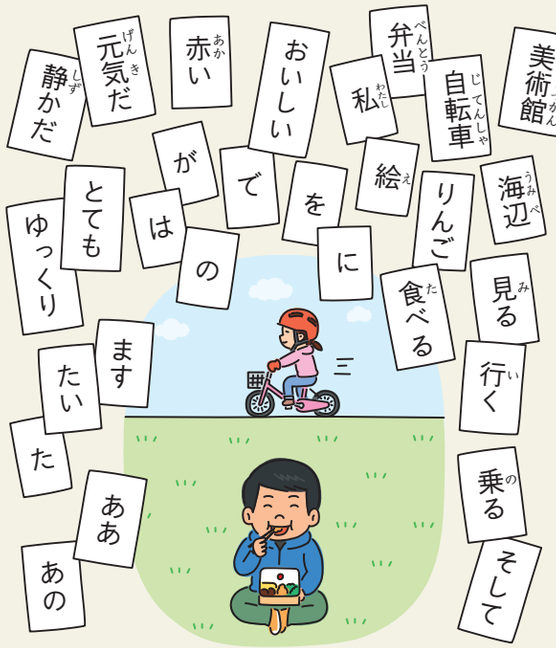
文法への扉 3

# 単語の性質を見つけよう

次の単語を組み合わせて、文を三つ作ろう。

【条件】
- 同じ単語を何回使ってもよい。
- 必要ならば、単語の形を変えてもよい。

（例）行く＋ます→行き・ます




文法ワーク

単語は、性質の違いによって分類することができる。上で作った文を手がかりに、それぞれの単語の性質を考えてみよう。

**文節の中の位置づけ**

- 単独で文節を作ることができる。
  ……「りんご」「赤い」「行く」など
- 他の単語の後に付いて文節を作る。
  ……「りんご」「ゆっくり」「て」など
  ……「て」「ます」など

**形の変化**

- 後に付く語によって、形が変わる。
  ……行く＋ます→行き・ます
- 形が変わらない。
  ……「りんご」「ゆっくり」「て」など

**文の成分**

- 主語・述語・修飾語など、どのような文の成分になるか。

「文法3 単語の分類」を読んで、単語を分類する観点を学ぼう。

文法3 単語の分類（251〜254ページ）

1 単語の分類
　1 自立語・付属語
　2 活用の有無
2 品詞
3 体言と用言

251ページ

# 二十歳になった日

さくら ももこ

読む

筆者独自のものの見方・感じ方を捉え、随筆を読み味わおう。［学習活動］

目標

- 心情を表す語句や表現に着目して読み、語感を磨く。
- 随筆の構成や表現の効果について考える。

二十歳になる日が来た。今、二十八歳だから、八年前のことである。

私は二十歳になる日をどうやって過ごそうかと考えていた。まだ短大生で清水市に住んでおり、隣町の静岡市へ行っては健康食品売り場でアルバイトをするという地道な生活を送っていた頃である。

二十歳の誕生日はひとりで迎えようと決めた。ひとりで決断し、ひとりで人生を切り開いてゆかなければならない年代を迎える気がしていたのだ。チャラチャラとバースデーパーティーを開いて、トリのから揚げなどを食べている場合ではない。

私はひとり、静岡市内の街角に立ち、まっすぐに続く道をまっすぐに歩いていってみようと考えた。

五月の空はさわやかで、私は自分が五月に生まれたことを心からうれしく感じていた。どこまでも歩いていけるような気がした。

題 **二十歳** 現在の日本の成人年齢は十八歳だが、本作の発表当時は二十歳とされていた。

2 **清水市** 現在の静岡県静岡市清水区。

2 **短大生** 短期大学の学生のこと。

3 **静岡市** 現在の静岡県静岡市葵区・駿河区。

4 地道 意

7 漢 揚 ヨウ あげる あがる

から揚げ



ずいぶん歩いた。四十分は歩いたであろう。

見知らぬ商店街に出ていた。自分の見知らぬ街でも、毎日そこでは人々の生活が営まれていることを、あたりまえだが尊いと思った。全てがいとおしく感じられた。

古い看板も電柱も学校も、どうしていいかわからないほどありがたかった。公園に、日が差しているだけで泣きたいぐらいうれしい。

私は公園で少し休むことにした。新緑の葉を付けた木が風で揺れている。子供たちが笑いながら走っている。私はただベンチに座っていた。生きているだけでよかった。そう考えるのではなく感じていた。

公園を出て再びまっすぐ歩きだした。途中、小鳥屋をのぞき、缶ジュースを買い、小さな文房具屋に入ってスケッチブックを買った。

そのように寄り道をしながら二時間余り歩き続け、な道が二つに分かれる場所に来た。

そろそろ戻ったほうがよいと思い、駅の方に着きそうな道を選んで歩きだした。どころが歩いても歩いても駅に着かず、なんとなく心細くなってきた。それでも、どうにかなるであろうと思いながら歩き続けてみた。

帰り道にも古道具屋やらアイスクリーム屋で寄り道をし、三時間ぐらいかかってやっと駅にたどり着いた。もう日は暮れていた。




さくら ももこ・絵

3 **尊い** 意

3 **いとおしい** 意

10 漢 房 ボウ ふさ

文房具

家に帰る途中でケーキを買い、七時過ぎに帰宅した。
非常に疲れていたが、これまで味わったことのない充実した気持ちであった。
母は「あらケーキ、そういや誕生日だっけね。」と言ってお茶をいれ始めていた。
父は私の誕生日など思い出しもしない様子で野球を見ていた。姉はケーキが切り分けられるのを待ちながら「これ、あげるよ。」と言ってさりげなくイヤリングをくれた。
私は何から何までうれしいとしか言いようのない気持ちで統一されていた。
二十代はひとりで歩いてゆく年代になる予感がしていたが、今日の今の気持ちをどんなときも覚えていようと思った。
その翌年上京し、私は本当にひとりで歩いてゆくことになった。不安や悲しみも全部ひとりで背負って進んでゆかなくてはならなくなったが、それは自分自身で決めたことだし、進んでゆくその先がどうなってゆくのか味わえるのも自分自身だけだ。
二十歳になるあの日、まっすぐに歩いてみようと思ったことは、今も私の大きな糧になっている。歩いただけで表面的には何事も起こらなかったが、内面的に起こった数々の幸せな出来事は、身の回りの全てのものがくれた最高のプレゼントであった。
二十歳になるあの日の、あの時間の感覚を、私は一生忘れない。

広がる読書

「おんぶにだっこ」さくらももこ




漢字の練習



学びの地図

## 学びへの扉

276ページ「学びのカギ」一覧

**見通しをもつ**

筆者独自のものの見方・感じ方を捉え、随筆を読み味わおう。［学習活動］

**目標**

- 心情を表す語句や表現に着目して読み、語感を磨く。（知る）
- 随筆の構成や表現の効果について考える。（読む）

**捉える**

**1 随筆の内容を捉えよう。**

心情を表す語句や表現などに着目し、筆者が「二十歳になった日」に感じたことを挙げてみよう。

**読み深める**

**2 構成や表現の効果について考えよう。**

①構成で工夫されていると思う点を話し合おう。
②筆者の思いや考えが伝わる表現について、「どう書かれているか」に着目して表現の効果を考えよう。

**考えをもつ**

**3 自分が考える表現の効果について語り合おう。**

自分が注目した表現とその効果について考えたことをグループで語り合おう。

**振り返る**

- 知る　□特に印象に残った語句や表現は何か。
- 読む　□構成や表現の効果に着目することで、随筆のどんな特徴に気づいたか。
- つなぐ　□随筆を書くときに生かしたいことを挙げよう。

筆者　**さくら ももこ**　一九六五（昭和四〇）――二〇一八（平成三〇）
静岡県出身。漫画家・エッセイスト・作詞家・脚本家。
著書　漫画「ちびまる子ちゃん」「コジコジ」、随筆「もものかんづめ」「さるのこしかけ」「あのころ」など。
出典　「たいのおかしら」

### 学びのカギ　表現の効果を考える

表現が、文章の内容を伝えたり印象づけたりするために、どう働いているかを考えると、作品をより深く味わえる。

**【表現の特徴➡効果の例】**
・平易な言葉を多用　➡【効果】共感・親しみやすさ
・短文と長文を織り交ぜる　➡【効果】リズムやテンポのよさ

**【学習で用いる言葉】**
随筆　経験や見聞きしたことを基に、自分にとっての意味や考えを書いたもの。

書く

# 構成や描写を工夫して書こう

## 体験を基に随筆を書く

「二十歳になった日」は、筆者が過去にあった印象深い体験を思い出し、それを現在の視点で捉え直して書いた随筆である。これまでの体験を振り返り、自分にとっての意味を考えて、随筆を書いてみよう。

282ページ 発想を広げる

書くことのミニレッスン



**目標**

- 出来事や情景、行動、心情を適切に表す語句を選ぶ。（知る）
- 伝えたい内容が読み手に効果的に伝わるように、構成や描写を考えて書く。（書く）

**集める・整理する**

### 1 題材を選ぶ

- 随筆に取り上げたい体験を一つ選び、伝えたいことを明確にする。

### 2 材料を書き出し、整理する

- 材料（体験に関する事実や自分にとっての意味など）を書き出し、整理する。

**組み立てる**

### 3 構成を考える

- 書き出した材料を基に、構成を考える。
- 自分の伝えたいことが明確に伝わる構成になっているか、友達と助言し合う。

**表現する**

### 4 随筆を書く ICT

- 書きだしや結び、描写を工夫して、600～800字程度で書く。

**共有する**

### 5 随筆を読み合う

- 構成や描写で工夫したことや、友達の文章で参考にしたいことなどをまとめる。

振り返る 231ページ

**生かす**

- 日常 学校生活を振り返って学んだことを書く。
- 将来 日常生活で特別な価値を見いだしたことについて、SNSなどで発信する。



235ページ 振り返る
229ページ 構成の工夫
141ページ 根拠の明確化
116ページ 情報整理・構成
55ページ 情報の取捨選択

学びのカギ

## 構成を工夫して書く

- 自分が読み手に伝えたいことは何かを明確にする。
- 書き出した材料を基にして、伝えたいことが効果的に伝わるように、おおまかな構成を考える。
  - 例 導入―具体的な体験談―意味づけ
- 体験を具体的に説明する部分では、次のような構成の工夫が考えられる。
  - 時間の流れに沿う
  - 初めに印象的な場面を置く
  - 同じような体験を幾つか並べる

280ページ 「学びのカギ」一覧

学びの地図



伝えたいことを効果的に伝えるには、どんな構成にするとよいだろう。

**伝えたいこと** 生まれたばかりの弟が家に来た日の思い

| | 導入（簡単な説明） | 具体的な体験談 | | 意味づけ |
|---|---|---|---|---|
| 事実 | 小学二年生の初夏。<br>生まれたばかりの弟が家に来る。 | 大好きな給食も、食べ切るのがやっと。<br>帰り道。全速力。 | …… | |
| 当時の思い | | そんな自分にとまどう。<br>地面をけっても前に進まない。待ち遠しい。 | その体験の最中に思っていたこと・感じていたこと | |
| 現在の視点 | 今でも鮮明に覚えている。 | 胸がいっぱいだと食べられないことを初めて実感。 | ・捉え直すことで気づいた、体験の意味や価値<br>・新たに考えたこと | あの日のことを思い出すとおだやかな気持ち。何かを待ちわびる幸せな時間。 |

- いつ　・どこで
- 会話　・五感
- 情景　など

## ■書きだしを工夫する

### ●わく組みから書きだす

・時間や場所　・人物や言葉の紹介
・出来事の背景の説明　など

例
・あれは、五、六歳の頃のことだ。
・「○○」。祖母の手紙にあった言葉だ。
・夏になると、思い出す風景がある。

### ●描写から書きだす

・情景描写　・行動描写　・心情描写
・五感による感覚描写　など

例
・雨はやみそうになかった。
・キャンプ場に吹き渡る朝の風は、ひんやりとして心地いい。

### ●会話・心の声から書きだす

・会話　・心の中の声（独白）　など

例
・「ナイスシュート！」体育館に先輩の声が響き渡る。
・「ここで失敗したらだめだ。」私は極度に緊張していた。

### ●自分の考えから書きだす

・随筆のテーマ　・意見や考え
・問題の投げかけ　など

例
・「自分らしさ」とは何だろう。
・あの頃の私に、伝えることの難しさを教えたのは、○○だった。

［随筆の例］ 268ページ 語彙ブック

友達の書きだしを見て、自分の作品の書きだしを工夫しよう。

ICT 書きだしを共有する

341ページ

### 達人からのひと言

心の蛇口をひねって、澄んだ感情もにごった感情も、紙の上に出してみましょう。随筆は、自分の感情を客観視するための手段です。

酒井順子さん（エッセイスト）





導入

待ちわびるという幸せ

初夏の風が吹く、気持ちのいい午後だった。生まれたばかりの弟が、初めて家に来た日のことは、今でも鮮明に覚えている。私は小学二年生だった。

赤ちゃんに会える。その日は朝からそわそわして、教室にいるときも、体育で校庭を走っているときも、ずっとうわの空だった。大好きな給食も、おかわりするどころか、最後まで食べ切るのがやっとだった。そのときはそんな自分にとまどうばかりだったけれど、思えばあのとき、胸がいっぱいだと食べ物が喉を通らなくなることを、初めて実感したのだ。

具体的な体験談

帰り道。いつもいっしょに帰る友達と別れてから、私は全速力で走った。覚えているのは、地面をけってもけっても前に進まないもどかしさ。まるで、夢の中を走っているみたいなのだ。ランドセルがカタカタ鳴る。速く速く。すっかり濃くなった葉桜が目の端に映った。山が青い。もうすぐ夏だ。どうしようもない待ち遠しさで、転びそうになりながら、私は家に着いた。

部屋に入った瞬間、最初に感じたのはミルクの匂いだ。やさしくて、ふんわり甘いミルクの匂い。あ、赤ちゃん。私の弟。ほほえむ母の腕から、恐る恐る赤ちゃんを抱き取る。

「首の下に手を入れて。」柔らかくて、小さくて、壊れそうだ。おさるさんみたい、と思ったのを覚えている。今思うと、あのとき私は、言葉にならない高揚感に包まれていた。

今ではすっかりやんちゃな弟で、よくけんかもする。しかし、あの日のことを思い出すと、不思議とおだやかな気持ちになる。私にとってあの帰り道は、何かを待ちわびるという幸せを感じた、初めての時間かもしれない。

意味づけ

中川樹里

### 描写のポイント

読み手が状況をイメージできるように、具体的に描写する。

▼周りの様子や音、匂い、暑さや寒さなどを書く。
▼比喩などの表現技法を効果的に使う。
▼そのときの思いや会話を具体的に書く。

### 言の葉ポケット

**体験を意味づける表現**

●今にして思えば、……。
●改めて考えると、……。
●それからというもの、……。
●私にとって○○は、……。

●これまで、あんな○○な体験をしたことはない。
●それ以来、……するたび、あの日のことを思い出す。

●○○を体験したあの日から、私は……に変わった。
●あれは私の、初めての○○だ。

### 振り返る

**知る**
□体験や思い、意味を伝えるために、特に吟味して選んだ言葉はどれか。

**書く**
□伝えたい内容が効果的に伝わるように、構成を工夫した部分はどこか。

**つなぐ**
□友達の随筆を読み、次に自分が文章を書くときに生かしたいと思った工夫を一つ挙げてみよう。

漢字3

# 漢字の成り立ち

「山」という漢字は、山の形をかたどって作られた。漢字の成り立ちには、このように物の形をかたどって作る方法の他にも、幾つかのものがある。




漢字の成り立ちには、**象形**・**指事**・**会意**・**形声**とよばれるものがある。

## 象形

物の形をかたどって、その物を表す。

▼  ⬇  ⬇ 馬

## 指事

抽象的な事柄を、記号やその組み合わせで表す。

▼ 二 ⬇ 上

▼ 二 ⬇ 下

## 会意

二つ以上の字を組み合わせて、新しい意味を表す。

▼ 木＋木⬇林

▼ 口＋鳥⬇鳴

## 形声

二字を組み合わせて、一方で音、他方で意味を表す。音を表す部分を**音符**、意味を表す部分を**意符**とよぶ。音符は音だけでなく、意味を表す場合もある。

▼ 金［意符］金属の意＋同［音符］ドウ⬇銅

▼ 氵［意符］水の意＋青［音符］セイ（澄むの意も）⬇清





中国から受け入れた漢字の他に、日本で独自に作られた漢字もある。そのような漢字を、**国字**とよぶ。国字は、会意の方法を用いて作られたものが多い。

例
- 火＋田↓畑
- 山＋上＋下↓峠

## 漢字の分類「六書」

**象形**・**指事**・**会意**・**形声**は、漢字の「作り方」についての説明である。この他、漢字の「使い方」についての説明として、**転注**と**仮借**がある。この六種は、まとめて「**六書**」とよばれ、古来、漢字を分類する基準とされてきたものである。

転注には諸説あるが、代表的な説は、ある漢字の意味が広がって他の意味にも転用されることである。例えば、「楽」は、元は「音楽」の意味だが、音楽を楽しむことから、「たのしい」の意味にも使われる。

仮借は、その意味を表す漢字がないときに、同音の漢字を借りて表記する方法である。例えば、中国語で「くる」を意味する「ライ」にはもともと、それを表す漢字がなく、同音の「来」（元は、麦を表す）を借りて表記されるようになった。



## 練習問題

●は中学校で学習する音訓　321ページ

**1** 次の漢字の成り立ちを調べ、象形・指事・会意・形声に分類してみよう。

①月　②狩　③本
④河　⑤末　⑥利

**2** 次の文字を組み合わせて漢字を四字作ろう。（各文字は一回ずつ用い、必要ならば、位置に応じて形を変えること。）

山　子　月　言　系　石　日　人

**3** 次の漢字に共通する音を答えよう。

①飯・板・販　②千・肝・汗
③輸・愉・諭　④河・何・苛
⑤伯・拍・泊

新出漢字

233 伯 ハク
233 肝 カン きも
233 拍 ハク ヒョウ
233 汗 カン あせ
232 符 フ
233 泊 ハク とまる とめる
233 諭 ユ さとす
233 峠 とうげ
233 苛 カ
233 狩 シュ かる かり
233 販 ハン

漢字一覧表

書く　話す・聞く

# 一年間の学びを振り返ろう

## 要点を資料にまとめ、発表する

一年間の国語学習を通して、何が印象に残っただろう。学んだことの中から観点を選び、教科書や学習記録を見直してみよう。そして、気づいたことを発表用資料にまとめ、グループで発表しよう。

**目標**
- 情報整理の知識や方法を活用する。（知る）
- 伝えることを明確にして資料を作る。（書く）
- 相手の反応を踏まえながら話す。（話・聞）

**集める・整理する**

### 1 観点を決め、学習を振り返る

- １年間の学習を思い出し、印象に残っていることや興味を引かれたことを挙げ、振り返る観点を決める。
- 教科書やノートなどを読み返し、情報を集める。

**組み立てる**

### 2 情報を整理し、発表内容を決める

- 集めた情報を分類したり、比較したりして整理し、発表する内容を決める。

**表現する**

### 3 発表用資料を作る ICT

- 話す内容を決め、構成を考える。
- スライドやフリップに要点をまとめる。

**共有する**

### 4 グループの中で発表する

- スライドやフリップを使って発表し（各３分）、質疑応答を行う（各３分）。
- 発表の内容や話し方などについて、感想や意見を伝え合う。

振り返る 237ページ

**生かす**
- 日常　１年間に読んだ本を振り返る。
- 将来　定期的に自分の仕事を振り返り、改善点を考える。





235ページ 振り返る
［書く］280ページ 構成の工夫｜根拠の明確化｜情報整理・構成｜情報の取捨選択
［話す・聞く］280ページ 話題や展開｜質問｜話の構成

学びのカギ

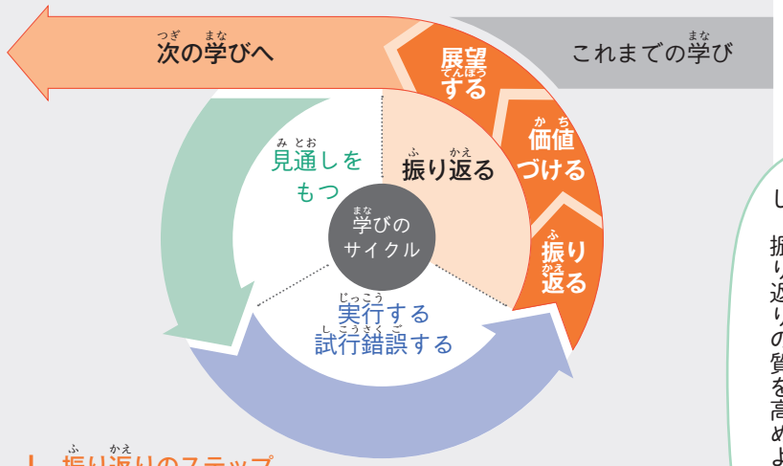
## 一年間の学びを振り返る

- 観点を決めて学習を振り返ることで、学んだときには気づかなかった意味や価値を見いだすことができる。

【観点を決めて学習を振り返る】
- これまでの学習の中で印象に残っていることや興味を引かれたことを観点とする。
  例 比喩、情景描写、語り手（視点）、○○を表す言葉、話すときのこつ　など。
- 自分が決めた観点で教科書や授業の記録などを見直し、当てはまる言葉や表現を書き出す。
- 集めた材料を比較し、初めて気づいたことや発見したことを記録する。

280ページ「学びのカギ」一覧
学びの地図

### 学びのサイクル




**振り返りのステップ**

［振り返る］
学習活動を思い起こし、自分が身につけた力を確かめる。

［価値づける］
身につけた力が、他の場面でどう役立っているかを考える。

［展望する］
学んだことを、今後どう生かしていくか、見通しをもつ。



## ■振り返る観点を決める

［観点を探す］「学びのカギ」や次の資料を参考にする。

一年間の国語学習で学んだこと
- 語彙ブック ➡267ページ
- 文学的な文章を読むために ➡276ページ
- 説明的な文章を読むために ➡278ページ
- 豊かに表現するために ➡280ページ
- 学習のための用語一覧 ➡338ページ

［観点の例］観点は［　　］で示した部分。
- 教科書全体から、喜びを表す語句を集め、整理する。
- 文学的な文章から、情景描写を抜き出し、比較する。
- 日常生活の中で要約が使えそうな場面を探す。




## ■情報を集めて整理する

①カードに情報を書き出す。
②集めた情報を分類・整理する。
③情報を比較したり、結び付けたりして、気づいたことを基に発表内容を決める。

［カードの例］

優勝カップのような形をしたつぼ
「ちょっと立ち止まって」（46ページ　6行目）
・形状をわかりやすく伝える比喩。

## ■発表用資料を作る

- 話す内容全てではなく、発表の要点だけを書く。
- スライドやフリップ一枚につき、一つの項目を書く。
- イメージしやすいように、図や写真などを効果的に使う。学習した日のノートの写真などを用いてもよい。

［発表用資料1］



［発表用資料2］

1 優勝カップのような形をしたつぼ
↓
働き
形状をわかりやすく伝える。

**言の葉ポケット**

学習を振り返るとき
- 改めて読むと／見返してみると……。
- ……という観点で分類／整理／比較すると、……。
- ……という共通点／相違点があると気づきました。
- これからは、……してみようと思います。



## ■発表する

初め　中　終わり

皆さんは、「比喩で広がる言葉の世界」という文章を覚えていますか。
❶七月の暑い時期にみんなで学習しましたね。僕は、この文章を読んで、日常的な言葉の中にも比喩の発想が生かされていることを知り、興味をもちました。そこで、今回、これまでに学習した文章の中、比喩がどのように使われているかを見直してみました。
改めて読むと、物語や随筆、詩、説明文、ノンフィクションなど、想像以上に多くの文章で比喩が見つかりました。その中で、特に印象に残ったものを三つ紹介します。
❷一つ目は、「ちょっと立ち止まって」に使われていたものです。❸この絵を見てください。❹皆さんなら、この白い部分の形をどのように表現しますか。❺本文には、「優勝カップのような形をしたつぼ」と書かれていました。複雑な形ですが、比喩を使えばひと言で説明できます。うに、比喩には、形状をわかりやすく伝える働きがあります。
二つ目は、……（中略）
今回の振り返りを通して、比喩が多くの文章で使われていること、そして、その働きは幾つかの種類に分類できることに気づきました。よく漫画を読みますが、これからは、せりふの中に使われている比喩にも注目してみようと思います。きっと、いつもの二倍楽しめるはずです。
❼皆さんも、日常生活や好きな文章の中にある比喩を探してみませんか。

15　10　5

■発表の工夫
❶聞き手が思い出しやすいように、関連する情報を示す。
❷順序を表す言葉を用いて、わかりやすく話す。
❸発表用資料1を見せる。
❹聞き手に投げかけ、反応をよく見る。
❺間を取る。
❻発表用資料2を見せる。
❼明るい声で呼びかける。

**振り返る**

- 知る　□どのような方法で、集めた情報を整理したか。
- 書く　□伝えたいことを明確にするために、どのような点を工夫したか。
- 話す・聞く　□相手の反応を踏まえて話すときに、どのような点に気をつけたか。
- つなぐ　□1年間の学習を振り返って気づいたことの中で、2年生の学習でも生かしていきたいことを挙げてみよう。

# ぼくが　ここに

まど・みちお

読む

詩を読み味わい、作者の思いについて語り合おう。［学習活動］

目標

- 詩に使われている表現技法と、その効果を確かめる。
- 詩の言葉や表現を読み味わい、作者の思いについて考える。

ぼくが　ここに　いるとき
ほかの　どんなものも
ぼくに　かさなって
ここに　いることは　できない

もしも　ゾウが　ここに　いるならば
そのゾウだけ
マメが　いるならば
その一つぶの　マメだけ
しか　ここに　いることは　できない



ああ　このちきゅうの　うえでは
こんなに　だいじに
まもられているのだ
どんなものが　どんなところに
いるときにも

その「いること」こそが
なににも　まして
すばらしいこと　として

広がる読書

「いわずにおれない」
まど・みちお



## 学びへの扉

**見通しをもつ**

詩を読み味わい、作者の思いについて語り合おう。[学習活動]

**目標**

- 詩に使われている表現技法と、その効果を確かめる。（知る）
- 詩の言葉や表現を読み味わい、作者の思いについて考える。（読む）

**捉える**

### 1 印象に残った表現を発表しよう。

詩の中で印象に残った言葉や表現を抜き出し、理由とともに発表しよう。

**読み深める**

### 2 次の表現の意味や、表現技法について考えよう。

①次の表現はどういうことを表しているか考えよう。

- 「ぼくに　かさなって／ここに　いることは　できない」（238ページ3～4行目）
- 「ああ　このちきゅうの　うえでは／こんなに　だいじに／まもられているのだ」（239ページ2～4行目）

②詩に使われている表現技法や表記・表現のしかたの特徴を挙げて、その効果について話し合おう。

**考えをもつ**

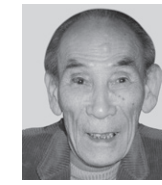
### 3 作者の思いについて語り合おう。

読み深めたことを基に作者の思いを想像し、考えたことを語り合おう。




**振り返る**

- 知る　□特に効果的だと思った表現技法は何か。
- 読む　□特に想像を広げることができたのは、詩の中のどの部分か。
- つなぐ　□交流を通して詩の印象はどのように変化したか、簡単に整理してみよう。



作者　**まど・みちお**　一九〇九（明治四二）――二〇一四（平成二六）
山口県出身。詩人・童謡作家。
著書　詩集「てんぷらぴりぴり」「植物のうた」、童謡集「まど・みちお童謡集」など。
出典　「ぼくがここに」



# 学びを深める


文法1 言葉の単位 …… 242
文法2 文の組み立て …… 246
文法3 単語の分類 …… 251
［練習］小学校六年生で学習した漢字 …… 257
小学校六年生で学習した漢字一覧 …… 260
国語の力試し …… 262
語彙ブック …… 267

文法 1

# 言葉の単位

## 1 文法とは

私たちが言葉によって伝え合い、理解し合うことができるのは、言葉の意味ばかりでなく、言葉がどのような順序で組み立てられ、どのように使われるかを知っているからである。このような言葉に関する決まりを**文法**という。

文法は言葉を使う中で自然に身についていくものではあるが、より正確に伝え合うために、改めてその決まりを確認し、整理しよう。

**文法とは**

**言葉の組み立て方や使い方の決まり**

| 言葉の区切り方 | 言葉を並べる順序 | 言葉の形の変化 |
|---|---|---|
| ○ 兄が―新聞を―読む。<br>× 兄が新―聞を読―む。 | ○ 兄が 新聞を 読む。<br>× 読む が 新聞 兄を。 | ○ 兄が 新聞を 読んだ。<br>× 兄が 新聞を 読むだ。 |

▼次の文の不自然なところに線を引き、わかりやすく書き換えよう。

① テーブルをふいて、きれいくする。

② 私は、中学校では部活動を専念したい。

③ 父は歴史小説を読むが趣味です。

④ 僕が駅前を歩いていると、後ろから名前を呼んだ。

⑤ 私が入学式で感じたことは、三年生が大人みたいです。

## 2 言葉の単位

私たちが普段、書いたり話したりしている言葉は、意味や間の取り方により、いくつかのまとまりに分けることができる。これを**言葉の単位**といい、次のような段階がある。

練習問題



**言葉の単位**

1 文章・談話 — 2 段落 — 3 文 — 4 文節 — 5 単語

### 1 文章・談話

- 一編の論説・小説のように、一まとまりの内容を、文字で書き表したものを**文章**という。
- 日常の会話など、音声で表された一まとまりの内容を、**談話**とよぶことがある。
- 文章・談話は多くの場合、複数の文が集まってできている。

**文章**

一まとまりの内容を文字で表したもの。

〈例〉
- 一通の手紙
- 一編の論説・小説・詩
- 短歌一首・俳句一句

**談話**

一まとまりの内容を音声で表したもの。

〈例〉
- 一回の演説・スピーチ
- 一つの話題に関する会話

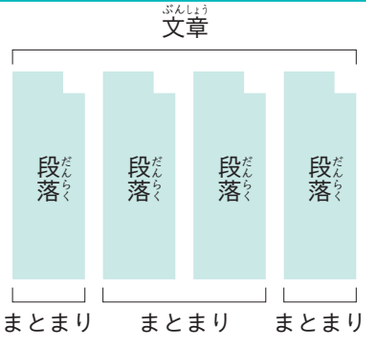
### 2 段落

- 書き手が、意図をより明確に伝えるために、文章を内容のまとまりごとに区切ることがある。これを**段落**という。
- 段落の初めは改行し、一字下げる。

※文章に段落を設けるかどうか、またどのような段落を設けるかは、書き手の判断による。

※詩の「連」も、段落と同じ発想。

**文章と段落**




いくつかの段落が結び付いて、大きなまとまりを作る場合もある。

**読むことに生かす**

**段落に着目して読む**

説明的な文章を読むときには、段落や、段落どうしが結び付いたまとまりに着目すると、内容や構成を捉えやすい。

［段落の役割（例）］
- 導入
- 話題提示
- 問い・答え
- 理由
- 例示
- まとめ
- 筆者の主張

## 3 文

● 「何（だれ）が―どうする・どんなだ・何だ・どうしたい・どうしろ」など、一まとまりの内容を表す一続きの言葉を**文**という。

● 文を書き表すときは、最後に「。（句点）」を付ける。（「？（疑問符）」や「！（感嘆符）」を付ける場合もある。）

**文が表す内容の例**

- 何が－どうする。
  - 馬が走る。
  - 空が青い。
  - 彼が図書委員です。
  - 僕は海を見たい。
  - 大きく育て。
- 何が－どんなだ。
- だれが－何だ。
- だれが－どうしたい。
- どうしろ。

× 天気予報は雨だそうだそうかそうすると遠足は延期になるかもしれない

○ 天気予報は雨だそうだ。そうか。そうすると遠足は延期になるかもしれない。

▼次の①②に句点を打とう。

① この種は四月の暖かい日にまく芽が出るまで毎日水をやる小さな芽が出たら水をやる回数を減らす

② 植物プランクトンは動物プランクトンや小魚のえさになる小魚はより大きな魚のえさになるアワビやウニはコンブやワカメなどの海藻を食べる

## 4 文節

● 発音や意味のうえで不自然にならないように、文をできるだけ短く区切ったまとまりを**文節**という。

● 文を文節に区切るためには、区切り目に「ね」「さ」などを入れてみるとよい。

**文**

山の上にすずしい風が吹く。

× 山 の上にすずし い風 が吹く。

× 山の上 にすずしい風 が吹く。

**文節**

山の ね / 上に ね / すずしい ね / 風が ね / 吹く ね 。

▼次の文を文節に区切ろう。

① かばんに付けたすずが鳴る。

② 郵便局の右に、赤い屋根の家がある。

③ ここが、今月の初めに開店した新しいレストランだ。

④ 僕は、先週夏風邪をひいて、学校を休んだ。

⑤ 昨日の午後、私は同級生の果歩さんといっしょにバドミントンをしました。

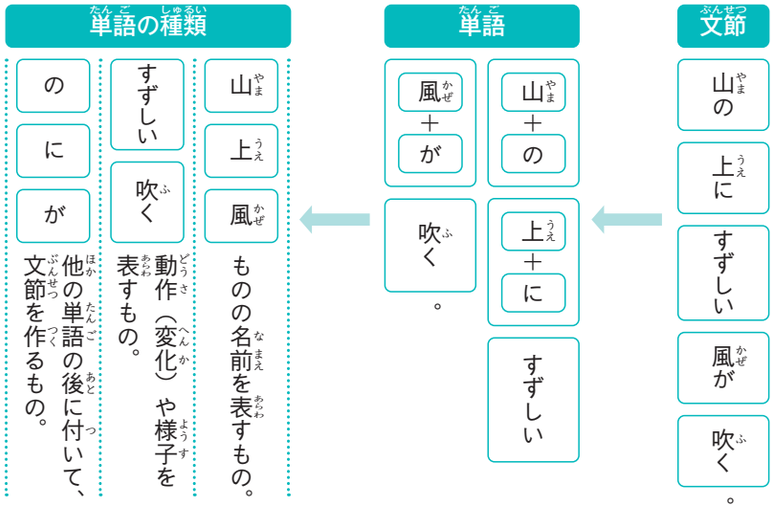


## 5 単語

● 言葉の意味や働きを壊さないように、文節をさらに細かく分けたものを、**単語**という。単語は、文法上、意味や働きをもつ言葉としては、最小の単位である。

● 単語は、その働きにより、いくつかの種類に分けられる。

- ものの名前を表すもの。
- 動作（変化）や様子を表すもの。
- 他の単語の後に付いて、文節を作るもの。




▼次の文を単語に分けよう。

① ドアの向こうから、フルートの美しい音色が聞こえる。

② ソファーでうとうと昼寝をする。

③ 急行列車に乗りおくれる。

④ 期末テストに向け、一生懸命勉強する。

⑤ 日がしずみ、辺りが急に薄暗くなる。

### ◆複合語は一つの単語

「駅前で十時に待ち合わせる。」の――線部は、単語に分けるとすると、「待ち・合わせる」か「待ち合わせる」のどちらだろうか。

「待ち合わせる」は、一まとまりで「時間と場所を決めて会う」という意味を表す。つまり、一つの単語として扱うのが正しい。

このように、二つ以上の単語が結び付き、新たな意味をもつようになったものを**複合語**という。複合語は全体で一つの単語である。

〈例〉飼育係・山登り・持ち越す

文法 2

# 文の組み立て

## 1 文節どうしの関係

文は、さまざまな働きをする文節が相互に関係をもつことで組み立てられている。

### 1 主・述の関係

● 主語と述語の関係を**主・述の関係**という。主・述の関係は、文の組み立ての基本となる。

● **主語**……文の中で、「何が」「誰が」に当たる文節。

● **述語**……文の中で、「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある・いる」「ない」に当たる文節。

**[体言と用言]**（詳しくは254ページ）

● **体言**……主語となる文節の中で中心となる単語。

● **用言**……それだけで述語となる単語。

**主語**
何が
誰が

**述語**
どうする
どんなだ
何だ
ある・いる
ない

主語（誰が）
妹が
述語（どうする）
歌う。

主語（何が）
星空が
述語（どんなだ）
美しい。

**体言**　主語の中心となる単語。物事や人の名前を表す。
妹 が
星空 が

**用言**　それだけで述語となる単語。動作・変化・状態などを表す。
歌う 。
美しい 。

### ◆主語の見つけ方

「○○が」の形を取らない主語もある。主語を探すには、まず述語を見つけ、そうする（そうである）のは何（誰）かを考える。そして、「何（誰）が―どうする（どんなだ）」に当てはめて確認する。

「○○が」の形でない主語
- 妹は　歌う。
- 妹も　歌う。
- 妹だけ　歌う。

主語のない文
- （僕が）田村です。
- 雨だ。

練習問題



### 2 修飾・被修飾の関係

● 修飾する文節と修飾される文節との関係を、**修飾・被修飾の関係**という。

● **修飾語**……他の文節を詳しく説明したり、内容を補ったりする働きをもつ文節。一つの文の中に、いくつか重ねて使われることがある。

● 修飾語は、何を修飾するかによって、大きく二つに分かれる。
- 連用修飾語……用言を含む文節を修飾。
- 連体修飾語……体言を含む文節を修飾。

**修飾語**

**連用修飾語**　どのように　どのくらい　いつ・どこで・誰と・何を
- 修飾語（どのように）［様子］　妹が　ほがらかに　歌う。
- 修飾語（どのように）［量・程度］　色あせた　写真は
- 修飾語（どうする）　祖母の　宝物だ。

**連体修飾語**　どのような　何の（誰の）
- 修飾語（どのような）［様子］　寒かった。［理由］
- 修飾語（何）　よい天気だ。しかし、はだ寒い。［逆接］

**用言**　どうする　どんなだ

**体言**　何

### 3 接続の関係

● 接続語がつなぐ、文と文、文節と文節との関係を、**接続の関係**という。

● **接続語**……文と文、文節と文節をつなぐ働きをもつ文節。

● 次のような文節が、接続語になる。
- 単独でつなぐ働きをもつ文節（「だから」「しかし」など）

文
接続語
文

〈前後の文の関係を表す〉
接続語に続くいくつかの文節

▼次の文から主語と述語を抜き出そう。
① 弟が学校に行く。
② 花がとてもきれいだ。
③ 小学生さえ完走した。
④ 教室には、原さんもいる。
⑤ あなたまで私を疑うのか。

▼――線部の修飾語が修飾している文節を抜き出そう。
① 彼女は、有名な俳優だ。
② 私は、友達のかさを借りた。
③ 母は、美容院に出かけた。
④ こっそりお菓子を食べた。
⑤ 彼は友達と公園で遊んだ。

・最後につなぐ働きをもつ単語が付いた文節（「……ので」「……ば」など）

〈後に続く文節に対する理由や条件などを表す〉
寒かったので、行かなかった。［理由］
暑ければ、コートを脱ぎなさい。［条件］

### 4 独立の関係

●独立語と、それ以外の文節との関係を、**独立の関係**という。

●**独立語**……他の文節とは直接関係がなく、それだけで独立している文節。

**独立語**

おや、鳥が鳴いている。［感動］
はい、わかりました。［応答］
注意深さ、それが重要だ。［提示］

**独立語以外の文節**

▼次の文から独立語を抜き出そう。
①晴れたので、洗濯物を干した。
②くやしかったから、泣いた。
③疲れた。しかし、歩き続けた。
④走れば、まだ間に合うはずだ。

▼次の文から独立語を抜き出そう。
①おはよう、いい天気だね。
②もしもし、田中さんですか。
③ああ、なんて美しい花だ。
④創意工夫、それが大切だ。
⑤ほら、しっかり見てごらん。

## 2 連文節

文の中で、二つ以上の文節がまとまって、主語・述語・修飾語などと同じ働きをする場合、これらのまとまった文節を**連文節**という。

**［常に連文節になる関係］**

### 並立の関係

●二つ以上の文節が対等な関係で並んで一まとまりになった場合、これらの文節どうしの関係を、**並立の関係**という。

父と 母が 外出して いる。（並立）
この 桃は 甘く みずみずしい。（並立）

▼次の文の、並立の関係にある二つの文節に線を引こう。
①紅茶とお菓子を用意した。
②うれしさと恥ずかしさで顔が赤くなる。
③明日の登山は、雨か雪が降ったら中止です。
④とんぼの羽は、薄くて軽い。



### 補助の関係

●「歌って いる」のように、主な意味を表す文節の後に、意味を補う文節が付いて、一まとまりになった場合、これらの文節どうしの関係を、**補助の関係**という。

●「いる」のような、意味を補う文節は、もともとの言葉の意味が薄れているため、平仮名で書かれることが多い。

渡り鳥が 飛んで（補助） いく。（補助）
将来、夢は 実現する。

・遊んで－いる　・しまって－おく
・置いて－ある　・買って－あげる
・考えて－みる　・教えて－やる
・降って－くる　・寒く－ない

▼次の文の、補助の関係にある二つの文節に線を引こう。
①今年初めての雪が降ってきた。
②坂の上に小さな家が建っている。
③覚えたばかりの歌を歌ってみる。
④祖母の重そうな荷物を持ってあげた。
⑤みんなにぜひ見てほしい映画がある。

## 3 文の成分

**主語**・**述語**・**修飾語**・**接続語**・**独立語**のように、文を組み立てる部分となる文節や連文節のことを**文の成分**という。

連文節が文の成分となった場合には、**主部**・**述部**・**修飾部**・**接続部**・**独立部**とよぶ。

さわやかな 風が 吹く。［主部］
彼は 有名な 詩人です。［述部］
風が、花の においを 運ぶ。［修飾部］
雨が 降ったので、行かなかった。［接続部］
一組の 皆さん、話を 聞いて ください。［独立部］

## 4 文の組み立て

複雑な文でも、文の成分（主・述・修飾・接続・独立）の組み合わせによって成り立っている。文節がどのように組み立てられ、関係し合っているかを確認することによって、より的確に文の意味や話の内容を理解することができる。

●今朝、野鳥が初めて巣箱に入った。

修 今朝
主 野鳥が
修 初めて
修 巣箱に
述 入った。

●今朝、僕は、野鳥が巣箱に入るのを見た。

修 今朝
主 僕は
修 野鳥が巣箱に
修 入るのを
述 見た。

●黒い鳥が赤い実をついばむのを見た。

修 黒い鳥が赤い実を
修 ついばむのを
主
修
述 見た。

**書くことに生かす**
**曖昧な文を推敲する**

例文は、「必死で」が、「にげる」「追いかけた」のどちらの文節を修飾しているのかが捉えづらく、必死なのがねずみか猫かわからない。曖昧な文は、文節どうしの結び付きがはっきりするように改める必要がある。

〈例〉猫は必死でにげるねずみを追いかけた。

ねずみが必死であることを伝えるには？

●必死でにげるねずみを、猫は追いかけた。

▼次の文は、二通りの意味に解釈できる。それぞれの意味が明確になるように書き換えよう。
① 小さな花の絵を描く。
② 僕は太郎と花子を訪問した。



文法 3

# 単語の分類

## 1 単語の分類

単語は、次のような観点で分類することができる。

**単語の分類**
1 自立語・付属語　2 活用の有無

### 1 自立語・付属語

●単語は、**自立語**と**付属語**に大きく分類できる。
●自立語と付属語は、次のような観点で単語を分類したものである。

**自立語**
単独で文節を作ることができる。
・文節の初めには必ず自立語がくる。
・一文節に自立語は一つしかない。

**付属語**
単独では文節を作れない。必ず自立語と共に文節を作る。
・文節では自立語の後に付く。
・一文節に付属語が複数含まれることもある。

自立語 空 に／自立語 輝く／自立語 太陽 付属語 の 付属語 ように、／自立語 彼女 付属語 は／自立語 明るく／自立語 笑っ た。

▼次の文を文節に区切り（／）、その後、単語に分けよう（・）。また、自立語に線を引こう。
〈例〉父・は／よく／本・を／読む。
① その映画なら、私も見たことがある。
② 江戸の知恵を現代に生かす。
③ 僕の妹は、カレーの中のにんじんだけを残す。
④ 世界地図を開き、地中海を指し示す。
⑤ 通り雨がやむと、空に鮮やかな虹が架かった。

練習問題

## 2 活用の有無

●単語には、文の中で使われるとき、形が変わるものと変わらないものとがある。この
ような、形が変化するかしないかの観点から、単語は大きく二つに分類できる。
●文の中で使われるとき、単語の形が変化することを**活用**という。活用する単語は、そ
こで文が終わるか、続く場合はどんな単語が後に付くかによって、形が変化
する。

空（活用無）
空に（無）
輝く（活用有）
太陽の（無）
ように、（無）
彼女は（無）
明るく（有）
笑った（有）。

**活用しない語**
後にどのような単語が付いても、単語の形が変化しない。

空 に も で
彼女 は も の
太陽 の
春 だ

**活用する語**
後に付く単語によって、単語の形が変化する。

輝く 輝き 輝け 。
ます。
笑った。
明るく 明るい 明るい
未来。
ようだ ような
暖かさ。

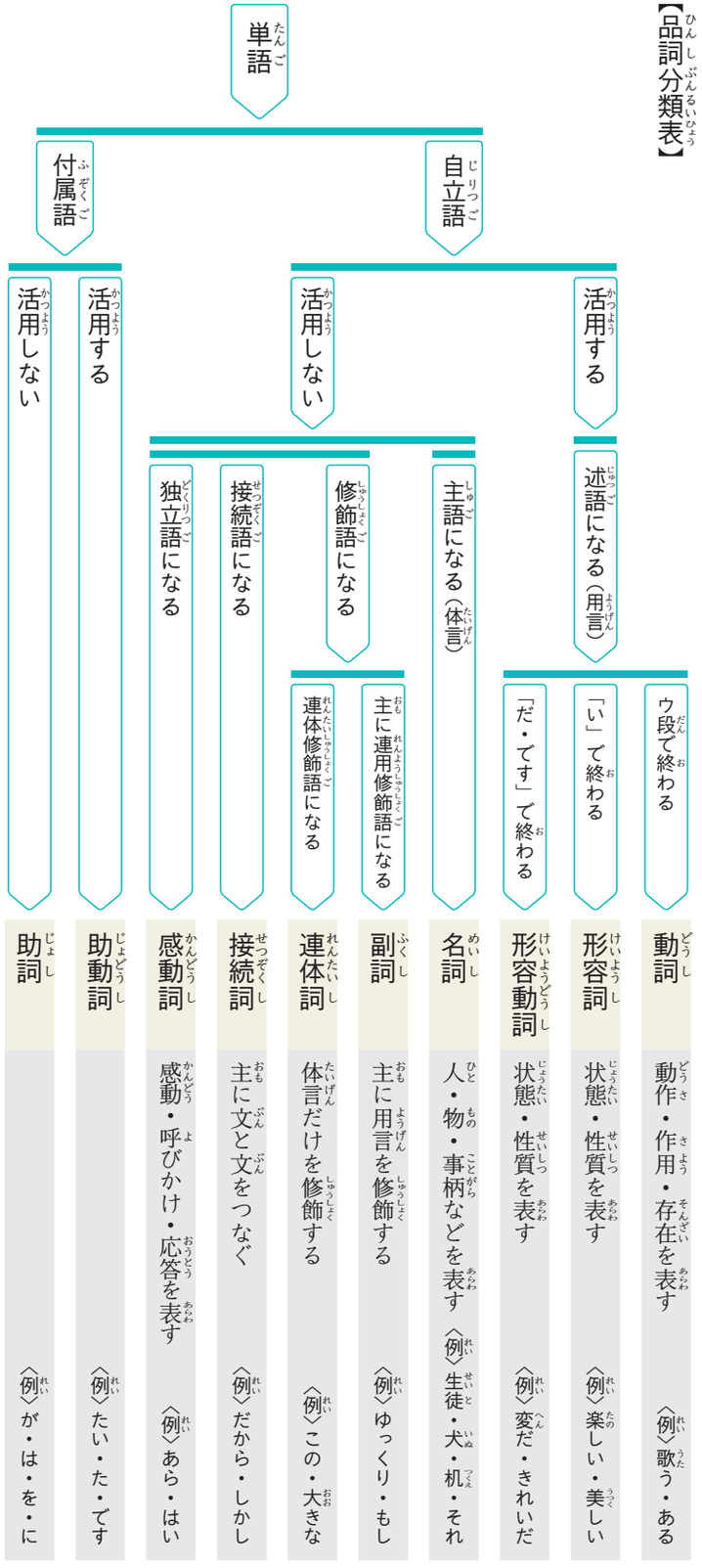
▼次の文の中から、活用する単語を探して、例にならって囲もう。
〈例〉花が 美しく 咲く。
①兄は、泳ぐのが上手だ。
②このケーキは、とても甘い。
③明日は、必ず早く起きる。
④新しい皿に、料理を丁寧に盛りつける。



## 2 品詞

単語を、「自立語・付属語」「活用する・しない」という基準で分け、さらに、それがどのような文の成分になるか、また、どんな言い切りの形になるかによって分類したものを、**品詞**という。品詞には、左の十種類がある。

【品詞分類表】



## 3 体言と用言

● 活用しない自立語の中で、「が・は・も」などを後に付けて主語になることができるものを**体言**という。品詞では、名詞がこれに当たる。

● 活用し、単独で述語になることができる自立語を**用言**という。品詞では、動詞・形容詞・形容動詞がこれに当たる。用言は、それだけで修飾語にもなることができる。

**主語**
妹が
星空は

**体言**
・「が・は・も」などを付けて主語になることができる自立語。
・品詞でいう**名詞**。

**述語**
歌う。
美しい。

**用言**
・単独で述語になることができる自立語。
・品詞でいう**動詞**・**形容詞**・**形容動詞**。

### 自立語

**活用する**

**用言**
- 動詞
- 形容詞
- 形容動詞

述語になることができる。

**活用しない**

**体言**
- 名詞
- 副詞
- 連体詞
- 接続詞
- 感動詞

主語になることができる。

主語になることができない。



### 【参考】口語動詞活用表

| 活用の種類 | 基本形 | 五段活用 | | | | 上一段活用 | | 下一段活用 | | 変格活用 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 行く | 笑う | 運ぶ | ある | 生きる | 似る | 答える | 出る | カ変 | サ変 |
| | | | | | | | | | | 来る | する |
| 活用形 | 語幹＼後に付く主なもの | い | わら | はこ | あ | い | ［に］ | こた | ［て］ | ○ | ○ |
| 未然形 | ―ない／―う／よう | こか | おわ | ばば | (ら)ろ | き | に | え | で | こ | し／せ／さ |
| 連用形 | ―ます／―た／―て | っき | っい | んび | っり | き | に | え | で | き | し |
| 終止形 | ―。 | く | う | ぶ | る | きる | にる | える | でる | くる | する |
| 連体形 | ―とき／―ので | く | う | ぶ | る | きる | にる | える | でる | くる | する |
| 仮定形 | ―ば | け | え | べ | れ | きれ | にれ | えれ | でれ | くれ | すれ |
| 命令形 | ―。 | け | え | べ | (れ) | きろ | にろ | えろ | でろ | こい | しろ |

※表中に（　）で示した語形は、ほとんど用いられないか、用いられ方が限られるもの。
※カ変・サ変、全体で二音節しかない上一段・下一段の動詞（「似る」「出る」など）の場合、語幹と活用語尾は区別できない。表中には［　］で示した。

### 【参考】口語形容詞活用表

| 基本形 | 明るい | 早い | 新しい |
|---|---|---|---|
| 活用形＼語幹＼後に付く主なもの | あかる | はや | あたらし |
| 未然形 ―う | かろ | かろ | かろ |
| 連用形 ―た／―ない／―なる／―ございます | かっ／く／う | かっ／く | かっ／く |
| 終止形 ―。 | い | い | い |
| 連体形 ―とき／―ので | い | い | い |
| 仮定形 ―ば | け れ | け れ | け れ |
| 命令形 ―。 | ○ | ○ | ○ |

### 【参考】口語形容動詞活用表

| 基本形 | 明らかだ | 重要だ | 明らかです | 重要です |
|---|---|---|---|---|
| 活用形＼語幹＼後に付く主なもの | あきらか | じゅうよう | あきらか | じゅうよう |
| 未然形 ―う | だろ | | でしょ | |
| 連用形 ―た／―ない／―なる | だっ／で／に | | でし | |
| 終止形 ―。 | だ | | です | （です） |
| 連体形 ―とき／―ので | な | | | |
| 仮定形 ―ば | なら | | ○ | ○ |
| 命令形 ―。 | ○ | ○ | ○ | ○ |

## 【参考】口語助動詞活用表

| 意味 | 基本形 | 未然形 | 連用形 | 終止形 | 連体形 | 仮定形 | 命令形 | 主な接続 | 用例 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 受け身・可能・尊敬・自発 | れる | られ | れ | れる | れる | れれ | れろ／れよ | 未然形（五段・サ変） | 話を聞かれる。食べられる魚。先生が来られる。昔がしのばれる。 |
| | られる | られ | られ | られる | られる | られれ | られろ／られよ | 未然形（右以外） | |
| 使役 | せる | せ | せ | せる | せる | せれ | せろ／せよ | 未然形（五段・サ変） | 頭を働かせる。話をやめさせる。 |
| | させる | させ | させ | させる | させる | させれ | させろ／させよ | 未然形（右以外） | |
| 希望 | たい | たかろ | たく | たい | たい | たけれ | ○ | 連用形 | あの曲をピアノで弾きたい。お菓子を食べたがる。 |
| | たがる | たがら／たがろ | たがり／たがっ | たがる | たがる | たがれ | ○ | | |
| 否定（打ち消し） | ない | なかろ | なく | ない | ない | なけれ | ○ | 未然形 | 彼のことは知らない。知らぬが仏。 |
| | ぬ（ん） | ○ | ず | ぬ（ん） | ぬ（ん） | ね | ○ | | |
| 推量・意志・勧誘 | う | ○ | ○ | う | （う） | ○ | ○ | 未然形（五段・形容詞・形容動詞） | 彼女も来るだろう。学校に行こう。いっしょにサッカーをしよう。 |
| | よう | ○ | ○ | よう | （よう） | ○ | ○ | 未然形（右以外） | |
| 過去・完了・存続・想起 | た | たろ | ○ | た | た | たら | ○ | 連用形 | 絵を描いた。本を読み終えた。これから授業が始まります。 |
| 丁寧 | ます | ませ／ましょ | まし | ます | ます | ますれ | （ませ）（まし） | | |
| 推定 | らしい | ○ | らしかっ／らしく | らしい | らしい | ○ | ○ | 体言、形容動詞の語幹、動詞・形容詞の終止形 | 雨が降るようだ。紅葉のような手。スミレのような春の花。 |
| 推定・比喩・例示 | ようだ | ようだろ | ようだっ／ように | ようだ | ような | ようなら | ○ | 連体形、体言＋「の」、連体詞「この」 | 雨が降りそうだ。おいしそうだ。 |
| 推定・様態 | そうだ | そうだろ | そうだっ／そうで／そうに | そうだ | そうな | そうなら | ○ | 連用形、形容詞・形容動詞の語幹 | あの人は元気にやっているそうだ。 |
| 伝聞 | そうだ | ○ | そうで | そうだ | ○ | ○ | ○ | 終止形 | あそこには行くまい。私は十四歳だ。ここが私たちの学校です。 |
| 否定の意志・否定の推量 | まい | ○ | ○ | まい | （まい） | ○ | ○ | 終止形（五段以外は未然形にも接続） | |
| 断定 | だ | だろ | だっ／で | だ | （な） | なら | ○ | 体言・助詞「の」 | |
| | です | でしょ | でし | です | （です） | ○ | ○ | ※「です」は形容詞の終止形にも付く。 | |

※表中に（　）で示した語形は、ほとんど用いられないか、用いられ方が限られるもの。



## ［練習］小学校六年生で学習した漢字

**1** 次の□に入る適切な漢字を書こう。

① □の水で手を□う。
② □の□法を測る。
③ キャベツを□んで皿に□る。
④ 喜びのあまり□を□れる。
⑤ □い子を□負う。
⑥ □と牛□をかき混ぜる。
⑦ 事件をさまざまな□点から□理する。
⑧ □門家の意見を□重する。
⑨ フランスの□法を日本語に□す。
⑩ 寒いので、部屋の□を□める。
⑪ 江戸□府の□軍について調べる。
⑫ 画家が円□の境地に□る。
⑬ 日本文学を代表する名□を□読する。
⑭ 世界にはさまざまな□教が□在する。
⑮ □山の切り□にこしをかける。
⑯ 引き取り手のない□失物を□分する。
⑰ 利□的な行動を見て□を立てる。
⑱ 五万人の観□を□容できる競技場。
⑲ □の中は暗くて□険だ。
⑳ 理科の授業で□の□型を見る。
㉑ 山の□上で新鮮な空気を□う。
㉒ 県の□舎までのバスの運□を調べる。
㉓ □湯でロッカーに貴重品を□ける。

260・261ページの一覧表も活用しながら、小学校六年生で学習した漢字を正確に書けるようにしよう。

## ❷ 二字の熟語が続くように、□に入る漢字を後の□の中から選んで書こう。

〈例〉 発→見→学→問→題→名→人

❶ 頭ず→□→切→□→去→□→職
❷ □→評→価→□→段→階→□
❸ 独→□→意→□→望→□→土
❹ 同→□→主→□→体→□→作→□

## ❸ 次の□の中の語を組み合わせ、四字熟語を作ろう。

小異　五入
君子　晩成
四捨　大同
大器　聖人

□□□□
□□□□
□□□□
□□□□

郷　批　痛　盟　詞　欲　除　操　層　値　就　創

## ❹ それぞれの□どうし、○どうしには、同じ読み方の漢字が入る。適切な漢字を後の□の中から選んで書こう。

〈例〉 百科事典・金貨・晴天

❶ □察○・□語○・○島
❷ □○気・□直・○約
❸ □○心・□鉄・○態
❹ □○会・□勤・混○
❺ □判○・返□・○板
❻ □長○・□道・○伝

条　上　延　鋼　向　水　官　宣　看　状
垂　署　沿　覧　諸　乱　裁　展　済　転
警　戦　敬　蒸



## ❺ □の漢字の部分を組み合わせて、二字熟語を作ろう。

〈例〉 日＋言＋正＋月→証明

❶ 四＋衣＋直＋壮→□□
❷ 扌＋弓＋長＋広→□□
❸ 義＋各＋言＋門→□□
❹ 糸＋厂＋土＋宿→□□

## ❻ 次の二つの漢字のうち、□に入る漢字を選ぼう。

❶ 系・係　ア 関□　イ □統
❷ 考・孝　ア 参□　イ 親□行
❸ 縦・従　ア □断　イ □属
❹ 方・訪　ア □問　イ □向
❺ 間・簡　ア 期□　イ □単
❻ 共・供　ア □給　イ 公□

## ❼ 矢印の方向に読むと、漢字二字の熟語ができる。□に入る適切な漢字を後の□の中から選んで書こう。

❶ 星→□→席／正→□→談
❷ 検→□→議／追→□→論
❸ 負→□→害／中→□→心
❹ 単→□→白／清→□→情
❺ 興→□→起／発→□→戦
❻ 参→□→見／礼→□→借
❼ 植→□→氷／果→□→木
❽ 後→□→任／辞→□→出
❾ 強→□→地／宿→□→意

樹　奮　傷　座　敵　拝　討　純　退

# 小学校六年生で学習した漢字一覧

（一九一字）

●片仮名は音読みを、平仮名は訓読みを、太字は送り仮名を示す。
●●は中学校で学習する音訓。
●●（ ）内は中学校では学習しなくてもよい音訓。

## あ行

胃 イ 胃胃胃胃
異 イ こと 異異異異
遺 イ ユイ 遺遺遺遺
域 イキ 域域域域
宇 ウ 宇宇宇宇
映 エイ うつる うつす はえる 映映映映映
延 エン のびる のべる のばす 延延延延
沿 エン そう 沿沿沿沿
恩 オン 恩恩恩恩

## か行

我 ガ われ 我我我我
灰 カイ はい 灰灰灰灰
拡 カク 拡拡拡拡
革 カク かわ 革革革革
閣 カク 閣閣閣閣
割 カツ わる わり われる さく 割割割割
干 カン ほす ひる 干干干干
株 かぶ 株株株株
巻 カン まく まき 巻巻巻巻
看 カン 看看看看
簡 カン 簡簡簡簡
危 キ あぶない あやうい あやぶむ 危危危危
机 キ つくえ 机机机机
揮 キ 揮揮揮揮
貴 キ たっとい とうとい たっとぶ とうとぶ 貴貴貴貴
吸 キュウ すう 吸吸吸吸
疑 ギ うたがう 疑疑疑疑
供 キョウ（ク） そなえる ども 供供供供
胸 キョウ むね むな 胸胸胸胸
郷 キョウ ゴウ 郷郷郷郷
勤 キン（ゴン） つとめる つとまる 勤勤勤勤
筋 キン すじ 筋筋筋筋
系 ケイ 系系系系
敬 ケイ うやまう 敬敬敬敬
警 ケイ 警警警警
劇 ゲキ 劇劇劇劇
激 ゲキ はげしい 激激激激
穴 ケツ あな 穴穴穴穴
券 ケン 券券券券
絹 ケン（キヌ） 絹絹絹絹
権 ケン（ゴン） 権権権権
憲 ケン 憲憲憲憲
源 ゲン みなもと 源源源源
厳 ゲン（ゴン） おごそか きびしい 厳厳厳厳
己 コ キ おのれ 己己己己
呼 コ よぶ 呼呼呼呼
誤 ゴ あやまる 誤誤誤誤
后 コウ 后后后后
孝 コウ 孝孝孝孝
皇 コウ オウ 皇皇皇皇
紅 コウ ク べに くれない 紅紅紅紅
降 コウ おりる おろす ふる 降降降降
鋼 コウ はがね 鋼鋼鋼鋼
刻 コク きざむ 刻刻刻刻
穀 コク 穀穀穀穀
骨 コツ ほね 骨骨骨骨
困 コン こまる 困困困困

## さ行

砂 サ シャ すな 砂砂砂砂
座 ザ すわる 座座座座
済 サイ すむ すます 済済済済
裁 サイ たつ さばく 裁裁裁裁
策 サク 策策策策
冊 サツ（サク） 冊冊冊冊
蚕 サン かいこ 蚕蚕蚕蚕
至 シ いたる 至至至至
私 シ わたくし わたし 私私私私
姿 シ すがた 姿姿姿姿
視 シ 視視視視
詞 シ 詞詞詞詞
誌 シ 誌誌誌誌
磁 ジ 磁磁磁磁
射 シャ いる 射射射射
捨 シャ すてる 捨捨捨捨
尺 シャク 尺尺尺尺
若 ジャク（ニャク） わかい（もしくは） 若若若若
樹 ジュ 樹樹樹樹
収 シュウ おさめる おさまる 収収収収
宗 シュウ ソウ 宗宗宗宗
就 シュウ（ジュ） つく つける 就就就就
衆 シュウ（シュ） 衆衆衆衆
従 ジュウ（ショウ） （ジュ） したがう したがえる 従従従従
縦 ジュウ たて 縦縦縦縦
縮 シュク ちぢむ ちぢまる ちぢめる ちぢれる ちぢらす 縮縮縮縮
熟 ジュク うれる 熟熟熟熟
純 ジュン 純純純純
処 ショ 処処処処
署 ショ 署署署署
諸 ショ 諸諸諸諸
除 ジョ のぞく 除除除除
承 ショウ うけたまわる 承承承承
将 ショウ 将将将将
傷 ショウ きず いたむ いためる 傷傷傷傷
障 ショウ（さわる） 障障障障
蒸 ジョウ むす むれる むらす 蒸蒸蒸蒸



## た行

針 シン はり 針針針針
仁 ジン ニ 仁仁仁仁
垂 スイ たれる たらす 垂垂垂垂
推 スイ おす 推推推推
寸 スン 寸寸寸寸
盛 セイ（ジョウ） もる さかる さかん 盛盛盛盛
聖 セイ 聖聖聖聖
誠 セイ まこと 誠誠誠誠
舌 ゼツ した 舌舌舌舌
宣 セン 宣宣宣宣
専 セン もっぱら 専専専専
泉 セン いずみ 泉泉泉泉
洗 セン あらう 洗洗洗洗
銭 セン ぜに 銭銭銭銭
染 セン そめる そまる しみ（じみ） 染染染染
奏 ソウ（かなでる） 奏奏奏奏
善 ゼン よい 善善善善
窓 ソウ まど 窓窓窓窓
創 ソウ つくる 創創創創
装 ソウ ショウ （よそおう） 装装装装
層 ソウ 層層層層
操 ソウ（みさお） あやつる 操操操操
蔵 ゾウ くら 蔵蔵蔵蔵
臓 ゾウ 臓臓臓臓
存 ソン ゾン 存存存存
尊 ソン たっとい とうとい たっとぶ とうとぶ 尊尊尊尊
退 タイ しりぞく しりぞける 退退退退
宅 タク 宅宅宅宅
担 タン（かつぐ） （になう） 担担担担
探 タン さぐる さがす 探探探探
誕 タン 誕誕誕誕
段 ダン 段段段段
暖 ダン あたたか あたたかい あたたまる あたためる 暖暖暖暖
値 チ ね あたい 値値値値
宙 チュウ 宙宙宙宙
忠 チュウ 忠忠忠忠
著 チョ あらわす いちじるしい 著著著著
庁 チョウ 庁庁庁庁
頂 チョウ いただく いただき 頂頂頂頂
腸 チョウ 腸腸腸腸
潮 チョウ しお 潮潮潮潮
賃 チン 賃賃賃賃
痛 ツウ いたい いたむ いためる 痛痛痛痛
敵 テキ かたき 敵敵敵敵
展 テン 展展展展
討 トウ うつ 討討討討
党 トウ 党党党党
糖 トウ 糖糖糖糖
届 とどける とどく 届届届届

## な行

難 ナン（かたい） むずかしい 難難難難
乳 ニュウ ち 乳乳乳乳

## は行

認 ニン みとめる 認認認認
納 ノウ ナッ （ナ） （ナン） トウ おさめる おさまる 納納納納
脳 ノウ 脳脳脳脳
派 ハ 派派派派
拝 ハイ おがむ 拝拝拝拝
背 ハイ せい そむく そむける 背背背背
俳 ハイ 俳俳俳俳
肺 ハイ 肺肺肺肺
秘 ヒ ひめる 秘秘秘秘
批 ヒ 批批批批
否 ヒ（いな） 否否否否
晩 バン 晩晩晩晩
班 ハン 班班班班
俵 ヒョウ たわら 俵俵俵俵
腹 フク はら 腹腹腹腹
奮 フン ふるう 奮奮奮奮
並 ヘイ なみ ならべる ならぶ ならびに 並並並並
陛 ヘイ 陛陛陛陛
閉 ヘイ とじる とざす しめる しまる 閉閉閉閉
片 ヘン かた 片片片片
補 ホ おぎなう 補補補補
暮 ボ くれる くらす 暮暮暮暮
宝 ホウ たから 宝宝宝宝
訪 ホウ おとずれる たずねる 訪訪訪訪
亡 ボウ（モウ） （ない） 亡亡亡
忘 ボウ わすれる 忘忘忘忘

## ま行

棒 ボウ 棒棒棒棒
枚 マイ 枚枚枚枚
幕 マク バク 幕幕幕幕
密 ミツ 密密密密
盟 メイ 盟盟盟盟
模 ボ モ 模模模模

## や行

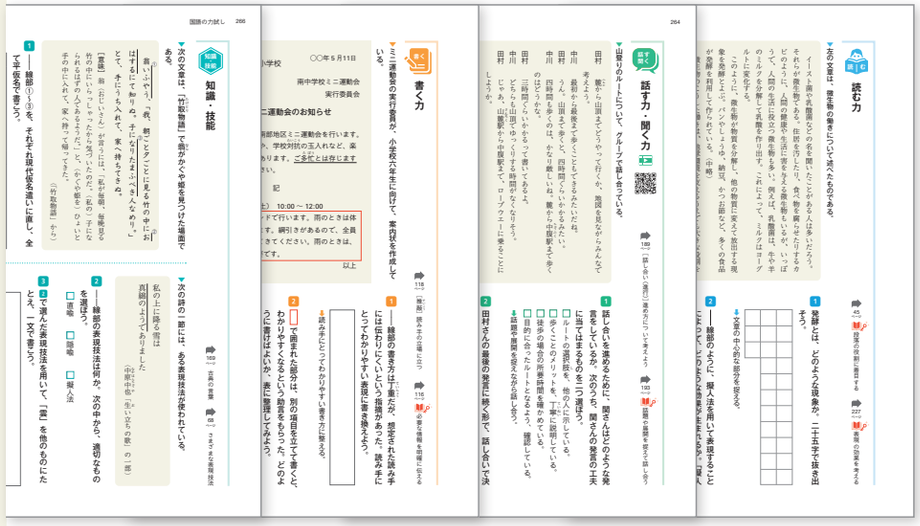
訳 ヤク わけ 訳訳訳訳
郵 ユウ 郵郵郵郵
優 ユウ やさしい すぐれる 優優優優
預 ヨ あずける あずかる 預預預預
幼 ヨウ おさない 幼幼幼幼
欲 ヨク（ほっする） ほしい 欲欲欲欲
翌 ヨク 翌翌翌翌
論 ロン 論論論論

## ら行

乱 ラン みだれる みだす 乱乱乱乱
卵 ラン たまご 卵卵卵卵
覧 ラン 覧覧覧覧
裏 リ うら 裏裏裏裏
律 リツ（リチ） 律律律律
臨 リン のぞむ 臨臨臨臨
朗 ロウ ほがらか 朗朗朗朗
糖 トウ 糖糖糖糖
届 とどける とどく 届届届届

# 国語の力試し

## 身につけた資質・能力を活用して、問題に取り組もう。



### 問題の構成

- 読む力……1 2
- 話す力・聞く力……1 2
- 書く力……1 2
- 知識・技能……1 2 3

### 時間の目安

40分

### 振り返りのヒント

行きづまったときには、教科書の該当ページを見てみよう。

000ページ

問題と関連する「学びのカギ」や、小教材・コラムを示している。

その問題で確かめる、資質・能力を示している。

### タブレットやパソコンで問題に取り組もう

※スマートフォンでは使用できません。

- 右の二次元コードを読み取ると、ウェブサイトで問題を解くことができる。
- 解答表示や自己採点の機能を使い、身につけた力を確認しよう。
- 時間があれば、ウェブサイト用の発展問題にも挑戦してみよう。






## 読む力

**左の文章は、微生物の働きについて述べたものである。**

イースト菌や乳酸菌などの名を聞いたことがある人は多いだろう。それらが微生物である。住居を汚したり、食べ物を腐らせたりするカビのように、人間の健康や生活に害を与える微生物もいるが、いっぽうで、人間の生活に役立つ微生物も多い。例えば、乳酸菌は、牛や羊のミルクを分解して乳酸を作り出す。これによって、ミルクはヨーグルトに変化する。

　このように、微生物が物質を分解し、他の物質に変えて放出する現象を発酵とよぶ。パンやしょうゆ、納豆、かつお節など、多くの食品が発酵を利用して作られている。（中略）

　微生物のこうした働きは、地球環境を支えるうえでも大きな役割を果たしている。秋、公園や庭にたまった落ち葉はいつのまにか腐り、土に戻っているが、落ち葉を分解して土に変えたのは微生物である。植物だけでなく、動物の死骸や し尿など、微生物はさまざまな物質を分解し、土に変える。もし、微生物がいなければ、地球は落ち葉や動物の死骸であふれてしまうだろう。微生物は地球の掃除をしてくれているのである。

（大島泰郎「未来をひらく微生物」から）

45ページ 段落の役割に着目する

227ページ 表現の効果を考える

**1** **発酵とは、どのような現象か。二十五字で抜き出そう。**

⬇文章の中心的な部分を捉える。

**2** **――線部のように、擬人法を用いて表現することによって、どのような効果が生まれるか。「擬人法」という言葉を使って、三十字程度で書こう。**

⬇表現の効果について、根拠を明確にして考える。

話す・聞く

## 話す力・聞く力

189ページ［話し合い（進行）］進め方について考えよう

193ページ 話題や展開を捉えて話し合う

▼山登りのルートについて、グループで話し合っている。

田村　麓から山頂までどうやって行くか、地図を見ながらみんなで考えよう。

中川　最初から最後まで歩くこともできるみたいだね。

田村　うん。山頂まで歩くと、四時間ぐらいかかるみたい。

中川　四時間も歩くのは、かなり厳しいね。麓から中腹駅まで歩くのはどうかな。

田村　三時間ぐらいかかるって書いてあるよ。

中川　どちらも山頂でゆっくりする時間がなくなりそう。

田村　じゃあ、山麓駅から中腹駅まで、ロープウエーに乗ることにしようか。

関　そうしよう。中腹駅から先は、歩くルートと、ケーブルカーに乗るルートがあるよ。

中川　歩いて一時間ぐらいで山頂に着くみたいだね。でも、ケーブルカーにも乗りたいな。関さんはどう思う？

関　今回の山登りは、自然観察も目的の一つだよね。

中川　そうだったね。じゃあ、ケーブルカーは使わないほうがいいね。

田村　わかった。じゃあ、今回のルートを確認するね。

**1** **話し合いを進めるために、関さんはどのような発言をしているか。次のうち、関さんの発言の工夫に当てはまるものを二つ選ぼう。**

□ ルートの選択肢を、他の人に示している。

□ 歩くことのメリットを、丁寧に説明している。

□ 徒歩の場合の所要時間を確かめている。

□ 目的に合ったルートとなるよう、確認している。

⬇話題や展開を捉えながら話し合う。

**2** **田村さんの最後の発言に続く形で、話し合いで決まったことを書こう。**

じゃあ、今回のルートを確認するね。

⬇互いの発言を結び付けて考えをまとめる。



書く

## 書く力

▼ミニ運動会の実行委員が、小学校六年生に向けて、案内状を作成している。

118ページ［推敲］読み手の立場に立つ

116ページ 必要な情報を明確に伝える

中森小学校、玉田小学校
6年生の皆様

○○年5月11日

南中学校ミニ運動会
実行委員会

### 南部地区ミニ運動会のお知らせ

今年も南中学校で南部地区ミニ運動会を行います。全員参加の綱引きや、学校対抗の玉入れなど、楽しい競技がたくさんあります。ご多忙とは存じますが、ぜひご参加ください。

記

日時　5月30日（土）　10:00 ～ 12:00

場所　南中グラウンドで行います。雨のときは体育館で行います。綱引きがあるので、全員軍手を持ってきてください。雨のときは、上履きも必要です。

以上

**1** **――線部の書き方は丁重だが、想定された読み手には伝わりにくいという指摘があった。読み手にとってわかりやすい表現に書き換えよう。**

⬇読み手にとってわかりやすい書き方に整える。

**2** **□で囲まれた部分は、別の項目を立てて書くと、わかりやすくなるという助言をもらった。どのように書けばよいか、表に整理してみよう。**

| 場所 | 南中グラウンド |
| --- | --- |
| ※ | |
| | |

⬇目的に応じて情報を整理し、伝えたいことを明確にする。

知識・技能

## 知識・技能

▼次の文章は、「竹取物語」で翁がかぐや姫を見つけた場面である。

①翁いふやう、「我、朝ごと夕ごとに見る竹の中に②おはするにて知りぬ。子になりたまふべき③人なめり。」とて、手にうち入れて、家へ持ちてきぬ。

［意味］翁（おじいさん）が言うには、「私が毎朝、毎晩見る竹の中にいらっしゃったから気づいたのだ。（私の）子になられるはずの人であるようだ。」と、（かぐや姫を）ひょいと手の中に入れて、家へ持って帰ってきた。

（「竹取物語」から）

**1** ——線部①～③を、それぞれ現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書こう。

| ① | |
|---|---|
| ② | |
| ③ | |

⬇音読に必要な文語の決まりを知る。

▼次の詩の一節には、ある表現技法が使われている。

私の上に降る雪は
真綿のようでありました

（中原中也「生い立ちの歌」の一部）

**2** ——線部の表現技法は何か。次の中から、適切なものを選ぼう。

□直喩　□隠喩　□擬人法

**3** **2**で選んだ表現技法を用いて、「雲」を他のものにたとえ、一文で書こう。

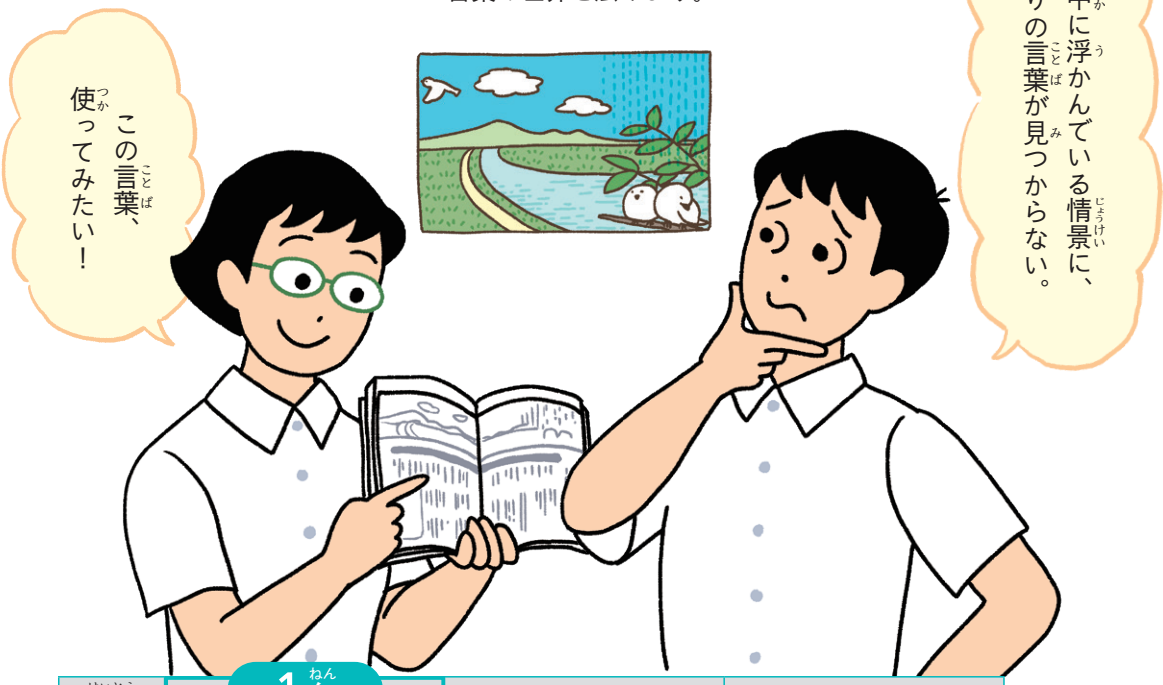
⬇表現技法を理解して使う。

169ページ 古典の言葉
68ページ さまざまな表現技法

## ぴったりの表現を見つけるために

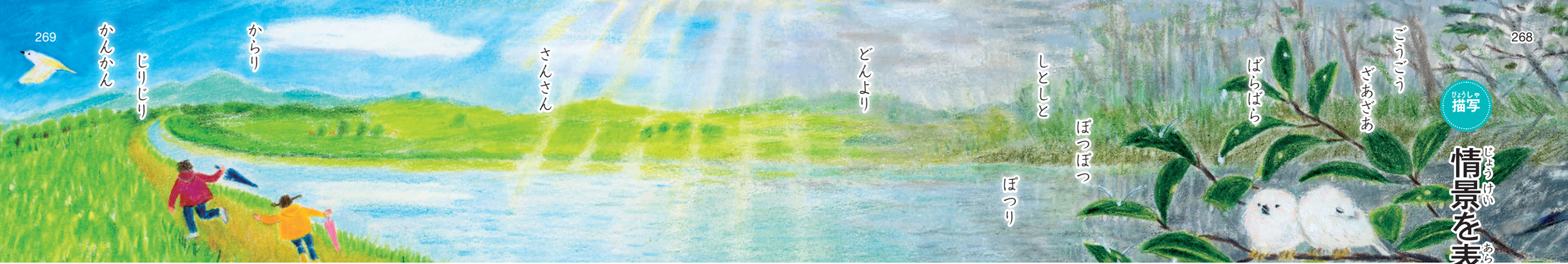
# 語彙ブック

思っていることをうまく表現できない……。
そんなときには、語彙ブックを開いてみよう。
自分の思いや考えにぴったりの表現を見つけて、
言葉の世界を広げよう。




| 系統 | 1年 | 2年 | 3年 |
|---|---|---|---|
| 描写 | 情景を表す言葉 | 感覚で捉えた言葉 | 心の動きを表す言葉 |
| 言動 | 心情・行為を表す言葉 | 人物を表す言葉 | 慣用句・ことわざ・四字熟語・故事成語 |
| 思考 | 思考するときの言葉 | 抽象的な概念を表す言葉 | 批評するときの言葉 |
| コラム | 辞典を活用して言葉を広げよう | 結び付きに着目して言葉を広げよう | 言葉と私 |

言葉の宝箱（小学校）




# 描写 情景を表す言葉

物語や詩で、登場人物の心情と響き合うように描かれた風景や場面の様子を情景という。ここでは、情景描写に用いられることの多い、天気に関わるさまざまな言葉や表現を取り上げた。語感を磨き、ぴったりの表現を探すときに役立てよう。

## 「雨」に関する表現

- 大雨 ・豪雨 ・暴風雨
- どしゃ降り ・あらし
- バケツをひっくり返したような雨
- ざあざあ
- 雷雨
- 夕立 ・スコール
- 雨脚
- 本降り ・雨風
- にわか雨 ・通り雨
- 雨宿り ・しぐれる
- 大つぶの雨
- しとしと
- 蕭々
- 小雨
- 雨だれ ・雨音
- ぱらぱら
- ぽつぽつ
- 霧雨 ・小ぬか雨
- 煙るような雨
- 小やみ
- ぐずついた天気

### ● 天気の描写の例

雨は蕭々と降っている
馬は草をたべている
尻尾も背中も鬣も ぐっしょりと濡れそぼって
彼らは草をたべている

三好達治「大阿蘇」より

雨があがると、ごんは、ほっとしてあなからはい出ました。空はからっと晴れていて、もずの声がキンキンひびいていました。

新美南吉「ごんぎつね」より

どっどど どどうど どどうど どどう
青いくるみも吹きとばせ
すっぱいかりんも吹きとばせ
どっどど どどうど どどうど どどう

（中略）さわやかな九月一日の朝でした。青ぞらで風がどうと鳴り、日光は運動場いっぱいでした。

宮沢賢治「風の又三郎」より

## 「曇り」に関する表現

- 今にも泣きだしそうな空
- 黒雲 ・暗雲
- 雨雲が低く垂れ込める
- ひと雨来そうな気配
- 雲行きがあやしい
- 暗雲がただよう
- すっきりしない天気
- 曇天 ・天気がくずれる
- 薄日が差す
- 日がかげる
- 雲がかかる
- 晴れ間がのぞく
- 雨あがり
- いい天気
- 日和
- さんさん
- 晴天 ・晴朗
- 好天 ・晴れやか
- 上天気 ・日本晴れ
- からりと晴れあがる
- 雲一つない
- 晴れ渡る ・快晴
- 抜けるような青空
- 高く澄んだ空
- 日差しが強い
- かんかん照り
- 炎天

## 「晴れ」に関する表現

### ● 空などの様子を表す言葉

- うららかな五月の空。
- のどかな春の海。
- 春の柔らかな日差し。
- おだやかな秋の一日。
- 秋の高く澄んだ空。

### ● 程度を表す言葉

- まばらに降る雨。
- 雨風が激しくなる。
- すさまじい風。
- 過酷な暑さ。
- 猛烈な台風。

### ● 温度に関する表現

- 春先のはだ寒い日。
- 寒々とした風景。
- 生ぬるい風。
- 気候の温暖な土地。
- 灼熱の太陽。

### ● 擬音語・擬態語（オノマトペ）

- 雨がざあざあと降りしきる。
- 雨つぶがぽつりと落ちる。
- 雪がしんしんと降り積もる。
- 朝日がさんさんと輝く。
- 春風がそよそよと吹く。

### 情景描写　風景に思いをたくす

物語や随筆、日記などを書くとき、情景描写を工夫することで、そのときの思いや考えをより鮮やかに描くことができる。

例「空には暗雲が垂れ込め、雨がぽつりと落ちてきた。」
→これから何か悪いことが起こりそうな、不安な気持ち。

例「雨があがり、抜けるような青空が広がった。」
→不安なことがなくなり、前向きで明るい気持ち。



# 言動 心情・行為を表す言葉

心情や行為を表現するとき、どんな言葉がぴったりくるだろうか。自分に合った言葉や表現を考える参考にしよう。

## 心情を表す言葉

### うれしい

- 喜ぶ「合格を〜」
- 歓喜「勝利に〜する」
- はしゃぐ「お祭りで〜」
- 有頂天「ほめられて〜になる」
- 声が弾む「吉報に〜」
- 心が弾む「旅行が近づき〜」
- 会心の笑み「〜を浮かべる」
- うきうき「〜と買い物に行く」



### 楽しい

- 興じる「趣味に〜」
- たんのうする「落語を〜」
- 満喫「豪華な料理を〜する」
- 愉快「友達と〜な話をする」
- 享受「芸術作品を〜する」
- 充足「〜した生活」
- 爽快「思い切り運動して〜だ」
- 胸が躍る「新しい出会いに〜」
- わくわく「〜しながら出番を待つ」





### 悲しい

- 悲しむ「別れを〜」
- あわれ「〜な結末」
- 悲痛「〜な経験」
- 胸がつかえる「悲劇に〜」
- 胸がふさがる「心配事に〜」
- うなだれる「力を発揮できず〜」
- 断腸の思い「〜で諦める」
- しんみり「別れぎわ〜とする」



### 怒る

- いきどおる「心ない言葉に〜」
- 激怒「納得がいかず〜する」
- 憤慨「身勝手な行動に〜する」
- むしゃくしゃ「〜する出来事」
- 腹立たしい「自分の失敗が〜」
- 頭にくる「ばかにされて〜」
- はらわたがにえくり返る「彼の態度に〜」
- ぷんぷん「怒って〜している」



## 行為を表す言葉

### 話す

- 語る「夢を〜」
- 会話「英語で〜する」
- 懇談「〜会」
- 語らう「友達と共に〜」
- 語りかける「そっと〜」
- 言葉をかわす「初めて〜」
- 口をきく「生意気な〜」

### 聞く（聴く・きく）

- 問う「真偽を〜」
- 尋ねる「道を〜」
- 質問「不明な点を〜する」
- 問いただす「事実関係を〜」
- 聞き入る「祖母の話に〜」
- 傾聴「〜する態度を養う」
- 耳を貸す「忠告に〜」



### 書く

- 記す「住所を〜」
- 執筆「エッセイを〜する」
- つづる「文章を〜」
- したためる「手紙を〜」
- 書き留める「伝言を〜」
- 筆をとる「返信の〜」
- 記録「議事を〜する」

### 読む

- 朗読「絵本を〜する」
- 通読「資料を〜する」
- 判読「古い書物を〜する」
- 閲覧「図書を〜する」
- ひもとく「古典を〜」
- 字面を追う「必死に〜」
- 目を通す「書類に〜」

### 表す

- 表現「言葉で〜する」
- 表出「感情を〜する」
- 表明「自分の考えを〜する」
- 表示「原材料を〜する」
- 打ち出す「新しい方針を〜」
- 示す「問題点を〜」

### がんばる

- 努力「日々〜をおしまない」
- はげむ「練習に〜」
- 努める「安全運転に〜」
- 尽力「地域活性化に〜する」
- 骨を折る「設営に〜」
- 粉骨砕身「〜勉強する」
- ベストを尽くす「今の〜」

### 競う

- 争う「優勝を〜」
- 競争「〜心を保つ」
- 競合「〜するチーム」
- せる「僅差で一位を〜」
- 張り合う「意地を〜」
- 向こうを張る「ライバルの〜」
- しのぎを削る「互いに〜」

### 暮らす

- 生活「おだやかな〜」
- 過ごす「あわただしく〜」
- 自活「実家を離れて〜する」
- 起居「〜を共にする」
- 生計を立てる「〜手段」
- 営む「暮らしを〜」
- 世を渡る「一芸で〜」

### 訪ねる

- 訪れる「友人の家を〜」
- 訪問「会社〜」
- 来訪「〜者」
- 往訪「はるばる〜する」
- 足を運ぶ「何度も〜」
- 門をくぐる「母校の〜」
- おもむく「現地に〜」



思考

# 思考するときの言葉

思考を整理したり、交流などを通して広げたり深めたりするとき、どんな言葉を使うとよいだろう。目的や場面に応じて使ってみよう。




## 問いを立てる

- なぜ○○か
- ○○は□□か
- ○○とは何か
- ○○はどういうことか
- どのような何のために
- どうすれば
- 疑問点は

## 発想を広げる

- 加えて／他にも
- ○○に関連して
- それならば

## 発想を変える

- 見方／視点を変えれば
- 別の考え方をすれば

## 考えを引き出す

- ○○なのはなぜか
- 具体的にどういうことか
- 例えばどういうことか
- ○○について詳しく教えてほしい




## 分析する

- ○○に着目すると
- ○○という方法で全体の傾向として
- ○○をどう考えるか
- ○○の関係を整理すると
- その背景には何があるか
- 両者はどう関連するか
- ○○にとってどんな効果／価値があるか

## 比較・分類する

- ○○と比べると
- 共通点／相違点は
- メリット／デメリットは
- 前者に対して後者は
- ○○の観点で分けると

## 組み合わせる

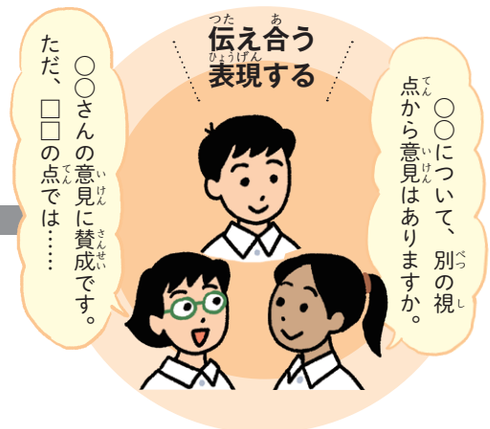
- ○○と□□を合わせると
- ○○とつなげて考えると

## 順序立てる

- まず、／次に、／第一に、／第二に、
- 時系列で整理すると
- この流れから考えると

## 仮説を立てる

- 仮に○○とすると
- ○○から□□といえるのではないか




## 伝え合う

- 話し合いの目的／ゴールは
- 私の意見／立場は
- ここでいう「○○」とは、□□ということか
- つまり○○ということか
- さらに○○してはどうか
- ○○の点では同じ考えだが、□□の点では
- 反対の立場から見ると

## 話題を整理する

- ここまで、○○と□□の観点から意見が出たが
- 今の話題は○○なので、○○についての意見を

## 根拠を挙げる

- その根拠として
- そのように考えたのは
- ○○に基づいて
- 「○○」によると

## 原因・結果を示す

- なぜなら
- ○○によって
- ○○が原因で
- この結果から考えられる原因は
- ○○の結果
- ○○が□□をもたらす
- ○○は□□だからだ

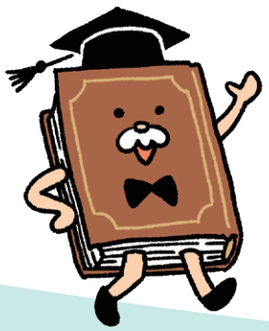



## 振り返る

- ○○を通して□□を学んだ
- ○○を□□に生かしたい
- ○○という視点に気づいた
- できるようになったことは
- 工夫／試行錯誤した点は
- 改善点は
- ○○さんの意見を受けて
- 最初は○○だったが、□□をきっかけに
- 新たに○○という課題が

## 話をまとめる

- このように
- したがって
- 以上のことから
- 総合すると
- ここまでをまとめると
- 今日決まったことは
- 課題として残ったのは
- ○○は結論が出なかったが、□□については



コラム

# 辞典を活用して言葉を広げよう

さまざまな辞典を使いこなすことによって、言葉を広げることができる。「驚く」に関連する言葉について調べてみよう。

## 国語辞典

言葉の意味や用例を説明した辞典。

19ページ 言葉を調べる

おどろ-く【驚く】
思いがけない出来事で、心が騒ぐ。びっくりする。

## 類語辞典

意味が似ている言葉を集め、意味の違いなどを説明した辞典。

飛び上がる
びっくりする
愕然とする
仰天する
驚嘆する
のけ反る
たまげる




## 擬音語・擬態語辞典

音声や、ものの様子をそれらしく表す擬音語・擬態語を集めた辞典。

ぎくり
ぎょっと
はっと
どきり

## ことわざ・慣用句辞典

ことわざや慣用句を集め、意味や使い方について説明した辞典。

意表をつかれる
寝耳に水
肝を冷やす
舌を巻く
目を丸くする

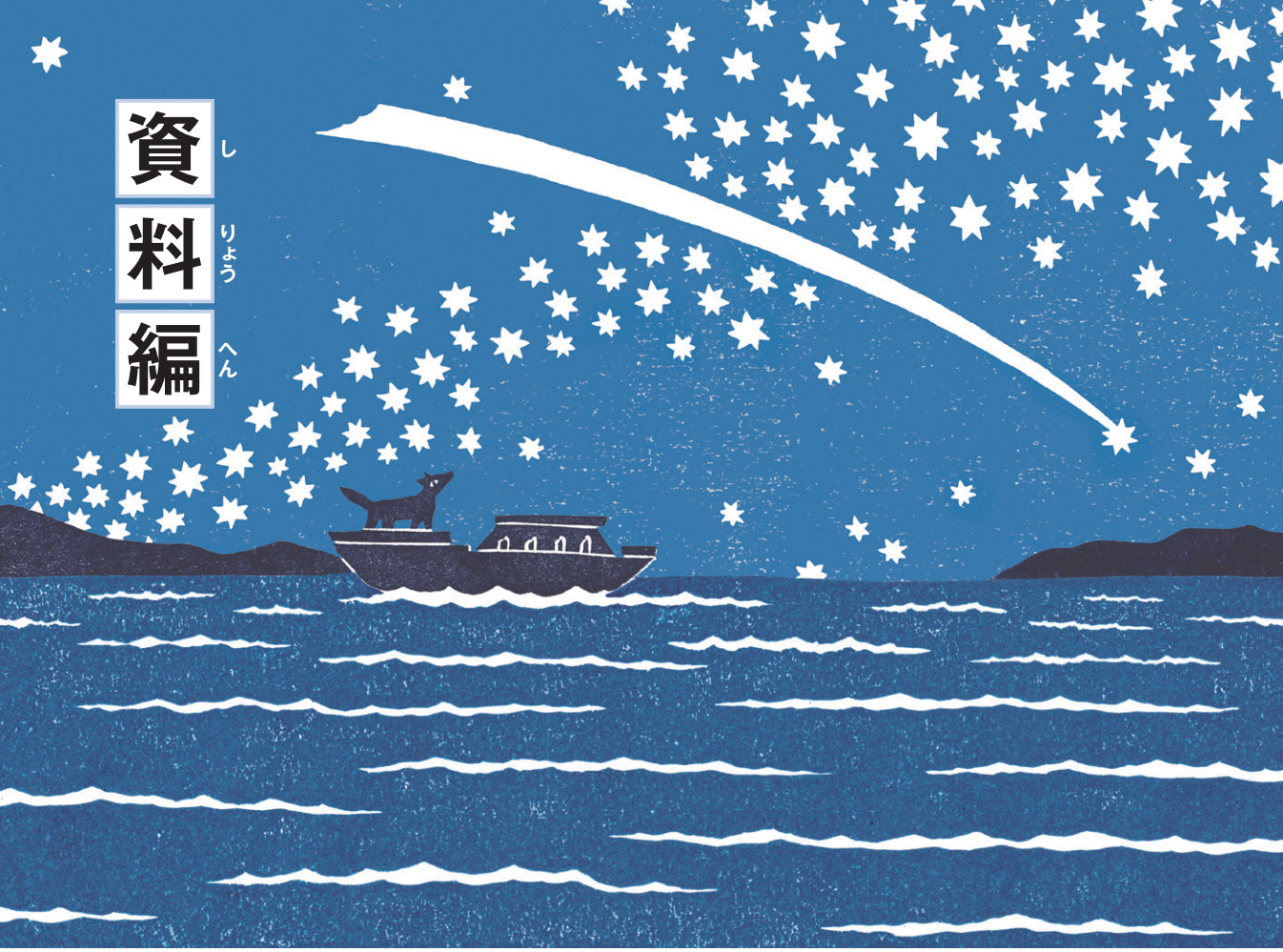
## 古語辞典

古い時代に使われていた日本語を集めた辞典。

あさましがる
耳驚く
驚く

他にも、心情を表す言葉や比喩表現、外来語を集めたものなど、さまざまな辞典があるよ。お気に入りの辞典を探してみよう。





# 資料編


「学びのカギ」一覧　文学的な文章を読むために …… 276
「学びのカギ」一覧　説明的な文章を読むために …… 278
「学びのカギ」一覧　豊かに表現するために …… 280
● 発想を広げる――表現テーマ例集 …… 282
● 読書感想文の書き方 …… 284
● 文章の推敲・原稿用紙の使い方 …… 286
● 敬語を使う …… 287
● 手紙の書き方 …… 288
幻の魚は生きていた　中坊徹次 …… 290
坊っちゃん　夏目漱石 …… 294
言葉としぐさの伝統芸能――古典落語 …… 304
百人一首を味わう …… 306
一年生で学習した漢字 …… 308
一年生で学習した音訓 …… 321
常用漢字表 …… 322
常用漢字表　付表 …… 336
［索引］学習のための用語一覧 …… 338
ICT活用のヒント …… 341


※「●」が付いている資料は「資料編デジタル」にも収録

資料編デジタル

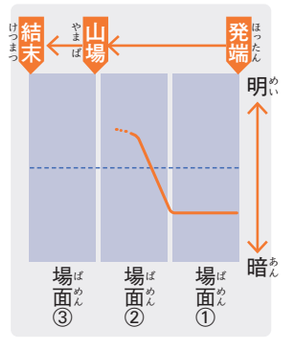
# 「学びのカギ」一覧
# 文学的な文章を読むために

ここには、文学的な文章を読んだり、書いたりするときに役立てよう。

## 1年「学びのカギ」

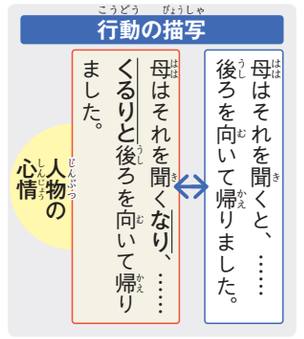
### 心情の変化を捉える
29ページ

- 物語や小説は、場面の展開（発端・山場・結末など）を考えながら読む。
- 場面の展開に着目すると、心情の変化や人物の関係の変化を捉えやすい。



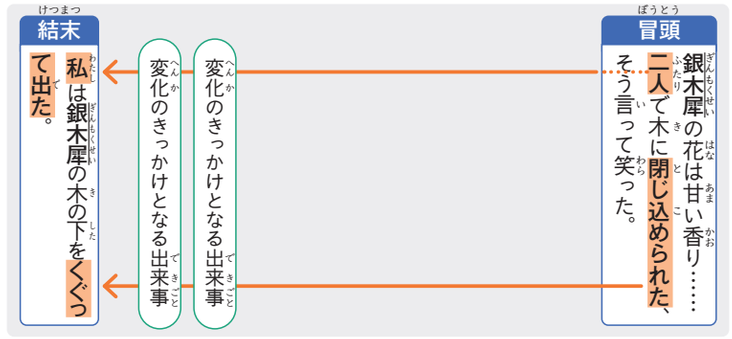

### 描写に着目する
105ページ

- 登場人物の心情は、直接説明するだけでなく、人物の行動や風景の描写にたくして表現されることも多い。
- 描写に着目しながら丁寧に読むことで、より深く作品を味わえる。



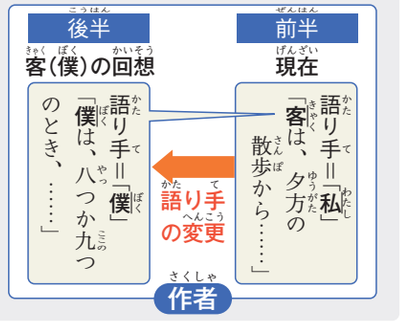

### 結び付けて解釈する
115ページ

- 複数の場面に出てくる同じ物や場所、表現を結び付けて考えることで、場面や描写に新たな意味を見いだす（解釈する）ことができる。
- 作品の構成に注目し、前半と後半、冒頭部と結末部などに着目して、違いを考えるとよい。




### 語り手の視点に着目する
221ページ

- 物語や小説は、「語り手」が見聞きした出来事を語るという形でストーリーが展開していく。
- 描かれた出来事には語り手の価値観が表れる。そのため、誰の視点で描かれているかに注意して読む。
- 他の人物の視点から出来事を捉え直すと、作品を多面的に理解できる。




### 表現の効果を考える
227ページ

- 表現が、文章の内容を伝えたり印象づけたりするために、どう働いているかを考えると、作品をより深く味わえる。

【表現の特徴➡効果の例】
- 平易な言葉を多用
  ➡【効果】共感・親しみやすさ
- 短文と長文を織り交ぜる
  ➡【効果】リズムやテンポのよさ

### 【学習で用いる言葉】

**場面**　作品の中にある幾つかのまとまり。時や場所、登場人物の組み合わせが同じ部分を一場面とすることが多い。
➡下段「題名」「登場人物の設定」「場面の展開」

**描写**　物事の様子や場面、登場人物の行動や心情などを、読み手が具体的に想像できるように描いたもの。

**情景描写**　人物の心情と響き合うように描かれた風景や場面の描写。

**解釈**　読み取ったことを基に、自分なりに考え、新たな意味を見いだすこと。

**語り手**　物語や小説の地の文を語る人。人物の行動や気持ち、場面の様子などを語りながら話を進めていく。

**随筆**　経験や見聞きしたことを基に、自分にとっての意味や考えを書いたもの。
➡下段「文章の種類」

## 1年 その他の観点

### 文章の種類
2ページ

【散文】
- 物語、小説、随筆　など
- 小説には、ファンタジー、推理小説、歴史小説など多様なジャンルがある。
- 一般に、長いものを長編（小説）、短いものを短編（小説）とよぶ。

【韻文】
- 詩、短歌、俳句　など

### 題名
2ページ

- 舞台となる時や場所、登場人物の名前、作品を象徴する情景や事物、作者の思いなどに基づくものが多い。
- 「はじまりの風」…作品を象徴する情景や事物

### 登場人物の設定
- 登場人物や人物どうしの関係について、通読の際に捉えるとよい。
  - 名前（よび名）、年齢
  - 置かれている状況や立場
  - 外見や性格、言動などの特徴
  - 他の登場人物との関係

### 場面の展開
29ページ

①**状況設定（導入）**…作品の舞台となる時代背景や場所、登場人物やその置かれた状況などが示される。**出来事の発端**…ある出来事が起こるきっかけが示される。
②**展開**…出来事の経緯が示される。
③**山場**…状況が大きく動く場面。登場人物の心情や考え方が大きく変化することが多い。
④**結末**…出来事のその後などが示される。余韻をもたせるなど、さまざまな工夫がなされる。

学びの地図



読む

読み深める

捉える

「学びのカギ」一覧

# 説明的な文章を読むために

ここには、説明的な文章を読んだり、書いたりするときに役立てよう。

## 1年「学びのカギ」

### 捉える

#### 段落の役割に着目する

45ページ

- 段落の役割に着目すると、文章の内容や構成、中心となる部分が捉えやすくなる。

【段落の役割の例】
- 導入
  - 話題提示
  - 問い・答え
- 理由
  - 例示
- まとめ
  - 筆者の主張

【学習で用いる言葉】

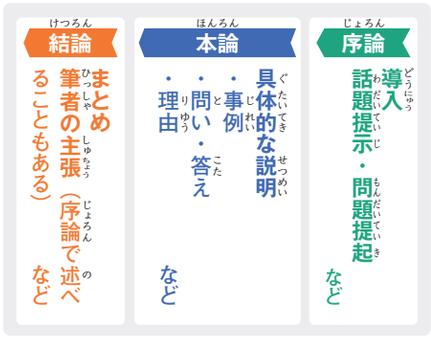
**段落**　文章を内容別に分けたまとまり。改行し一字下げる。

#### 文章の構成に着目する

51ページ

- 文章全体が、どのように構成されているかを捉えると、内容を整理したり、要旨を捉えたりすることに役立つ。
- 説明的な文章は、典型的な構成の型を踏まえて書かれることが多い。

例　初め・中・終わり
　　序論・本論・結論




【学習で用いる言葉】

**要旨**　文章の内容や、筆者の考えの中心となる事柄のこと。「結論」のまとまりに表れることが多い。⬇要約

## 1年「その他の観点」

#### 文章の種類

2ページ

【事実や事柄を正確に伝える】
- 説明、記録、報告　など

【根拠に基づき意見を述べる】
- 意見文、論説、評論、批評　など

#### 引用

82ページ

- 他の文章や統計調査などから、文や語句、数値などのデータを引いてくること。
- 「　」などで地の文とは区別される。
- 事実の説明や意見を補強したり、補足したりする役割がある。

学びの地図



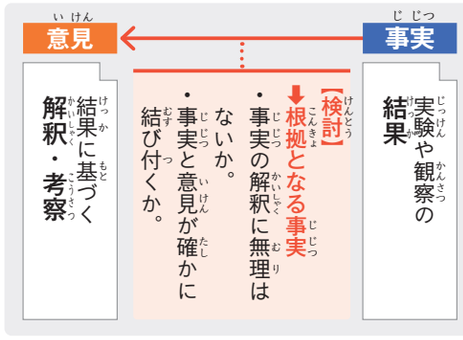
読む

### 読み深める

#### 構成や展開の効果を考える

137ページ

- 意見を述べる文章では、筆者が客観的な事実を根拠として意見を主張したり、仮説の検証を経て得た確かな事実を基に考えを述べたりすることが多い。
- 文章の構成や展開に説得力があるかを判断するには、根拠となる事実の解釈や、意見との結び付きに問題がないかを検討するとよい。



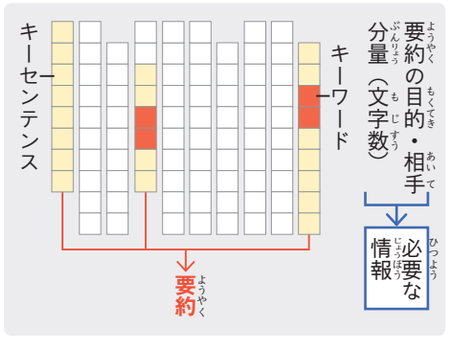

**仮説**　ある現象を説明するために、仮に立てる説。

**検証**　実験・観察などによって得た事実と照合し、仮説を証明すること。

#### 目的に応じて要約する

185ページ

- 目的や相手に応じて、適切な要約のしかたを考え、必要な情報を選ぶ。
- 文章全体を見通したうえで、要点を端的にまとめる。題名や、キーワード、キーセンテンスなどを重視する。
- 要約をすると、文章の要点や、筆者の主張の核が明確になる。




**要約**　目的や必要に応じて文章の内容を短くまとめること。⬇要旨

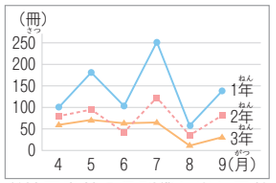
**キーワード**　文中に繰り返し出てくる言葉。

**キーセンテンス**　段落の中心となる文。段落の最初か最後にあることが多い。「つまり」「以上のことから」などの言葉も手がかりになる。

#### 図表の読み取り

145ページ

- 特徴的な数値…最大値や最小値、ある部分にだけ見られる数値など。
- 変化…増加・減少、変化の大きさ、変化のしかたなど。
- 違い…項目（学年、分野、月など）の比較によって見える傾向など。




学校図書館の月別貸し出し冊数

# 「学びのカギ」一覧 豊かに表現するために

ここには、話したり、聞いたり、書いたりするための基本的な観点をまとめてある。身につけた力を確認し、学習や日常生活に生かそう。

学びの地図

## 話すこと・聞くこと

### 組み立てる（話す）

#### わかりやすい話の構成を考える

- 話す目的や話題を確認し、自分が伝えたいことを明確にする。
- 聞き手の立場に立って、わかりやすい話の構成や表現になるよう工夫する。

【話の構成の工夫】
- 順序を表す言葉を用いる。
- 話の始め方や終わり方を工夫する。
- 体験など具体例を入れる。
- 資料を示すタイミングを工夫する。

35ページ

### 伝え合う（聞く）

#### 質問で話を引き出す

- 質問するときは、聞き取りやすい大きさの声で、はっきりと話す。
- 相手の話に耳をかたむけ、相づちを打ったり、うなずいたりしながら、誠実な態度で聞く。
- 相手が答えやすいように質問のしかたを工夫する。

【質問のしかたの工夫】
- 「絞る質問」「広げる質問」といった質問の種類を意識する。
- 相手の言葉を引用して質問したり、話の内容を言い換えて相手の意図を確かめたりする。

122ページ

### 伝え合う（話し合う）

#### 話題や展開を捉えて話し合う

- 話し合いの目的や話題を確認し、自分の考えをもって参加する。
- 共通点と相違点に注意しながら聞き、他の人の意見と結び付けて質問したり、自分の考えと関連づけて述べたりする。
- ポイントを文字や図で書き出したり、今の話題を確認し合ったりして話し合いの展開を捉える。
- 話がそれたときは、進行役が軌道修正し、元の話題に戻す。

【話題や展開を捉えて話し合うには】

| | |
|---|---|
| 話題を整理する | 目的や話題を確認する |
| 話題を転換する | 他の人の意見を受ける |

193ページ

### 振り返る

#### 一年間の学びを振り返る

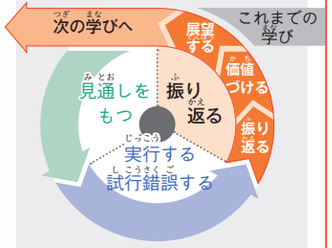
- 観点を決めて学習を振り返ることで、学んだときには気づかなかった意味や価値を見いだすことができる。

【観点の決め方】これまでの学習の中で印象に残っていることや興味を引かれたことを観点とする

例 比喩、情景描写、語り手、○○を表す言葉、話すときのこつ など。

235ページ

#### 学びのサイクル




振り返りのステップ

[振り返る] 学習活動を思い起こし、自分が身につけた力を確かめる。

[価値づける] 身につけた力が、他の場面でどう役立っているかを考える。

[展望する] 学んだことを、今後どう生かしていくか、見通しをもつ。

## 書くこと

### 集める・整理する

#### 情報を集めて取捨選択する

- 何のために、誰に向けて書くのかを意識して情報を集める。
- 情報を、観点ごとにまとめたり、分類したりして整理する。
- 目的や相手に応じて情報に優先順位をつけ、不要な情報は捨てる。

不特定多数に道具として

| 情報の取捨選択 | | |
|---|---|---|
| | 名前 | 機能 |
| | 構造 | ~~思い出~~ |

友達にお気に入りを紹介

| 情報の取捨選択 | | |
|---|---|---|
| | 名前 | ~~機能~~ |
| | ~~構造~~ | 思い出 |

55ページ

### 組み立てる

#### 必要な情報を明確に伝える

- 伝える事柄・目的・相手を踏まえて情報を整理する。
- 必要な情報が明確に伝わるように構成する。
  - 情報をできるだけ絞り込む。
  - 項目ごとに分類する。
  - 必要性の高い情報から並べる。

【伝える情報の整理】
- 基本的な情報（行事名、日時、場所など）。
- 相手にとって必要と思われる情報。
- 案内する側が、相手にぜひ伝えたい情報。

116ページ

### 表現する

#### 根拠を明確にして書く

- 調べて考えたことを報告する際は根拠となる事実を明確に示す。
- 根拠として確かな情報を選ぶと、説得力が増す（統計などの数値、具体例、専門家の知見など）。

【引用の際の留意点】
- かぎ（「　」）でくくるなど、引用部分を他と区別する。
- 情報や数値を正確に示す。
- 出典を正確に示す。

141ページ

#### 構成を工夫して書く

- 伝えたいことを明確にする。
- 書き出した材料を基にして、伝えたいことが効果的に伝わるように、おおまかな構成を考える。

例 導入―体験談―意味づけ

【構成の工夫】
- 時間の流れに沿う。
- 初めに印象的な場面を置く。
- 同じような体験を幾つか並べる。

229ページ

# 発想を広げる——表現テーマ例集

ここには、話したり書いたりするときの手がかりとなるテーマ例が示してある。この例を参考に、自分の発想を大きく広げていこう。



## 説明・紹介・記録・報告

**自分・生活**
- 私の好きな言葉
- 私の最近の三大ニュース
- わが家の恒例行事
- 友達の○○な面を紹介

**自然・環境**
- 地域の○○川の魅力に迫る
- ○○公園の植物の観察記録
- 家の近くで見た鳥の種類
- 地産地消とは何か



## 意見・主張・討論

**自分・生活**
- 入学式のときに考えたこと
- 宿泊研修で学んだこと
- 本で調べた戦争体験
- 毎日の食事について考える

**自然・環境**
- ごみ問題について思うこと
- 水や空気の大切さ
- リサイクル率について



## 感想・随筆・創作・批評

**自分・生活**
- 私の宝物
- 父と作った本棚
- 私の○○日記
- 初めて○○に気づいた日
- ペットと私の出会い
- 体育祭を終えて

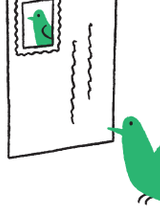
**文化・芸術**
- 忘れられない絵画
- 私の好きなこの曲
- 初めて落語を聞いて

**言葉**
- 「カタカタ」と「ガタガタ」の印象の違い
- 方言と共通語
- 「うれしさ」を表す言葉
- 雨や雪、雲の様子を表す言葉
- 教科書の中の忘れられない言葉

**文化**
- 好きなスポーツの歴史
- 百人一首でいちばん好きな歌

**情報**
- 友達に紹介したいテレビ番組
- 今週のトップニュース

**地域・社会**
- 町の○○職人を取材して
- ○○町とっておきの場所
- 地域の文化財を見学して
- 地域の正月の行事



## 案内・手紙

**連絡・案内**
- 部活動の練習の連絡
- 文化祭の案内
- クラス会の案内
- 体育祭のポスター

**依頼・お礼**
- 職場訪問の依頼状
- 職場訪問のお礼状
- アンケート調査のお願い




**挨拶・メッセージ**
- 新入生に学校のおすすめスポットを伝える
- 小学校の先生に近況を伝える
- 先輩に感謝の気持ちを伝える
- 友達に年賀状を書く
- 一年後の自分に手紙を書く

**人間関係・生き方**
- 本当の友達とは
- 豊かさとは何か
- 掃除は誰のためか
- 先輩には敬語を使うべきか

**情報**
- 学校図書館に置いてほしい本
- 電子メールを使った経験から
- 新聞を読む習慣について
- 地域の掲示板を見て

**福祉**
- 手話を教えてもらって
- 点字ブロックについて
- ボランティアは誰のためか

**地域・社会**
- 商店街を活性化するには
- 地域の防災について思うこと
- 古い町並みは残すべきか

**福祉**
- 車椅子を押してみて
- 初めての介護体験
- 募金活動に参加して

**自然**
- 好きな花
- 旅先の忘れられない場所
- 教室の窓から見える風景
- ○○山の頂上に立って
- もし自分が自然の中の○○だったら
- 水田に生息する生き物

**自然**
- 宮沢賢治の作品を読んで
- 教科書で出会った文章・絵
- 主人公を変えてみたら
- ○○のその後の物語

78ページ 情報収集の達人になろう

エスディージーズ
× SDGs

- 2 飢餓をゼロに
- 12 つくる責任 つかう責任
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 14 海の豊かさを守ろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 16 平和と公正をすべての人に

# 読書感想文の書き方

読書感想文を書くことで、本への理解や自分の考えをいっそう深めることができる。書く手順や書き方の工夫を確認しよう。

90・202ページ 本の世界を広げよう

読書感想文は、あらすじではなく、登場人物や著者の体験を自分に置き換えたり、自分のものの見方・考え方と比較したりして考えたことなどを書くとよい。これまでに書きためてきた読書記録を読み返して、読書感想文を書いてみよう。

## 書く手順

❶ 感想や考え、印象に残った部分をメモなどにまとめる。
- 感じたこと、考えたこと
- 印象に残った言葉、場面

❷ 何を中心に書くかを決める。
- ❶のメモの中から、詳しく書きたいと思うことを選ぶ。
- 書きたいことの優先順位を決め、絞り込む。

❸ 構成を考える。
- 書きたいことが効果的に表現できるように、メモを並べかえるなどして、書く順序を工夫する。

### 題名

感想文の中心となることが何か、わかる題名にする。

### 書きだし

読み手の興味を引くように工夫する。
- 疑問や印象に残った言葉から書き始める。
- 本との出会いや取り上げた理由など、自分と本との関わりから書き始める。

### 体験を書く

自分の体験や生活と重ね合わせて考える。

### まとめ

書きだしとのつながりを考える。疑問に思ったことから始めた場合は、疑問に対する自分の答えを書く。

### 引用する

自分の考えや感想の根拠をより明確にするために、本の中から必要な部分を引用するとよい。一字一句、誤りのないよう正確に書き写す。

### 思いや考えの変化を書く

読む前と読んだ後では、自分の思いや考えがどう変わったかを書く。

## 書き方の工夫

大切なものを探す

イタルは、なぜキップをなくしたのだろう。

キップをなくしたことなんかなかったのに。

中で暮らすことになったのだろう。「駅の子」はなぜ、駅の子供たちが駅で暮らすことを許しているのだろう。

池澤夏樹の「キップをなくして」は、キップをなくしてしまった「駅の子」たちが集まり、暮らしていく話だ。

「キップをなくすと駅から出られなくなるから。」ママがイタルに言う言葉だ。私も同じことを言われたことがある。鉄道会社に勤めていた祖父からだ。祖父は鉄道も駅も大好きで、列車に乗るときは発車の一時間前に駅に着いて、駅の空気を吸うことを楽しみにしていた。ふだんは、やさしい祖父だったが、鉄道に関する話になると、その口調は少しおこったように熱を帯びた。列車に乗りおくれたり、キップをなくしたりしてはいけないと、何度も言われた覚えがある。だから、私の中には、キップをなくしたイタルの姿にあきれるような気持ちがあった。

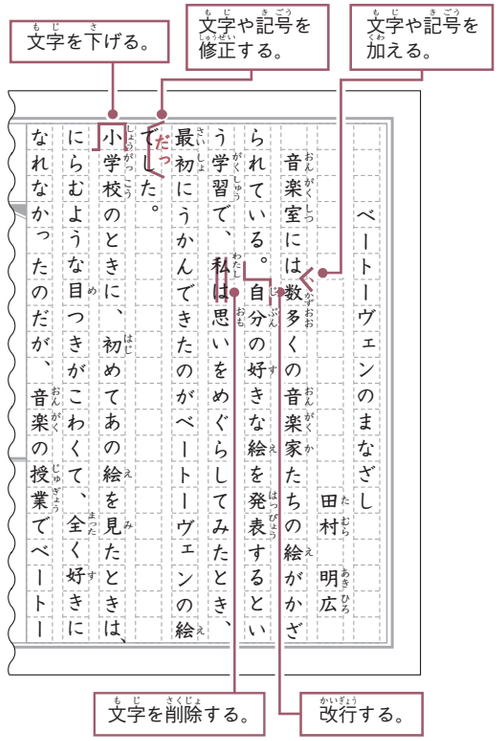
イタルは、他の「駅の子」たちと暮らしていく中で、一人の女の子のことを気にかける。ミンちゃんだ。……（中略）

イタルがキップをなくして「駅の子」になったのは、駅長さんにたのまれた仕事をするためだった。それは、ミンちゃんを助けること。ミンちゃんは、「ありがとう。最後まで一緒にいられて、嬉しかった」と、イタルにお礼を言って旅立っていく。ミンちゃんのママもおばあちゃんも、イタルに感謝している。イタルはミンちゃんの旅立ちをお手伝いする大切な任務を果たしたのだ。イタルをはじめ、「駅の子」たちの成長が、うれしく感じられると同時にうらやましくもある。キップをなくしたイタルは、「駅の子」の体験を通して生や死、友情などたくさんの大切なものを探すことができた。私もこの本から学んだ「楽しく生きる」という大切な心をもって、毎日を過ごしていきたい。

# 文章の推敲・原稿用紙の使い方

文章を書いたら、よりよく仕上げるために、必ず推敲を行おう。また、原稿用紙の使い方を身につけ、文章を読みやすく書き表そう。

推敲とは、書いた文章を練り直すことである。下の観点を参考に、伝えたいことが十分に書き表されているか、読み手に伝わる表現になっているかを確認しよう。原稿用紙の上で推敲するときは、左の例のような記号を使うとよい。




## 推敲の観点

- 内容が多すぎたり、少なすぎたりしていないか。
- 内容ごとに段落を分け、全体をわかりやすく構成しているか。
- 文と文、段落と段落のつながりは適切か。
- 文や段落の長さは適切か（長すぎないか）。
- 文体（常体・敬体）は統一されているか。
- 主語と述語が適切に対応しているか。
- 語句の選び方、使い方は適切か。
- 漢字や仮名遣い、送り仮名の誤りはないか。
- 句読点などの符号の使い方は適切か。

118ページ［推敲］読み手の立場に立つ

## 原稿用紙の使い方

- 題名は、最初の一、二行目に、上から三字程度空けて書く。
- 氏名は、題名の次の行に、下を一、二字空けて書く。
- 書きだしや段落の初めは、一字下げる。
- 会話文は、原則として行を変え、「　」で囲んで書く。
- 句読点や、会話を閉じるかぎ（」）が行頭に来る場合は、前の行の最後のますに文字といっしょに入れる。または、欄外に書く。



# 敬語を使う

小学校では、「丁寧語」「尊敬語」「謙譲語」を学習してきた。ここでは、それらの敬語を使うべき具体的な場面を幾つか取り上げる。後の場面例を参考に、日常生活の中で意識して敬語を使おう。

## 敬語の種類

- 丁寧語＝話し手（書き手）が聞き手（読み手）に丁寧な言葉遣いをし、丁寧さを表す敬語。（～～～）
- 尊敬語＝相手や話題に上った人の動作・行動を高めて、その人に対して敬意を表す敬語。（――）
- 謙譲語＝自分や身内の動作・行動をへりくだって言い、動作・行動の向かう先に対して敬意を表す敬語。（＝＝）

（この他、「美化語」「丁重語」とよばれるものもある。詳しくは二年生で学習する。）

## 敬語を使う場面

- **学級での話し合い**

グループ活動では敬語を使わない同級生に対しても、学級での話し合いなど、おおやけの場では敬語を使って話す。

例 林さんの意見について、皆さんはどう思いますか。

- **電話で話す**

目上の人や、親しい間柄でない人と電話で話す場合は、相手に失礼にならないように敬語を用いる。特に、自分や身内に関して言うときは、謙譲語を使うことに注意する。

例 私は市田と申します。○○さんはいらっしゃいますか。

- **来客と話す**

学校や家に訪ねてきたお客様に対しては、礼儀正しく、相手を敬う気持ちが伝わるように話す。

例 職員室へは、あちらの階段をお上がりください。

- **手紙や電子メールを書く**

目上の人への手紙や礼状は、丁寧な言葉遣いで書く。礼状では感謝の気持ちが伝わるように書くことも大切である。

例 暑い日が続いていますが、いかがお過ごしですか。

- **案内状を書く**

不特定多数の人への案内状は、丁寧な言葉遣いで書く。「来てほしい」という思いが伝わるように書くことも大切。

例 このたび、北中学校の吹奏楽部では、地域の方をお招きして、演奏会を開くことになりました。有名な曲も演奏しますので、どうぞお越しください。

# 手紙の書き方

改まったものから季節の便りまで、手紙はさまざまな場面で用いられる。形式を知り、心を込めて書くようにしよう。

116ページ 項目を立てて書こう

## 手紙の用語

- **頭語・結語**
  頭語・結語にはさまざまなものがある。下の例を参考に適切なものを選んで使おう。

| 頭語 | 結語 | 適する場面 |
|---|---|---|
| 拝啓 | 敬具 | 一般的な場合 |
| 謹啓 | 謹白 | 特に改まって書く場合 |
| 前略 | 草々 | 前文を省略する場合 |
| 拝復 | 敬具 | 返事の場合 |

- **宛名の敬称**
  相手が一人か複数か、個人宛てか団体宛てかによって使う敬称が異なる。失礼のないように使い分けよう。
  - 個人宛て……「様」「先生」「殿」（例：野田幸一先生）
  - 多人数宛て…「各位」「皆様」（例：野球部員各位）
  - 団体宛て……「御中」（例：田中建設株式会社御中）

- **封筒の記入例**




- **時候の挨拶**
  改まった手紙には「～の候」といった漢語調のものを、私的な手紙には日常の言葉で季節を表現したものをよく用いる。

| 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 |
|---|---|---|---|---|---|
| 新春の候　厳寒の候<br>寒さがひとしお身にしみる頃となりました。 | 立春の候　余寒の候<br>梅のつぼみもほころぶ季節となりました。 | 春分の候　早春の候<br>日ごとに春の訪れを感じるようになりました。 | 仲春の候　春暖の候<br>うららかな季節となりました。 | 立夏の候　新緑の候<br>風かおる季節となりました。 | 初夏の候　梅雨の候<br>あじさいが美しく咲く季節となりました。 |
| **7月** | **8月** | **9月** | **10月** | **11月** | **12月** |
| 盛夏の候　向暑の候<br>いよいよ本格的な夏がやってまいりました。 | 立秋の候　残暑の候<br>日中は今なお厳しい暑さが続いております。 | 秋分の候　涼風の候<br>ひと雨ごとに涼しくなってまいりました。 | 仲秋の候　紅葉の候<br>青い空に秋の深まりを感じる季節となりました。 | 立冬の候　晩秋の候<br>木々も葉を落とし、冬の訪れを感じます。 | 師走の候　寒冷の候<br>年の瀬も押し迫ってまいりました。 |



## 手紙の書式

- **依頼文の例（改まった手紙）**

❶拝啓
朝夕はようやくしのぎやすさを感じる頃となりました。さくら保育園の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。
❷突然のお手紙にて失礼いたします。私は、南中学校一年二組の林果歩と申します。
南中学校では、関心のある職業の仕事現場を見学させていただく、職場訪問という活動を行っています。私は、小さな子供たちと触れ合う仕事にたいへん興味があり、自分が卒園した保育園を見学したいと考えております。
そこで、急なお願いで申し訳ございませんが、十一月半ばに、貴園を見学させていただけないでしょうか。後日こちらからお電話いたしますので、ご都合をお聞かせください。
❸お忙しいところ失礼いたしますが、ご検討のほどよろしくお願い申しあげます。
❹九月二十五日
南中学校一年二組　林果歩
さくら保育園御中

- **案内文の例（実用的な通信文）**

❹○○年2月9日
元6年2組の皆様
クラス会幹事　松本健太朗
❺6年2組　クラス会のお知らせ
❶拝啓　心なしか寒さもゆるんだように感じる季節となりました。皆さんは、いかがお過ごしでしょうか。
❷さて、このたび、南小学校6年2組のクラス会を下記のとおり行うことになりました。当日は、担任の中村先生も参加されます。ぜひご出席ください。
❸敬具
❻記
日時：3月27日（日）　午後1時開始
場所：南市民センター　2階　多目的ルーム
会費：500円
なお、出欠のお返事は同封のはがきにて、3月6日までにお知らせください。
以上

❶前文＝頭語・時候の挨拶・相手の安否を尋ねる文。横書きの書式では、後付けが先に入ることもある。
❷主文＝手紙の趣旨や用件を伝える本文に当たる部分。
❸末文＝結びの言葉・結語。
❹日付・署名・宛名＝縦書きでは「後付け」とよぶ。横書きでは冒頭に置かれる。署名は手紙の末尾に入ることもある。
❺標題・件名＝横書きでは、何の文書かを示すために記す場合がある。
❻用件の詳細＝「記」以下に用件の詳細をまとめることがある。

# 幻の魚は生きていた

中坊徹次

「絶滅したはずのクニマスが生きていた。」

二〇一〇年十二月、このニュースが大きく報じられた。クニマスは、サケの仲間で、世界中で秋田県の田沢湖だけに生息していたが、一九四〇年頃に姿を消した。ところが、七十年後、田沢湖から遠く離れた山梨県の西湖で発見されたのである。

時を超えて再び私たちの前に姿を現したクニマス。クニマスはなぜ田沢湖で絶滅したのだろう。また、絶滅したと思われていたクニマスが、なぜ遠く離れた西湖で生きていたのだろうか。その経緯をたどってみよう。

かつて、田沢湖周辺に住む人々にとって、クニマスは出産祝いや、病気見舞い、誕生日祝いに贈られる特別な魚だった。




クニマス漁の権利は、代々受け継がれ、江戸時代から残る文書には、誰が、いつ、どれだけクニマスをとったかが細かく記録されている。人々はこの魚をとりすぎないように節度を守っていたのであろう。

クニマスは地元の民話にも登場する魚で、田沢湖周辺の人々の生活や文化に根ざした大切な存在だったのだ。にもかかわらず、クニマスが絶滅したのには、次のような背景がある。

田沢湖の南に広がる一帯は、大きな川が少なく、農業用水を確保することが難しかった。近くを流れる玉川は、水量はあるが強い酸性の水で、農業にも、また多くの生物の生活にも適さなかった。

ところが、その田沢湖一帯をめぐる事態が変わり始める。一九三四年、東北地方を大凶作が襲うと、食料の増産が人々にとって切実な課題となった。そこで、玉川の水を田沢湖に引き入れて酸性を弱め、それを農業用水として使うこと、また、電力の供給を増やすため、湖の水を水力発電に利用することが計画された。酸性の水はクニマスをはじめとする田沢湖の生物に打撃を与えてしまう。しかし、人々の生活のためにはやむをえず、一九四〇年、玉川の水は田沢湖に引き入れられたのである。

こうしてクニマスは、人の手による環境の改変によって、他の多くの生物と共に田沢湖から姿を消した。そして、地元の人々の生活に根ざしていたクニマスをめぐる文化も同時に消えていった。

そのクニマスが、遠く離れた西湖で見つかったのには、一つのきっかけがあった。

かつて最後までクニマス漁にたずさわっていた三浦久兵衛さんは、一九七〇年頃、自宅に保管されていた文書から、ある記録を見つけた。クニマスの卵が、絶滅前の一九三五年に山梨県の西湖と本栖湖、一九三九年に滋賀県の琵琶湖に譲渡されたというものである。生活の一部であったクニマスに深い愛着を抱いていた三浦さんは、移植先のどこかでクニマスが生きていないか、祈るような気持ちで探し始めた。この熱い思いが出発点となり、一九九〇年代、田沢湖周辺に住む人々が中心になって、クニマス探しの運動が起こった。このときは結局見つからなかったが、クニマスは田沢湖固有の黒い体色をした「幻の魚」として、広く知られるようになった。


クニマスがかつて生息していた田沢湖



筆者　**中坊徹次**　一九四九（昭和二四）――
京都府出身。魚類学者。
著書　「絶滅魚クニマスの発見」など。
出典　本書のための書きおろし。







玉川と田沢湖をつないだ箇所

注
❶クニマス＝サケ科に属する魚。海に下らず、一生を湖で過ごす。
❷田沢湖＝秋田県中東部にある湖。面積約二十六平方キロメートル、水面標高二百四十九メートル、最大水深四百二十三・四メートル。
❸西湖＝山梨県南部にある湖。富士五湖の一つ。面積約二平方キロメートル、水面標高九百メートル、最大水深七十一・七メートル。
❹民話＝田沢湖周辺に伝わる「たつこ姫伝説」のこと。永遠の美しさと若さを求めて泉の水を飲んだ辰子という娘が、竜になり田沢湖の主となる。悲しんだ母親が湖にたいまつを投げると、それが黒い魚（クニマス）となり泳いでいったという伝説。

そして、二〇一〇年三月、新たな展開があった。私の研究室に山梨県の西湖でとれたという黒いマスが届けられたのである。黒いのでクニマスではないか、というのだ。しかし、西湖にはクニマスによく似た❺ヒメマスという魚がいる。地元の人の話では、ヒメマスの中にも黒いものがいるという。この黒いマスは、クニマスかヒメマスか。まず、とれたときの状況を調べることにした。

　届けられた西湖の黒いマスは、産卵期の状態を示していた。とれたのは三月。ヒメマスの産卵は秋であり、三月には産卵しない。おかしい。さらに、黒いマスがとれた所を漁師さんに聞くと、水深三十メートルから四十メートルの湖底だという。ヒメマスは水深二メートルから十五メートルの所で産卵するので、この点も疑問である。

　では、クニマスはどうだろう。田沢湖でクニマスの産卵が最も盛んな季節は冬から早春、場所は水深四十メートルから五十メートルだったという記録が残っている。つまり、西湖の黒いマスの産卵時期と場所は、

| | 産卵時期 | 産卵場所（水深） |
|---|---|---|
| クニマス（田沢湖） | 冬～早春 | 40 ～ 50m |
| 西湖の黒いマス | 3月 | 30 ～ 40m |
| ヒメマス | 秋 | 2 ～ 15m |

クニマスとほぼ一致するのである。この黒いマスは、もしかしたらクニマスかもしれない。

　しかし、ほとんどの研究者がクニマスは絶滅したと考える中、これだけでは証拠が不十分である。西湖の黒いマスがクニマスだと科学的に証明するためには、サケの仲間でクニマスだけがもっている特徴を探さなければならない。多くの論文や学術書を調べた結果、❻えらと消化器官に、クニマスだけに見られる特徴があることがわかった。手元の黒いマスを丁寧に観察したところ、全てクニマスの特徴と一致したのである。さらに❼遺伝子の解析を行い、黒いマスはヒメマスとは別の魚であることがわかった。この黒いマスはクニマスであった。「幻の魚」は生きていたのだ。

　それにしても、田沢湖は水深四百二十三・四メートル、日本一深い湖であり、移植された西湖は水深七十一・七メートルと浅い。深い田沢湖の環境に合わせて生きていたクニマスが、どうして浅い西湖で命をつないでいけたのだろう。生物にはそれぞれ、子孫を残していくために必要な環境がある。調べてみると、田沢湖と西湖には共通点があった。水温である。田沢湖も西湖も、クニマスの産卵場所の周囲の水温は、四度だったのだ。移植先の西湖は、クニマスが産卵して生存できる条件を備えていたのである。こうした偶然の一致によって、田沢湖で絶滅したクニマスは、遠く離れた湖底で



脈々と命をつないでいたのだ。

　二〇一二年、クニマスが西湖の湖底を悠然と泳ぐ姿がテレビで放送された。世界で誰も見たことがない野生のクニマスの映像であった。この西湖でクニマスがこれからも生き続けるためには、どうすればよいだろう。一つには、産卵場所も含めた湖全体の環境を守ることが必要だ。そして、クニマスだけを過度に保護するのではなく、ヒメマスなどの他の生き物と、それらの生き物から生活のかてを得ている私たち人間とが、バランスを保って共存していくことが大切であ


西湖で発見されたクニマス

る。かつての田沢湖でのように、人と生き物とがつながり合った関係を維持すること、それがクニマスの保全にもつながるのだ。

　田沢湖のクニマスの絶滅は、一つの❽種の喪失というだけでなく、そこに暮らす人々の生活や文化に影響を与えてしまうことでもあった。今、その田沢湖へのクニマスの「里帰り」が検討されている。絶滅前のクニマスを知る人々、その話を聞かされて育った次の世代の人々が、クニマスの復帰を願っているのだ。

　しかし、クニマスの里帰りは容易ではない。田沢湖の水はまだ酸性であり、クニマスのすめる環境ではないからだ。環境を変えてしまうのは一瞬。だが、それを元に戻すには、気の遠くなるような時間と労力が必要である。それでも、クニマスが再び田沢湖で見られる日を願い、現実を踏まえ、少しずつ歩いていかなければならない。

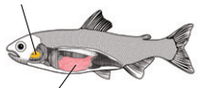
読む

❺ヒメマス＝サケ科に属する魚。ベニザケの仲間だが、ベニザケが川と海を往復するのに対し、一生を湖で過ごす。

❻えらと消化器官……わかった。＝えらの中の「鰓耙」とよばれる櫛状の部分の筋の数と、消化器官のうちの「幽門垂」とよばれる部分の突起の数の組み合わせに、クニマス独自の特徴がある。筆者は魚を解剖し、これらの数を丹念に数えた。

❼遺伝子＝親から子に代々伝わる生物の形や性質などを決定するもの。

❽種＝生物を分類する際に基本となる単位。



# 坊っちゃん

## 夏目 漱石



作者 **夏目漱石** 一八六七（慶応三）――一九一六（大正五） 東京都出身。小説家・英文学者。
著書 「吾輩は猫である」「三四郎」「こころ」など。
出典 「漱石全集 第二巻」

親ゆずりの無鉄砲で子供のときから損ばかりしている。小学校にいる時分、学校の二階から飛び降りて、一週間ほど腰を抜かしたことがある。なぜそんなむやみをした、ときく人があるかもしれぬ。べつだん深い理由でもない。新築の二階から首を出していたら、同級生の一人が冗談に、いくらいばっても、そこから飛び降りることはできまい、弱虫やーい、とはやしたからである。人におぶさって帰ってきたとき、おやじが大きな目をして、二階ぐらいから飛び降りて腰を抜かすやつがあるかと言ったから、この次は抜かさずに飛んでみせますと答えた。

親類の者から西洋製のナイフをもらって、きれいな刃を日にかざして友達に見せていたら、一人が、光ることは光るが切れそうもないと言った。切れぬことがあるか、何でも切ってみせると請け合った。そんなら君の指を切ってみろと注文したから、なんだ指ぐらい、このとおりだ、と右の手の親指の甲をはすに切り込んだ。幸いナイフが小さいのと、親指の骨がかたかったので、いまだに親指は手に付いている。しかし、傷あとは死ぬまで消えぬ。

庭を東へ二十歩に行き尽くすと、南上がりにいささかばかりの菜園があって、真ん中にくりの木が一本立っている。これは命より大事なくりだ。実の熟する時分は、起き抜けに背戸を出て、落ちたやつを拾ってきて、学校で食う。菜園の西側が山城屋という質屋の庭続きで、この質屋に勘太郎という十三、四のせがれがいた。勘太郎は、むろん弱虫である。弱虫のくせに四つ目垣を乗り越えて、くりを盗みに来る。ある日の夕方、折り戸の陰に隠れて、とうとう勘太郎を❶つらまえてやった。そのとき、勘太郎は逃げ道を失って、一生懸命に飛びかかってきた。向こうは二つばかり年上である。弱虫だが、力は強い。❷鉢の開いた頭を、こっちの胸へ当てて、ぐいぐい押した拍子に、勘太郎の頭がすべって、俺のあわせのそでの中に入った。邪魔になって手が使えぬから、むやみに手を振ったら、そでの中にある勘太郎の頭が右左へぐらぐらなびいた。しまいに苦しがって、そでの中から俺の二の腕へ食いついた。痛かったから、勘太郎を垣根へ押しつけておいて、❸足がらをかけて向こうへ倒してやった。山城屋の地面は、菜園より❹六尺がた低い。勘太郎は四つ目垣を半分くずして、自分の領分へ真っ逆さまに落ちて、ぐうと言った。勘太郎が落ちるときに、俺のあわせの片そでがもげて、急に手が自由になった。その晩、母が山城屋にわびに行ったついでに、あわせの片そでも取り返してきた。

この他、いたずらはだいぶやった。大工の兼公と魚屋の角を連れて、茂作のにんじん畑を荒らしたことがある。にんじんの芽が出そろわぬところへ、わらが一面にしいてあったから、その上で三人が半日相撲を取り続けに取ったら、にんじんがみんな踏みつぶされてしまった。古川の持っている田んぼの井戸を埋めて、❺しりを持ち込まれたこともある。太い❻もうそうの節を抜いて、深く埋めた中から水がわき出て、そこいらのいねに水がかかる仕掛けであった。その時分はどんな仕掛けか知らぬから、石や棒ちぎれをぎゅうぎゅう井戸の中へ差し込んで、水が出なくなったのを見届けて、うちへ帰って飯を食っていたら、古川が真っ赤になってどなり込んできた。たしか罰金を出して済んだようである。

おやじは、ちっとも俺をかあいがってくれなかった。母は、



読む

注
❶つらまえる＝つかまえる。
❷鉢の開いた頭＝頭蓋骨の横回りの大きい頭のこと。
❸足がら＝相撲や柔道で、足をからませて、相手を倒す技。
❹六尺がた＝六尺ぐらい。一尺は約三十・三センチメートル。
❺しりを持ち込む＝もめごとの後始末を迫ること。
❻もうそう＝もうそう竹の略。日本で見られる竹の中で最も大形のもの。高さは十～二十五メートルほどになる。



兄ばかりひいきにしていた。この兄は、❼やに色が白くって、芝居のまねをして❽女形になるのが好きだった。俺を見るたびに、こいつはどうせろくな者にはならない、とおやじが言った。乱暴で乱暴で行く先が案じられる、と母が言った。なるほどろくな者にはならない。ご覧のとおりの始末である。行く先が案じられたのも無理はない。ただ懲役に行かないで生きているばかりである。

母が病気で死ぬ二、三日前、台所で宙返りをして、❾へっついの角であばら骨を打って大いに痛かった。母がたいそう怒って、おまえのようなものの顔は見たくないと言うから、親類へ泊まりに行っていた。すると、とうとう死んだという知らせが来た。そう早く死ぬとは思わなかった。そんな大病なら、もう少しおとなしくすればよかったと思って帰ってきた。そうしたら例の兄が、俺を親不孝だ、俺のために、おっかさんが早く死んだんだと言った。くやしかったから、兄の横っつらを張って、たいへんしかられた。

母が死んでからは、おやじと兄と三人で暮らしていた。おやじは何にもせぬ男で、人の顔さえ見れば、きさまはだめだ、だめだと、口癖のように言っていた。何がだめなんだか、今にわからない。妙なおやじがあったもんだ。兄は実業家になるとか言って、しきりに英語を勉強していた。元来さっぱりしない性分で、ずるいから、仲がよくなかった。十日に一遍ぐらいの割でけんかをしていた。あるとき将棋を指したら、ひきょうな❿待ちごまをして、人が困ると、うれしそうに冷やかした。あんまり腹が立ったから、手にあった飛車を眉間へたたきつけてやった。眉間が割れて少々血が出た。兄がおやじに⓫言つけた。おやじが俺を勘当すると言いだした。

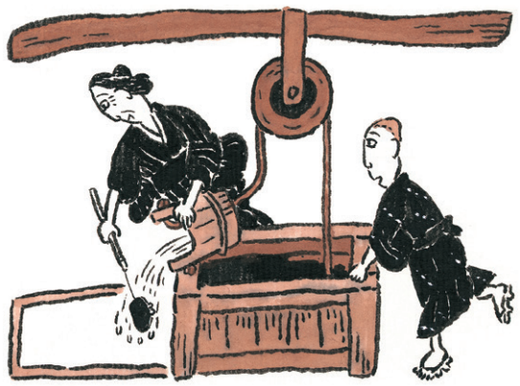
そのときは、もうしかたがないと観念して、先方の言うとおり勘当されるつもりでいたら、十年来召し使っている清という女が、泣きながらおやじに謝って、ようやくおやじの怒りが解けた。それにもかかわらず、あまりおやじをこわいとは思わなかった。かえって、この清に気の毒であった。この女は、元由緒のある者だったそうだが、⓬瓦解のときに零落して、つい奉公までするようになったのだと聞いている。だから、ばあさんである。こののばあさんが、どういう因縁か、俺を非常にかあいがってくれた。不思議なものである。母も死ぬ三日前に愛想をつかした——おやじも年中持て余している——町内では乱暴者の悪太郎とつま弾きをする——この俺を、むやみに珍重してくれた。俺は、とうてい人に好かれるたちでない、と諦めていたから、他人から木の端のように取り扱われるのは何とも思わない、かえって、この清のようにちやほやしてくれるのを不審に考えた。清はときどき台所で、人のいないときに「あなたはまっすぐでよいご気性だ。」とほめることがときどきあった。しかし、俺には清の言う意味





がわからなかった。いい気性なら、清以外の者も、もう少しよくしてくれるだろうと思った。清がこんなことを言うたびに、俺はおせじは嫌いだと答えるのが常であった。すると、ばあさんは、それだからいいご気性ですと言っては、うれしそうに俺の顔を眺めている。自分の力で俺を製造してほこってるように見える。少々気味が悪かった。

母が死んでから、清はいよいよ俺をかあいがった。ときどきは子供心に、なぜあんなにかあいがるのかと不審に思った。つまらない、よせばいいのにと思った。気の毒だと思った。それでも清はかあいがる。おりおりは、自分の小遣いできんつばや紅梅焼きを買ってくれる。寒い夜などは、ひそかにそば粉を仕入れておいて、いつのまにか、寝ているまくら元へそば湯を持ってきてくれる。時には、なべ焼きうどんさえ買ってくれた。ただ食い物ばかりではない。⓭靴足袋もらった。鉛筆ももらった。帳面ももらった。これはずっと後のことであるが、金を三円ばかり貸してくれたことさえある。なにも貸せと言ったわけではない。向こうで部屋へ持ってきて、お小遣いがなくてお困りでしょう、お使いなさいと言って、くれたんだ。俺は、むろん、要らないと言ったが、ぜひ使えと言うから、借りておいた。実はたいへんうれしかった。その三円をがまぐちへ入れて、ふところへ入れたなり便所へ行ったら、すぽりと⓮後架の中へ落としてしまった。しかたがないから、のそのそ出てきて、実はこれこれだと清に話したところが、清は早速竹の棒を探してきて、取ってあげますと言った。しばらくすると、井戸端でザーザー音がするから出て見たら、竹の先へがまぐちのひもを引き掛けたのを水



江戸幕府がほろびたことをいう。

⓭靴足袋＝足袋のように先が二つに分かれた靴下。通常の靴下を指すこともある。

⓮後架＝便所のこと。

❼やに＝いやに。

❽女形＝女性の役をする、男性の役者。

❾へっつい＝かまど。なべやかまをのせ、火をたき、料理する設備。石や土などで作られた。

⓫言つけた＝言いつけた。

⓬瓦解＝物事がばらばらに壊れること。ここでは、

⓾待ちごま＝将棋で、相手の王将の逃げ方を予測し、前もってこまで防いでおくこと。

で洗っていた。それから、口を開けて一円札をあらためたら、茶色になって模様が消えかかっていた。清は火鉢で乾かして、これでいいでしょうと出した。ちょっとかいでみて、くさいやと言ったら、それじゃお出しなさい、取り換えてきてあげますからと、どこでどうごまかしたか、札の代わりに銀貨を三円持ってきた。この三円は何に使ったか忘れてしまった。今に返すよと言ったぎり、返さない。今となっては十倍にして返してやりたくても返せない。

　清が物をくれるときには、必ずおやじも兄もいないときに限る。俺は何が嫌いだといって、人に隠れて自分だけ得をするほど、嫌いなことはない。兄とはむろん仲がよくないけれども、兄に隠して清から菓子や色鉛筆をもらいたくはない。なぜ、俺一人にくれて、兄さんにはやらないのか、と清にきくことがある。すると清は澄ましたもので、お兄さまはお父さまが買っておあげなさるからかまいませんと言う。これは不公平である。おやじは頑固だけれども、そんなえこひいきはせぬ男だ。しかし清の目から見ると、そう見えるのだろう。全く愛におぼれていたにちがいない。元は身分のある者でも、ばあさんだからしかたがない。単にこればかりではない。ひいき目は恐ろしいものだ。清は俺をもって、将来立身出世して立派な者になると思い込んでいた。そのくせ勉強をする兄は色ばかり白くって、とても役には立たないと、一人で決めてしまった。こんなばあさんにあってはかなわない。自分の好きな者は必ずえらい人物になって、嫌いな人はきっと落ちぶれるものと信じている。俺はそのときから、べつだん何になるという了見もなかった。しかし、清がなるなると言うものだから、やっぱり何かになれるんだろうと思っていた。今から考えると、ばかばかしい。あるときなどは、清にどんな者になるだろうときいてみたことがある。ところが、清にもべつだんの考えもなかったようだ。ただ手車[15]へ乗って、立派な玄関のある家をこしらえるに相違ないと言った。

　それから清は、俺がうちでも持って独立したら、いっしょになる気でいた。どうか置いてくださいと、何遍も繰り返して頼んだ。俺も、なんだかうちが持てるような気がして、うん置いてやると返事だけはしておいた。ところが、この女はなかなか想像の強い女で、あなたはどこがお好き、麹町[16]ですか麻布[17]ですか、お庭へぶらんこをおこしらえあそばせ、西洋間は一つでたくさんですなどと、勝手な計画を一人で並べていた。そのときは、家なんか欲しくもなんともなかった、西洋館も日本建ても全く不用であったから、そんなものは欲しくないと、いつでも清に答えた。すると、あなたは欲が少なくって、心がきれいだと言って、またほめた。清は何と言ってもほめてくれる。

　母が死んでから五、六年の間は、この状態で暮らしていた。





おやじにはしかられる。兄とはけんかをする。清には菓子をもらう、ときどきほめられる。別に望みもない、これでたくさんだと思っていた。他の子供も、一概にこんなものだろうと思っていた。ただ清が何かにつけて、あなたはおかわいそうだ、不幸せだとむやみに言うものだから、それじゃ、かわいそうで不幸せなんだろうと思った。その他に苦になることは少しもなかった。ただおやじが小遣いをくれないには閉口した。

　母が死んでから六年目の正月に、おやじも卒中でなくなった。その年の四月に、俺はある私立の中学校[18]を卒業する。六月に兄は商業学校[19]を卒業した。兄は、何とか会社の九州の支店に口があって行かなければならん。俺は東京でまだ学問をしなければならない。兄は、家を売って財産を片づけて任地へ出立すると言いだした。俺は、どうでもするがよかろうと返事をした。どうせ兄の厄介になる気はない。世話をしてくれるにしたところで、けんかをするから、向こうでも何とか言いだすに決まっている。なまじい保護を受ければこそ、こんな兄に頭を下げなければならない。牛乳配達をしても食ってられると覚悟をした。兄は、それから道具屋を呼んできて、先祖代々のがらくたを二束三文に売った。家屋敷は、ある人の周旋である金満家にゆずった。このほうはだいぶ金になったようだが、詳しいことはいっこう知らぬ。俺は一か月以前から、しばらく前途の方向のつくまで、神田[20]の小川町へ下宿していた。清は、十何年いたうちが人手に渡るのを大いに残念がったが、自分のものでないから、しようがなかった。あなたがもう少し年を取っていらっしゃれば、ここがご相続ができますものをと、しきりにくどいていた。もう少し年を取って相続ができるものなら、今でも相続ができるはずだ。ばあさんは何にも知らないから、年さえ取れば兄の家がもらえると信じている。

　兄と俺はかように別れたが、困ったのは清の行く先である。兄はむろん連れてゆける身分でなし、清も兄のしりにくっついて九州にまで出かける気は毛頭なし、といって、このときの俺は四畳半の安下宿に籠もって、それすらもいざとなれば

---

⑮手車＝自家用の人力車。

⑯麹町＝今の東京都千代田区の一部。官庁が集中し、高級住宅地としても知られた。

⑰麻布＝今の東京都港区の一部。高級住宅地としても知られた。

⑱中学校＝ここでは、五年制の旧制中学校のこと。

⑲商業学校＝ここでは、旧制の高等商業学校のこと。

⑳神田の小川町＝現在の東京都千代田区神田小川町。当時、学生の下宿が多い町であった。

一橋大学の前身。

直ちに引き払わねばならぬ始末だ。どうすることもできん。清にきいてみた。どこかへ奉公でもする気かねと言ったら、あなたがおうちを持って、奥様をおもらいになるまでは、しかたがないから、おいの厄介になりましょうと、ようやく決心した返事をした。このおいは裁判所の書記で、まず㉑今日には差し支えなく暮らしていたから、今までも清に来るなら来いと二、三度すすめたのだが、清はたとい奉公はしても、年来住み慣れたうちのほうがいいと言って応じなかった。しかし、今の場合、知らぬ屋敷へ奉公がえをして、要らぬ気がねをし直すより、おいの厄介になるほうがましだと思ったのだろう。それにしても、早くうちを持ての、妻をもらえの、来て世話をするのと言う。親身のおいよりも他人の俺のほうが好きなのだろう。

九州へたつ二日前、兄が下宿へ来て金を六百円出して、これを資本にして商売をするなり、学資にして勉強をするなり、どうでも随意に使うがいい、その代わり後は構わないと言った。兄にしては感心なやり方だ。なんの六百円ぐらい、もらわんでも困りはせんと思ったが、例に似ぬ淡泊な処置が気に入ったから、礼を言ってもらっておいた。兄は、それから五十円出して、これをついでに清に渡してくれと言ったから、異議なく引き受けた。二日たって㉒新橋の停車場で別れたぎり、兄にはその後一遍も会わない。

俺は六百円の使用法について寝ながら考えた。商売をしたって、面倒くさくって、うまくできるものじゃなし、ことに六百円の金で商売らしい商売がやれるわけでもなかろう。よしやれるとしても、今のようじゃ、人の前へ出て教育を受けたといばれないから、つまり損になるばかりだ。資本などはどうでもいいから、これを学資にして勉強してやろう。六百円を三に割って一年に二百円ずつ使えば、三年間は勉強ができる。三年間一生懸命にやれば何かできる。それから、どこの学校へ入ろうと考えたが、学問は生来どれもこれも好きでない。ことに語学とか文学とかいうものは、まっぴらごめんだ。㉓新体詩などときては、二十行あるうちで一行もわからない。どうせ嫌いなものなら何をやっても同じことだと思ったが、幸い物理学校の㉔ぶつり前を通りかかったら生徒募集の広告が出ていたから、なにも縁だと思って、規則書をもらってすぐ入学の手続きをしてしまった。今考えると、これも親ゆずりの無鉄砲から起こった失策だ。

三年間まあ人並みに勉強はしたが、べつだんたちのいいほうでもないから、席順はいつでも下から勘定するほうが便利であった。しかし不思議なもので、三年たったら、とうとう卒業してしまった。自分でもおかしいと思ったが、苦情を言う訳もないから、おとなしく卒業しておいた。

卒業してから八日目に校長が呼びにきたから、何か用だろ



うと思って出かけていったら、四国辺のある中学校で数学の教師が要る。月給は四十円だが、行ってはどうだという相談である。俺は三年間学問はしたが、実をいうと、教師になる気も、㉕田舎へ行く考えも何もなかった。もっとも教師以外に何をしようという当てもなかったから、この相談を受けたとき、行きましょうと即席に返事をした。これも親ゆずりの無鉄砲がたたったのである。

引き受けた以上は赴任せねばならぬ。この三年間は四畳半に㉖蟄居して、小言はただの一度も聞いたことがない。けんかもせずに済んだ。俺の生涯のうちでは比較的のんきな時節であった。しかし、こうなると四畳半も引き払わなければならん。生まれてから東京以外に踏み出したのは、同級生といっしょに鎌倉へ遠足したときばかりである。今度は鎌倉どころではない。大変な遠くへ行かねばならぬ。地図で見ると、海浜で針の先ほど小さく見える。どうせろくな所ではあるまい。どんな町で、どんな人が住んでるかわからん。わからんでも困らない。心配にはならぬ。ただ行くばかりである。もっとも少々面倒くさい。

家をたたんでからも、清の所へはおりおり行った。清のおいというのは、存外結構な人である。俺が行くたびに、おりさえすれば、なにくれともてなしてくれた。清は俺を前へ置いて、いろいろ俺の自慢をおいに聞かせた。今に学校を卒業すると、麹町辺へ屋敷を買って役所へ通うのだ、などとふいちょうしたこともある。独りで決めて一人でしゃべるから、こっちは困って顔を赤くした。それも一度や二度ではない。おりおり、俺が小さいとき寝小便をしたことまで持ち出すには閉口した。おいは何と思って清の自慢を聞いていたかわからぬ。ただ清は昔風の女だから、自分と俺の関係を㉗封建時代

---

㉑今日には＝その日その日には。
㉒新橋の停車場＝旧新橋駅。東京都港区にある現在の新橋駅の東にあった。当時は、東海道線の始発駅。
㉓新体詩＝明治時代に、西洋の詩の形式を取り入れて作られるようになった詩。
㉔物理学校＝当時、神田小川町にあった東京物理学校のこと。東京理科大学の前身。
㉕田舎＝ここでは、東京から離れた遠い所。作品中には、現代ではあまり使われない表現が出てくる箇所もあるが、近代文学作品としての位置づけから、できるだけ原典に即して掲載している。「田舎」という表現は、坊っちゃんの閉鎖性と前近代性を示しており、それらは、本文に続く作品の後半で、坊っちゃんが四国でする失敗の元になっている。
㉖蟄居＝家の中に閉じ籠もって、外に出ないこと。
㉗封建時代＝日本の封建時代は、一般的には鎌倉時代から明治維新までをいう。身分の上下関係が厳しく定められていた。

の主従のように考えていた。自分の主人なら、おいのためにも主人に相違ないと合点したものらしい。おいこそ、いいつらの皮だ。

いよいよ約束が決まって、もうたつという三日前に清を訪ねたら、北向きの三畳に風邪をひいて寝ていた。俺の来たのを見て起き直るが早いか、坊っちゃん、いつうちをお持ちなさいますときいた。卒業さえすれば、金が自然とポケットの中にわいてくると思っている。そんなにえらい人をつらまえて、まだ坊っちゃんとよぶのは、いよいよばかげている。俺は㉘単簡に、当分うちは持たない。田舎へ行くんだと言ったら、非常に失望した様子で、ごま塩の㉚びんの乱れをしきりになでた。あまり気の毒だから、「行くことは行くが、じき帰る。来年の夏休みにはきっと帰る。」となぐさめてやった。それでも妙な顔をしているから、「何を土産に買ってきてやろう、何が欲しい。」ときいてみたら、㉛「越後のささあめが食べたい。」と言った。越後のささあめなんて聞いたこともない。だいいち方角が違う。「俺の行く田舎には、ささあめはなさそうだ。」と言って聞かしたら、「そんなら、どっちの見当です。」ときき返した。「西の方だよ。」と言うと、「箱根の先ですか手前ですか。」と問う。ずいぶん持て余した。

出立の日には朝から来て、いろいろ世話を焼いた。来る途中、小間物屋で買ってきた歯磨きとようじと手拭いをズックのかばんに入れてくれた。そんなものは要らないと言っても、なかなか承知しない。車を並べて停車場へ着いて、プラットフォームの上へ出たとき、車へ乗り込んだ俺の顔をじっと見て、「もうお別れになるかもしれません。㉝ずいぶんごきげんよう。」と小さな声で言った。目に涙がいっぱいたまっている。俺は泣かなかった。しかし、もう少しで泣くところであった。汽車がよっぽど動きだしてから、もう大丈夫だろうと思って、窓から首を出して振り向いたら、やっぱり立っていた。なんだかたいへん小さく見えた。

梶山俊夫・絵

㉘ポケット＝ポケット。
㉙単簡に＝簡単に。
㉚びん＝頭の左右側面の髪。
㉛越後＝昔の国名で、現在の新潟県のうち佐渡を除いた地域。
㉜ようじ＝ここでは歯ブラシのこと。
㉝ずいぶん＝くれぐれも。



読む

## 夏目漱石の生涯

### 教師時代の体験が小説に

一八六七（慶応三）年、東京に生まれた。本名、金之助。二十代の頃、同級生だった正岡子規（後の俳人・歌人）と親交を結ぶ。東京大学で英文学を学び、卒業後は松山や熊本で、旧制中学・高校の教師を務めた。「坊っちゃん」には、松山での体験が生かされている。

**漱石は頑固者？**



「漱石」という名前は、中国の故事にある「石に枕し流れに漱ぐ」を、「石に漱ぎ流れに枕す」と言い間違えた人の話に由来する。自分の失敗を認めず、負け惜しみが強い頑固者を表す言葉。

### イギリス留学を経て作家に

一九〇〇年、三十三歳のときイギリスに留学。孤独感などに悩まされ、つらいロンドン生活を送った。三年後に帰国し、教師をするかたわら、友人の高浜虚子のすすめで、雑誌に「吾輩は猫である」を発表。好評を博し、これが作家・夏目漱石誕生のきっかけとなる。

### 数々の名作を生んだ文豪

一九〇七年、四十歳のとき教職をやめ、新聞社の専属作家となった。「三四郎」「それから」「こころ」など、多くの新聞小説を執筆し、一九一六年、「明暗」連載中に四十九歳で死去。近代人のエゴイズム（利己主義）などをするどく描き出した漱石は、日本の近代文学を確立した文豪と評されている。





漱石の著書

**吾輩は猫である**

吾輩は猫である。
名前はまだない。
どこで生まれたか、とんと見当がつかぬ。なんでも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていたことだけは記憶している。
（冒頭部分）



# 言葉としぐさの伝統芸能——古典落語

落語は、江戸時代に成立した伝統的な話芸の一種である。現在、落語家によって演じられている「噺（演目）」の多くはこの頃から明治時代にかけて作られた。これを古典落語という。落語家は、声の調子や表情を変えながら、全ての登場人物を一人で演じ分ける。

江戸の人々の生活を題材にした二つの噺を楽しもう。

## 時そば

ある晩、男が屋台でそばを食べていた。男はそば屋をほめちぎり、代金十六文を支払う。小銭を一枚ずつ数えて渡す最中、不意に時刻を尋ね、うまく一文ごまかした。これを見ていた別の男が、まねをしようと試みる。

**男**「ひい、ふう、みい、よう、いつ、むう、なな、やぁ、……何刻だい。」

**そば屋**「へえ、四[1]つで。」

**男**「いつ、むう、なな、やあ……。」

[1]四つ＝現在の午後十時頃。

多く数えることになり、逆に四文損をしてしまった。

## 落語のしぐさ

落語家は、扇子や手拭いだけで、さまざまなしぐさを表現する。



**戸をたたく**



**そばを食べる**



**飲む**



**いもを食べる**







**書く**



**暑い**



**手紙を読む**



**寒い**

## 目黒のさんま

ある秋の昼時、殿様一行が目黒を通りかかると、農家からさんまを焼くいい匂いがただよってきた。空腹の殿様は、「あれを食べたい。」と言う。当時、さんまは庶民の食べ物。とても殿様には食べさせられないと家来は困るが、どうしてもと命じられ、農家に分けてもらった。初めて食べるさんまはあまりにおいしく、殿様はぺろりと平らげた。

目黒で食べたさんまの味を忘れられない殿様は、後日、親戚の家を訪れたときに、さんまを所望する。その家の家来は、殿様の体を気遣い、魚河岸（魚市場）から取り寄せた新鮮なさんまをむして脂を抜き、小骨を取って振る舞った。目黒で食べたさんまとは違って風味もなければ食感もない。殿様はがっかりしてしまった。

**殿様**「このさんま、いずれより取り寄せたか。」

**家来**「日本橋魚河岸にございます。」

**殿様**「それはいかん。さんまは目黒に限る。」

### 広がる読書



「えほん寄席 抱腹絶倒の巻」
柳亭市馬 他




「しゃべれども しゃべれども」
佐藤多佳子

# 百人一首を味わう

百人一首とは、百人の歌人の和歌を一首ずつ選んでまとめたもので、藤原定家が選んだとされる「小倉百人一首」が有名である。百首の和歌は、それまでに編まれた歌集の中から選ばれており、おおよそ年代順に並べられている。さまざまな形で表現された作品に触れ、百人一首の魅力を味わおう。




「千年後の百人一首」
清川あさみ　最果タヒ

## 現代語訳




「ときめき百人一首」
小池昌代




「百人一首（全）」
谷　知子　編




「ちはやふる百人一首勉強ノート」
末次由紀

## かるた



「百人一首かるた」




「ちはやふる」
末次由紀

## 漫画




## テーマによる分類

歌集には、部立とよばれるテーマによる分類がある。百人一首の和歌を、部立に応じて分けると、次のようになる。

- 四季　春……六首
  - 夏……四首
  - 秋……十六首
  - 冬……六首
- 恋……四十三首
- 旅・離別……五首
- 雑（その他）……二十首




「百人一首」朗読音声

### 四季の歌

［春］
君がため春の野に出でて若菜摘む
　我が衣手に雪は降りつつ
　　光孝天皇

花の色は移りにけりないたづらに
　我が身世にふるながめせしまに
　　小野小町

［夏］
ほととぎす鳴きつる方をながむれば
　ただ有明の月ぞ残れる
　　藤原実定

風そよぐ楢の小川の夕暮れは
　禊ぞ夏のしるしなりける
　　藤原家隆

［秋］
吹くからに秋の草木のしをるれば
　むべ山風をあらしと言ふらむ
　　文屋康秀

村雨の露もまだ干ぬまきの葉に
　霧立ち昇る秋の夕暮れ
　　寂蓮法師

［冬］
鵲の渡せる橋に置く霜の
　白きを見れば夜ぞ更けにける
　　大伴家持

朝ぼらけ有明の月と見るまでに
　吉野の里に降れる白雪
　　坂上是則

### 恋の歌

あしひきの山鳥の尾の垂り尾の
　長々し夜を独りかも寝む
　　柿本人麻呂

みかの原わきて流るる泉川
　いつ見きとてか恋しかるらむ
　　藤原兼輔

瀬を早み岩にせかるる滝川の
　われても末に逢はむとぞ思ふ
　　崇徳院

来ぬ人をまつほの浦の夕凪に
　焼くや藻塩の身も焦がれつつ
　　藤原定家

### 旅・離別の歌

天の原振りさけ見れば春日なる
　三笠の山に出でし月かも
　　安倍仲麿

立ち別れいなばの山の峰に生ふる
　まつとし聞かば今帰り来む
　　在原行平

このたびは幣も取りあへず手向山
　紅葉の錦神のまにまに
　　菅原道真

### 雑（その他）

これやこの行くも帰るも別れては
　知るも知らぬも逢坂の関
　　蟬丸

天つ風雲の通ひ路吹き閉ぢよ
　をとめの姿しばしとどめむ
　　僧正遍昭

めぐり逢ひて見しやそれとも分かぬ間に
　雲隠れにし夜半の月かな
　　紫式部

夜をこめて鳥の空音ははかるとも
　よに逢坂の関は許さじ
　　清少納言

わたの原漕ぎ出でて見れば久方の
　雲居にまがふ沖つ白波
　　藤原忠通



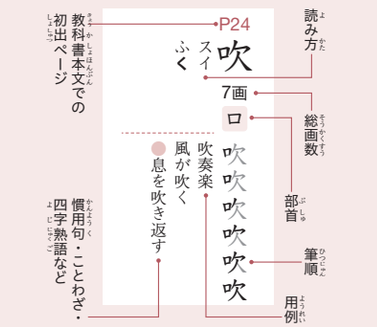
読む

漢字

# 一年生で学習した漢字

（総字数三九二字）

ここには、一年生で学習した漢字を提出順に示した。最初に覚えた読み方の他に、どのような音訓があるだろうか。漢字の形、読み方や用例を関連させながら覚えていこう。




- 部首・総画数・筆順は、辞書によって異なることがある。
- 読み方については、片仮名は音読みを、平仮名は訓読みを、太字は送り仮名を示す。（　）内は、中学校では学習しなくてもよい音訓を示す。
- 小学校で学習していない漢字および音訓を使った語には、［　］内で読み方を示す。
- 〈　〉内は、手書きの楷書の習慣による字体。総画数・筆順はこの字体に合わせて示す。

## 読む はじまりの風

**眺** 11画 目
チョウ
ながめる
眺望　絵を眺める　眺めがよい

**鮮** 17画 魚
セン
あざやか
鮮魚　鮮度　鮮明　新鮮　鮮やかな手つき　目に鮮やかな緑

P24
**吹** 7画 口
スイ
ふく
吹奏楽　風が吹く　●息を吹き返す

**廊** P22 12画 广
ロウ
廊下　回廊　画廊

**掛** 11画 手
かける　かかる
立て掛ける　のれんが掛かる　寄り掛かる
かかり

**描** 11画 手
ビョウ
えがく　かく
描写　素描　点描　円を描く　絵を描く

**薄** 16画 艹
ハク
うすい　うすめる　うすまる　うすらぐ　うすれる
薄弱　薄情　色が薄い　水で薄める　味が薄まる　寒さが薄らぐ　印象が薄れる

**輝** 15画 車
キ
かがやく
輝石　光輝　星が輝く　目を輝かす　輝かしい未来

**髪** 14画 髟
ハツ
かみ
散髪　洗髪　頭髪　白髪　●危機一髪　髪の毛

**悩** 10画 心
ノウ
なやむ　なやます
苦悩　思い悩む　頭を悩ます

**懸** 20画 心
ケン
（ケ）　かける　かかる
懸案　懸命　●一生懸命　命懸け　賞金が懸かる

## 漢字に親しもう 1

**傑** P40 13画 人
ケツ
英傑　傑作　傑出　傑物

**譜** 19画 言
フ
楽譜　系譜　年譜　譜面

**鉛** 13画 金
エン
鉛直　鉛筆　黒鉛　鉛のおもり　鉛色
なまり

**稽** 15画 禾
ケイ
稽古　滑稽［こっけい］　●荒唐無稽［こうとうむけい］

**弦** 8画 弓
ゲン
弦楽器　管弦楽　下弦　上弦　バイオリンの弦
（つる）

**腎** 13画 肉
ジン
腎臓

**扱** 6画 手
あつかう
機器を扱う　大人として扱う

**超** 12画 走
チョウ
こえる　こす
超過　超然　能力を超える　定員を超す

**越** 12画 走
エツ
こす　こえる
越境　越権　越冬　優越感　追い越す　山を越える

**癖** 18画 疒
ヘキ
くせ
悪癖　潔癖　習癖　性癖　口癖　●なくて七癖

**疲** P39 10画 疒
ヒ
疲労　疲弊［ひへい］　つかれる　足が疲れる　気疲れ

**頑** 13画 頁
ガン
頑強　頑健　頑固　頑丈［がんじょう］　●頑固一徹［がんこいってつ］

**襟** 18画 衣
（キン）　えり
襟足　襟巻き　●襟元　●襟を正す

**袋** 11画 衣
（タイ）　ふくろ
胃袋　手袋　●袋のねずみ

**汚** 6画 水
オ
汚水　汚点　汚染［おせん］　●汚名返上
（けがす）　（けがれる）　（けがらわしい）　よごす　よごれる　きたない
服を汚す　窓が汚れる　字が汚い

**泰** 10画 水
タイ
泰然　泰平　安泰　●泰然自若［たいぜんじじゃく］

**恭** 10画 心
キョウ
恭賀　恭敬　恭順
（うやうやしい）

**陶** 11画 阜（阝）
トウ
陶器　陶酔［とうすい］

**謡** 16画 言
ヨウ
（うたい）　（うたう）
歌謡　童謡　民謡　謡曲

**琴** 12画 玉
キン
琴線　鉄琴　木琴　琴を弾［ひ］く　琴の音色
こと

**捻** 11画 手
ネン
捻出　捻挫［ねんざ］

**挫** 10画 手
ザ
挫折　頓挫［とんざ］

**撲** 15画 手
ボク
撲滅［ぼくめつ］　打撲

**拒** 8画 手
キョ
こばむ
拒絶　拒否　申し出を拒む

## 読む ダイコンは大きな根？

**紡** 10画 糸
ボウ
（つむぐ）
混紡　紡績

**緯** 16画 糸
イ
緯度　経緯　北緯

**維** 14画 糸
イ
維持　維新　維管束　繊維［せんい］

**括** 9画 手
カツ
一括　総括　統括　包括

**普** 12画 日
フ
普段　普通　普及［ふきゅう］

**茎** P42 8画 艹
ケイ
球茎　根茎　地下茎　根と茎　歯茎
くき

## 漢字1 漢字の組み立てと部首

**振** 10画 手
シン
ふる　ふるう　ふれる
振興　振動　三振　手を振る　権力を振るう　左右に振れる

**介** P38 4画 人
カイ
介護　介在　介入　仲介［ちゅうかい］

**企** 6画 人
キ
くわだてる
企画　企業　企図　事を企てる

**双** 4画 又
ソウ
双眼鏡　双方
無双
ふた
双子　双葉

**伸** 7画 人
シン
伸縮　伸長
のびる
背が伸びる
●羽を伸ばす
のべる
差し伸べる

**軸** 12画 車
ジク
主軸　新機軸
地軸　中軸

P43
**跡** 13画 足
セキ
あと
史跡　追跡　筆跡
努力の跡　足跡
●立つ鳥跡を濁[にご]さず

**違** 13画 辶
イ
違反　違法
違和感　相違
ちがう
色が違う
ちがえる
取り違える

**徴** 14画 彳
チョウ
徴候　徴収
徴税　象徴
特徴

**辛** 7画 辛
シン
辛苦　辛酸
辛勝
●辛酸をなめる
スープが辛い
から**い**

**恵** 10画 心
ケイ
エ
めぐ**む**
恩恵
知恵
●知恵を絞[しぼ]る
友達に恵まれる

P44
**咲** 9画 口
さく
桜が咲く
七分咲き
返り咲く
●一花咲かせる

**蓄** 13画 艹
チク
蓄積　貯蓄
備蓄
力を蓄える
たくわ**える**
知識を蓄える

**胞** 9画 肉
ホウ
胞子　細胞
同胞

**壊** 16画 土
カイ
こわ**す**
決壊　破壊
おもちゃを壊す
取り壊す
こわ**れる**
テレビが壊れる

**抑** 7画 手
ヨク
抑圧　抑制
抑揚[よくよう]
おさ**える**
感情を抑える

**魅** 15画 鬼
ミ
魅力
魅了[みりょう]
魅惑[みわく]

**浮** 10画 水
フ
うか**ぶ**
浮上　浮動
船が浮く
うか**れる**
遠足で浮かれる
うか**べる**
水面に浮かべる
思い浮かべる

P46
**摘** 14画 手
テキ
つ**む**
摘出　摘発
指摘
花を摘む
芽を摘む

**影** 15画 彡
エイ
かげ
近影　投影
影絵　人影
●影も形もない

P47
**瞬** 18画 目
シュン
(またたく)
瞬間　瞬時
一瞬

**架** 9画 木
カ
開架　架空
書架　担架
橋を架ける
虹[にじ]が架かる

**珍** 9画 玉
チン
珍客　珍事
珍重　珍味
めずら**しい**
珍しい食材

**奥** 12画 大
(オウ)
おく
奥底　奥地
奥の手　山奥

P48
**顎** 18画 頁
ガク
あご
顎関節
下顎
●顎で使う

**粧** 12画 米
ショウ
化粧[けしょう]

**秀** 7画 禾
シュウ
(ひいでる)
秀才　秀作
優秀

**麗** 19画 鹿
レイ
美麗　麗人
華麗[かれい]
(うるわしい)
●美辞麗句

**露** 21画 雨
ロ
露骨　露出
披露[ひろう]
つゆ
夜露

**荒** 9画 艹
コウ
荒天　荒野
●破天荒
あら**い**
波が荒い
あ**れる**
海が荒れる
あら**す**
畑を荒らす

**縛** 16画 糸
バク
束縛　捕縛[ほばく]
●自縄自縛[じじょうじばく]
しば**る**
本をひもで縛る

P52
**較** 13画 車
カク
比較

**捉** 10画 手
ソク
とら**える**
捕捉[ほそく]
要点を捉える

**訂** 9画 言
テイ
改訂　校訂
訂正

**甘** 5画 甘
カン
あま**い**
甘言　甘受
●甘い汁[しる]を吸う
親に甘える
子犬を甘やかす
あま**える**
あま**やかす**

**坊** 7画 土
ボウ
坊や　赤ん坊
甘[あま]えん坊
ボッ

**韻** 19画 音
イン
韻文　韻律
余韻

**途** 10画 辶
ト
途上　途中
帰途　前途
中途
●途方に暮れる

**靴** 13画 革
(カ)
くつ
靴下　長靴

**亀** 11画 亀
キ
かめ
亀裂[きれつ]
亀を飼う

P71
**揺** 12画 手
ヨウ
ゆ**れる**
動揺
電車が揺れる
ゆ**る**
土台が揺らぐ
ゆ**らぐ**
自信が揺るぐ
ゆ**する**
体を揺する
ゆ**さぶる**
心を揺さぶる
ゆ**すぶる**

読む
**ちょっと立ち止まって**

情報整理のレッスン
**比較・分類**



**笺** 12画 竹
〈箋〉
セン
処方笺　便笺
付笺

**索** 10画 糸
サク
索引　検索
思索　探索
模索
●暗中模索

P58
**称** 10画 禾
ショウ
愛称　敬称
対称　名称

P59
**漠** 13画 水
バク
広漠　砂漠
漠然

**伐** 6画 人
バツ
伐採
間伐　殺伐
討伐　伐採
乱伐

言葉2
**指示する語句と接続する語句**

**椅** 12画 木
イ
椅子

P60
**累** 11画 糸
ルイ
累加　累計
累積　係累

**扉** 12画 戸
(ヒ)
とびら
扉を開ける
扉絵　自動扉

**鍵** 17画 金
ケン
かぎ
鍵盤[けんばん]
鍵穴　事件の鍵

**択** 7画 手
タク
採択　選択
●取捨選択
●二者択一

**換** 12画 手
カン
換気　換算　変換
交換　転換
空気を換える
か**える**
か**わる**

**絡** 12画 糸
ラク
(から**む**)
(から**まる**)
(から**める**)
短絡　脈絡　連絡

**項** 12画 頁
コウ
項目　事項
条項　要項

**柄** 9画 木
(ヘイ)
がら
え
事柄　手柄
ひしゃくの柄

P64
**翼** 17画 羽
ヨク
つばさ
主翼　両翼
尾翼[びよく]
●小心翼々
翼を広げる

言葉3
**さまざまな表現技法**

読む
**空の詩 三編**

P68
**踊** 14画 足
ヨウ
おど**る**
おど**り**
舞踊[ぶよう]
ダンスを踊る
踊りを習う

**喩** 12画 口
〈喩〉
ユ
比喩

**闇** 17画 門
やみ
闇夜　暗闇

P69
**隠** 14画 阜
(下)
イン
かく**す**
隠居　隠者
木の実を隠す
●能あるたかは
爪[つめ]を隠す
かく**れる**
太陽が隠れる

**与** 3画 一
ヨ
与党　関与
寄与　授与
あた**える**
権限を与える
損害を与える

**蜂** 13画 虫
ホウ
はち
蜂起　養蜂
蜂の巣
蜜蜂[みつばち]

**迎** 7画 辶
ゲイ
迎合　送迎
歓迎[かんげい]
むかえる
客を迎える
出迎える

**擬** 17画 手
ギ
擬音　擬人法
擬態

**倒** 10画 人
トウ
倒置　圧倒　打倒
●本末転倒
椅子[いす]が倒れる
たおれる
木を倒す
たおす

読む
**比喩で広がる言葉の世界**

帆 6画 巾
ハン
帆船　帆走
出帆
●順風満帆
ヨットの帆
ほ

P72
尋 12画 寸
ジン
尋常　尋問
千尋
たずねる
道を尋ねる

載 13画 車
サイ
記載　積載
満載　連載
のせる
荷物を載せる
のる
新聞に載る

尽 6画 尸
ジン
尽力　無尽蔵
人に尽くす
つくす
運が尽きる
つきる
●精も根も尽きる
あいそを尽かす
つかす

P73
雷 13画 雨
ライ
春雷　雷雨
雷鳴　落雷
●付和雷同
かみなり
雷が落ちる

響 20画 音
キョウ
音響　反響
影響「えいきょう」
ひびく
音が響く　地響き
●打てば響く

烈 10画 火
レツ
烈火　烈風
強烈　熱烈
鮮烈「せんれつ」

緊 15画 糸
キン
緊急　緊縮
緊張　緊密

距 12画 足
キョ
距離「きょり」

離 18画 隹
リ
離散　離陸　分離
●離合集散
はなれる
故郷を離れる
はなす
手を離す

## 語彙を豊かに

皆 9画 白
カイ
皆勤　皆伝
皆無　皆目
みな
皆で歌う
皆で協力する

P76
彙 13画 ヨ
〈彙〉
イ
語彙

恥 10画 心
チ
無恥
失敗を恥じる
はじる
恥を知る
はじ
子供が恥じらう
はじらう
恥ずかしい行い
はずかしい

P77
肩 8画 肉
（ケン）
かた
肩入れ　肩書き
肩車　肩身　路肩
●肩の荷が下りる

微 13画 彳
微細　微生物
微動　微力　軽微
微笑「びしょう」
●微に入り細をうがつ

妙 7画 女
ミョウ
妙案　妙技
軽妙　絶妙
●当意即妙
「とういそくみょう」

磨 16画 石
マ
みがく
研磨
ガラスを磨く
●歯磨き
●腕「うで」を磨く

## 情報収集の達人になろう

情報×SDGs

詳 13画 言
ショウ
くわしい
詳細　詳述
不詳　未詳
説明が詳しい
歴史に詳しい

P80
範 15画 竹
ハン
範囲　規範
師範　模範
範を垂れる

誰 15画 言
だれ
誰もいない

絞 12画 糸
（コウ）
しぼる
●タオルを絞る
●袖「そで」を絞る
しめる
しまる

込 5画 辶
こむ
参加を申し込む
意気込む
こめる
閉じ込める
●心を込める

P81
被 10画 衣
ヒ
被害　被告
被災　被写体
被服
こうむる
損害を被る

閲 15画 門
エツ
閲覧　検閲
校閲

P82
削 9画 刀
サク
けずる
削減　削除
予算を削る
●身を削る

溝 13画 水
コウ
みぞ
海溝　側溝
地溝
溝を掘「ほ」る
溝が深まる

徹 15画 彳
テツ
徹夜　徹底
夜を徹する
●初志貫徹
「しょしかんてつ」

P83
随 12画 阜
（ド）
ズイ
随行　随時
随筆　追随
付随

彫 11画 彡
チョウ
彫刻　彫像
石像を彫る
ほる
木彫り

漫 14画 水
マン
漫漫　漫画
散漫　漫然

遵 15画 辶
ジュン
遵守　遵法

## 本の中の中学生

読書

P86
紹 11画 糸
ショウ
紹介「しょうかい」



幅 12画 巾
フク
紙幅　全幅　増幅
振幅「しんぷく」
歩幅　道幅
●幅をきかせる

彼 8画 彳
ヒ
かれ
彼岸　彼我「ひが」
●暑さ寒さも彼岸まで
彼と話す
かの
彼女を思い出す

脱 11画 肉
ダツ
ぬぐ
脱字　脱出　着脱
上着を脱ぐ
●一肌「ひとはだ」脱ぐ
ぬげる
靴「くつ」が脱げる

腕 12画 肉
ワン
うで
手腕　腕章
腕力
●腕時計
●腕によりをかける

P87
斉 8画 斉
セイ
斉斉　斉唱

P88
魔 21画 鬼
マ
悪魔　魔術
魔法　魔物
●魔が差す

胴 10画 肉
ドウ
胴上げ　胴体

履 15画 尸
リ
はく
履行　履修
履歴
靴「くつ」を履く
履き物

P89
核 10画 木
カク
核家族　核心
核兵器
チームの核

挟 9画 手
（キョウ）
はさむ
はさまる
しおりを挟む
●小耳に挟む
戸に手が挟まる

鉢 13画 金
ハチ
植木鉢　火鉢
鉢合わせ

棚 12画 木
たな
戸棚　大陸棚
●棚に上げる

隅 12画 阜
（ド）
グウ
すみ
一隅
庭の隅　片隅
●重箱の隅をつつく

## 読む

大人になれなかった弟たちに……

僕 14画 人
ボク
公僕　君と僕

P97
襲 22画 衣
シュウ
おそう
襲来　世襲
踏襲「とうしゅう」
寒波が襲う
腹痛に襲われる

爆 19画 火
バク
爆破　爆発
爆風
爆弾「ばくだん」

弾 12画 弓
ダン
ひく
はずむ
たま
弾圧　弾力　連弾
ピアノを弾く
話が弾む
弾が尽「つ」きる

掘 11画 手
クツ
ほる
採掘　発掘
穴を掘る
掘り起こす
●根掘り葉掘り

P98
缶 6画 缶
カン
空き缶　一缶

菓 11画 艹
カ
菓子　製菓
茶菓「さか」

疎 12画 疋
ソ
（うとい）
（うとむ）
疎遠　疎開
疎通　過疎
親疎

歳 13画 止
サイ
歳月　歳時記
歳出　歳末
●歳月人を待たず
歳暮「せいぼ」

戚 11画 戈
セキ
親戚

P99
渓 11画 水
ケイ
渓流　雪渓
渓谷「けいこく」

P100
覆 18画 西
フク
おおう
（くつがえす）
（くつがえる）
覆面　転覆
手で顔を覆う

桃 10画 木
トウ
もも
桃源郷　白桃
桃色　桃の節句

渡 12画 水
ト
渡航　渡来　過渡期
わたる
橋を渡る
●渡りに船
手紙を渡す

隣 16画 阜
（ド）
リン
となる
となり
隣家　隣人　隣接
席が隣り合う
隣の町へ行く

P102
含 7画 口
ガン
含意　含有
包含
ふくむ
口に含む
ふくめる
人数に含める

乾 11画 乙
カン
●乾季　乾電池
●無味乾燥
「むみかんそう」
空気が乾く
かわく
シャツを乾かす
かわかす

慮 15画 心
リョ
遠慮　考慮
思慮　熟慮
配慮
●熟慮断行

澄 15画 水
（チョウ）
すむ
ます
水が澄む
研「と」ぎ澄ます
●耳を澄ます

撃 15画 手
ゲキ
撃退　打撃
反撃　目撃
爆撃「ばくげき」
的を撃つ
うつ

P103
**杉** 7画 木
スギ
杉 杉 杉 杉 杉 杉 杉
杉板　杉林

**棺** 12画 木
カン
棺 棺 棺 棺 棺 棺 棺 棺 棺 棺 棺 棺
出棺　石棺
納棺

読む
## 星の花が降るころに

P106
**押** 8画 手
（オウ）
おす
おさえる
押 押 押 押 押 押 押 押
押し花　荷車を押す
口元を押さえる
要点を押さえる

**俺** 10画 人
おれ
俺 俺 俺 俺 俺 俺 俺 俺 俺 俺
俺の友達

P107
**塾** 14画 土
ジュク
塾 塾 塾 塾 塾 塾 塾 塾 塾 塾 塾 塾 塾 塾
塾生　学習塾
私塾

**輩** 15画 車
ハイ
輩 輩 輩 輩 輩 輩 輩 輩 輩 輩 輩 輩 輩 輩 輩
輩出　先輩
同輩

**暇** 13画 日
カ
休暇　寸暇
余暇
暇を持て余す
手間暇をかける
ひま
暇 暇 暇 暇 暇 暇 暇 暇 暇 暇 暇 暇 暇

**掲** 11画 手
ケイ
かかげる
掲 掲 掲 掲 掲 掲 掲 掲 掲 掲 掲
掲示　前掲
旗を掲げる
目標を掲げる

P108
**擦** 17画 手
サツ
する
すれる
擦 擦 擦 擦 擦 擦 擦 擦 擦 擦 擦 擦 擦 擦 擦 擦 擦
擦過傷
膝［ひざ］を擦る
布が擦れる

**誘** 14画 言
ユウ
誘 誘 誘 誘 誘 誘 誘 誘 誘 誘 誘 誘 誘 誘
誘導　誘発
勧誘［かんゆう］
友人を誘う
さそう

P109
**騒** 18画 馬
ソウ
騒 騒 騒 騒 騒 騒 騒 騒 騒 騒 騒 騒 騒 騒 騒 騒 騒 騒
騒音　騒然
騒動　物騒
騒々しい
大騒ぎ　空騒ぎ
さわぐ

**戻** 7画 戸
（レイ）
もどす
もどる
戻 戻 戻 戻 戻 戻 戻
元に戻す
家に戻る
後戻り

**唇** 10画 口
（シン）
くちびる
唇 唇 唇 唇 唇 唇 唇 唇 唇 唇
赤い唇
唇をかむ

**抱** 8画 手
ホウ
だく
いだく
かかえる
抱 抱 抱 抱 抱 抱 抱 抱
抱負　介抱［かいほう］
赤ちゃんを抱く
希望を抱く
材木を抱える

P111
**拭** 9画 手
（ショク）
ふく
ぬぐう
拭 拭 拭 拭 拭 拭 拭 拭 拭
ガラスを拭く
手拭い
口を拭う

**黙** 15画 黒
モク
だまる
黙 黙 黙 黙 黙 黙 黙 黙 黙 黙 黙 黙 黙 黙 黙
黙想　黙読
暗黙　黙々と
黙り込［こ］む

**陰** 11画 阜
（下）
イン
かげ
かげる
陰 陰 陰 陰 陰 陰 陰 陰 陰 陰 陰
陰気　夜陰
光陰矢のごとし
木陰　陰干し
日が陰る

**織** 17画 糸
セン
織 織 織 織 織 織 織 織 織 織 織 織 織 織 織 織 織
化繊　繊細
繊維［せんい］
繊毛

P110
**魂** 14画 鬼
コン
魂 魂 魂 魂 魂 魂 魂 魂 魂 魂 魂 魂 魂 魂
商魂　精魂
入魂
魂を込［こ］める
負けじ魂
たましい

**遅** 12画 辶
チ
おくれる
おくらす
おそい
遅 遅 遅 遅 遅 遅 遅 遅 遅 遅 遅 遅
遅延　遅刻
学校に遅れる
時間を遅らす
遅い昼食

**駆** 14画 馬
ク
かける
かる
駆 駆 駆 駆 駆 駆 駆 駆 駆 駆 駆 駆 駆 駆
駆使　駆除　先駆
駆け足
馬を駆る
余勢を駆る

P112
**涙** 10画 水
ルイ
なみだ
涙 涙 涙 涙 涙 涙 涙 涙 涙 涙
感涙　落涙
涙声　涙ぐむ
涙もろい
すずめの涙

**刈** 4画 刀
かる
刈 刈 刈 刈
草を刈る
稲［いね］刈り

**丈** 3画 一
ジョウ
たけ
丈 丈 丈
丈夫　気丈
大丈夫
背丈
ズボンの丈

**掃** 11画 手
ソウ
はく
掃 掃 掃 掃 掃 掃 掃 掃 掃 掃 掃
一掃　清掃
掃除［そうじ］
ほこりを掃く

P113
**帽** 12画 巾
ボウ
帽 帽 帽 帽 帽 帽 帽 帽 帽 帽 帽 帽
帽子　学帽
制帽
脱帽［だつぼう］

**厄** 4画 厂
ヤク
厄 厄 厄 厄
厄年　厄日
災厄
厄介［やっかい］

言葉4
## 方言と共通語

P119
**猫** 11画 犬
（ビョウ）
ねこ
猫 猫 猫 猫 猫 猫 猫 猫 猫 猫 猫
子猫　猫舌
猫に小判

P120
**即** 7画 卩
ソク
即 即 即 即 即 即 即
即位　即座
即日　即刻
実情に即する
不即不離［ふそくふり］

漢字2
## 漢字の音訓

**互** 4画 二
ゴ
たがい
互 互 互 互
互角　互助
交互　相互
互いに見合う
互い違［ちが］い

P125
**濃** 16画 水
ノウ
こい
濃 濃 濃 濃 濃 濃 濃 濃 濃 濃 濃 濃 濃 濃 濃 濃
濃縮　濃度
濃密
味が濃い
濃いお茶

**巧** 5画 工
コウ
巧 巧 巧 巧 巧
巧者　技巧　精巧
巧言令色
巧みな演奏
巧みにかわす



P126
**還** 16画 辶
カン
還 還 還 還 還 還 還 還 還 還 還 還 還 還 還 還
還元　帰還
生還　送還
返還
奪還［だっかん］

**塁** 12画 土
ルイ
塁 塁 塁 塁 塁 塁 塁 塁 塁 塁 塁 塁
土塁　本塁
満塁
盗塁［とうるい］

**喝** 11画 口
カツ
喝 喝 喝 喝 喝 喝 喝 喝 喝 喝 喝
一喝　喝破

漢字に親しもう2

**柔** 9画 木
ジュウ
ニュウ
やわらか
やわらかい
柔 柔 柔 柔 柔 柔 柔 柔 柔
柔道
柔和　柔弱
柔らかな日差し
柔らかい羽

**涼** 11画 水
リョウ
すずしい
涼 涼 涼 涼 涼 涼 涼 涼 涼 涼 涼
涼風　納涼
風が涼しい
涼しい顔
川岸で涼む　夕涼み
すずむ

**遮** 14画 辶
シャ
さえぎる
遮 遮 遮 遮 遮 遮 遮 遮 遮 遮 遮 遮 遮 遮
遮光　遮断
話を遮る
行く手を遮る

**采** 8画 爪
サイ
采 采 采 采 采 采 采 采
采配　風采

**砲** 10画 石
ホウ
砲 砲 砲 砲 砲 砲 砲 砲 砲 砲
空砲　大砲
鉄砲　砲火
砲丸

**審** 15画 宀
シン
審 審 審 審 審 審 審 審 審 審 審 審 審 審 審
審議　審査
審判　主審
不審

**覇** 19画 西
ハ
覇 覇 覇 覇 覇 覇 覇 覇 覇 覇 覇 覇 覇 覇 覇 覇 覇 覇 覇
制覇　覇権
覇者　連覇
覇を競［きそ］う

**更** 7画 曰
コウ
さら
（ふける）
（ふかす）
更 更 更 更 更 更 更
更衣室　更新　変更
更地

**浜** 10画 水
ヒン
はま
浜 浜 浜 浜 浜 浜 浜 浜 浜 浜
海浜
浜辺　砂浜

**匹** 4画 匸
ヒツ
ひき
匹 匹 匹 匹
匹敵
二匹の犬

P128
**頬** 15画 頁
ほお
頬 頬 頬 頬 頬 頬 頬 頬 頬 頬 頬 頬 頬 頬 頬
頬張る　頬骨

**頃** 11画 頁
ころ
頃 頃 頃 頃 頃 頃 頃 頃 頃 頃 頃
頃合い　日頃

読む
## 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ

**曇** 16画 日
ドン
くもる
曇 曇 曇 曇 曇 曇 曇 曇 曇 曇 曇 曇 曇 曇 曇 曇
曇天
曇り空　花曇り
レンズが曇る

**沢** 7画 水
タク
さわ
沢 沢 沢 沢 沢 沢 沢
光沢
潤沢［じゅんたく］
沢登り

**酢** 12画 酉
サク
す
酢 酢 酢 酢 酢 酢 酢 酢 酢 酢 酢 酢
酢酸
酢の物
三杯酢［さんばいず］

**喪** 12画 口
ソウ
も
喪 喪 喪 喪 喪 喪 喪 喪 喪 喪 喪 喪
喪失
意気阻喪［いきそそう］
喪主　喪中
喪に服す

P129
**繁** 16画 糸
ハン
繁 繁 繁 繁 繁 繁 繁 繁 繁 繁 繁 繁 繁 繁 繁 繁
繁栄　繁雑
繁殖［はんしょく］
頻繁［ひんぱん］

**殖** 12画 歹
ショク
殖 殖 殖 殖 殖 殖 殖 殖 殖 殖 殖 殖
殖産　生殖
増殖　養殖
利子が殖える
財産を殖やす
ふえる
ふやす

**餌** 14画 食
（ジ）
えさ
えば
餌 餌 餌 餌 餌 餌 餌 餌 餌 餌 餌 餌 餌 餌
小鳥の餌
餌付け

**迫** 8画 辶
ハク
迫 迫 迫 迫 迫 迫 迫 迫
迫真　迫力
圧迫　気迫
回答を迫る
期日が迫る
せまる

**威** 9画 女
イ
威 威 威 威 威 威 威 威 威
威圧　威厳
威勢　威力
権威
威風堂々

**嚇** 17画 口
カク
嚇 嚇 嚇 嚇 嚇 嚇 嚇 嚇 嚇 嚇 嚇 嚇 嚇 嚇 嚇 嚇 嚇
威嚇［いかく］

P130
**析** 8画 木
セキ
析 析 析 析 析 析 析 析
解析　分析

**戒** 7画 戈
カイ
戒 戒 戒 戒 戒 戒 戒
戒告　戒律
訓戒　警戒
自戒
戒めを守る
いましめる

**況** 8画 水
キョウ
況 況 況 況 況 況 況 況
近況　好況
実況　状況
不況

**舞** 15画 舛
ブ
まう
まい
舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞
舞曲　舞台　乱舞
葉が風に舞う
伝統の舞
二の舞

**払** 5画 手
（フツ）
はらう
払 払 払 払 払
代金を払う
注意を払う
支払い

P132
**拠** 8画 手
キョ
拠 拠 拠 拠 拠 拠 拠 拠
拠点　根拠
本拠　論拠
証拠
論より証拠

P134
**釈** 11画 釆
シャク
釈 釈 釈 釈 釈 釈 釈 釈 釈 釈 釈
解釈　希釈
釈然　釈明
注釈

**怒** 9画 心
ド
いかる
おこる
怒 怒 怒 怒 怒 怒 怒 怒 怒
激怒　怒気　怒号
怒り狂［くる］う
怒り心頭に発する
大声で怒る

漢字

P135
**脅** 10画 肉
キョウ
脅迫［きょうはく］ 脅威［きょうい］
（おびやかす） おどす
大声で脅す 脅しに屈［くっ］しない 人を脅かす

**獲** 16画 犬
カク
える
獲得 漁獲 獲物

**了** 2画 亅
リョウ
了解 了承
完了 終了 読了

**驚** 22画 馬
キョウ
おどろく おどろかす
驚異 驚喜 ●驚天動地 大きさに驚く 世間を驚かす

P138
**頼** 16画 頁
ライ
たのむ たのもしい たよる
信頼 依頼［いらい］ 手伝いを頼む 頼もしい人物 親友を頼る

## 思考のレッスン1 意見と根拠

P139
**偵** 11画 人
テイ
偵察 探偵
密偵

**礎** 18画 石
ソ
（いしずえ）
基礎 礎石 定礎

## 漢字に親しもう 3

P146
**苗** 8画 艹
（ビョウ）
なえ なわ
苗木 苗代［なわしろ］

**齢** 17画 歯
レイ
樹齢 年齢
老齢

**江** 6画 水
コウ
え
江湖 長江 江戸 入り江

**菌** 11画 艹
キン
菌糸 菌類 細菌 殺菌 雑菌

P148
**聴** 17画 耳
チョウ
きく
視聴 静聴 聴覚 聴衆 音楽を聴く 講演を聴く

## 読む 大阿蘇

**駐** 15画 馬
チュウ
駐車 進駐 常駐 駐在所 駐留

**媒** 12画 女
バイ
媒介［ばいかい］ 媒体 触媒［しょくばい］ 溶媒［ようばい］

**陪** 11画 阜（阝）
バイ
陪席 陪審［ばいしん］

**挿** 10画 手
ソウ
さす
挿入 挿話 挿し木 花を挿す

**虹** 9画 虫
にじ
虹が出る

**酵** 14画 酉
コウ
酵素 酵母 発酵

**崖** 11画 山
ガイ
がけ
断崖 崖下

**披** 8画 手
ヒ
披見 披露［ひろう］

**旨** 6画 日
シ
（むね）
趣旨［しゅし］ 要旨 論旨

**摩** 15画 手
マ
摩擦［まさつ］ 摩天楼［まてんろう］

**肯** 8画 肉
コウ
肯定 首肯

P156
**姫** 10画 女
ひめ
姫君

**婚** 11画 女
コン
婚約 婚礼 求婚 結婚 新婚

## 読む 蓬萊の玉の枝 ――「竹取物語」から

P149
**噴** 15画 口
フン
ふく
噴火 噴射 噴水 水蒸気が噴く 山が火を噴く

**丘** 5画 一
キュウ
おか
砂丘 丘陵［きゅうりょう］ 丘の上

**煙** 13画 火
エン
けむる けむり けむい
煙幕 発煙 雨に煙る 砂煙 水煙 ●火のない所に煙は立たぬ 目の前が煙い

P180
**及** 3画 ノ
キュウ
およぶ および およぼす
言及 追及 害が及ぶ 力を及ぼす

**繰** 19画 糸
くる
繰り返す 練習を繰る ページを繰る 繰り広げる 繰り言

P182
**促** 9画 人
ソク
うながす
促音 促進 促成 注意を促す

**奪** 14画 大
ダツ
うばう
奪回 奪取 争奪 ゴールを奪う ●心を奪われる

**遂** 12画 辶
スイ
とげる
完遂 遂行 未遂 志を遂げる 成し遂げる

P183
**援** 12画 手
エン
援助 援護 応援 救援 支援 ●孤立無援［こりつむえん］

**嫌** 13画 女
ケン
ゲン
きらう いや
嫌疑 機嫌 争いを嫌う 嫌み

P157
**冒** 9画 目
ボウ
おかす
冒険 冒頭 感冒 危険を冒す

**筒** 12画 竹
トウ
つつ
円筒 水筒 封筒［ふうとう］ 竹の筒

**娘** 10画 女
むすめ
娘心 末娘

**諦** 16画 言
テイ
あきらめる
諦観 諦念 出場を諦める

**籠** 22画 竹
（ロウ）
かご こもる
籠籠籠籠籠籠
鳥籠 部屋に籠もる

**挑** 9画 手
チョウ
いどむ
挑挑挑挑挑挑挑
挑戦 挑発 戦いを挑む 冬山に挑む

P159
**恐** 10画 心
キョウ
おそれる おそろしい
恐恐恐恐恐恐恐恐恐恐
恐縮 恐怖［きょうふ］ ●戦々恐々 失敗を恐れる 末恐ろしい

P160
**斜** 11画 斗
シャ
ななめ
斜線 斜辺 斜面 斜陽 斜め前

**裾** 13画 衣
すそ
裾野 ズボンの裾

**劣** 6画 力
レツ
おとる
劣悪 劣勢 劣等感 優劣 品質が劣る 見劣り

**訴** 12画 言
ソ
うったえる
訴状 起訴 告訴 提訴 裁判に訴える 空腹を訴える

P161
**召** 5画 口
ショウ
めす
召召召召召
召集 応召 昼食を召しあがる お年を召す

P162
**昇** 8画 日
ショウ
のぼる
昇昇昇昇昇昇昇昇
昇格 昇級 昇降 昇進 上昇 朝日が昇る

**遣** 13画 辶
ケン
つかう つかわす
遣遣遣遣遣遣遣遣遣遣遣遣遣
派遣 遣唐使［けんとうし］ 言葉遣い 使者を遣わす

P163
**伏** 6画 人
フク
ふせる ふす
伏線 起伏 降伏 平伏 顔を伏せる 病に伏す

**添** 11画 水
テン
そえる そう
添加 添付 添削［てんさく］ 手紙を添える 親友に寄り添う

## 読む 今に生きる言葉

P170
**銘** 14画 金
メイ
銘記 感銘 銘菓［めいか］ 銘柄［めいがら］ ●正真正銘

**矛** 5画 矛
ム
ほこ
矛矛矛矛矛
矛盾［むじゅん］ 矛先

**盾** 9画 目
ジュン
たて
盾盾盾盾盾盾盾盾盾
矛盾［むじゅん］ 盾を構える 後ろ盾 ●矢も盾もたまらず

## 読む 「不便」の価値を見つめ直す

P171
**蛇** 11画 虫
ジャ
ダ
へび
蛇蛇蛇蛇蛇蛇蛇蛇蛇蛇蛇
蛇口 大蛇 蛇行 蛇足 ●長蛇の列 蛇がはう

**堅** 12画 土
ケン
かたい
堅固 堅持 堅実 中堅 口が堅い 堅苦しい

P178
**般** 10画 舟
ハン
一般 先般 全般 諸般

P179
**幾** 12画 幺
キ
いく
幾幾幾幾幾幾幾幾幾幾幾幾
幾何学［きかがく］ 幾分 幾日もたつ

**施** 9画 方
シ
施行 施策 施設 実施
（セ）
ほどこす
策を施す

**腰** 13画 肉
（ヨウ）
こし
腰腰腰腰腰腰腰腰腰腰腰腰腰
腰が痛い 腰掛［か］ける ●本腰を入れる

## 思考のレッスン2 原因と結果

P186
**壇** 16画 土
ダン（タン）
壇 壇 壇 壇 壇 壇 壇 壇
花壇 教壇 壇上 文壇

**踏** 15画 足
トウ
踏 踏 踏 踏 踏 踏 踏 踏
踏査 踏破 雑踏
ふむ 草を踏む 内容を踏まえる
ふまえる

**隔** 13画 阜（阝）
カク
隔 隔 隔 隔 隔 隔 隔 隔
遠隔 隔週 隔絶 間隔 時を隔てる 気持ちが隔たる
へだてる へだたる

**環** 17画 玉
カン
環 環 環 環 環 環 環 環
環境 環状 一環 衆人環視

P187
**偶** 11画 人
グウ
偶 偶 偶 偶 偶 偶 偶 偶
偶数 偶然 偶像 土偶 配偶者

## 漢字に親しもう 4

P188
**忙** 6画 心
ボウ
忙 忙 忙 忙 忙 忙
多忙 忙殺 忙中閑「かん」あり
いそがしい 仕事が忙しい 年末は忙しい

**斬** 11画 斤
ザン
斬 斬 斬 斬 斬 斬 斬 斬
斬新
きる

**祈** 8画 示
キ
祈 祈 祈 祈 祈 祈 祈 祈
祈願 祈念 成功を祈る 勝利を祈る 無事を祈る
いのる

**旺** 8画 日
オウ
旺 旺 旺 旺 旺 旺 旺 旺
旺盛「おうせい」

**芯** 7画 艹
シン
芯 芯 芯 芯 芯 芯 芯
帯芯 ろうそくの芯

**璧** 18画 玉
ヘキ
璧 璧 璧 璧 璧 璧 璧 璧 璧 璧 璧 璧 璧 璧 璧 璧 璧 璧
完璧 双璧「そうへき」

P189
**詣** 13画 言
（ケイ）
もうでる
詣 詣 詣 詣 詣 詣 詣 詣 詣 詣 詣 詣 詣
墓に詣でる

**衰** 10画 衣
スイ
衰 衰 衰 衰 衰 衰 衰 衰 衰 衰
おとろえる 衰弱 衰退 老衰 ●栄枯盛衰「えいこせいすい」 体力が衰える

**沸** 8画 水
フツ
沸 沸 沸 沸 沸 沸 沸 沸
沸点 沸騰「ふっとう」 優勝に沸く 風呂「ふろ」を沸かす
わく わかす

**据** 11画 手
すえる
据 据 据 据 据 据 据 据 据 据 据
像を据える 据え置く ●腹を据える 首が据わる
すわる

**渇** 11画 水
（カツ）
かわく
渇 渇 渇 渇 渇 渇 渇 渇 渇 渇 渇
喉「のど」が渇く

**稼** 15画 禾
（カ）
かせぐ
稼 稼 稼 稼 稼 稼 稼 稼 稼 稼 稼 稼 稼 稼 稼
点数を稼ぐ 旅費を稼ぐ

**鼓** 13画 鼓
コ
（つづみ）
鼓 鼓 鼓 鼓 鼓 鼓 鼓 鼓 鼓 鼓 鼓 鼓 鼓
鼓笛 鼓動 鼓膜「こまく」

## 読書 研究の現場にようこそ

P196
**奇** 8画 大
キ
奇 奇 奇 奇 奇 奇 奇 奇
奇異 奇数 好奇心 新奇 ●奇想天外

**寿** 7画 寸
ジュ
寿 寿 寿 寿 寿 寿 寿
長寿 天寿 米寿 ●不老長寿
ことぶき 寿を述べる

P197
**脊** 10画 肉
セキ
脊 脊 脊 脊 脊 脊 脊 脊 脊 脊
脊髄「せきずい」 脊椎「せきつい」 脊柱

**椎** 12画 木
ツイ
椎 椎 椎 椎 椎 椎 椎 椎 椎 椎 椎 椎
椎間板 椎骨

**搾** 13画 手
（サク）
しぼる
搾 搾 搾 搾 搾 搾 搾 搾 搾 搾 搾 搾 搾
菜種油を搾る 乳搾り

**刺** 8画 刀
シ
刺 刺 刺 刺 刺 刺 刺 刺
刺激 風刺 名刺
さす 布に針を刺す ●くぎを刺す
さざる とげが刺さる

P198
**端** 14画 立
タン
端 端 端 端 端 端 端 端 端 端 端 端 端 端
端正 端的 一端
はし（は） 道の端を歩く
はた 道端

**尾** 7画 尸
ビ
お
尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾
語尾 末尾 尾頭「おかしら」付き 尾根 ●尾を引く

P200
**惑** 12画 心
ワク
惑 惑 惑 惑 惑 惑 惑 惑 惑 惑 惑 惑
惑星 困惑 誘惑「ゆうわく」 あれこれと惑う 逃「に」げ惑う
まどう

**隧** 15画 土
ツイ
隧 隧 隧 隧 隧 隧 隧 隧 隧 隧 隧 隧 隧 隧 隧
隧道 撃隧「げきつい」 失隧 隧落

P201
**触** 13画 角
ショク
触 触 触 触 触 触 触 触 触 触 触 触 触
触角 触覚 感触 ●触手を伸「の」ばす 触れ合い 手触り
ふれる さわる

**渦** 12画 水
（カ）
うず
渦 渦 渦 渦 渦 渦 渦 渦 渦 渦 渦 渦
渦巻き 渦潮

**吉** 6画 口
キチ
キツ
吉 吉 吉 吉 吉 吉
吉日 大吉 ●思い立ったが吉日 吉報 吉兆 不吉



## 読む 少年の日の思い出

**闘** 18画 門
トウ
闘 闘 闘 闘 闘 闘 闘 闘 闘 闘 闘 闘 闘 闘 闘 闘 闘 闘
闘牛 闘志 闘争 健闘 戦闘 ●悪戦苦闘
たたかう 社会の悪と闘う

P206
**斎** 11画 斉
サイ
斎 斎 斎 斎 斎 斎 斎 斎 斎 斎 斎
斎場 書斎

**縁** 15画 糸
エン
縁 縁 縁 縁 縁 縁 縁 縁 縁 縁 縁 縁 縁 縁 縁
縁側 縁故 無縁 ●縁起をかつぐ 額縁 白線で縁取る
ふち

P207
**透** 10画 辶
トウ
透 透 透 透 透 透 透 透 透 透
透過 透明 底まで透き通る 日に透かす 中身が透ける
すく すかす ●すける

**蓋** 13画 艹
ガイ
ふた
蓋 蓋 蓋 蓋 蓋 蓋 蓋 蓋 蓋 蓋 蓋 蓋 蓋
頭蓋骨 天蓋 火蓋 ●身も蓋もない

**愉** 12画 心
ユ
愉 愉 愉 愉 愉 愉 愉 愉 愉 愉 愉 愉
愉快 愉悦「ゆえつ」

P208
**甲** 5画 田
コウ
甲 甲 甲 甲 甲
甲虫 甲骨文字 ●亀「かめ」の甲より年の功 甲高い 甲板

**戯** 15画 戈
ギ
（たわむれる）
戯 戯 戯 戯 戯 戯 戯 戯 戯 戯 戯 戯 戯 戯 戯
戯画 戯曲 児戯 遊戯

**塔** 12画 土
トウ
塔 塔 塔 塔 塔 塔 塔 塔 塔 塔 塔 塔
管制塔 金字塔 石塔 鉄塔

P209
**匂** 4画 勹
におう
匂 匂 匂 匂
バラが匂う

**網** 14画 糸
モウ
網 網 網 網 網 網 網 網 網 網 網 網 網 網
漁網 交通網 ●一網打尽「いちもうだじん」
あみ 網戸

**斑** 12画 文
ハン
斑 斑 斑 斑 斑 斑 斑 斑 斑 斑 斑 斑
斑点

**瓶** 11画 瓦
ビン
瓶 瓶 瓶 瓶 瓶 瓶 瓶 瓶 瓶 瓶 瓶
花瓶 鉄瓶 土瓶

P210
**栓** 10画 木
セン
栓 栓 栓 栓 栓 栓 栓 栓 栓 栓
消火栓 元栓

**慢** 14画 心
マン
慢 慢 慢 慢 慢 慢 慢 慢 慢 慢 慢 慢 慢 慢
我慢「がまん」 高慢 自慢 慢心 慢性

P211
**継** 13画 糸
ケイ
つぐ
継 継 継 継 継 継 継 継 継 継 継 継 継
継承 継続 後継 中継 家業を継ぐ ●二の句が継げない

**妬** 8画 女
トねたむ
妬 妬 妬 妬 妬 妬 妬 妬
嫉妬「しっと」 成功を妬む

**憎** 14画 心
ゾウ
にくむ にくい にくらしい にくしみ
憎 憎 憎 憎 憎 憎 憎 憎 憎 憎 憎 憎 憎 憎
愛憎 罪を憎む 心憎い演出 憎らしいせりふ 憎しみが消える

P212
**陥** 10画 阜（阝）
カン
おちいる（おとしいれる）
陥 陥 陥 陥 陥 陥 陥 陥 陥 陥
陥落 陥没「かんぼつ」 欠陥 わなに陥る

**攻** 7画 攵
コウ
せめる
攻 攻 攻 攻 攻 攻 攻
攻勢 攻防 専攻 攻撃「こうげき」 ●難攻不落 城を攻める

P213
**呈** 7画 口
テイ
呈 呈 呈 呈 呈 呈 呈
進呈 贈呈「ぞうてい」 活気を呈する 苦言を呈する

**雅** 13画 隹
ガ
雅 雅 雅 雅 雅 雅 雅 雅 雅 雅 雅 雅 雅
雅楽 典雅 風雅 優雅

P214
**盗** 11画 皿
トウ
盗 盗 盗 盗 盗 盗 盗 盗 盗 盗 盗
盗作 盗難 盗用 ●人目を盗む
ぬすむ ●暇「ひま」を盗む

**悟** 10画 心
ゴ
悟 悟 悟 悟 悟 悟 悟 悟 悟 悟
覚悟 悔悟「かいご」 自分の非を悟る
さとる

P215
**震** 15画 雨
シン
震 震 震 震 震 震 震 震 震 震 震 震 震 震 震
地震 震源 震災 震度 余震 身震い 声が震える
ふるう ふるえる

**繕** 18画 糸
ゼン
つくろう
繕 繕 繕 繕 繕 繕 繕 繕 繕 繕 繕 繕 繕 繕 繕 繕 繕 繕
営繕 修繕 身繕い 取り繕う

**罰** 14画 罒
バツ
罰 罰 罰 罰 罰 罰 罰 罰 罰 罰 罰 罰 罰 罰
罰金 罰則 賞罰 処罰 ●信賞必罰 罰が当たる

P216
**埋** 10画 土
マイ
うめる うまる うもれる
埋 埋 埋 埋 埋 埋 埋 埋 埋 埋
埋設 埋蔵 穴を埋める 砂に埋まる 雪に埋もれる

**丹** 4画 丶
タン
丹 丹 丹 丹
丹精 丹念

P217
**依** 8画 人
イ
（エ）
依 依 依 依 依 依 依 依
依願 依存 依然 依頼「いらい」 ●旧態依然

**蔑** 14画 艹
ベツ
さげすむ
蔑 蔑 蔑 蔑 蔑 蔑 蔑 蔑 蔑 蔑 蔑 蔑 蔑 蔑
軽蔑 相手を蔑む

**喉** 12画 口
コウ
喉 喉 喉 喉 喉 喉 喉 喉 喉 喉 喉 喉
喉頭 咽喉「いんこう」 のど ●喉元 ●喉から手が出る

P218
**償** 17画 人
ショウ
償 償 償 償 償 償 償 償 償 償 償 償 償 償 償 償 償
弁償 補償 無償 有償 罪を償う 損害を償う
つぐなう

漢字

## 漢字に親しもう 5

**貫** 11画 貝 カン
つらぬく
一貫　貫通
縦貫
●終始一貫
主張を貫く

**肪** 8画 肉 ボウ
脂肪［しぼう］

**凍** 10画 冫 トウ
凍結　凍土
解凍　冷凍
こおる
水が凍る
こごえる
手足が凍える

**霊** 15画 雨 レイ
霊前　霊感　霊長類
●全身全霊
（リョウ）（たま）

**幻** 4画 幺 ゲン
幻覚　幻想　夢幻
●変幻自在
幻を見る
幻の記録

**瞭** 17画 目 リョウ
明瞭　瞭然

**唐** 10画 口 トウ
唐詩
唐突［とうとつ］
唐草模様
から

**錯** 16画 金 サク
交錯　錯覚
錯乱
●試行錯誤

**脂** 10画 肉 シ
脂質　樹脂　油脂
脂身
脂汗［あぶらあせ］
●脂が乗る
あぶら

**腐** 14画 肉 フ
豆腐　腐食　腐心
魚が腐る
腐れ縁［えん］
野菜を腐らす
くさる
くされる
くさらす

**窯** 15画 穴 （ヨウ）
窯元
かま

**抹** 8画 手 マツ
一抹　抹消
抹茶

**喫** 12画 口 キツ
満喫　喫茶［きっさ］
大敗を喫する

**箸** P222 14画 竹 〈箸〉 はし
火箸　箸が進む
●箸にも棒にもかからない

## 読む 二十歳になった日

**揚** P224 12画 手 ヨウ
高揚　発揚　揚力
●意気揚々
天ぷらを揚げる
たこが揚がる
あげる
あがる

**房** P225 8画 戸 ボウ
官房　工房
文房具　暖房
冷房
一房のぶどう
ふさ

**符** P232 11画 竹 フ
音符　切符
終止符　符号
符丁

**峠** P233 9画 山 とうげ
峠道
●峠を越［こ］す

## 漢字3 漢字の成り立ち

**狩** 9画 犬 シュ
狩猟［しゅりょう］
かる
かり
鳥を狩る
きのこ狩り

**販** 11画 貝 ハン
販売　販路
市販　直販

**汗** 6画 水 カン
発汗
汗をかく
あせ
汗ばむ　冷や汗
●額に汗する

**肝** 7画 肉 カン
肝心　肝臓
肝要
きも
●肝に銘［めい］じる

**諭** 16画 言 ユ
教諭　説諭
諭旨［ゆし］
親が子を諭す
さとす

**苛** 8画 艹 カ
苛酷［かこく］
苛烈［かれつ］

**伯** 7画 人 ハク
伯父　伯母
伯仲［はくちゅう］

**拍** 8画 手 ハク ヒョウ
拍車　拍手
脈拍
●拍車をかける
拍子

**泊** 8画 水 ハク
宿泊　停泊
二泊三日
旅館に泊まる
客を泊める
とまる
とめる



## 漢字

# 一年生で学習した音訓

ここには、一年生で学習した新出音訓（小学校で学習した漢字の新しい読み方）を提出順に示した。小学校で学習した読み方と合わせて読めるようにしておこう。

●漢字の上の数字は、教科書本文での初出ページを示す。
●各欄で、漢字、新しく学習した読み方、用例を示す。
・読み方については、片仮名は音読みを、平仮名は訓読みを、太字は送り仮名を示す。

**岐** 39 キ
分岐　岐路

**片** ヘン
破片

**染** セン
染色

**星** ショウ
明星

**速** 40 すみやか
速やかに応じる

**集** つどう
仲間が集う

**和** やわらぐ
気分が和らぐ
やわらげる
暑さを和らげる

**専** もっぱら
専らバスを使う

**和** なごむ
気持ちが和む
なごやか
和やかな雰囲気

**化** 48 ケ
化身

**座** すわる
椅子に座る

**試** 49 ためす
実力を試す

**似** 53 ジ
類似

**傷** いたむ
本が傷む
いためる
花を傷める

**認** 59 ニン
確認　認識

**並** 60 ヘイ
並列

**軽** 68 かろやか
軽やかな足取り

**対** 70 ツイ
対句

**目** 76 ボク
面目

**面** おも
面影

**基** 80 もと
資料に基づく

**夫** フウ
工夫　夫婦

**後** 87 おくれる
気後れ

**厳** 88 おごそか
厳かな式典

**欲** 100 ほしい
食べ物が欲しい

**香** 108 コウ
香水　香料

**背** 109 そむく
主君に背く
そむける
顔を背ける

**貧** ヒン
貧血　貧弱

**探** 110 さぐる
秘密を探る

**除** 112 ジ
掃除

**有** 125 ウ
有無

**砂** シャ
土砂

**盛** セイ
盛夏　盛況

**夏** ゲ
夏至

**相** ショウ
首相

**己** キ
知己

**街** カイ
街道

**泣** キュウ
号泣

**申** シン
申告

**望** モウ
所望

**技** 126 わざ
技を伝える

**割** さく
時間を割く

**弓** キュウ
弓道

**宮** グウ
参宮　神宮

**盛** 135 さかる
日盛り
さかん
盛んに宣伝する

**度** 146 たび
この度

**荷** カ
出荷

**境** ケイ
境内

**内** ダイ
参内

**幸** さち
海の幸

**納** ナッ
納得

**黄** コウ
黄砂

**仲** チュウ
仲介　伯仲

**授** 158 さずける
秘宝を授ける
さずかる
子を授かる

**訪** 159 おとずれる
外国を訪れる

**閉** 162 とざす
門を閉ざす

**犯** おかす
罪を犯す

**衣** ころも
衣がえ　羽衣

**文** 164 ふみ
文をしたためる

**承** うけたまわる
ご意見を承る

**要** 176 いる
許可が要る

**下** 182 もと
灯台下暗し

**役** 188 エキ
現役　使役

**就** つく
仕事に就く
つける
役に就ける

**命** 196 ミョウ
寿命

**笑** 208 ショウ
苦笑

**切** 215 サイ
一切

**器** 222 うつわ
器の価値

**茶** サ
茶道

**熟** うれる
実が熟れる

**焼** ショウ
焼失　燃焼

**何** 233 カ
幾何学

# 常用漢字表

二〇一〇年改定
総字数二一三六字（五十音順）

## 漢字

常用漢字は、一般の社会生活で使用する漢字の目安として定められたもので、中学校修了までに一般的な読み方を全て学習することになっている。

中学校一年生の段階では、小学校で習った漢字と一年生で学習した漢字をしっかり読めるようにしておこう。また、小学校で学習した漢字は、正確に書けるように練習しよう。特に、六年生で習った漢字は、書き慣れるまで意識して使っていくように心がけたい。

なお、◆を付けたものは、用法の限られた漢字である。教科書では三年生の「常用漢字表について」で紹介している。

愛 アイ
◎胃 イ
39 扱 あつかう
中学校一年生で学習する漢字
数字は教科書本文での初出ページを示す。
②哀 アイ あわれ あわれむ
中学校二年生で学習する漢字
③亜 ア
中学校三年生で学習する漢字
76 彙 イ 〈彙〉
〈 〉内は手書きの楷書の習慣による字体

◆尉 イ
この教科書では新出漢字として扱っていない漢字

漢字の下の片仮名は音読みを、平仮名は訓読みを、太字は送り仮名を示す。
●は中学校一年生で学習する音訓　○は中学校二・三年生で学習する音訓
（ ）内は中学校では学習しなくてもよい音訓

### あ

③亜 ア
②哀 アイ あわれ あわれむ
②挨 アイ
②愛 アイ
②曖 アイ

悪 アク（オ） わるい
②握 アク にぎる
39 扱 あつかう
②宛 あてる
②嵐 あらし

安 アン やすい
案 アン
暗 アン くらい

### い

位 イ くらい
囲 イ かこむ かこう
②為 イ
◎胃 イ
◆尉 イ
③畏 イ おそれる
◎異 イ こと
移 イ うつる うつす

②姻 イン
員 イン
院 イン
◆淫 イン（みだら）
110 陰 イン かげ かげる

飲 イン のむ
69 隠 イン かくす かくれる
70 韻 イン

以 イ
衣 イ ころも●
129 委 イ ゆだねる
217 依 イ（エ）
医 イ

②萎 イ なえる
③偉 イ えらい
53 椅 イ
76 彙 イ 〈彙〉
意 イ

43 違 イ ちがう ちがえる
40 維 イ
◎遺 イ ユイ○
③慰 イ なぐさめる なぐさむ
40 緯 イ
◎域 イキ

育 イク そだつ そだてる はぐくむ

### う

右 ウ ユウ みぎ
◎宇 ウ
③羽 ウ はね
雨 ウ あめ あま
②唄 うた
③鬱 ウツ
◆畝 うね
②浦 うら
運 ウン はこぶ
雲 ウン くも
永 エイ ながい
泳 エイ およぐ
英 エイ
◎映 エイ うつる うつす はえる○
栄 エイ さかえる さかえ（はえ） （はえる）
営 エイ いとなむ

### え

③詠 エイ（よむ）
46 影 エイ かげ
②鋭 エイ するどい
衛 エイ
②疫 エキ（ヤク）
易 エキ イ やさしい
益 エキ（ヤク）
液 エキ
駅 エキ
悦 エツ
39 越 エツ こす こえる
③謁 エツ
81 閲 エツ
円 エン まるい
◎延 エン のびる のべる のばす
◎沿 エン そう
③炎 エン ほのお
怨 エン（オン）
②宴 エン
援 エン
183 媛 エン○
園 エン その○
148 煙 エン けむる けむり けむい
猿 エン さる
遠 エン（オン） とおい
206 縁 エン ふち
演 エン
塩 エン しお
40 鉛 エン なまり
③艶 エン（オン） つや

### お

岡 おか
屋 オク や
億 オク
②憶 オク
②臆 オク
◆虞 おそれ
③乙 オツ
106 俺 おれ
音 オン イン○ おと ね
③卸 おろす おろし
◎恩 オン
温 オン あたたか あたたかい あたたまる あたためる
③穏 オン おだやか

②佳 カ
花 カ はな
何 カ なに なん●
仮 カ ケ○ かり
③欧 オウ
②殴 オウ なぐる
桜 オウ さくら
◆翁 オウ
106 押 オウ おす おさえる
旺 オウ
188 往 オウ
44 応 オウ こたえる
央 オウ
②凹 オウ
王 オウ
39 汚 オ けがす けがれる けがす けがれ けがらわしい よごす よごれる きたない
横 オウ よこ
48 奥 オウ おく

下 カ ゲ した しも● さげる くだる くだす くださる おろす おりる
化 カ ケ● ばける ばかす
火 カ ひ ほ
加 カ くわえる くわわる
可 カ
果 カ はたす はて はてる
価 カ あたい
②嫁 カ よめ とつぐ
過 カ すぎる すごす すこ（あやまつ） （あやまち）
200 渦 カ うず
貨 カ
98 菓 カ
②華 カ ケ はな
荷 カ に●
家 カ ケ いえ や
47 架 カ かける かかる
夏 カ ゲ● なつ
科 カ
233 苛 カ
河 カ かわ
②暇 カ ひま
107 禍 カ
◎革 カク かわ○
89 格 カク（コウ）
角 カク かど つの
◎拡 カク
核 カク
各 カク（おのおの）
③柿 かき
③垣 かき
②骸 ガイ
②概 ガイ
②該 ガイ
207 蓋 ガイ ふた
②慨 ガイ
②涯 ガイ
街 ガイ カイ● まち
146 崖 ガイ がけ
害 ガイ

②介 カイ
38 介 カイ
②餓 ガ
213 雅 ガ
賀 ガ
芽 ガ め
画 ガ カク
◎我 ガ われ わが○
③瓦 ガ（カ） かわら
③牙 ガ（ゲ） きば
③蚊 か
課 カ
188 稼 カ かせぐ
②箇 カ
歌 カ うた うたう
③寡 カ
70 靴 カ（ク） くつ

回 カイ（エ） まわる まわす
◎灰 カイ○ はい
会 カイ（エ） あう
快 カイ こころよい
130 戒 カイ いましめる
改 カイ あらためる あらたまる
②怪 カイ あやしい あやしむ
◆拐 カイ
③悔 カイ くいる くやむ くやしい
海 カイ うみ
界 カイ
76 皆 カイ みな
械 カイ
絵 カイ エ

開 カイ ひらく ひらける あく あける
②階 カイ
③塊 カイ かたまり
②楷 カイ
解 カイ（ゲ） とく とかす とける
③懐 カイ（ふところ） （なつ） かしい （なつ） かしむ （なつ） （なつ） ける
②潰 カイ つぶす つぶれる
44 壊 カイ こわす こわれる
②諧 カイ
貝 かい
外 ガイ ゲ○ そと ほか はずす はずれる
③劾 ガイ

## 漢字

## く

- 緊 キン
- 錦 キン にしき ③
- 謹 キン つつしむ ②
- 襟 キン えり 39
- 吟 ギン ②
- 銀 ギン
- 区 ク
- 句 ク
- 苦 ク くるしい くるしむ くるしめる にがい にがる
- 駆 ク かける かる 109
- 具 グ
- 惧 グ おそれ ②
- 愚 グ おろか ②
- 空 クウ そら あく あける から
- 偶 グウ 187
- 隅 グウ すみ 89
- 遇 グウ ③
- 串 くし ③
- 掘 クツ ほる 97
- 屈 クツ ②
- 窟 クツ ②
- 熊 くま
- 繰 くる 180
- 君 クン きみ
- 訓 クン
- 勲 クン ③
- 薫 クン かおる ②
- 軍 グン
- 郡 グン

## け

- 群 グン むれる むら
- 兄 ケイ キョウ あに
- 刑 ケイ ②
- 形 ケイ ギョウ かた かたち
- 系 ケイ ◎
- 径 ケイ
- 茎 ケイ くき 42
- 係 ケイ かかる かかり
- 型 ケイ かた
- 契 ケイ ちぎる ③
- 計 ケイ はかる はからう
- 恵 ケイ エ めぐむ 43
- 啓 ケイ ②
- 掲 ケイ かかげる 107
- 渓 ケイ 99
- 経 ケイ キョウ へる ②
- 蛍 ケイ ほたる ②
- 敬 ケイ うやまう ◎
- 景 ケイ
- 軽 ケイ かるい かろやか ●
- 傾 ケイ かたむく かたむける ②
- 携 ケイ たずさえる たずさわる ②
- 継 ケイ つぐ 211
- 詣 ケイ もうでる 188
- 慶 ケイ ②
- 憬 ケイ ◆
- 稽 ケイ 40
- 憩 ケイ いこい いこう ②
- 警 ケイ ◎
- 鶏 ケイ にわとり ③
- 芸 ゲイ
- 迎 ゲイ むかえる 69
- 鯨 ゲイ くじら ②
- 隙 ゲキ すき ②
- 劇 ゲキ ◎
- 撃 ゲキ うつ 102
- 激 ゲキ はげしい ◎
- 桁 ケタ ③
- 欠 ケツ かける かく
- 穴 ケツ あな ◎
- 血 ケツ ち
- 決 ケツ きめる きまる
- 結 ケツ むすぶ ゆう ゆわえる
- 潔 ケツ いさぎよい 222
- 月 ゲツ ガツ つき
- 犬 ケン いぬ
- 件 ケン
- 見 ケン みる みえる みせる
- 券 ケン ◎
- 肩 ケン かた 76
- 建 ケン コン たてる たつ
- 研 ケン とぐ ◎
- 県 ケン
- 倹 ケン ③
- 兼 ケン かねる ②
- 剣 ケン つるぎ ②
- 拳 ケン こぶし ②
- 軒 ケン のき ③
- 健 ケン すこやか
- 険 ケン けわしい
- 圏 ケン ②
- 検 ケン
- 嫌 ケン ゲン きらう いや 183
- 献 ケン コン ③
- 絹 ケン きぬ ◎
- 遣 ケン つかう つかわす 162
- 権 ケン ゴン ◎
- 賢 ケン かしこい ②
- 憲 ケン ◎
- 謙 ケン ②
- 鍵 ケン かぎ 60
- 繭 ケン まゆ ③
- 顕 ケン ②
- 験 ケン ゲン 39
- 懸 ケン ケ かける かかる

## き

- 丸 ガン まる まるい まるめる
- 含 ガン ふくむ ふくめる 102
- 岸 ガン きし
- 岩 ガン いわ
- 玩 ガン ③
- 眼 ガン ゲン まなこ ◎
- 頑 ガン 39
- 顔 ガン かお
- 願 ガン ねがう
- 企 キ くわだてる 38
- 伎 キ ③
- 危 キ あぶない あやうい あやぶむ ◎
- 机 キ つくえ ◎
- 気 ケキ
- 岐 キ ●
- 希 キ
- 忌 キ いむ い まわしい ③
- 汽 キ
- 奇 キ
- 祈 キ いのる 188
- 季 キ
- 紀 キ
- 軌 キ ②
- 既 キ すでに ②
- 記 キ しるす
- 起 キ おきる おこる おこす
- 飢 キ うえる ②
- 鬼 キ おに ②
- 帰 キ かえる かえす
- 基 キ もと もとい ●
- 寄 キ よる よせる
- 規 キ
- 亀 キ かめ 70
- 喜 キ よろこぶ
- 幾 キ いく 179
- 揮 キ ◎
- 期 キ ご
- 棋 キ ②
- 貴 キ たっとい とうとい たっとぶ とうとぶ ◎
- 棄 キ ②
- 毀 キ ◆
- 旗 キ はた
- 器 キ うつわ ●
- 畿 キ ③
- 輝 キ かがやく 24
- 機 キ はた ◎
- 騎 キ ②
- 技 ギ わざ ●
- 宜 ギ ③
- 偽 ギ いつわる にせ ③
- 欺 ギ あざむく ②
- 義 ギ
- 疑 ギ うたがう ◎
- 儀 ギ ②
- 戯 ギ たわむ れる 208
- 擬 ギ 69
- 犠 ギ ③
- 議 ギ
- 菊 キク ②
- 吉 キチ キツ 201
- 喫 キツ 222
- 却 キャク ③
- 客 キャク カク ◎
- 脚 キャク あし ②
- 虐 ギャク しいたげる ②
- 逆 ギャク さか さからう
- 九 キュウ ク ここの ここのつ
- 久 キュウ ク ひさしい
- 及 キュウ およぶ およぼす 180
- 弓 キュウ ゆみ ●
- 丘 キュウ おか 149
- 旧 キュウ
- 休 キュウ やすむ やすまる やすめる
- 吸 キュウ すう ◎
- 朽 キュウ くちる ②
- 求 キュウ もとめる
- 究 キュウ きわめる ○
- 泣 キュウ なく ●
- 急 キュウ いそぐ
- 級 キュウ
- 糾 キュウ ③
- 宮 キュウ グウ ク みや ●
- 救 キュウ すくう
- 球 キュウ たま
- 給 キュウ
- 嗅 キュウ かぐ 〈嗅〉 ②
- 窮 キュウ きわめる きわまる ③
- 漢 カン
- 慣 カン なれる ならす
- 管 カン くだ
- 関 カン せき かかわる
- 歓 カン ②
- 監 カン ③
- 緩 カン ゆるい ゆるやか ゆるむ ゆるめる ②
- 憾 カン ②
- 還 カン 126
- 館 カン やかた
- 環 カン 186
- 簡 カン ◎
- 観 カン
- 韓 カン ◆
- 艦 カン ◆
- 鑑 カン かんがみる ②
- 丸 ガン まる まるい まるめる
- 含 ガン ふくむ ふくめる 102
- 岸 ガン きし
- 岩 ガン いわ
- 玩 ガン ③
- 眼 ガン まなこ ◎
- 頑 ガン 39
- 顔 ガン かお
- 願 ガン ねがう
- 企 キ くわだてる 38
- 伎 キ ③
- 危 キ あぶない あやうい あやぶむ ◎
- 机 キ つくえ ◎
- 気 ケキ
- 岐 キ ●
- 希 キ
- 忌 キ いむ い まわしい ③
- 汽 キ
- 奇 キ
- 祈 キ いのる 188
- 季 キ
- 紀 キ
- 軌 キ ②
- 既 キ すでに ②
- 記 キ しるす
- 起 キ おきる おこる おこす
- 飢 キ うえる ②
- 鬼 キ おに ②
- 帰 キ かえる かえす
- 基 キ もと もとい ●
- 寄 キ よる よせる
- 規 キ
- 亀 キ かめ 70
- 喜 キ よろこぶ
- 幾 キ いく 179
- 揮 キ ◎
- 期 キ ご
- 棋 キ ②
- 貴 キ たっとい とうとい たっとぶ とうとぶ ◎
- 棄 キ ②
- 毀 キ ◆
- 旗 キ はた
- 器 キ うつわ ●
- 畿 キ ③
- 輝 キ かがやく 24
- 機 キ はた ◎
- 騎 キ ②
- 技 ギ わざ ●
- 宜 ギ ③
- 偽 ギ いつわる にせ ③
- 欺 ギ あざむく ②
- 義 ギ
- 疑 ギ うたがう ◎
- 儀 ギ ②
- 戯 ギ たわむ れる 208
- 擬 ギ 69
- 犠 ギ ③
- 議 ギ
- 菊 キク ②
- 吉 キチ キツ 201
- 喫 キツ 222
- 却 キャク ③
- 客 キャク カク ◎
- 脚 キャク あし ②
- 虐 ギャク しいたげる ②
- 逆 ギャク さか さからう
- 九 キュウ ク ここの ここのつ
- 久 キュウ ク ひさしい
- 及 キュウ およぶ およぼす 180
- 弓 キュウ ゆみ ●
- 丘 キュウ おか 149
- 旧 キュウ
- 休 キュウ やすむ やすまる やすめる
- 吸 キュウ すう ◎
- 朽 キュウ くちる ②
- 求 キュウ もとめる
- 究 キュウ きわめる ○
- 泣 キュウ なく ●
- 急 キュウ いそぐ
- 級 キュウ
- 糾 キュウ ③
- 宮 キュウ グウ ク みや ●
- 救 キュウ すくう
- 球 キュウ たま
- 給 キュウ
- 嗅 キュウ かぐ 〈嗅〉 ②
- 窮 キュウ きわめる きわまる ③
- 漢 カン
- 慣 カン なれる ならす
- 管 カン くだ
- 関 カン せき かかわる
- 歓 カン ②
- 監 カン ③
- 緩 カン ゆるい ゆるやか ゆるむ ゆるめる ②
- 憾 カン ②
- 還 カン 126
- 館 カン やかた
- 環 カン 186
- 簡 カン ◎
- 観 カン
- 韓 カン ◆
- 艦 カン ◆
- 鑑 カン かんがみる ②
- 覚 カク おぼえる さます さめる
- 郭 カク ②
- 殻 カク から ②
- 較 カク 52
- 隔 カク へだてる へだたる 186
- 閣 カク ◎
- 確 カク たしか たしかめる
- 穫 カク ②
- 岳 ガク たけ ②
- 学 ガク まなぶ
- 楽 ガク ラク たのしい たのしむ
- 額 ガク ひたい
- 顎 ガク あご 48
- 掛 カイ かける かかる かかり 22
- 潟 かた
- 括 カツ 40
- 活 カツ
- 喝 カツ 126
- 渇 カツ かわく 188
- 割 カツ わる わり われる さく ◎
- 葛 カツ 〈葛〉 くず ③
- 滑 カツ コツ すべる なめらか ②
- 褐 カツ ③
- 轄 カツ ③
- 且 ショ かつ ◆
- 株 かぶ ◎
- 釜 かま ③
- 鎌 かま ②
- 刈 カイ 112
- 干 カン ほす ひる ◎
- 甘 カン あまい あまえる あまやかす 52
- 刊 カン
- 汗 カン あせ 233
- 缶 カン 98
- 完 カン
- 肝 カン きも 233
- 官 カン
- 冠 カン かんむり ②
- 巻 カン まく まき ◎
- 看 カン ◎
- 陥 カン おちいる おとしいれる 211
- 乾 カン かわく かわかす 102
- 勘 カン ②
- 患 カン わずらう ③
- 貫 カン つらぬく 222
- 寒 カン さむい
- 喚 カン ②
- 堪 カン たえる ②
- 換 カン かえる かわる 60
- 敢 カン ②
- 棺 カン 103
- 款 カン ◆
- 間 カン ケン あいだ
- 閑 カン ③
- 勧 カン すすめる ②
- 寛 カン ②
- 幹 カン みき
- 感 カン
- 詰 キツ つめる つまる つむ ②
- 丸 ガン まる まるい まるめる
- 含 ガン ふくむ ふくめる 102
- 岸 ガン きし
- 岩 ガン いわ
- 玩 ガン ③
- 眼 ガン まなこ ◎
- 頑 ガン 39
- 顔 ガン かお
- 願 ガン ねがう
- 企 キ くわだてる 38
- 伎 キ ③
- 危 キ あぶない あやうい あやぶむ ◎
- 机 キ つくえ ◎
- 気 ケキ
- 岐 キ ●
- 希 キ
- 忌 キ いむ い まわしい ③
- 汽 キ
- 奇 キ
- 祈 キ いのる 188
- 季 キ
- 紀 キ
- 軌 キ ②
- 既 キ すでに ②
- 記 キ しるす
- 起 キ おきる おこる おこす
- 飢 キ うえる ②
- 鬼 キ おに ②
- 帰 キ かえる かえす
- 基 キ もと もとい ●
- 寄 キ よる よせる
- 規 キ
- 亀 キ かめ 70
- 喜 キ よろこぶ
- 幾 キ いく 179
- 揮 キ ◎
- 期 キ ご
- 棋 キ ②
- 貴 キ たっとい とうとい たっとぶ とうとぶ ◎
- 棄 キ ②
- 毀 キ ◆
- 旗 キ はた
- 器 キ うつわ ●
- 畿 キ ③
- 輝 キ かがやく 24
- 機 キ はた ◎
- 騎 キ ②
- 技 ギ わざ ●
- 宜 ギ ③
- 偽 ギ いつわる にせ ③
- 欺 ギ あざむく ②
- 義 ギ
- 疑 ギ うたがう ◎
- 儀 ギ ②
- 戯 ギ たわむ れる 208
- 擬 ギ 69
- 犠 ギ ③
- 議 ギ
- 菊 キク ②
- 吉 キチ キツ 201
- 喫 キツ 222
- 却 キャク ③
- 客 キャク カク ◎
- 脚 キャク あし ②
- 虐 ギャク しいたげる ②
- 逆 ギャク さか さからう
- 九 キュウ ク ここの ここのつ
- 久 キュウ ク ひさしい
- 及 キュウ およぶ およぼす 180
- 弓 キュウ ゆみ ●
- 丘 キュウ おか 149
- 旧 キュウ
- 休 キュウ やすむ やすまる やすめる
- 吸 キュウ すう ◎
- 朽 キュウ くちる ②
- 求 キュウ もとめる
- 究 キュウ きわめる ○
- 泣 キュウ なく ●
- 急 キュウ いそぐ
- 級 キュウ
- 糾 キュウ ③
- 宮 キュウ グウ ク みや ●
- 救 キュウ すくう
- 球 キュウ たま
- 給 キュウ
- 嗅 キュウ かぐ 〈嗅〉 ②
- 窮 キュウ きわめる きわまる ③
- 漢 カン
- 慣 カン なれる ならす
- 管 カン くだ
- 関 カン せき かかわる
- 歓 カン ②
- 監 カン ③
- 緩 カン ゆるい ゆるやか ゆるむ ゆるめる ②
- 憾 カン ②
- 還 カン 126
- 館 カン やかた
- 環 カン 186
- 簡 カン ◎
- 観 カン
- 韓 カン ◆
- 艦 カン ◆
- 鑑 カン かんがみる ②

元 ゲン・ガン もと
古 コ ふる・い ふる・す
呼 ◎ コ よ・ぶ
固 コ かた・める かた・まる かた・い
股 ② コ また
虎 ③ コ とら
孤 ② コ
弧 ② コ
故 コ ゆえ ○
枯 ② コ か・れる か・らす
個 コ
庫 コ（ク）
湖 コ みずうみ
雇 ② コ やと・う
誇 ② コ ほこ・る
鼓 188 コ（つづみ）
◆ 錮 コ

顧 ③ コ かえりみ・る
五 ゴ いつ・つ
互 120 ゴ たがい
午 ゴ
呉 ③ ゴ
後 ゴ コウ のち うしろ あと おく・れる ●
娯 ② ゴ
悟 214 ゴ さと・る
誤 ◎ ゴ あやま・る
語 ゴ かた・る かた・らう
碁 ③ ゴ
護 ゴ
口 コウ くち
工 コウ ク
公 コウ おおやけ ○
勾 ③ コウ

孔 ◆ コウ
功 コウ（ク）
巧 125 コウ たくみ
広 コウ ひろ・い ひろ・まる ひろ・める ひろ・がる ひろ・げる
甲 208 コウ カン
交 コウ まじわ・る まじ・える まじ・る まざ・る まぜ・る か・う ○ か・わす ○
光 コウ ひか・る ひかり
向 コウ むく・む む・ける む・かう む・こう
后 ◎ コウ
好 コウ この・む す・く
江 146 コウ え
考 コウ かんが・える

行 コウ ギョウ（アン） い・く ゆ・く おこな・う
坑 ③ コウ
抗 ② コウ
孝 ◎ コウ
攻 212 コウ せ・める
更 126 コウ さら ふ・ける（ふ・かす）
香 コウ ● キョウ か かお・り かお・る
効 コウ き・く
幸 コウ さいわ・い さち ● しあわ・せ
拘 ③ コウ
肯 146 コウ
侯 ◆ コウ
厚 コウ ○ あつ・い
恒 ② コウ
洪 ③ コウ

皇 ◎ コウ オウ
紅 ◎ コウ ク ○ べに くれない ○
荒 49 コウ あら・い あ・れる あら・す
郊 ② コウ
香 コウ ● キョウ か かお・り かお・る
候 コウ（そうろう）
校 コウ
耕 コウ たがや・す
航 コウ
降 ◎ コウ お・りる お・ろす ふ・る
貢 ③ コウ（ク）（みつ・ぐ）
高 コウ たか・い たか・まる たか・める

康 コウ
梗 ③ コウ
控 ② コウ（ひか・える）
黄 コウ ● き こ ○
慌 ② コウ（あわ・てる あわ・ただしい）
喉 217 コウ のど
項 60 コウ
絞 80 コウ（しぼ・る し・める し・まる）
港 コウ みなと
硬 ② コウ かた・い
構 コウ かま・える かま・う
溝 82 コウ みぞ
鉱 コウ
綱 ② コウ つな

酵 146 コウ
稿 ② コウ
興 コウ キョウ（おこ・る）（おこ・す）
購 ② コウ
講 コウ
鋼 ◎ コウ はがね ○
衡 ② コウ
克 ③ コク
豪 ③ ゴウ
傲 ③ ゴウ
剛 ② ゴウ
拷 ◆ ゴウ
合 ゴウ ガッ カッ あ・う あ・わす あ・わせる
号 ゴウ
乞 ② こう

告 コク つ・げる
谷 コク ○ たに
刻 ◎ コク きざ・む
国 コク くに
黒 コク くろ・い くろ
穀 ◎ コク
酷 ③ コク
獄 ② ゴク
骨 ◎ コツ ほね
駒 ③ こま
込 80 こ・む こ・める
今 コン キン ○ いま
困 ◎ コン こま・る
昆 ③ コン
恨 ② コン うら・む うら・めしい
根 コン ね

婚 156 コン
混 コン ま・じる ま・ざる ま・ぜる こ・む
痕 ② コン あと
紺 ③ コン
魂 110 コン たましい
墾 ③ コン
懇 ③ コン（ねんごろ）
砂 ◎ サ シャ ● すな
査 サ
佐 サ
左 サ ひだり
さ
差 サ さ・す
唆 ② サ（そそのか・す）
詐 ③ サ

鎖 ② サ くさり
座 ◎ ザ すわ・る ●
挫 40 ザ
才 サイ
再 サイ サ ふたた・び
災 サイ わざわ・い ○
妻 サイ つま
采 126 サイ
砕 ③ サイ くだ・く くだ・ける
宰 ③ サイ
栽 ② サイ
彩 26 サイ（いろど・る）
採 サイ と・る
済 ◎ サイ す・む す・ます
祭 サイ まつ・る まつ・り
斎 206 サイ



細 サイ ほそ・い こま・か こま・かい
菜 サイ な
最 サイ もっと・も
裁 ◎ サイ た・つ ○ さば・く
債 ③ サイ
催 ② サイ もよお・す
塞 ③ サイ ソク ふさ・ぐ ふさ・がる
歳 98 サイ セイ
載 72 サイ の・せる の・る
際 サイ（きわ）
埼 さい
在 ザイ あ・る
材 ザイ
剤 ② ザイ
財 ザイ サイ ○

罪 ザイ つみ
崎 さき
作 サク サ つく・る
削 82 サク けず・る
昨 サク
柵 ③ サク
索 53 サク
策 ◎ サク
酢 126 サク す
錯 222 サク
搾 188 サク（しぼ・る）
咲 44 さく
冊 ◎ サツ（サク）
札 サツ ふだ
刷 サツ す・る
◆ 刹 サツ（セツ）
拶 ② サツ

殺 サツ サイ（セツ）ころ・す
察 サツ
撮 ② サツ と・る
擦 108 サツ す・る す・れる
雑 ザツ ゾウ
皿 さら
三 サン み み・つ み・っつ
参 サン まい・る
山 サン やま
産 サン う・む う・まれる うぶ
惨 ③ サン（ザン）（みじ・め）
蚕 ◎ サン かいこ
桟 ③ サン

散 サン ち・る ち・らす ち・らかす ち・らかる
算 サン
酸 サン（す・い）
賛 サン
残 ザン のこ・る のこ・す
斬 188 ザン き・る
暫 ③ ザン

四 シ よ・つ よっ・つ よん
市 シ いち
矢 シ（や）
旨 146 シ（むね）
死 シ し・ぬ
糸 シ いと
至 ◎ シ いた・る
志 シ こころざ・す こころざし
伺 ② シ うかが・う
私 ◎ シ わたくし わたし
使 シ つか・う
刺 188 シ さ・す さ・さる
始 シ はじ・める はじ・まる
姉 シ あね ○
枝 シ（え だ）
祉 ② シ

肢 ② シ
思 シ おも・う
指 シ ゆび さ・す
施 179 シ（セ）ほどこ・す
師 シ
恣 ③ シ
紙 シ かみ
脂 222 シ あぶら
視 ◎ シ
詞 ◎ シ
紫 ② シ むらさき
歯 シ は
◆ 嗣 シ
試 シ こころ・みる ため・す ●
資 シ

姿 ◎ シ すがた
誌 ◎ シ
雌 ② シ めす
摯 ② シ
賜 ③ シ（ス）たまわ・る
諮 ② シ はか・る
示 シ ○ しめ・す
字 ジ あざ ○
寺 ジ てら
次 ジ シ ○ つ・ぐ つぎ
耳 ジ ○ みみ
自 ジ シ みずから
似 ジ ● に・る
事 ジ（ズ）こと
児 ジ ニ ○
侍 ③ ジ さむらい

飼 シ かう
治 ジ チ おさ・める おさ・まる なお・る なお・す
持 ジ も・つ
時 ジ とき
滋 ジ ○
慈 ② ジ（いつく・しむ）
辞 ジ や・める ○
磁 ◎ ジ
◆ 璽 〈重〉 ジ
餌 129 ジ（え さ）
軸 42 ジク
七 シチ なな なな・つ なの
識 シキ
式 シキ
鹿 しか
叱 ② シツ しか・る
失 シツ うしな・う
室 シツ むろ ○
疾 ② シツ
執 ② シツ シュウ と・る
湿 ② シツ しめ・る しめ・す
漆 ② シツ うるし
嫉 ③ シツ
質 シツ シチ（チ）
実 ジツ み みの・る
写 シャ うつ・す うつ・る
芝 ② しば
舎 シャ
車 シャ くるま
社 シャ やしろ
者 シャ もの

射 ◎ シャ い・る
捨 ◎ シャ す・てる
赦 ◆ シャ
斜 160 シャ なな・め
煮 ② シャ（に・る に・える に・やす）
遮 125 シャ さえぎ・る
謝 シャ あやま・る ○
邪 ② ジャ
蛇 170 ジャ ダ へび
尺 ◎ シャク
借 シャク か・りる
酌 ③ シャク（く・む）
釈 134 シャク
爵 ◆ シャク
若 ◎ ジャク ○ ニャク わか・い（も・しくは）

弱 ジャク よわ・い よわ・る よわ・まる よわ・める
寂 ② ジャク（セキ）さび さび・しい さび・れる
手 シュ て た ○
主 シュ（ス）ぬし おも
守 シュ ス まも・る もり ○
朱 ③ シュ
取 シュ と・る
狩 233 シュ か・る かり
首 シュ くび
殊 ③ シュ こと
珠 ② シュ
酒 シュ さけ さか
腫 ③ シュ は・れる は・らす

漢字

種 シュ たね
秋 シュウ あき
趣 ② シュ おもむき
臭 ③ シュウ くさい・におう
蹴 ② シュウ ける
修 ③ シュウ・シュ おさめる・おさまる
十 97 ジュウ・ジッ とお・と
襲 シュウ おそう
縦 ◎ ジュウ たて
寿 196 ジュ ことぶき
祝 シュク（シュウ） いわう
叔 ◆ シュク
受 ジュ うける・うかる
宿 シュク やど・やどる・やどす
淑 ◆ シュク
呪 ② ジュ のろう
粛 ③ シュク
縮 ◎ シュク ちぢむ・ちぢまる・ちぢめる・ちぢれる・ちぢらす
授 ジュ さずける・さずかる●
需 ③ ジュ
儒 ◆ ジュ
樹 ◎ ジュ
収 ◎ シュウ おさめる・おさまる
囚 ◆ シュウ
舟 ② シュウ ふね・ふな
州 シュウ す。
周 シュウ まわり
宗 ◎ シュウ・ソウ。
拾 シュウ ひろう
秀 49 シュウ（ひいでる）
樹 ◎ ジュ
儒 ◆ ジュ
需 ③ ジュ
呪 ② ジュ のろう
受 196 ジュ うける・うかる
寿 ② ジュ ことぶき
趣 ② シュ おもむき
種 シュ たね

習 シュウ ならう
羞 ③ シュウ
終 シュウ おわる・おえる
袖 ③ シュウ そで
修 ③ シュウ・シュ おさめる・おさまる
臭 ③ シュウ くさい・におう
愁 ③ シュウ（うれえる）（うれい）
醜 ② シュウ みにくい
酬 ③ シュウ
集 シュウ あつまる・あつめる・あつどう●
衆 ◎ シュウ（シュ）
就 ◎ シュウ（ジュ） つく●・つける●
週 シュウ
重 ジュウ（チョウ） おもい・かさねる・かさなる
従 ◎ ジュウ（ショウ）（ジュ） したがう・したがえる
柔 125 ジュウ・ニュウ やわらか・やわらかい
住 ジュウ すむ・すまう
充 ② ジュウ（あてる）
汁 ② ジュウ しる
獣 ③ ジュウ けもの
銃 ③ ジュウ
渋 ② ジュウ しぶ・しぶい・しぶる
術 ジュツ
述 ジュツ のべる
出 シュツ・スイ。 でる・だす
塾 107 ジュク
熟 ◎ ジュク うれる●
春 ② シュン はる
俊 ② シュン
瞬 47 シュン（またたく）
旬 ② ジュン
巡 ③ ジュン めぐる
盾 170 ジュン たて
准 ② ジュン
殉 ◆ ジュン
純 ◎ ジュン
循 ③ ジュン
順 ジュン
準 ジュン
潤 ② ジュン うるおう・うるおす・うるむ
遵 83 ジュン
処 ◎ ショ
初 ショ はじめ・はじめて・はつ・うい・そめる。
所 ショ ところ

書 ショ かく
庶 ③ ショ
暑 ショ あつい
署 ◎ ショ
緒 ③ ショ チョ お
諸 ◎ ショ
女 ジョ・ニョ。（ニョウ） おんな・め。
如 ② ジョ（ニョ）
助 ジョ たすける・たすかる・すけ。
序 ジョ
叙 ③ ジョ
徐 ② ジョ
除 ◎ ジョ・ジ● のぞく
小 ショウ ちいさい・こ・お
将 ◎ ショウ
宵 ③ ショウ（よい）
昭 ショウ
沼 ② ショウ（ぬま）
松 ショウ まつ
昇 162 ショウ のぼる
承 ◎ ショウ うける●・まわる●
招 ショウ まねく
尚 ② ショウ
肖 ② ショウ
抄 ◆ ショウ
床 ② ショウ とこ・ゆか
匠 ③ ショウ
召 161 ショウ めす
少 ショウ すくない・すこし
升 ◆ ショウ ます
硝 ◆ ショウ
焦 ③ ショウ こげる・こがす・こがれる（あせる）
焼 ショウ やく・やける
晶 ② ショウ
掌 ③ ショウ
勝 ショウ かつ・まさる。
訟 ③ ショウ
紹 86 ショウ
章 ショウ
渉 ② ショウ
唱 ショウ となえる
笑 ショウ わらう● えむ。
象 ショウ ゾウ
証 ショウ
詔 ◆ ショウ（みことのり）
粧 ショウ
症 ② ショウ
祥 ③ ショウ
称 58 ショウ
商 ショウ あきなう。
傷 ◎ ショウ きず・いたむ● いためる●
詳 79 ショウ くわしい
彰 ② ショウ
障 ◎ ショウ（さわる）
憧 ② ショウ あこがれる
衝 ② ショウ
賞 ショウ
償 218 ショウ つぐなう
礁 ② ショウ
畳 ② ジョウ たたむ
場 ジョウ ば
情 ジョウ（セイ） なさけ
常 ジョウ つね（とこ）
剰 ② ジョウ
浄 ② ジョウ
城 ジョウ しろ
乗 ジョウ のる・のせる
状 ジョウ
条 ジョウ
冗 ② ジョウ
丈 112 ジョウ たけ
上 ジョウ（シャン） うえ・うわ・かみ・あげる・あがる・のぼせる・のぼる・のぼす。
錠 ② ジョウ
譲 ② ジョウ ゆずる
醸 ② ジョウ（かもす）
蒸 ◎ ジョウ むす。・むれる。・むらす。
縄 ジョウ。 なわ
壌 ② ジョウ
嬢 ③ ジョウ
鐘 ② ショウ かね
触 201 ショク ふれる・さわる
飾 ② ショク かざる
殖 129 ショク ふえる・ふやす
植 ショク うえる・うわる
食 ショク（ジキ） くう（くらう） たべる
拭 111 ショク（シキ） ふく・ぬぐう
色 ショク シキ いろ
嘱 ② ショク



織 （ショク） シキ おる
職 ショク
昏 ◆ ジョク
辱 ③ ジョク はずかし・める
尻 ③ シリ
心 シン こころ
申 シン● もうす
侵 ② シン おかす
辛 43 シン から・い
身 シン み
芯 188 シン
臣 シン ジン
伸 42 シン のびる・のばす・のべる
振 26 シン ふる・ふるう・ふれる
娠 ◆ シン
唇 109 シン（くちびる）
審 126 シン
震 214 シン ふるう・ふるえる
薪 ② シン たきぎ
親 シン おや・したしい・したしむ
人 ジン ニン ひと
刃 ③ ジン（は）
仁 ◎ ジン ニ。
尽 72 ジン つくす・つきる・つかす
迅 ② ジン
甚 ③ ジン（はなはだ・はなは。） だしい
陣 ② ジン
尋 72 ジン たずねる
腎 39 ジン

須 ② ス
図 ズ・ト はかる。
水 スイ みず
吹 24 スイ ふく
垂 ◎ スイ たれる・たらす
炊 ② スイ たく
帥 ◆ スイ
粋 ③ スイ いき
衰 188 スイ おとろえる
推 ◎ スイ おす。
酔 ② スイ よう
睡 ② スイ
遂 182 スイ とげる
随 83 ズイ
髄 ② ズイ

枢 ③ スウ
崇 ③ スウ
数 （ス） かず・かぞえる
据 188 すえる・すわる
杉 103 すぎ
裾 160 すそ
寸 ◎ スン
瀬 ③ せ
是 ② ゼ
井 （セイ） ショウ。
世 セイ よ
正 セイ ショウ ただしい ただす まさ
生 セイ ショウ いきる・いかす・いける・うまれる・うむ・おう。・はえる・はやす・き。・なま
成 セイ（ジョウ） なる・なす
西 セイ サイ にし
声 セイ（ショウ） こえ・こわ。
制 セイ
姓 ③ セイ ショウ
征 ③ セイ
性 セイ ショウ。
青 セイ（ショウ） あお・あおい
政 セイ（ショウ）（まつりごと） 87 セイ
星 セイ ショウ ほし●
牲 ③ セイ
省 セイ ショウ かえりみる。・はぶく
凄 ② セイ
逝 ◆ セイ（ゆく）（いく）
清 セイ（ショウ） きよい・きよまる・きよめる
盛 ◎ セイ●（ジョウ） もる●・さかる●・さかん●
婿 ② セイ（むこ）
晴 セイ はれる・はらす
勢 セイ いきおい
聖 ◎ セイ
誠 ◎ セイ まこと。
精 セイ ショウ。
製 セイ
斥 ◆ セキ
石 セキ シャク コク。 いし
赤 セキ シャク あか・あかい・あからむ・あからめる
昔 （セキ） シャク むかし
析 130 セキ
席 セキ
脊 197 セキ
隻 ◆ セキ
惜 ② セキ おしい・おしむ
戚 98 セキ
責 セキ せめる
跡 43 セキ あと
積 セキ つむ・つもる
績 セキ
籍 ③ セキ
切 セツ サイ● きる・きれる
折 セツ おる・おり・おれる
拙 ② セツ つたない
窃 ◆ セツ
接 セツ（つぐ）
設 セツ もうける
雪 セツ ゆき
節 セツ（セチ） ふし
摂 ③ セツ
説 セツ（ゼイ） とく
舌 ◎ ゼツ。 した
絶 ゼツ たえる・たやす・たつ
千 セン ち
川 セン。 かわ
仙 ② セン
占 ② セン しめる・うらなう
先 セン さき
宣 ◎ セン
専 ◎ セン もっぱら●
泉 ◎ セン いずみ
浅 セン。 あさい
洗 ◎ セン あらう
染 ◎ セン● そめる・そまる・（しみる）（しみ）
扇 ② セン おうぎ
栓 209 セン
旋 ③ セン
船 セン ふね・ふな
戦 セン いくさ。・たたかう
煎 ② セン（煎） いる
羨 ② セン（羨） うらやむ・うらやま。・ましい
腺 ◆ セン
詮 ③ セン
践 ② セン
箋 53 セン（箋）

◎銭 セン ぜに○
②潜 セン ひそむ もぐる
②線 セン
②遷 セン
②選 セン えらぶ
②薦 セン すすめる
110 繊 セン
22 鮮 セン あざやか
全 ゼン まったく すべて
前 ゼン まえ
◎善 ゼン よい
然 ゼン ネン
③禅 ゼン
③漸 ゼン
②膳 ゼン
214 繕 ゼン つくろう

**そ**

②狙 ソ ねらう
②阻 ソ（はばむ）
②祖 ソ
②租 ソ
素 ソ ス○
③措 ソ
②粗 ソ あらい
組 ソ くむ くみ
98 疎 ソ（うとい）（うとむ）
160 訴 ソ うったえる
③塑 ソ
②遡 ソ（さかのぼる）
139 礎 ソ（いしずえ）
42 双 ソウ ふた
③壮 ソウ

早 ソウ サッ○ はやい はやまる はやめる
②爽 ソウ さわやか
◎窓 ソウ まど
126 喪 ソウ も
◎創 ソウ つくる
争 ソウ あらそう
走 ソウ はしる
◎奏 ソウ（かなでる）
相 ソウ ショウ● あい
③荘 ソウ
草 ソウ くさ
送 ソウ おくる
倉 ソウ くら
③捜 ソウ さがす
146 挿 ソウ さす
③桑 ソウ（くわ）
巣 ソウ（す）
112 掃 ソウ はく
◆曹 ソウ
③曽 ソウ

②霜 ソウ（しも）
②燥 ソウ
◎操 ソウ（みさお）あやつる○
◆踪 ソウ
③槽 ソウ
②遭 ソウ あう
総 ソウ
◎層 ソウ
想 ソウ（ソ）
③僧 ソウ
◎装 ソウ ショウ○（よそおう）
③葬 ソウ（ほうむる）
②痩 ソウ（やせる）
126 喪 ソウ も
◎創 ソウ つくる
109 騒 ソウ さわぐ

②捉 ソク とらえる
52 息 ソク いき
速 ソク はや はやめる はやまる すみやか●
側 ソク がわ
②俗 ゾク
族 ゾク
属 ゾク
②賊 ゾク
前 ゼン まえ
全 ゼン まったく すべて
◎善 ゼン よい
然 ゼン ネン
③禅 ゼン
③漸 ゼン
②膳 ゼン
214 繕 ゼン つくろう

**た**

◎尊 ソン たっとい とうとい たっとぶ とうとぶ
損 ソン そこなう そこねる○
②遜 ソン
他 タ ほか
多 タ おおい
③汰 タ
打 ダ うつ
②妥 ダ
③惰 ダ
③堕 ダ
③唾 ダ つば
②楕 ダ
③駄 ダ
太 タイ ふとい ふとる
対 タイ ツイ●

体 タイ テイ○ からだ
②耐 タイ たえる
待 タイ まつ
②怠 タイ おこたる なまける
③胎 タイ
◎退 タイ しりぞく しりぞける
②帯 タイ おびる おび
39 泰 タイ
②堆 タイ
②隊 タイ
貸 タイ○ かす
②替 タイ かえる かわる
③逮 タイ
39 袋 タイ（ふくろ）
②滞 タイ とどこおる
態 タイ
◆戴 タイ

大 ダイ タイ おお おおい おおきい おおいに
代 ダイ タイ かわる かえる よしろ○
台 ダイ タイ
第 ダイ
題 ダイ
③滝 タク
③濯 タク
②託 タク
②拓 タク
②卓 タク
126 沢 タク さわ
60 択 タク
◎宅 タク
③濁 ダク にごる にごす
②諾 ダク
③濯 タク

◆但 ただし
達 タツ
86 脱 ダツ ぬぐ ぬげる
182 奪 ダツ うばう
89 棚 たな
80 誰 だれ
216 丹 タン
③旦 タン ダン
②淡 タン あわい
短 タン みじかい
②嘆 タン なげく なげかわしい
◎探 タン さぐる● さがす
24 胆 タン
炭 タン すみ
単 タン
◎担 タン（かつぐ）（になう）
198 端 タン はし（は） はた
③綻 タン ほころびる
◎誕 タン
②鍛 タン きたえる
団 ダン（トン）
男 ダン ナン おとこ
◎段 ダン
断 ダン たつ○ ことわる
97 弾 ダン ひく はずむ たま
186 壇 ダン（タン）
談 ダン
◎暖 ダン あたたか あたたかい あたたまる あたためる
198 端 タン はし（は） はた

**ち**

地 ジ チ
◎党 トウ
207 透 トウ すく すかす すける
◎討 トウ うつ○
99 桃 トウ もも
222 唐 トウ から
222 凍 トウ こおる こごえる
69 倒 トウ たおれる たおす
豆 トウ ズ まめ
東 トウ ひがし
②到 トウ
②逃 トウ にげる にがす のがれる
投 トウ なげる
当 トウ あたる あてる
③灯 トウ（ひ）

②頭 トウ こうべ こらす こらしめる
②懲 チョウ こりる こらす こらしめる
直 チョク ジキ ただちに なおす なおる
◆勅 チョク
③捗 チョク〈捗〉
②貼 チョウ はる
39 超 チョウ こえる こす
◎腸 チョウ
②跳 チョウ はねる とぶ
43 徴 チョウ
②嘲 チョウ あざける〈嘲〉
朝 チョウ あさ
◎頂 チョウ いただく いただき
鳥 チョウ とり
③釣 チョウ つる
148 聴 チョウ きく
調 チョウ しらべる ととのう○ ととのえる○
102 澄 チョウ すむ すます
◎潮 チョウ しお
39 超 チョウ こえる こす
◎腸 チョウ
②跳 チョウ はねる とぶ
43 徴 チョウ
②嘲 チョウ あざける〈嘲〉
②頂 チョウ いただく いただき
③釣 チョウ つる

**つ**

200 墜 ツイ
197 椎 ツイ
追 ツイ おう
③鎮 チン（しずめる）（しずまる）
◎賃 チン
②陳 チン
◆朕 チン
47 珍 チン めずらしい
②沈 チン しずむ しずめる
③帝 テイ
②亭 テイ
②邸 テイ
②抵 テイ
底 テイ そこ
定 テイ ジョウ さだめる さだまる（さだか）
②堤 テイ つつみ
138 偵 テイ
停 テイ
◆逓 テイ
庭 テイ にわ
52 訂 テイ
◆艇 テイ
程 テイ ほど○
提 テイ さげる○
②廷 テイ
212 呈 テイ
弟 テイ ダイ○ デ○ おとうと
低 テイ ひく ひくい ひくめる ひくまる

◆塚 つか
◎痛 ツウ いたい いたむ いためる
通 ツウ（ツ） とおる とおす かよう

**て**

②鶴 つる
③爪 つめ つま
③坪 つぼ
②漬 つける つかる
◆摘 テキ つむ
②滴 テキ しずく（したたる）
適 テキ
◎敵 テキ かたき○
③溺 デキ おぼれる〈溺〉
③泥 デイ（どろ）
的 テキ まと
笛 テキ ふえ
158 諦 テイ あきらめる
②締 テイ しまる しめる

典 テン
店 テン みせ
点 テン
◎展 テン
162 添 テン そえる そう
転 テン ころがる ころげる ころがす ころぶ
伝 デン つたわる つたえる つたう
田 デン た
②塡 テン〈塡〉
電 デン
②殿 デン テン との どの

**と**

◆斗 ト
冬 トウ ふゆ
刀 トウ かたな
134 怒 ド いかる おこる
度 ド（ト） タク○ たび●
◆奴 ド
努 ド つとめる
土 ド ト つち
◆賭 ト〈賭〉 かける
②吐 ト はく
妬 ト ねたむ
徒 ト
途 ト
70 渡 ト わたる わたす
都 ト みやこ
③塗 ト ぬる
100 灯 トウ（ひ）



池 チ いけ
知 チ しる
◎値 チ ねたい○
76 恥 チ はじる はじ はじらう はずかしい
致 チ いたす
109 遅 チ おくれる おくらす おそい
◆痴 チ
②稚 チ
置 チ おく
竹 チク たけ
③畜 チク
③逐 チク
44 蓄 チク たくわえる
築 チク きずく

秩 チツ
②窒 チツ
茶 チャ サ●
着 チャク（ジャク） きる きせる つく つける
◆嫡 チャク
仲 チュウ なか●
中 チュウ ジュウ なか
抽 チュウ
◎忠 チュウ
◎宙 チュウ
沖 チュウ（おき）
虫 チュウ むし
柱 チュウ はしら
注 チュウ そそぐ
昼 チュウ ひる
③衷 チュウ

◆酎 チュウ
②鋳 チュウ いる
146 駐 チュウ
◎著 チョ あらわす いちじるしい○
貯 チョ
丁 チョウ テイ○
帳 チョウ
158 挑 チョウ いどむ
長 チョウ ながい
町 チョウ まち
兆 チョウ（きざす）（きざし）
◎庁 チョウ
②弔 チョウ とむらう
③釣 チョウ つる
◎頂 チョウ いただく いただき
鳥 チョウ とり
朝 チョウ あさ
②貼 チョウ はる
39 超 チョウ こえる こす
◎腸 チョウ
②跳 チョウ はねる とぶ
43 徴 チョウ
②嘲 チョウ あざける〈嘲〉
◆賭 ト〈賭〉 かける
②吐 ト はく
妬 ト ねたむ
徒 ト
途 ト
70 渡 ト わたる わたす
都 ト みやこ
③塗 ト ぬる
100 灯 トウ（ひ）

◎悼トウ（いた・む）
213 盗トウ ぬす・む
40 陶トウ
208 塔トウ
②搭トウ
③棟トウ（むね・むな）
湯トウ ゆ
◆痘トウ
登トウ のぼ・る
答トウ こた・える こた・え
等トウ ひと・しい
157 筒トウ つつ
統トウ（す・べる）
③稲トウ いね・な
186 踏トウ ふ・む ふ・まえる
◎糖トウ

③頭トウズ（ト） あたま かしら○
③騰トウ
201 闘トウ たたか・う
③藤トウ ふじ
②洞ドウ ほら
同ドウ おな・じ
③瞳ドウ ひとみ
導ドウ みちび・く
銅ドウ
働ドウ はたら・く
道ドウ（トウ） みち
童ドウ わらべ○
堂ドウ
88 胴ドウ
動ドウ うご・く うご・かす

②匿トク
233 峠とうげ
特トク
③督トク
得トク え・る うる○
徳トク
②篤トク
毒ドク
独ドク ひとり
読ドク トク よ・む
栃トチ
②凸トツ
突トツ つ・く
◎届とど・ける とど・く
◆屯トン
②豚トンぶた

③頓トン
②井どんぶりどん
126 曇ドン くも・る
②鈍ドン にぶ・い にぶ・る
③貪ドン むさぼ・る
◆弐ニ
肉ニク
209 匂ニオ う
◆尼（ニ）あま

②寧ネイ

◎認ニン みと・める●
②忍ニン しの・ぶ しの・ばせる
◆妊ニン
任ニン まか・せる まか・す
②尿ニョウ
◎乳ニュウ ち ち○
入ニュウ い・れる はい・る
日ニチ ジツ ひ か
146 虹にじ

熱ネツ あつ・い
年ネン とし
念ネン
捻ネン
②粘ネン ねば・る
②燃ネン も・える も・やす も・す
◎納ノウ ナッ● （ナ） トウ○ おさ・める おさ・まる
39 悩ノウ な・やむ な・やます
農ノウ
◎脳ノウ
能ノウ

②把ハ
波ハ なみ
◎派ハ
②破ハ やぶ・る やぶ・れる
126 覇ハ
馬バ うま ま
◆婆バ
②罵バ ののし・る
◎拝ハイ おが・む
③杯ハイ さかずき
◎背ハイ せ そむ・く● そむ・ける●
白ハク（ビャク） しろ しら しろ・い
③賠バイ
買バイ か・う
146 媒バイ
146 陪バイ
②培バイ（つちか・う）
梅バイ うめ
倍バイ
売バイ う・る う・れる
107 輩ハイ
③廃ハイ すた・れる すた・る
②敗ハイ やぶ・れる
②剝ハク（剝） はが・す はぐ・れる はげ・る
③舶ハク
博ハク（バク）
薄ハク うす・い うすめる うすまる うすらぐ うすれる
麦バク むぎ○
漠バク
縛バク しば・る
爆バク
箱はこ
箸はし（箸）
畑はたはたけ
肌ハダ
八ハチ やっ やっつ ようか
②伐バツ き・る
抜バツ ぬ・く ぬ・ける ぬか・す ぬか・る
②罰バツ
閥バツ
反ハン（ホン） タン○ そ・る そ・らす
半ハン なか ば
②氾ハン
②犯ハン おか・す●
②汎ハン
帆ハン ほ
71 阪ハン○
板ハン バン いた
版ハン
班ハン
③畔ハン
般ハン
178 販ハン
209 斑ハン
飯ハン めし
②搬ハン
②煩ハン（ボン） わずら・う わずら・わす
③頒ハン
繁ハン
129 藩ハン
80 範ハン
③頒ハン

◎晩バン
番バン
◆蛮バン
②盤バン

ひ

比ヒ くら・べる
皮ヒ かわ
◆妃ヒ
◎否ヒ（いな）
◎批ヒ
86 彼ヒ かれ かの
146 披ヒ
非ヒ
②卑ヒ（いや・しい） （いや・しむ） しめ・る
肥ヒ こ・える こえ こや・す こや・し

飛ヒ とぶ とば・す
39 疲ヒ つか・れる
◎秘ヒ ひめ・る○
被ヒ こうむ・る
悲ヒ かな・しい かな・しむ
60 扉（ヒ） とびら
費ヒ つい・やす○ つい・える○
③碑ヒ
③罷ヒ
②避ヒ さ・ける
77 微ビ
備ビ そな・える そな・わる
美ビ うつく・しい
②眉（ビ） まゆ
197 尾ビお
鼻ビ○ はな
③膝ひざ

②肘ひじ
126 匹ヒツ ひき
必ヒツ かなら・ず
②泌（ヒツ）
筆ヒツ ふで
156 姫ひめ
百ヒャク
氷ヒョウ こおり（ひ）
表ヒョウ おもて あらわ・す あらわ・れる
◎俵ヒョウ たわら
②漂ヒョウ ただよ・う
評ヒョウ
票ヒョウ
146 苗（ビョウ） なえ なわ
標ヒョウ
秒ビョウ

病ビョウ（ヘイ） や・む○ やまい
②描ビョウ えが・く かく
119 猫（ビョウ） ねこ
浜ヒン はま
品ヒン しな
②貧ヒン まず・しい●
②賓ヒン
②頻ヒン
②敏ビン
209 瓶ビン
不フ ブ
②付フ つ・ける つく
父フ ちち
②夫フ フウ● おっと
風フウ（フ） かぜ かざ
②封フウ ホウ
130 舞ブ まう まい
部ブ
武ブム
②副フク
服フク
163 伏フク ふ・せる ふ・す
幅フク はば

②扶フ
③府フ
②阜フ
③怖フ こわ・い
◆附フ
③訃フ
②赴フ おもむ・く
浮フ う・く う・かれる うか・ぶ うか・べる
負フ ま・ける ま・かす お・う
232 符フ
婦フ
富フ（フウ） と・む とみ
42 普フ

②募ボつの・る
墓ボ はか
②慕ボ した・う
◎暮ボ く・れる くら・す
②簿ボ
方ホウ かた
包ホウつつ・む
③邦ホウ
②芳ホウ（かんば・しい）
②奉ホウ ブ（たてまつ・る）
◎宝ホウたから
113 抱ホウ だ・く いだ・く かか・える
放ホウ はな・す はな・つ はな・れる ほう・る
法ホウ（ハッ） （ホッ）

◎奮フン ふる・う
分ブン フン わ・ける わ・かれる わか・る わ・かつ ブ
文ブン モン ふみ●
聞ブン（モン） き・く き・こえる
◆丙ヘイ
兵ヘイ ヒョウ
③併ヘイ あわ・せる
平ヘイ ビョウ たい・ら ひら
◎並ヘイ● な・み な・らべる な・らぶ な・らびに
60 柄（ヘイ） がら え
◎陛ヘイ

◎閉ヘイ と・じる と・ざす● し・める し・まる
③蔽ヘイ（蔽）
②弊ヘイ
③幣ヘイ
③塀ヘイ
②餅ヘイもち
②壁ヘキ かべ
188 璧ヘキ
39 癖ヘキくせ
217 蔑ベツ さげす・む
別ベツ わか・れる
②米ベイマイ こめ
②片ヘン かた●
辺ヘン あた・り べ
返ヘン かえ・す かえ・る

変ヘン か・わる か・える
②偏ヘン かたよ・る
③遍ヘン
編ヘン あ・む
弁ベン
便ベン ビン たより
勉ベン
歩ホ ブ○（フ） あゆ・む あゆ・み
保ホたも・つ
③哺ホ
②捕ホ と・らえる と・らわれる と・る つかまえる つかま・る
②舗ホ
◎補ホ おぎな・う
②母ボはは

②簿ボ
②慕ボ した・う
◎暮ボ く・れる くら・す
墓ボはか
②募ボつの・る

- ③泡 ホウ あわ
- 44 胞 ホウ
- ③俸 ホウ
- ②峰 ホウ みね
- ③倣 ホウ ならう
- 126 砲 ホウ
- ②崩 ホウ くずれる くずす
- ◎訪 ホウ おとずれる● たずねる●
- 69 蜂 ホウ はち
- 豊 ホウ ゆたか
- ②飽 ホウ あきる あかす
- ②褒 ホウ ほめる
- ②縫 ホウ ぬう
- 報 ホウ むくいる○
- 188 忙 ボウ いそがしい
- ③乏 ボウ とぼしい
- ◎亡 ボウ モウ ない
- 157 冒 ボウ おかす
- ③某 ボウ
- 222 肪 ボウ
- 225 房 ボウ ふさ
- 防 ボウ ふせぐ
- ◎忘 ボウ● わすれる
- ②妨 ボウ さまたげる
- 52 坊 ボウ ボッ
- ②貌 ボウ
- 貿 ボウ
- ◎棒 ボウ
- 113 帽 ボウ
- ②傍 ボウ かたわら
- 望 ボウ モウ● のぞむ
- 40 紡 ボウ つむぐ
- ②剖 ボウ
- 暴 ボウ バク○ あばく あばれる
- ②膨 ボウ ふくらむ ふくれる
- ②謀 ボウ ム はかる
- 128 頬 ボウ ほお 〈頬〉
- 北 ホク きた
- 木 ボク モク き こ
- ②朴 ボク
- 97 僕 ボク
- 墨 ボク すみ
- 40 撲 ボク
- ②没 ボツ
- ②勃 ボツ
- ③堀 ホリ
- 本 ホン もと
- ②奔 ホン
- ②翻 ホン ひるがえる ひるがえす
- ②凡 ボン ハン
- ②盆 ボン
- ま
- 146 摩 マ
- 77 磨 マ みがく
- 88 魔 マ
- 毎 マイ
- 妹 マイ いもうと
- ◎枚 マイ
- ②昧 マイ
- ③麻 マ あさ
- 万 マン バン○
- 満 マン みちる みたす
- 夢 ムム ゆめ
- 無 ブム ない
- 務 ム つとめる つとまる
- 170 矛 ム ほこ
- む
- ②眠 ミン ねむる ねむい
- 民 ミン たみ○
- 77 妙 ミョウ
- 脈 ミャク
- ②蜜 ミツ
- ◎密 ミツ
- 216 埋 マイ うめる うまる うもれる
- ◎幕 マク バク
- ②膜 マク
- ③枕 まくら
- ②又 また
- 末 マツ バツ すえ
- 222 抹 マツ
- 万 マン バン○
- 満 マン みちる みたす
- 漫 マン
- 慢 マン
- 幽 ユウ
- 融 ユウ
- ◎優 ユウ やさしい○ すぐれる○
- ②誘 ユウ さそう
- 108 雄 ユウ おす
- ②憂 ユウ うれえる うれい
- 予 ヨ
- 与 ヨ あたえる
- よ
- 余 ヨ あまる あます
- ②誉 ヨ ほまれ
- ◎預 ヨ あずける あずかる
- ◎幼 ヨウ おさない
- 用 ヨウ もちいる
- 羊 ヨウ ひつじ
- ◆妖 ヨウ あやしい
- 洋 ヨウ
- 69 与 ヨ あたえる
- 予 ヨ
- 有 ユウ● ある
- 友 ユウ とも
- ②唯 ユイ イ
- ②癒 ユ いえる いやす
- 輸 ユ
- 233 諭 ユ さとす
- 207 愉 ユ
- 68 〈喩〉 ユ
- ②裕 ユウ
- ③猶 ユウ
- ②湧 ユウ わく
- ◎郵 ユウ
- ②悠 ユウ
- ③幽 ユウ
- 210 慢 マン
- 210 慢 マン
- 83 漫 マン
- み
- 未 ミ
- 味 ミ あじ あじわう
- 44 魅 ミ
- ②岬 みさき
- ②遊 ユウ あそぶ
- 油 ユ あぶら
- 由 ユウ ユイ よし
- ゆ
- 闇 やみ
- 26 躍 ヤク おどる
- 薬 ヤク くすり
- ◎訳 ヤク わけ
- 約 ヤク
- 役 ヤク エキ●
- 112 厄 ヤク
- ◆弥 や
- 野 ヤ の
- ③夜 ヤ よ よる
- ③治 ヤ
- や
- ②茂 モ しげる
- ◎模 モ ボ
- 毛 モウ け
- ②妄 モウ ボウ
- ◆盲 モウ
- ③耗 モウ コウ
- ②猛 モウ
- 209 網 モウ あみ
- 目 モク ボク● め ま
- 110 黙 モク だまる
- 門 モン かど○
- ②紋 モン
- 問 モン とう とい とん
- も
- ②麺 メン
- 綿 メン わた
- 面 メン おも● おもて○ つら
- ②免 メン まぬかれる
- ②滅 メツ ほろびる ほろぼす
- 鳴 メイ なく なる ならす
- 170 銘 メイ
- ◎盟 メイ
- ②冥 メイ ミョウ
- 迷 メイ まよう
- 明 メイ ミョウ あかり あかるい あかるむ あかす あかし あける あく あくる あからむ あからか
- め
- 158 娘 むすめ
- ②霧 ム きり
- 夢 ムム ゆめ
- 無 ブム ない
- 務 ム つとめる つとまる
- 170 矛 ム ほこ
- む
- ②眠 ミン ねむる ねむい
- 民 ミン たみ○
- 77 妙 ミョウ
- 脈 ミャク
- ②蜜 ミツ
- ◎密 ミツ
- 命 メイ ミョウ● いのち
- 名 メイ ミョウ な
- ②麺 メン
- 綿 メン わた
- 面 メン おも● おもて○ つら
- ②免 メン まぬかれる
- ②滅 メツ ほろびる ほろぼす
- 鳴 メイ なく なる ならす
- 170 銘 メイ
- ◎盟 メイ
- ②冥 メイ ミョウ
- 迷 メイ まよう
- 明 メイ ミョウ あかり あかるい あかるむ あかす あかし あける あく あくる あからむ あからか
- 領 リョウ
- ②療 リョウ
- ③寮 リョウ
- 222 瞭 リョウ
- ◆糧 リョウ ロウ かて
- 力 リョク リキ ちから
- 緑 リョク ロク みどり
- 林 リン はやし
- 輪 リン わ
- ②倫 リン
- ◆厘 リン
- 100 隣 リン となる となり
- ◎臨 リン のぞむ○
- る
- 112 涙 ルイ なみだ
- ◆瑠 ル
- 60 累 ルイ
- 126 塁 ルイ
- 類 ルイ たぐい
- 令 レイ
- 礼 レイ ライ
- 冷 レイ つめたい ひえる ひやす ひやかす ひやかす さめる さます
- 例 レイ たとえる
- 109 戻 レイ もどす もどる
- ②励 レイ はげむ はげます
- 49 麗 レイ うるわしい
- 146 齢 レイ
- ③隷 レイ
- 222 霊 レイ リョウ たま
- ②零 レイ
- ②鈴 レイ リン すず
- れ
- ②暦 レキ こよみ
- 歴 レキ
- 列 レツ
- 160 劣 レツ おとる
- 73 烈 レツ
- ②裂 レツ さく さける
- ②恋 レン こう こい こいしい
- 連 レン つらなる つらねる つれる
- ②廉 レン
- ③錬 レン
- 練 レン ねる
- ろ
- ②呂 ロ
- ③炉 ロ
- ◆賂 ロ
- 路 ロ じ
- 49 露 ロ ロウ つゆ
- 老 ロウ おいる ふける
- 労 ロウ
- ③弄 ロウ もてあそぶ
- ②郎 ロウ
- ◎朗 ロウ ほがらか○
- ②浪 ロウ
- 22 廊 ロウ
- ②楼 ロウ
- ③漏 ロウ もる もれる もらす
- 158 籠 ロウ かご こもる
- 六 ロク む むつ むっつ むい
- 録 ロク
- ③麓 ロク ふもと
- ◎論 ロン
- わ
- 和 ワ オ やわらぐ● やわらげる● なごむ● なごやか●
- 話 ワ はなす はなし
- ③賄 ワイ まかなう
- ③脇 わき
- 200 惑 ワク まどう
- ③枠 わく
- ③湾 ワン
- 86 腕 ワン うで
- ◆璃 リ
- 88 履 リ はく
- ◎裏 リ うら
- ◆痢 リ
- 理 リ
- 88 離 リ はなれる はなす
- 陸 リク
- ◆虜 リョ
- 旅 リョ たび
- ③侶 リョ
- 硫 リュウ
- 隆 リュウ
- ②粒 リュウ つぶ
- ②竜 リュウ たつ
- 125 涼 リョウ すずしい すずむ
- 猟 リョウ
- ②陵 リョウ みささぎ
- 料 リョウ
- 良 リョウ よい
- 両 リョウ
- 135 了 リョウ
- 102 慮 リョ
- ③僚 リョウ
- 量 リョウ はかる
- ②竜 リュウ たつ
- 隆 リュウ
- 硫 リュウ
- ③侶 リョ
- 旅 リョ たび
- ◆虜 リョ
- 陸 リク
- 離 リ はなれる はなす
- ◆璃 リ
- 履 リ はく
- ◎裏 リ うら
- ◆痢 リ
- 理 リ
- 里 リ さと
- ②利 リ きく
- ②吏 リ
- り
- ③藍 ラン あい
- ②濫 ラン
- ◎覧 ラン
- ◎卵 ラン たまご
- ◎乱 ラン みだれる みだす
- ③辣 ラツ
- ②酪 ラク
- 落 ラク おちる おとす
- 60 絡 ラク からむ からまる からめる
- 138 頼 ライ たのむ たのもしい たよる
- 73 雷 ライ かみなり
- 来 ライ くる○ きたる○ きたす○
- ②羅 ラ
- ②裸 ラ はだか
- ◆拉 ラ
- ら
- ②溶 ヨウ とける とかす とく
- 179 腰 ヨウ こし
- 100 隣 リン となる となり
- ◎臨 リン のぞむ○
- 112 涙 ルイ なみだ
- ◆瑠 ル
- 60 累 ルイ
- 222 窯 ヨウ かま
- 68 踊 ヨウ おどる おどり
- ③瘍 ヨウ
- 様 ヨウ さま
- 養 ヨウ やしなう
- 葉 ヨウ は
- 陽 ヨウ
- 224 揚 ヨウ あげる あがる
- ③庸 ヨウ
- 容 ヨウ
- 要 ヨウ かなめ いる●
- 71 揺 ヨウ ゆれる ゆる ゆらぐ ゆるぐ ゆする ゆさぶる ゆすぶる
- ②擁 ヨウ
- 曜 ヨウ
- 40 謡 ヨウ うたい うたう
- ②沃 ヨク
- 浴 ヨク あびる あびせる
- ◎欲 ヨク ほっする● ほしい●
- ◎翌 ヨク
- 64 翼 ヨク つばさ
- 44 抑 ヨク おさえる
- ◆拉 ラ
- ②羅 ラ
- ②裸 ラ はだか
- 73 雷 ライ かみなり
- 来 ライ くる○ きたる○ きたす○
- ③藍 ラン あい
- ②濫 ラン
- ◎覧 ラン
- ◎卵 ラン たまご
- ◎乱 ラン みだれる みだす
- ③辣 ラツ
- ②酪 ラク
- 落 ラク おちる おとす
- 60 絡 ラク からむ からまる からめる
- 138 頼 ライ たのむ たのもしい たよる
- 里 リ さと
- ②利 リ きく
- ②吏 リ
- り
- ②欄 ラン
- ③蓮 レン
- ②呂 ロ
- ③炉 ロ
- ◆賂 ロ
- 60 累 ルイ
- 112 涙 ルイ なみだ
- ◆瑠 ル
- る
- ◎臨 リン のぞむ○
- 100 隣 リン となる となり
- 輪 リン わ
- ②倫 リン
- ◆厘 リン
- 林 リン はやし
- 緑 リョク ロク みどり
- 力 リョク リキ ちから
- ◆糧 リョウ ロウ かて
- 222 瞭 リョウ
- ②療 リョウ
- ③寮 リョウ
- 領 リョウ
- 126 塁 ルイ
- 類 ルイ たぐい
- 令 レイ
- 礼 レイ ライ
- 冷 レイ つめたい ひえる ひやす ひやかす ひやかす さめる さます
- 例 レイ たとえる
- 109 戻 レイ もどす もどる
- ②励 レイ はげむ はげます
- 49 麗 レイ うるわしい
- 146 齢 レイ
- ③隷 レイ
- 222 霊 レイ リョウ たま
- ②零 レイ
- ②鈴 レイ リン すず
- れ
- ②暦 レキ こよみ
- 歴 レキ
- 列 レツ
- 160 劣 レツ おとる
- 73 烈 レツ
- ②裂 レツ さく さける
- ②恋 レン こう こい こいしい
- 連 レン つらなる つらねる つれる
- ②廉 レン
- ③錬 レン
- 練 レン ねる
- ろ
- ②呂 ロ
- ③炉 ロ
- ◆賂 ロ
- 路 ロ じ
- 49 露 ロ ロウ つゆ
- 老 ロウ おいる ふける
- 労 ロウ
- ③弄 ロウ もてあそぶ
- ②郎 ロウ
- ◎朗 ロウ ほがらか○
- ②浪 ロウ
- 22 廊 ロウ
- ②楼 ロウ
- ③漏 ロウ もる もれる もらす
- 158 籠 ロウ かご こもる
- 六 ロク む むつ むっつ むい
- 録 ロク
- ③麓 ロク ふもと
- ◎論 ロン
- わ
- 和 ワ オ やわらぐ● やわらげる● なごむ● なごやか●
- 話 ワ はなす はなし
- ③賄 ワイ まかなう
- ③脇 わき
- 200 惑 ワク まどう
- ③枠 わく
- ③湾 ワン
- 86 腕 ワン うで

# 常用漢字表 付表

## 漢字

明日　小学校で学習した語
98 田舎　初出が一年生の語
数字は教科書での初出ページを示す。
②笑顔　初出が二年生の語
③小豆　初出が三年生の語
◆息吹　中学校では学習しなくてもよい語

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◆蚊帳 | かや | 大人 | おとな | 明日 | あす | | | | | | | | | | | | | | |
| ③為替 | かわせ | 乙女 | おとめ | ③小豆 | あずき | | | | | | | | | | | | | | |
| 河原・川原 | かわら | ②叔母・伯母 | おば | ◆海女・海士 | あま | | | | | | | | | | | | | | |
| 昨日 | きのう | ③お巡りさん | おまわりさん | ③硫黄 | いおう | | | | | | | | | | | | | | |
| 今日 | きょう | ◆お神酒 | おみき | ③意気地 | いくじ | | | | | | | | | | | | | | |
| 果物 | くだもの | ◆母屋・母家 | おもや | 98 田舎 | いなか | | | | | | | | | | | | | | |
| ◆玄人 | くろうと | 母さん | かあさん | ◆息吹 | いぶき | | | | | | | | | | | | | | |
| 今朝 | けさ | ◆神楽 | かぐら | ③海原 | うなばら | | | | | | | | | | | | | | |
| 景色 | けしき | ◆河岸 | かし | ③乳母 | うば | | | | | | | | | | | | | | |
| 心地 | 127 ここち | ③鍛冶 | かじ | ◆浮気 | うわき | | | | | | | | | | | | | | |
| ◆居士 | こじ | 風邪 | 244 かぜ | ③浮つく | うわつく | | | | | | | | | | | | | | |
| 今年 | ことし | 固唾 | 200 かたず | ②笑顔 | えがお | | | | | | | | | | | | | | |
| ③老舗 | しにせ | 仮名 | 105 かな | ②叔父・伯父 | おじ | | | | | | | | | | | | | | |
| ③芝生 | しばふ | 手伝う | てつだう | 二日 | ふつか | | | | | | | | | | | | | | |
| 清水 | しみず | ◆伝馬船 | てんません | ③吹雪 | ふぶき | | | | | | | | | | | | | | |
| ③砂利 | じゃり | ◆投網 | とあみ | 下手 | へた | | | | | | | | | | | | | | |
| ③三味線 | しゃみせん | 父さん | とうさん | 部屋 | へや | | | | | | | | | | | | | | |
| ◆数珠 | じゅず | ◆十重二十重 | とえはたえ | 迷子 | まいご | | | | | | | | | | | | | | |
| 上手 | じょうず | ◆読経 | どきょう | 真面目 | まじめ | | | | | | | | | | | | | | |
| 白髪 | しらが | 時計 | とけい | 真っ赤 | まっか | | | | | | | | | | | | | | |
| ◆素人 | しろうと | 友達 | ともだち | 真っ青 | まっさお | | | | | | | | | | | | | | |
| ◆師走 | しわす・しはす | ◆仲人 | なこうど | 土産 | 302 みやげ | | | | | | | | | | | | | | |
| ◆数寄屋・数奇屋 | すきや | ③名残 | なごり | 息子 | 211 むすこ | | | | | | | | | | | | | | |
| 相撲 | 295 すもう | 兄さん | にいさん | 眼鏡 | めがね | | | | | | | | | | | | | | |
| 草履 | ぞうり | 姉さん | ねえさん | ◆猛者 | もさ | | | | | | | | | | | | | | |
| ◆山車 | だし | ◆野良 | のら | 紅葉 | 256 もみじ | | | | | | | | | | | | | | |
| ②太刀 | たち | ◆祝詞 | のりと | ②木綿 | もめん | | | | | | | | | | | | | | |
| ③立ち退く | たちのく | 博士 | はかせ | ③最寄り | もより | | | | | | | | | | | | | | |
| 七夕 | たなばた | 二十・二十歳 | 224 はたち | ◆八百長 | やおちょう | | | | | | | | | | | | | | |
| 足袋 | 297 たび | 二十日 | はつか | 八百屋 | やおや | | | | | | | | | | | | | | |
| ◆稚児 | ちご | ③波止場 | はとば | ③弥生 | やよい | | | | | | | | | | | | | | |
| 一日 | ついたち | 一人 | ひとり | ◆浴衣 | ゆかた | | | | | | | | | | | | | | |
| ◆築山 | つきやま | 日和 | 269 ひより | ③行方 | ゆくえ | | | | | | | | | | | | | | |
| 梅雨 | 67 つゆ | 二人 | ふたり | ◆寄席 | よせ | | | | | | | | | | | | | | |
| ③凸凹 | でこぼこ | | | ③若人 | わこうど | | | | | | | | | | | | | | |



## 伝統的な言語文化


あ
- 一・二点……174
- いろは歌……154
- 送り仮名［漢文］……174

か
- 返り点……174
- 書き下し文……174
- 漢文……174
- 句読点［漢文］……174
- 訓読……174
- 現代の言葉（口語）……169
- 故事成語……152・170
- 古典の言葉（文語）……169

は
- 白文……174
- 噺（演目）……304
- 百人一首……306

ら
- 落語……304
- 歴史的仮名遣い……169
- レ点……174

わ
- 和歌……152


## 文法・言葉・漢字


あ
- アクセント……33
- 意符……232
- イントネーション……33
- 隠喩……69
- 音……124
- 音符……232

か
- 会意……232
- 仮借……233
- 活用……252
- 感動詞……253
- 漢和辞典（漢字辞典）……19
- 擬人法……69
- 教科書体……13
- 強調……33
- 共通語……120
- 訓……124
- 形声……232
- 形容詞……253
- 形容動詞……253
- 謙譲語……287
- 国語辞典……19・274
- 国字……233
- ゴシック体……13
- こそあど言葉……58
- 言葉の単位……242

さ
- 子音……33
- 指事……232
- 指示する語句……58
- 修飾語……247
- 修飾・被修飾の関係……247
- 修飾部……249
- 主語……246
- 主・述の関係……246
- 述語……246
- 述部……249
- 主部……249
- 象形……232
- 省略……70
- 助詞……253
- 書体……13
- 助動詞……253
- 自立語……251
- 接続語……247
- 接続詞……253
- 接続する語句……59
- 接続の関係……247
- 接続部……249
- 尊敬語……287

た
- 体言……246・254
- 体言止め……70
- 単語……245
- 段落……243
- 談話……243
- 直喩……68
- 対句……70
- 丁寧語……287
- 転注……233
- 動詞……253
- 倒置……69
- 独立語……248
- 独立の関係……248
- 独立部……249

は
- 反復……69
- 百科事典……19
- 比喩……68・71
- 品詞……253
- 複合語……245
- 副詞……253
- 部首……39
- 付属語……251
- 文……244
- 文章……243
- 文節……244
- 文の成分……249
- 文法……242
- 並立の関係……248
- 母音……33
- 方言……119
- 補助の関係……249

ま
- 明朝体……13
- 名詞……253

や
- 用言……246・254

ら
- 六書……233
- 連体詞……253
- 連体修飾語……247
- 連文節……248
- 連用修飾語……247

# ［索引］学習のための用語一覧

教科書で学習する主な用語を、領域ごとに五十音順にまとめた。数字は、用語について主に解説しているページを示す。必要に応じて活用し、言葉の力を身につけよう。

## 話すこと・聞くこと／書くこと


あ
- ICT……12・341
- 宛名……288
- 案内文……116・289
- 引用……141

か
- 記録……18
- 原稿用紙……286
- 構成……35・229
- 根拠……141

さ
- 時候の挨拶……288
- 絞る質問・広げる質問……123
- 取捨選択……55
- 推敲……118・286
- 随筆……228
- スピーチ……34
- スピーチメモ……36
- スライド……234
- 説明……54

た
- 対話……122
- 手紙……288
- 展開……193
- 統計資料……144
- 頭語・結語……288

は
- 封筒……288
- フリップ……234

ま
- メモ……31

ら
- レポート……140

わ
- 話題……193


## 読むこと


か
- 解釈……115・277
- 仮説……137・279
- 語り手……221・277
- キーセンテンス……185・279
- キーワード……185・279
- 検証……137・279
- 構成……51・137

さ
- 視点……221
- 情景描写……115・276
- 序論・本論・結論……51
- 心情……29・104
- 随筆……227・277

た
- 段落……45・278
- 展開……29・137
- 登場人物……28・104

は
- 初め・中・終わり……51
- 場面……29・276
- 表現の効果……66・227
- 描写……105・276

や
- 要旨……51・278
- 要約……185・279


## 情報／読書


あ
- 意見……138
- インターネット……80
- 引用……82
- ウェブサイト……80

か
- キャッチコピー……85
- 結果……186
- 原因……186
- 根拠……138

さ
- 索引……80
- 出典……82

た
- 著作権……83
- 読書感想文……284

な
- 日本十進分類法……80

は
- 比較……52
- 分類……53
- ポップ……84

ま
- 目次……80

ら
- 理由づけ……139



編集委員
甲斐睦朗　元国立国語研究所所長
阿辻哲次　京都大学名誉教授
飯田 良　秀明大学特任教授
池上 彰　ジャーナリスト
井上一郎　前京都女子大学教授
甲斐利恵子　軽井沢風越学園教諭
河合章男　俳句図書館 鳴弦文庫館長
佐藤洋一　愛知教育大学名誉教授
宗我部義則　お茶の水女子大学附属中学校副校長
田中牧郎　明治大学教授
冨山哲也　十文字学園女子大学教授
仁田義雄　大阪大学名誉教授
藤森裕治　文教大学教授
松野洋人　山梨学院短期大学特任教授
森山卓郎　早稲田大学教授
髙木まさき　横浜国立大学名誉教授
阿部 昇　秋田大学名誉教授
幾田伸司　鳴門教育大学大学院教授
石野正彦　前上越教育大学教授
植田恭子　前大阪市立昭和中学校教諭
上谷順三郎　鹿児島大学教授
岸田正幸　和歌山信愛大学教授
佐渡島紗織　前早稲田大学教授
高橋 伸　札幌国際大学教授
田中洋一　東京女子体育大学名誉教授
中村 浩　山口短期大学教授
萩中奈穂美　福井大学准教授
舟橋秀晃　大和大学教授
三浦登志一　山形大学学術研究院教授
渡邉光輝　お茶の水女子大学附属中学校教諭

カラーユニバーサルデザインに関する校閲
市原恭代　工学院大学准教授 NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構（CUDO）理事
特別支援教育に関する校閲
氏間和仁　広島大学大学院教授
学習のユニバーサルデザインに関する校閲
小貫 悟　明星大学教授
人権に関する校閲
出口真紀子　上智大学教授
外国人児童生徒等教育に関する校閲
浜田麻里　京都教育大学教授
防災教育に関する校閲
木村玲欧　兵庫県立大学教授

光村図書出版株式会社　編集部

文章・校閲　安東みきえ／木部暢子／鈴木宏枝／東野泰子／横田順子
挿絵・図　秋葉あきこ／あべ弘士／新井陽次郎／碇 優子／川口澄子（水登舎）／川崎由紀／白井 匠／スケラッコ／図工室／スタジオジブリ／滝平二郎／タラジロウ／津田蘭子／トゥルービジョン／内藤貞夫／ながしまひろみ／ねもときょうこ／花松あゆみ／坂内 拓／平田利之／ライトスタッフ（穂積栄治）
写真　アフロ／アマナイメージズ／内海裕之／ＮＨＫ／木寺紀雄／ゲッティ・イメージズ／国立国会図書館／Cynet Photo／嵯峨嵐山文華館／シーピーシー／ＪＡＸＡ、東京大学など／Shutterstock／豊田自動織機／長岡博史／日本近代文学館／フォトライブラリー／福田幸広／ポプラ社／ミシマ社／柳家三三／ユニフォトプレスインターナショナル／立教大学図書館
動画・音声　ＮＨＫ財団／福永大輔／レイ
協力　オフィスムーブ／日経ナショナル ジオグラフィック社／ファーンウッド／毎日新聞社
硬筆・毛筆　滝口雅弘／宮澤正明
表紙　宮原葉月「出会い」
巻頭写真　荒木則行「夜明け近づく海で」（瀬戸内海）
アート・ディレクション／デザイン　ディグ（松本知彦／成宮 成／山崎綾子／峰村沙那／坂本弓華／永田理沙子）

国語1
38光村　国語038-72　中学校国語科用
令和八年二月一日印刷
令和八年二月五日発行
（令和六年三月一日検定済）
定価　文部科学大臣が認可し公示した定価（右記の定価は、各教科書特約供給所及び取次供給所に表示します。）

著作者
甲斐睦朗（ほか三十六名別記）
発行者
光村図書出版株式会社
代表者　吉田直樹
東京都品川区上大崎二-十九-九
印刷者
協和オフセット印刷株式会社
代表者　稲垣健一
東京都港区浜松町一-三-一
株式会社加藤文明社
代表者　加藤文男
東京都千代田区神田三崎町二-十五-六
発行所
光村図書出版株式会社
東京都品川区上大崎二-十九-九
電話（〇三）三四九三-二一一一（代表）



この教科書に基づくワークブック・解説書、ならびにこれに類するものの無断発行を禁じます。



ISBN978-4-8138-0424-6



［協力・国際連合］　The content of this publication has not been approved by the United Nations and does not reflect the views of the United Nations or its officials or Member States. (https://www.un.org/sustainabledevelopment/)

# ICT活用のヒント

国語の学習の中で、ICT機器を活用すると効果的な場面を示している。使用してよいかどうかを確かめたうえで、主体的に活用しよう。

ICT　ICTを活用すると効果的な学習場面。

二次元コードから学習の参考資料を閲覧できる。

ICTの活用場面

## 話すこと・聞くこと

## 書くこと

## 読むこと

### 見通しをもつ

右表❶学びの地図　デジタル版「学びのカギ」一覧。
これから学ぶこと、これまでに学んだことが、いつでも確認できる。

### 知識・技能の習得

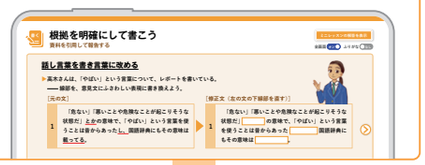
#### 1 集める・整理する

ICTを活用して、情報を集めたり整理したりしよう。

右表❸「話す・聞く」表現テーマ例集
何を話すか迷ったら参考にしよう。

#### 1 集める・整理する

右表❹書くことのミニレッスン
書く前の準備運動。小学校で学んだ基礎・基本を思い出そう。




#### 1 捉える

文章の構成と内容を確かめよう。

右表❽漢字の練習／漢字一覧表
その教材で学ぶ新出漢字・新出音訓の読み方を確認しよう。

右表❼朗読音声
古典の文章の読み方を確認し、読み慣れるまで音読しよう。

### 情報収集 情報整理

### 自分の考えを深める

#### 2 組み立てる 3 伝え合う

動画や音声を視聴し、効果的な話し方や話し合いのしかたを確かめよう。



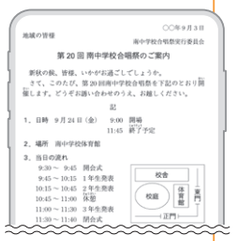
右表❷「話す・聞く」動画・音声
録音・録画機能を生かして練習するのも効果的だ。

ICT 録画して自分の話し方を確かめる ➡35ページ

#### 2 組み立てる 3 表現する

ICT機器を使うと、構成の変更や推敲、下書き段階での情報共有がしやすい。

ICT 案内文 ➡117ページ
ICT レポート ➡142ページ
ICT 書きだしを共有する ➡230ページ
ICT 発表用資料 ➡236ページ




右表❹書くことのミニレッスン
推敲する ➡118ページ(推敲の練習問題)

#### 2 読み深める

示された図表や写真、動画や音声などと関連づけながら、理解を深めよう。

右表❻「読むこと」教材の資料




#### 3 自分の考えをもつ

著者の考えと比べながら、自分の考えをもとう。



右表❻「読むこと」教材の資料

### 友達との交流・共有

#### 4 共有する

録音・録画した活動を視聴し、確認しよう。

ICT 録画して振り返る ➡194ページ

#### 4 共有する

ICTを活用して、助言や感想を交流しよう。

ICT コメント機能で交流する ➡143ページ

### 振り返る

右表❶学びの地図
ここで学んだことが、今後どのような学習に生かせるかを確かめ、次につなげよう。

右表❶国語の力試し
身につけた資質・能力を生かして、問題に取り組もう。タブレットやパソコンでも解答できる。



## 二次元コード一覧

資料デジタル目次

教科書の該当ページに示されている二次元コードから、学習の参考となる資料を読み取ることができる。インターネットの環境によっては、通信料が発生する場合があるので注意しよう。


❶見通しをもつ・振り返る
29他 学びの地図
※全ての「学びのカギ」から閲覧可能。
262 国語の力試し

❷「話す・聞く」動画・音声
16 発表のしかた
31 情報を聞き取る（問題）
36 スピーチをする
122 質問のしかた
189 進め方について考える（問題）
194 グループで話し合う
264 国語の力試し（問題）

❸「話す・聞く」表現テーマ例集
34 「スピーチ」のテーマ例
192 「話し合い」のテーマ例

❹書くことのミニレッスン（ワーク）
54 情報を整理する
116 文末表現をそろえる
118 推敲する
140 話し言葉を書き言葉に改める／引用のしかたを知る
228 一文を短くする

❺「書くこと」表現テーマ例集
54 「説明」のテーマ例
140 「レポート」のテーマ例
228 「随筆」のテーマ例

❻「読むこと」教材の資料
17 工藤直子さんインタビュー
27 蜂飼 耳さんインタビュー
103 米倉斉加年さんインタビュー記事
106 銀木犀の写真
131 シジュウカラの鳴き声
133 実験の様子
183 川上浩司さんインタビュー

❼朗読音声
148 大阿蘇
154 いろは歌
156 竹取物語
170 矛盾
306 百人一首

❽新出漢字・新出音訓
27他 漢字の練習／漢字一覧表
※全ての新出漢字・新出音訓欄から閲覧可能。漢字教材は一覧表のみ。

❾「文法への扉」ワーク／練習問題
75 文法への扉 1
147 文法への扉 2
223 文法への扉 3
242 文法 1
246 文法 2
251 文法 3

❿言葉／語彙教材の資料
120 方言による発音の違い
267 言葉の宝箱（小学校）

⓫情報／読書教材の資料
78 SDGsについて考え、行動しよう
202 研究の現場にようこそ

⓬資料編
275 資料編デジタル
・発想を広げる―表現テーマ例集
・読書感想文の書き方
・文章の推敲・原稿用紙の使い方
・敬語を使う
・手紙の書き方
・インタビューをする
・インターネットの活用
・グラフの見方／引用・出典
・話し合いの方法
・平仮名と片仮名（五十音図）
・ローマ字一覧表
・キーボード配列表